

第四章 後鼻検査法 Rhinoskopia posterior.

後鼻検査法ハ鼻腔ノ後端並ニ鼻咽腔ヲ觀察スルニ必要ナル方法ニシテ是レニ要スル器械ハ約一仙迷ノ直徑ヲ有スル圓形若クハ楕圓形ノ小鏡ニ鈍角ヲ有スル手柄ヲ付着シタルモノ(又ミヘル氏鼻咽腔鏡)及ビ舌壓子並ニ反射鏡ニシテ光源ハ前鼻検査法ニ同ジ

圖 十 四 第  
鏡鼻後氏ルヘミ

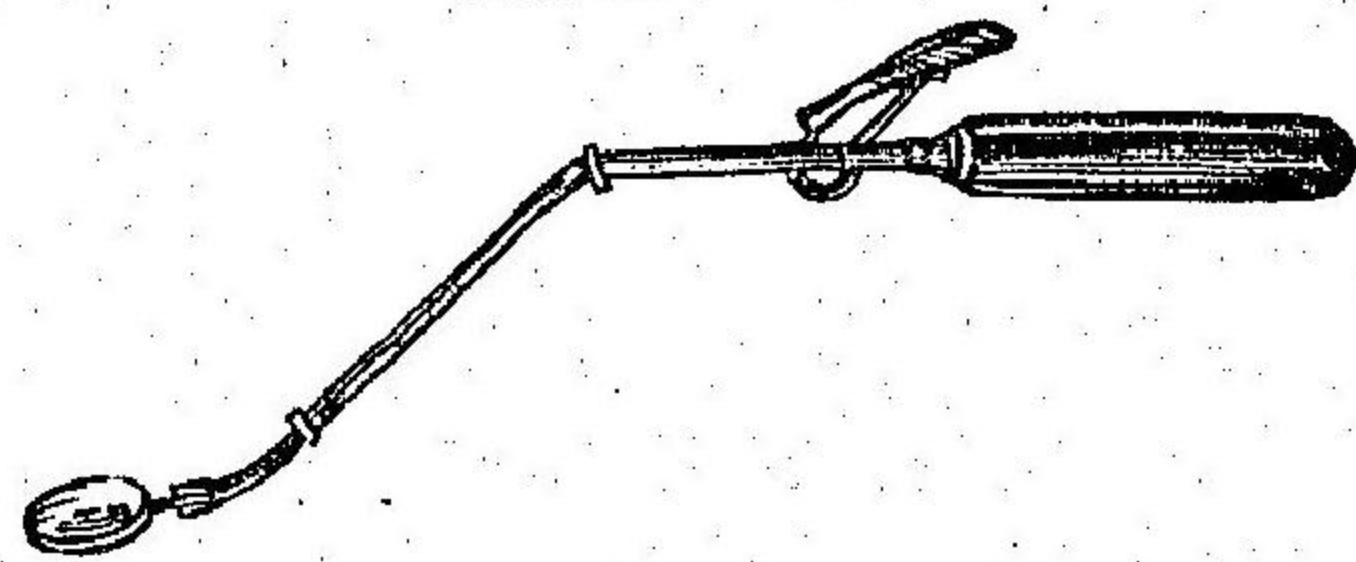
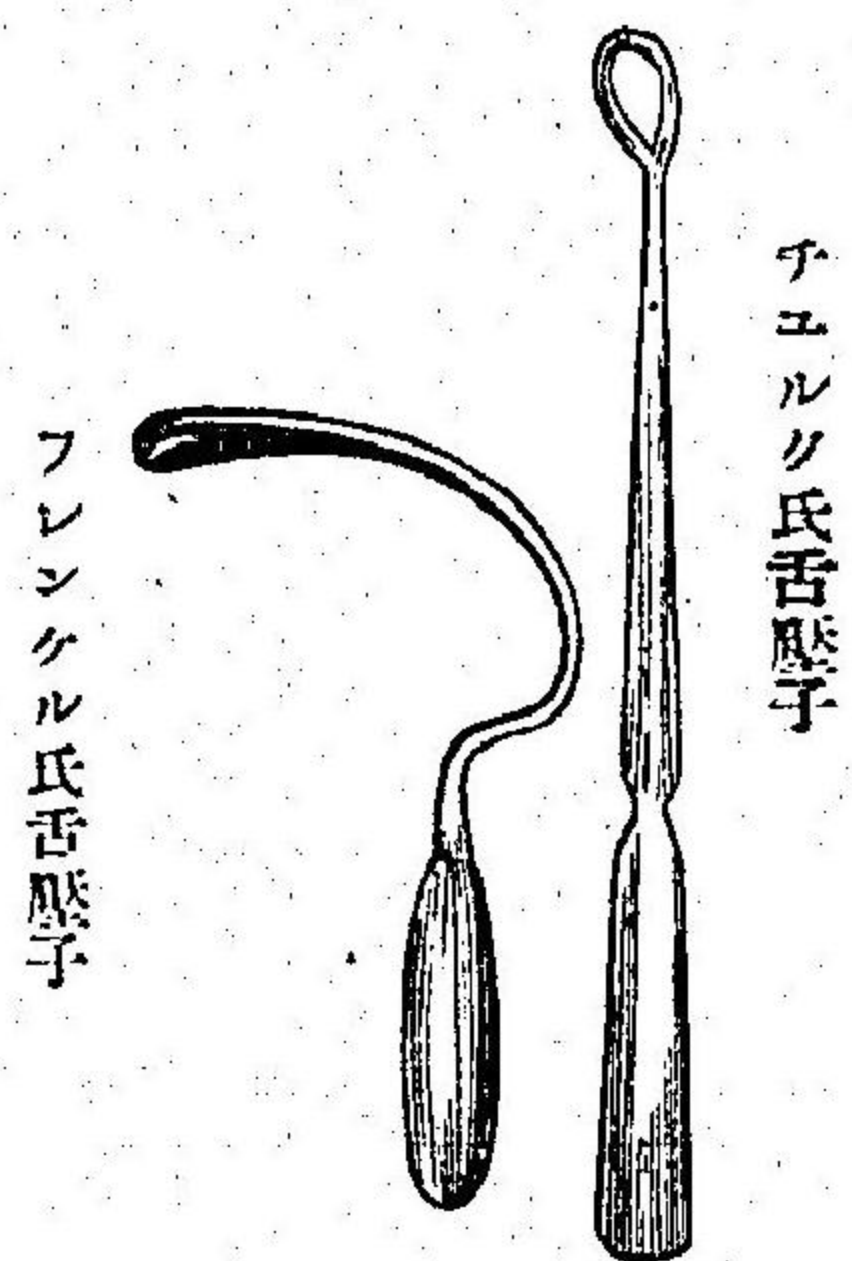
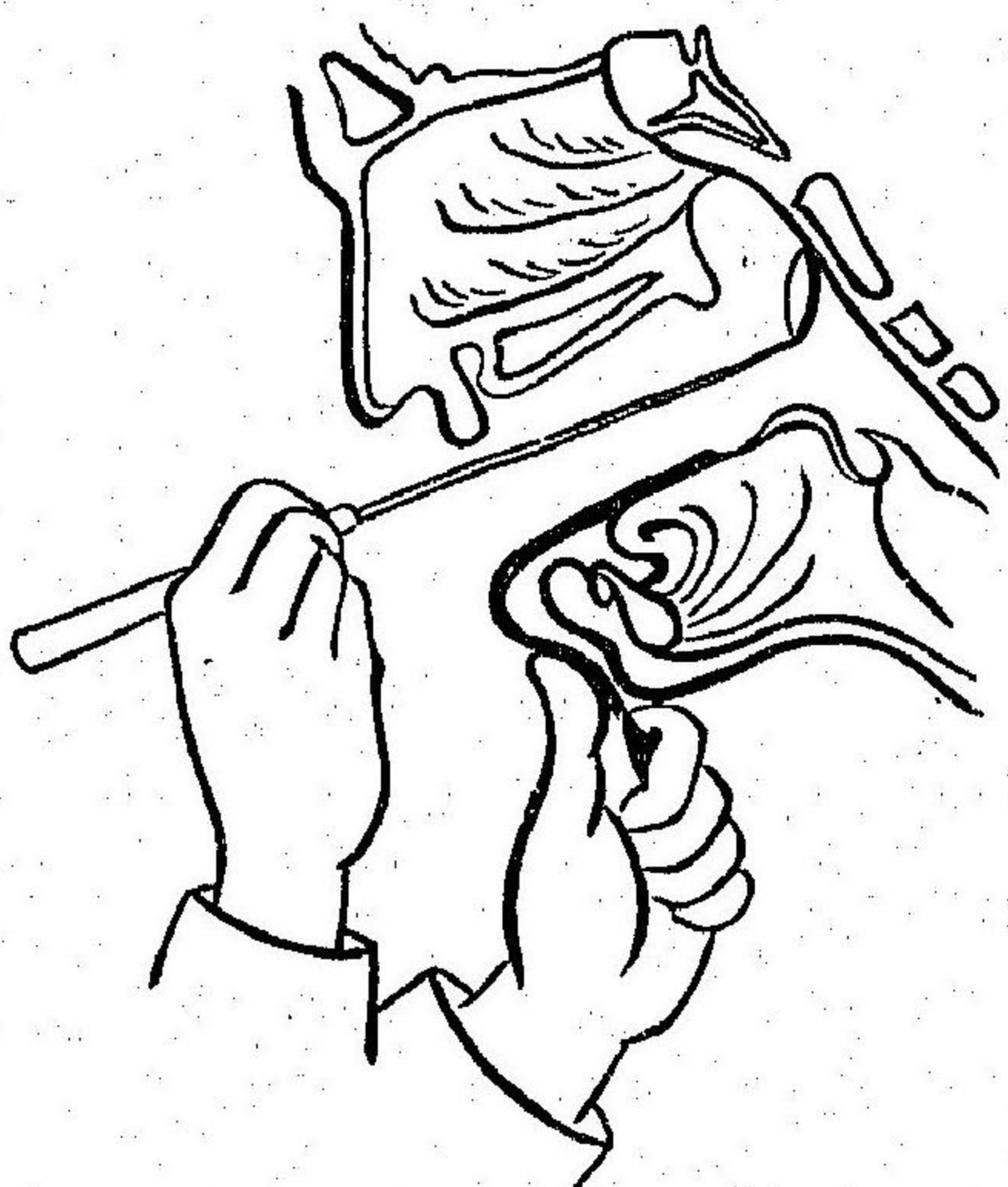


圖 一 十 四 第  
子 壓 舌



検査法ハ患者ノ頭首ヲ少シク前方ニ傾ケテ開口セシメ左手ニ把リシ舌壓子ヲ以テ舌背ヲ壓下シ(舌ヲ齒列外ニ挺出セシムベカラズ)右手ニ小鏡ヲ持チ鏡面ヲ前方ニ向ケテ咽腔即チ懸

圖 二 十 四 第  
法 查 檢 腔 鼻 後



ガ故ニ手柄ヲ上下左右ニ運轉シテ始メテ各部ヲ見ルコトヲ得ベシ

後鼻検査映像 第一ノ注目點ハ鼻中隔後端鋤骨鉛直板ナリ上下兩端ハ稍

ヤ廣キ細狭ノ隆線ニシテ淡紅色ヲ呈ス其兩側ハ後鼻竇ニシテ甲介及鼻道ヲ觀ルベシ中甲介ハ略ボ中央ニ位シ下部ニ下甲介後端ヲ有シ上甲介ハ通常中甲介ニ隠蔽セラレテ見得ベカラザルコト多シ小鏡ノ手柄ヲ左右ニ廻轉スレバ咽頭側

壅垂ノ下部ニ挿入ス

此際患者ヲシテ鼻腔ヲ通ジテ呼吸セシムベシ而シテ小鏡ハ豫メ温湯ニ入レ又ハ燈火ヲ以テ温メ鏡面ニ曇翳ヲ生ズルヲ防クベシ此ノ如ク咽腔ニ送リタル小鏡面ニ映ジタル像ハ反射鏡ニヨリテ照シ見ルトキハ明カニ見ルヲ得ルモノナリ但シ小鏡ヲ用ラルトキハ一時ニ全部ノ映像ヲ現ハスコト能ハザルモノナル

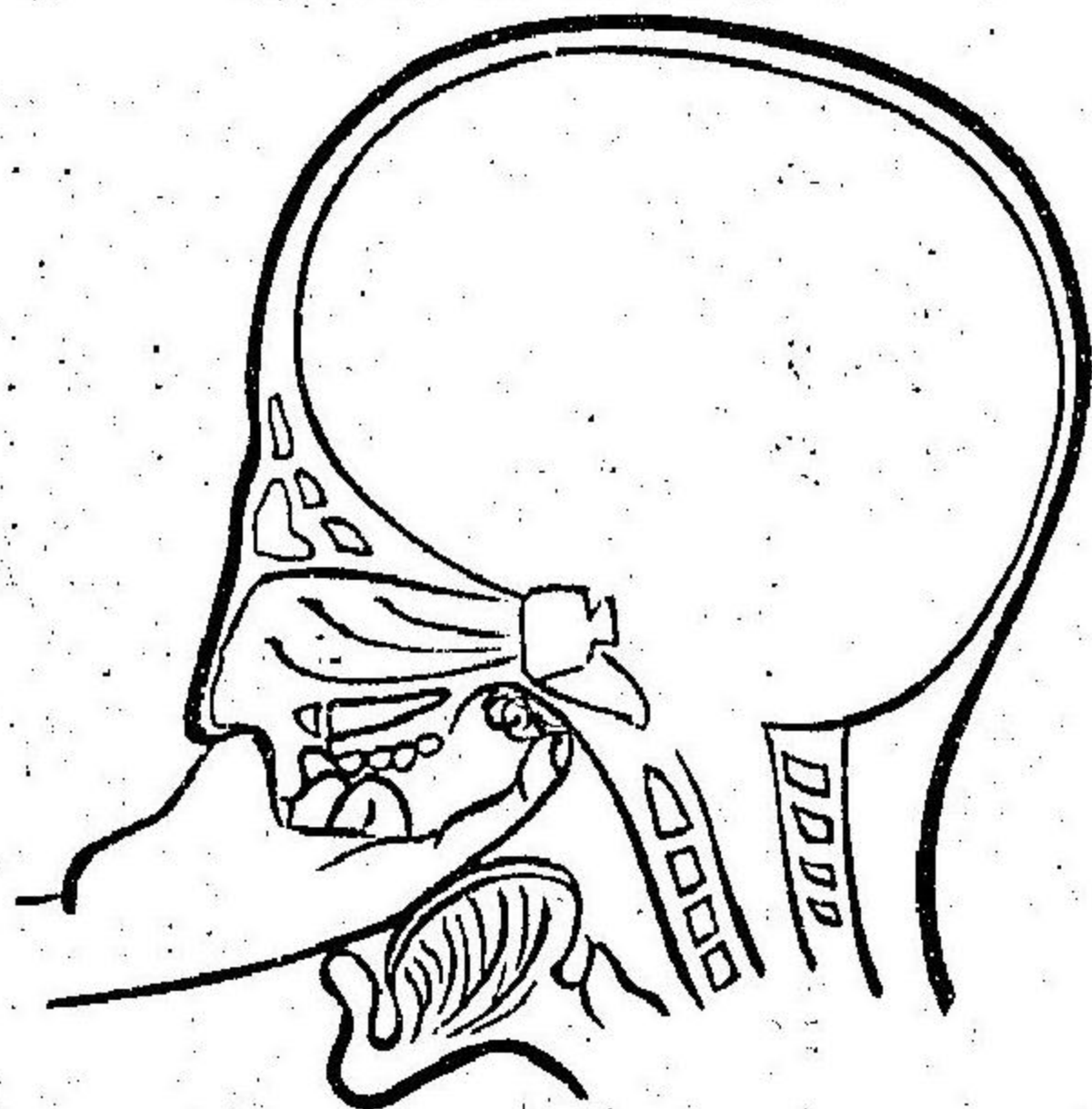


圖 三 十 四 第  
況 狀 ノ 診 觸 腔 咽 鼻



壁ヲ見ルベク此處ニ歐氏管咽頭口歐氏管隆起ローゼンミユル氏窩等アリ  
又手柄ヲ扛起スルトキハ咽頭上壁及後壁ヲ窺フコトヲ得着色附圖III(ル)  
以上述べタル處ヲ見レバ後鼻検査法ハ極メテ簡單ニシテ何人モ容易ニ施行シ  
得ベキガ如シト雖モ決シテ然ラズ多クノ經驗ト熟練ヲ要スルモノナリ縱令初  
學者ニ非ズト雖モ患者知覺甚ダ過敏ニシテ單ニ舌壓子ヲ挿入スルカ或ハ咽頭  
ニ小鏡ノ達スルヤ直チニ絞扼運動 Würgbewegung ヲ發起シ爲メニ検査スルヲ能  
ハザルモノアリ此ノ如キモノ  
ニハ二―四%古加乙澀溶液ヲ  
塗布シ數分間ノ後検査スルヲ  
佳トス又屢々口蓋帆ト咽頭壁  
ノ間隙狭キニ過ギ或ハ口蓋帆  
及ビ懸壺垂ノ過長ナルガ爲メ  
検査ヲ妨ゲラル、ト少カラズ  
然ルトキハ口蓋鈎ヲ以テ口蓋

圖 四 十 四 第  
景 内 診 觸 腔 咽 鼻



頰部ヲ上下ノ齒列間ニ挿入シ咬嚙セント欲スレバ頰部ノ疼痛ヲ起シ爲メニ咬  
ムコト能ハザラシムルヲ佳トス(第四十三圖)

第五章 咽頭検査法 Pharyngoscopy.

咽頭ハ反射光線ヲ以テスルアリ或ハ直射光線ヲ以テ充分ナルコトアリ舌壓子  
ヲ以テ舌ヲ壓下シテ視ルベシ但シ患者ニヨリテハ舌壓子ヲ要セズシテ自己ノ

及ビ懸壺垂ヲ前上方ニ牽引セザルベカラズ  
時トシテハ後鼻検査法ハ絶對的ニ不可能ナ  
ルモノアリ殊ニ小兒ニ於テ多シ然ルトキハ  
觸診法ヲ行フモノナリ觸診法ハ鼻咽腔内ノ  
腺肥大症等ニハ必要ナル診斷法ニシテ小兒  
ニ在リテハ指ヲ咬ムコトアルガ故ニ之ヲ防  
グニ指甲ヲ用ウルモノアレドモ最モ簡便ニ  
シテ確實ナルハ検査者ノ左拇指ヲ以テ患兒ノ



意志ニ從ヒ舌ヲ低下セシムルヲ得ルモノアリ  
咽頭検査ニ際シテハ粘膜ノ色澤腫脹ヲ觀ルノミナラズ探子ヲ以テ扁桃腺窩及  
ビ後口蓋弓ノ後部等ヲ詳細ニ検査スルヲ要ス

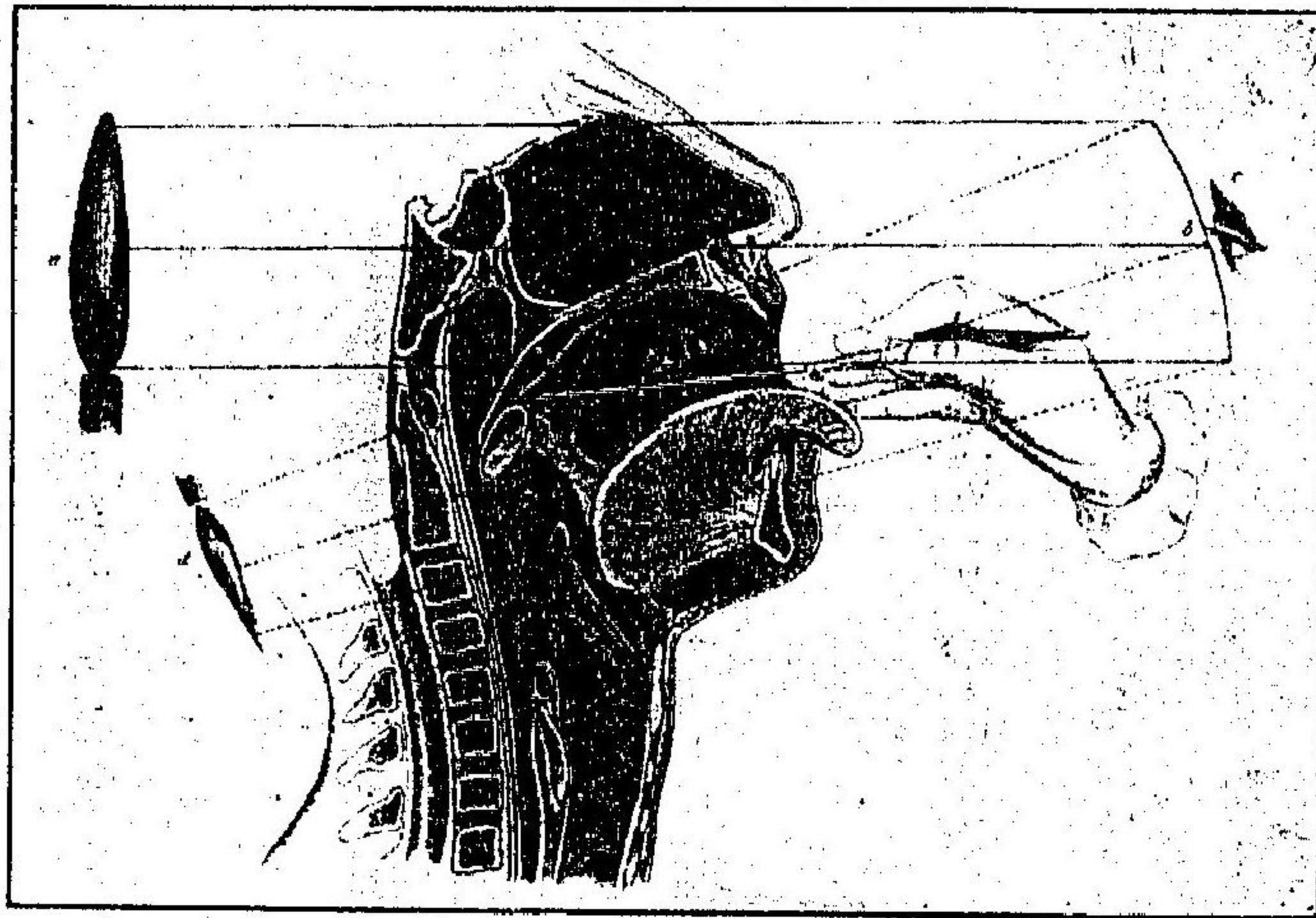
### 第六章 喉頭鏡検査法 Laryngoscopy.

喉頭腔内并ニ氣管ノ一部ヲ照檢スルニハ所謂喉頭鏡ヲ使用スルモノナリ喉頭  
鏡ハ直徑一—三仙迷ヲ有スル圓形平面鏡ニシテ百二十度乃至百二十五度ノ角  
度ヲ以テ金屬性長莖ニ固着セラル、モノトス而シテ其長莖ノ他端ハ木製又ハ  
金屬性ノ手柄ニ螺定セラル

#### A 喉頭鏡検査方法 Untersuchungsmethode.

人工光線ニヨリテ検査ヲ行ハントセバ検査室ハ日光ノ射入ヲ遮リ闇黒ナラシ  
ムルヲ佳トス然レドモ通常絶對的闇黒トナサザルモ検査スルコトヲ得ベシ  
先ツ被檢者ヲシテ椅子ニ凭ラシメ頭部及ビ軀幹ヲ真直ニシ頭部ヲ僅カニ後屈

圖 五 十 四 第  
圖 ノ 查 檢 頭 喉



セシムベシ檢者ハ之ニ對シテ坐ヲ古ム  
光線ハ檢者ノ右側耳邊ニ置クヲ常トス  
斯クシテ檢者ハ額帶又ハ口保反射鏡ニ  
ヨリテ反射光線ヲ被檢者ノ口邊ニ來タ  
サシムベシ而シテ後チ鏡ノ中央ニア  
小穿孔部ヨリ透見シテ光像ノ鮮明トナ  
ルニ至ル様檢者ハ被檢者ニ近ヅキ或ハ  
遠カリテ調節スルヲ可トス  
斯クシテ光線ヲ集成シ得タル後チ被檢  
者ヲシテ舌ヲ前方口外ニ挺出セシメ布  
片ヲ以テ舌ノ上下面ヲ通シテ纏絡シテ  
徐々ニ牽引シ或ハ被檢者ヲシテ自ら牽  
引セシム但シ決シテ強カヲ以テスベカ  
ラズ何トナレバ動モスレバ尖銳ナル齒

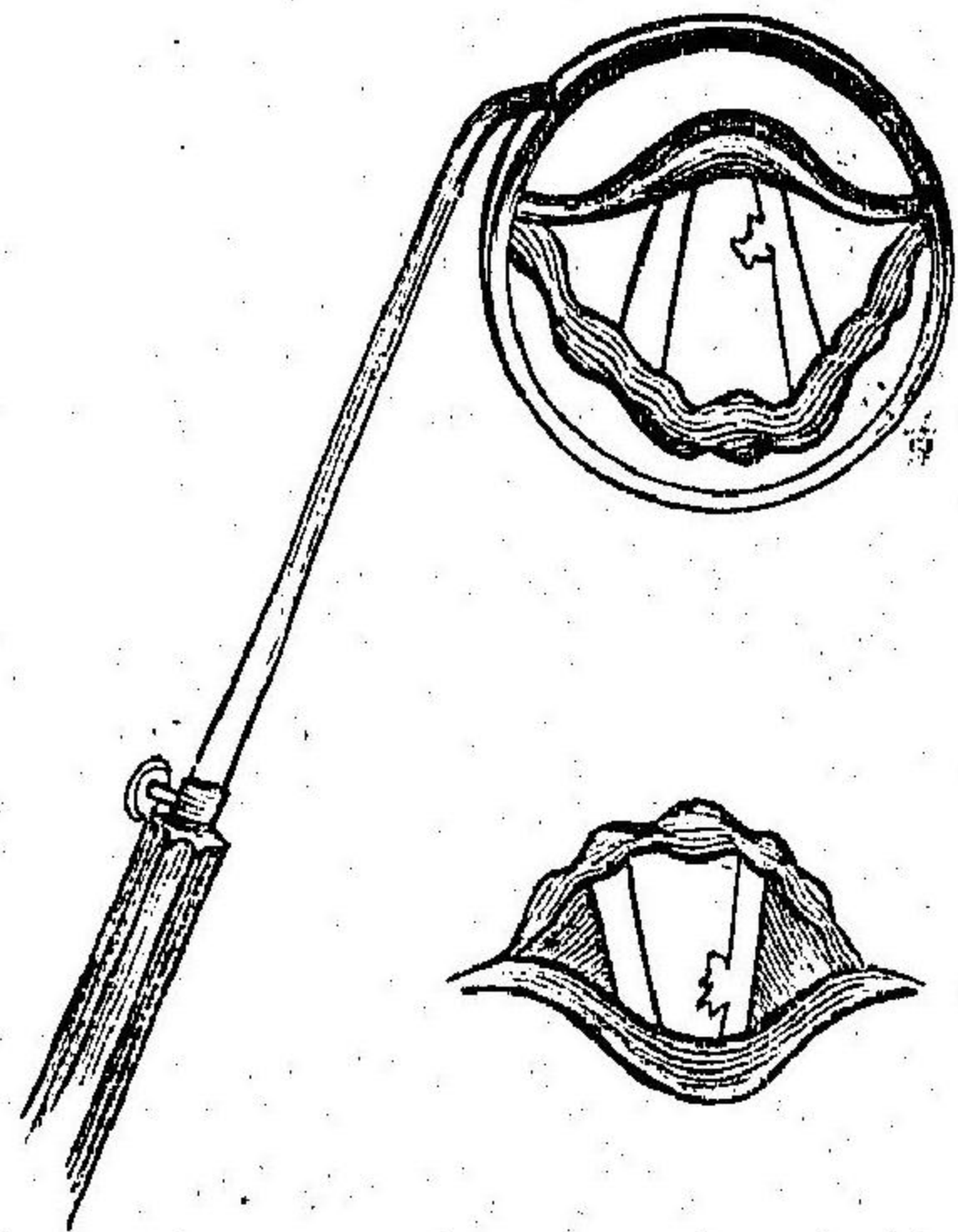


牙ニヨリ舌撃帶ノ裂傷出血疼痛等ヲ來スコトアルガ故ナリ  
 然ル後チ被檢者ヲシテ緩徐ニ而モ規則正シク呼吸セシメ徐ロニ喉頭鏡ヲ執筆  
 狀(西洋ノ)ニ把リテ口内ニ送入スベシ單ニ檢査ノミヲ行フニハ右手ニ保持スル  
 モ可ナレモ手術時ニハ左手ニ委ネザル可ラズ喉頭鏡ハ口内ニ送入スル時ハ水  
 蒸氣ニヨリテ暈翳ヲ生ズル者ナレバ豫メ鏡面ヲ燈火上ニ持チ來シ或ハ温湯内  
 ニ浸スコト後鼻檢査時ニ於ケルガ如シ(鏡ノ暈翳ヲ防グニハ一%リゾール液曹  
 達水等ニ浸スモ効アリ)先ツ鏡背ヲ自家ノ手背ニ貼付シテ其熱度ヲ試驗シ鏡面  
 ニ觸レザル様注意シテ硬口蓋ト舌背間ヲ經テ深ク送入シ鏡面ヲ下方ニ向ケテ  
 懸垂垂ノ下ニ置クベシ然ルトキハ喉頭鏡面ニ喉頭内ノ映像ヲ見ル事ヲ得ベシ

**B 喉頭鏡ノ映像 Laryngoscopische Bilder.**

以上ノ如ク保持セラレタル喉頭鏡ノ而ハ聲門ト同一平面ニアラズ前上方ヨリ  
 後下方ニ向ツテ傾斜スルガ故ニ其映像モ從テ一定ノ變態ヲ示ス即チ喉頭ノ前  
 部(會厭軟骨、聲帶前起根部等)ハ喉頭鏡ノ上方ニ映シ後部喉頭後壁、披裂軟骨、聲帶

第 四 十 六 圖  
喉 頭 鏡 映 像



シテ具サニ深部ノ状態ヲ觀察スルヲ得ベシ又高調音ヲ發セシムルトキハ會厭  
 軟骨ハ舌根ニ向ツテ扛起セラレ喉頭内景ヲ觀察スルニ一層容易ナリ而シテ此  
 際兩聲帶ハ内方ニ向ツテ中線ニ接近スルモノナリ此ノ如ク發聲セシムルトキ  
 ハ會ニ聲帶ノ運動ヲ視ルノミナラズ其緊張及ビ振顫ノ状態或ハ聲帶ニ於ケル  
 腫物ノ可動性ナルヤ否ヤ粘液凝着ナリヤ否ヤ等ヲ確ムルヲ得ベシ

**喉頭各部ノ粘膜色澤** 聲帶ハ通常象牙様白色ナレモ喫煙家、飲酒家、聲音

突起等ハ鏡ノ下部ニ現ハル然レモ側方  
 ハ實物ト同一ナルガ故ニ鏡面右側ノ映  
 像ハ實物ノ右側ニシテ實物ノ左側ハ鏡  
 面左側ニ映ズル者ナリ(第四十六圖)  
 喉頭鏡檢査ニ際シ被檢査ヲシテ安靜呼  
 吸ヲ營マシムルトキハ聲門ハ二等邊三  
 角形ヲナシテ鏡面ニ現ハレ突然深吸氣  
 ヲナサシムルトキハ聲門ハ著シク擴大

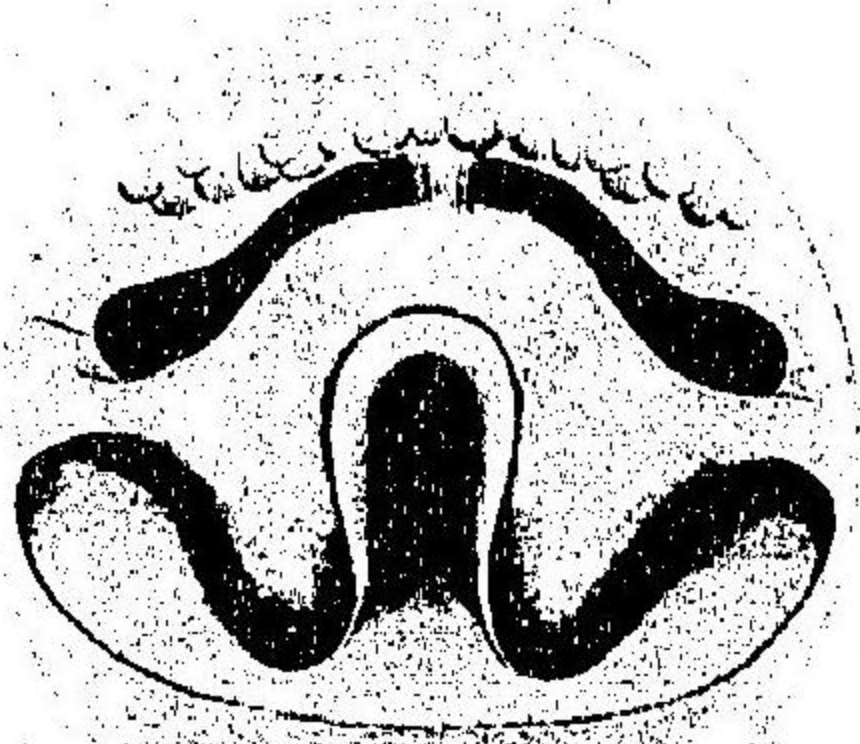


使用過度ノモノ等ハ汚穢白色或ハ淡紅色ヲ呈ス  
 會厭軟骨假聲帶披裂會厭韌帶ハ口唇様紅色ヲ呈シ且ツ軟骨ノ迂回部ニ於テ多  
 クハ多數ノ血管分佈ヲ見ルベシ  
 會厭軟骨遊離縁ハ鮮明黃色ヲ呈ス  
 披裂軟骨部及ビ披裂間部ハ強ク潮紅ス(着色附圖III B)

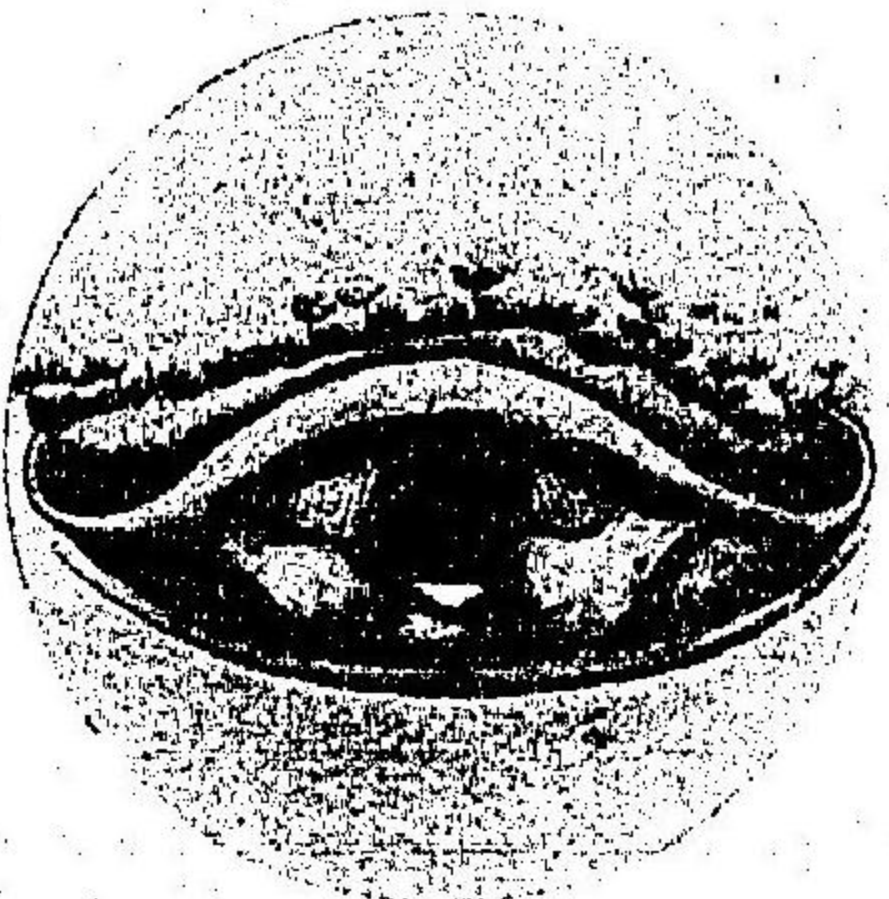
C 喉頭鏡検査ノ障碍 Hinderniss bei der Laryngoscopie.

最モ多キハ咽頭反射機亢奮ニシテ咳嗽ヲ發シ或ハ絞扼運動劇シク鏡ヲ送入ス  
 ルヲ困難ナルモノアリ又時トシテハ嘔吐ヲ催シテ鏡面ヲ汚染スルコトアリ  
 次ニ屢々遭遇スル處ノ困難ハ舌ノ弓形隆起ニシテ甚敷ハ爲メニ單ニ喉頭鏡ヲ  
 送入スルコトスラモ困難ナル場合稀ナラズ或ハ著大ナル口蓋扁桃腺肥大症ノ  
 アルトキモ検査ヲ妨グルモノナリ  
 以上ノ如キ障害アルトキハ五%古加乙涅ヲ咽頭ニ塗布シ數分ヲ經テ施行スル  
 ヲ佳トス然ルトキハ容易ニ目的ヲ達スルコトヲ得ベシ

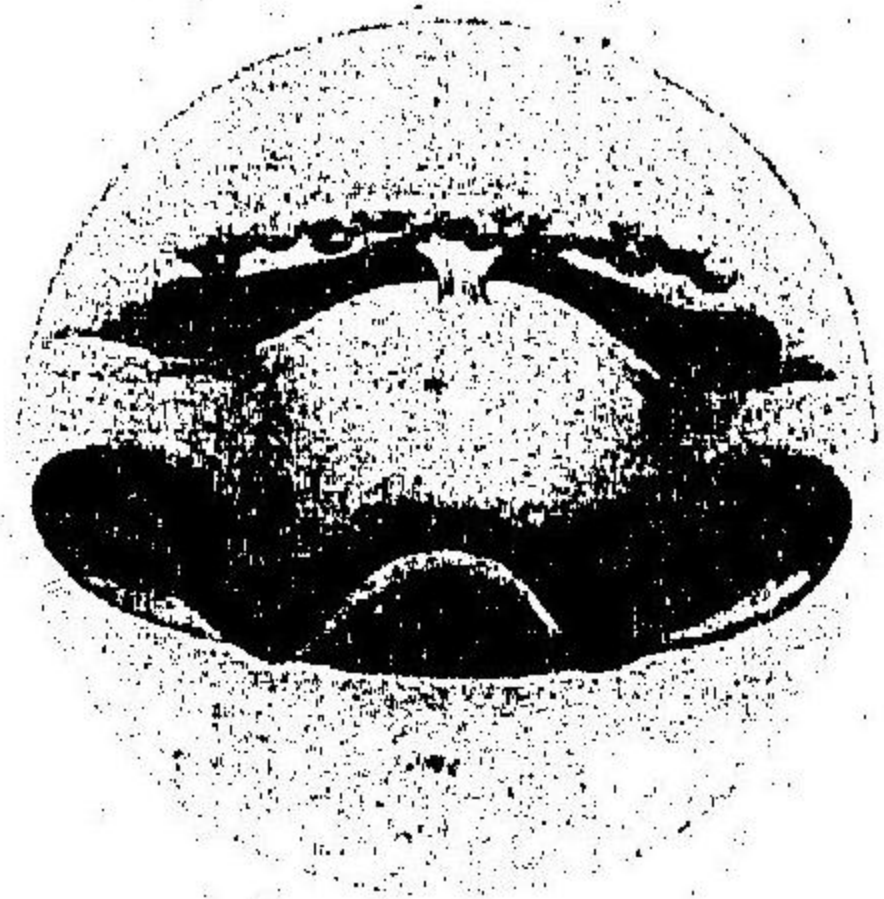
圖七十四第  
曲彎狀ガメカ



圖八十四第  
斜 傾 方 後



圖九十四第  
(度 強) 上 同



其他屢々検査ヲ妨グルモノハ會厭軟骨後方傾斜及ビオメガガ狀彎曲ニシテ其傾  
 斜顯著ナルモノハ喉頭入口ヲ覆蓋シテ喉頭腔内ヲ窺ヒ見ルコト能ハザラシム  
 ルガ故ニライヘルト氏莖子ヲ以テ會厭軟骨窩ヲ壓シ槓桿作用ニヨリテ扛舉セ  
 シムルヲ要ス(第五十一圖)

D 喉頭鏡特殊検査法 Besondere Methode der

Laryngoskopie.

以上述べタル普通喉頭鏡検査法ニヨリテ充分目的ヲ達シ得ザルトキハ左ノ特



タイン氏装置ヲ以テ検査スル方法ニシテ直達鏡ヲ會厭軟骨前邊マテ挿入シ菟子ヲ以テ舌背ヲ壓下シ次ニ柄ヲ扛舉シテ齒牙ニ觸ル、ニ至ラシメ同時ニ舌根ヲ前下方ニ牽制シ副匣ヲ通ジテ直接ニ喉頭ヲ視診スルモノナリ此検査法ハ小兒ニ在リテ最モ必用ナリ

圖 二 十 五 第  
法 查 檢 頭 喉 氏 ン ア リ キ



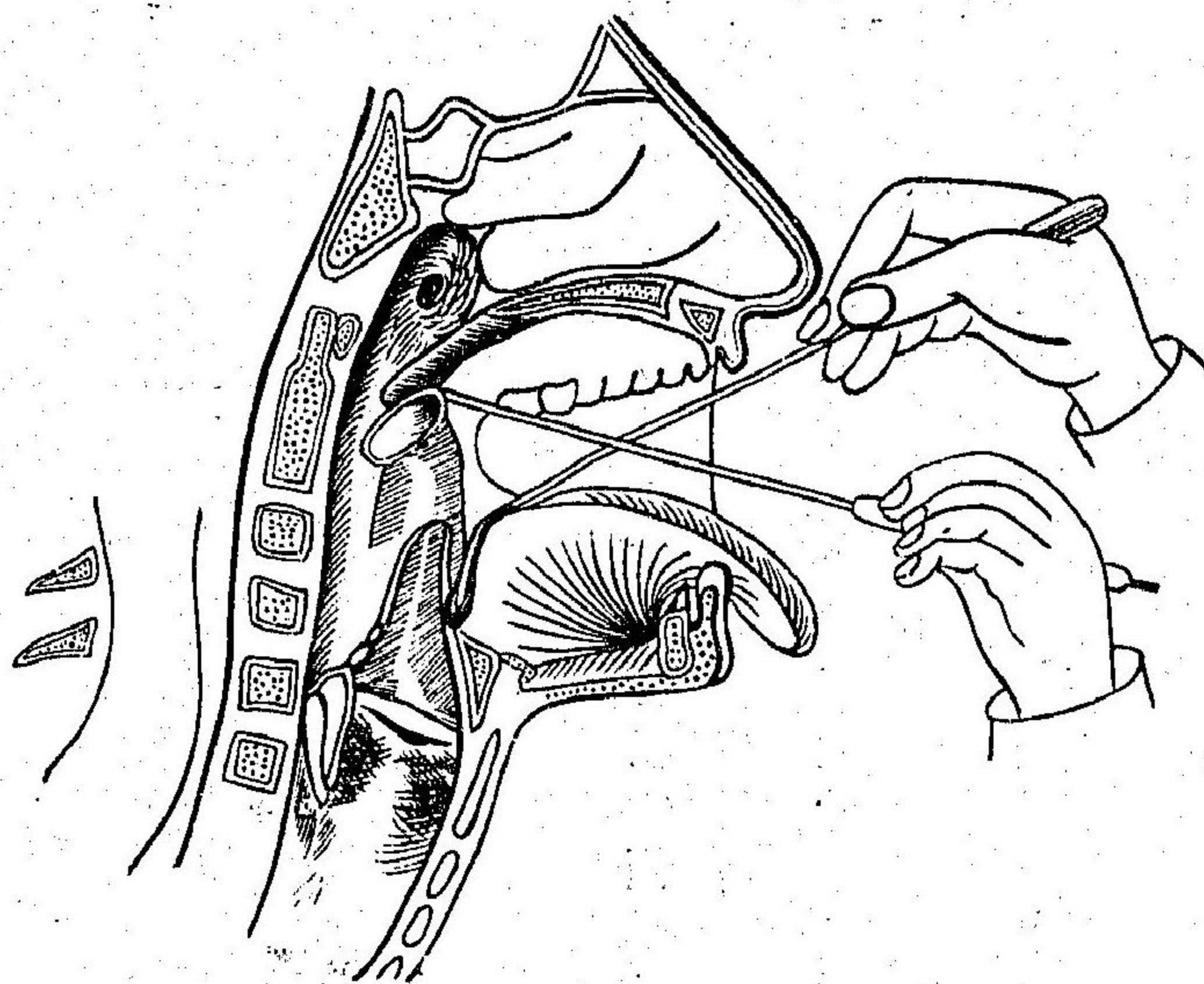
屈セシメ檢者ハ膝位若クハ低位ヲ取り喉頭鏡ヲ稍水平ニ保持シ光線ヲ下方ヨリ咽頭内ニ射入スルニアリ(第五十二圖)  
**キルスタイン氏直達喉頭検査法** Kinstein's directe Laryngoskopie 菟子副匣及ビ電氣燈ヨリ成ル所謂キルス

第七章 電氣透照法 Electricische Durchleuchtung.

圖 十 五 第  
子 菟 氏 ト ル ヘ イ ラ



圖 一 十 五 第



ライヘルト氏會厭軟骨鏡子使用ノ圖

殊検査法ニ從ヒ補足スルヲ佳トス

**アヴェルリス氏法** Avellis'sche Methode 患者ノ頭

首ヲ左右ニ廻轉セシメ或ハ左右ニ屈曲セシメテ聲帶其他各部分ヲ雷ニ上方ヨリノミナラズ又邊縁ヨリ視ル方法ナリ

**キリアン氏法** Kilian'sche Methode. ハ病變好發

部ナル後壁前面ヲ映出スルニ便ナリ其方法患者ヲ起立セシメ頭部ヲ強ク前下方ニ



圖 六 十 五 第  
鉤及鏡管氣氏グンニユリア

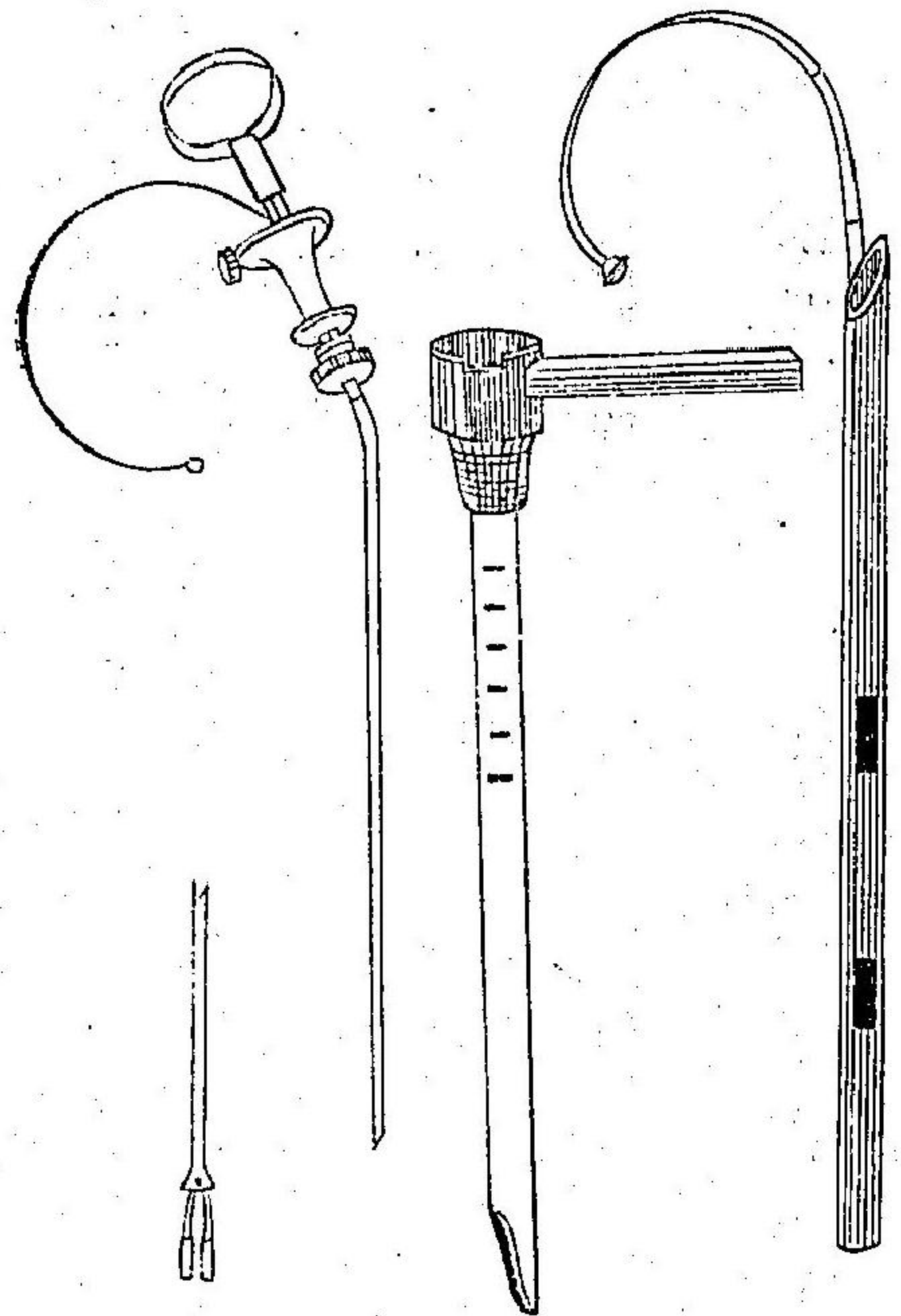
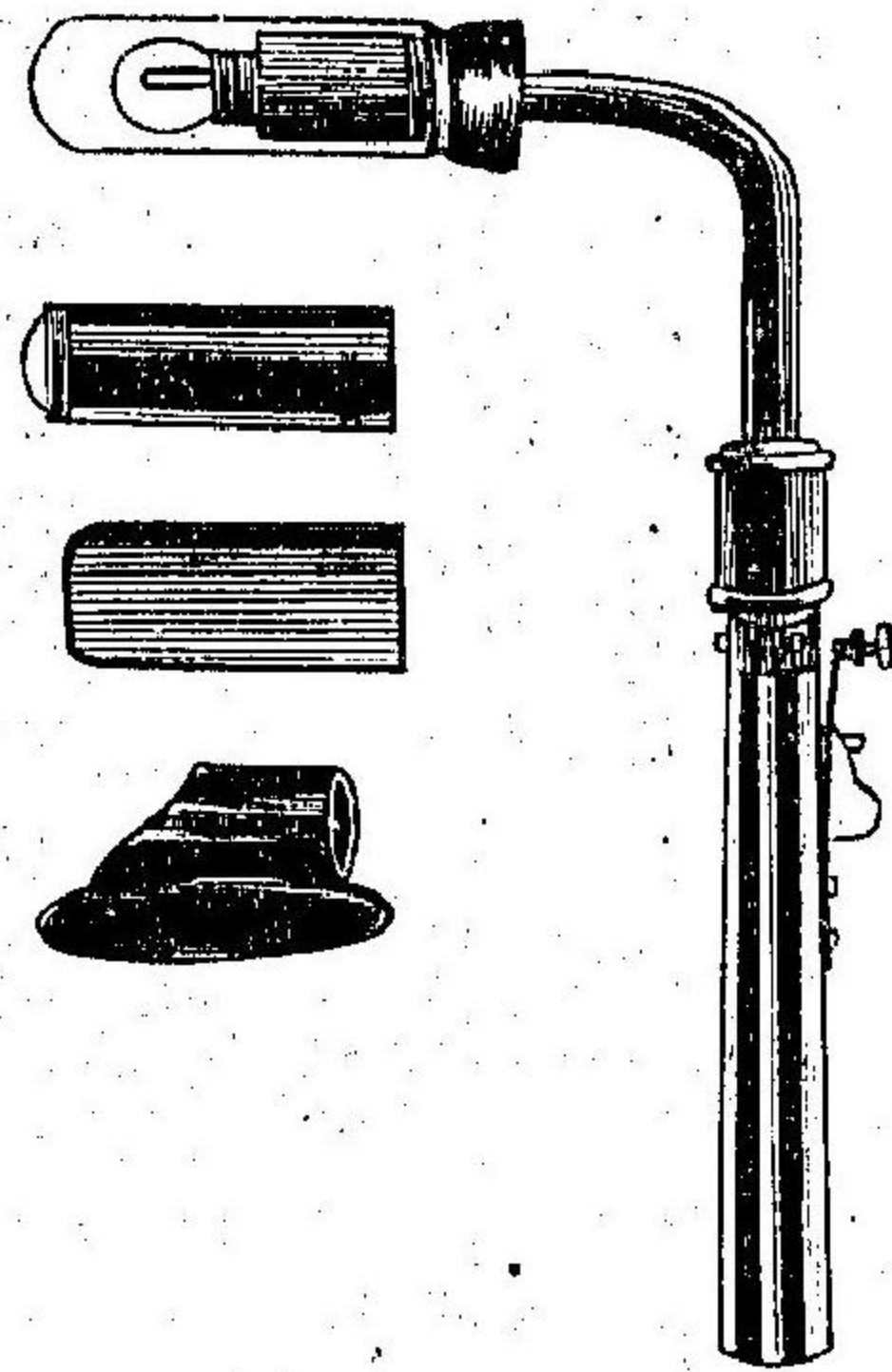


圖 五 十 五 第  
燈電氏グンリーヘ



小電燈ヲ患者ノ口内ニ送入シテ上顎  
竇ノ變化ヲ檢ス若シ前額竇ヲ檢セシ  
ト欲セバ眼窩ノ天蓋ニ貼付スベシ

第八章 氣管及氣管枝  
直達検査法 Tracheosco-  
pia et Bronchosopia directa.

輓近キリアン氏ノ考按ニ  
成ル検査法ニシテ口腔ヨ  
リスル上直達検査法及ビ  
氣管切開口ヨリスル下直  
達検査法ノニアリ  
検査前莫比ノ皮下注射ヲ  
行ヒ二十分餘ヲ經テ後チ

圖 三 十 五 第  
法查檢頭喉達直氏ンイタスルキ

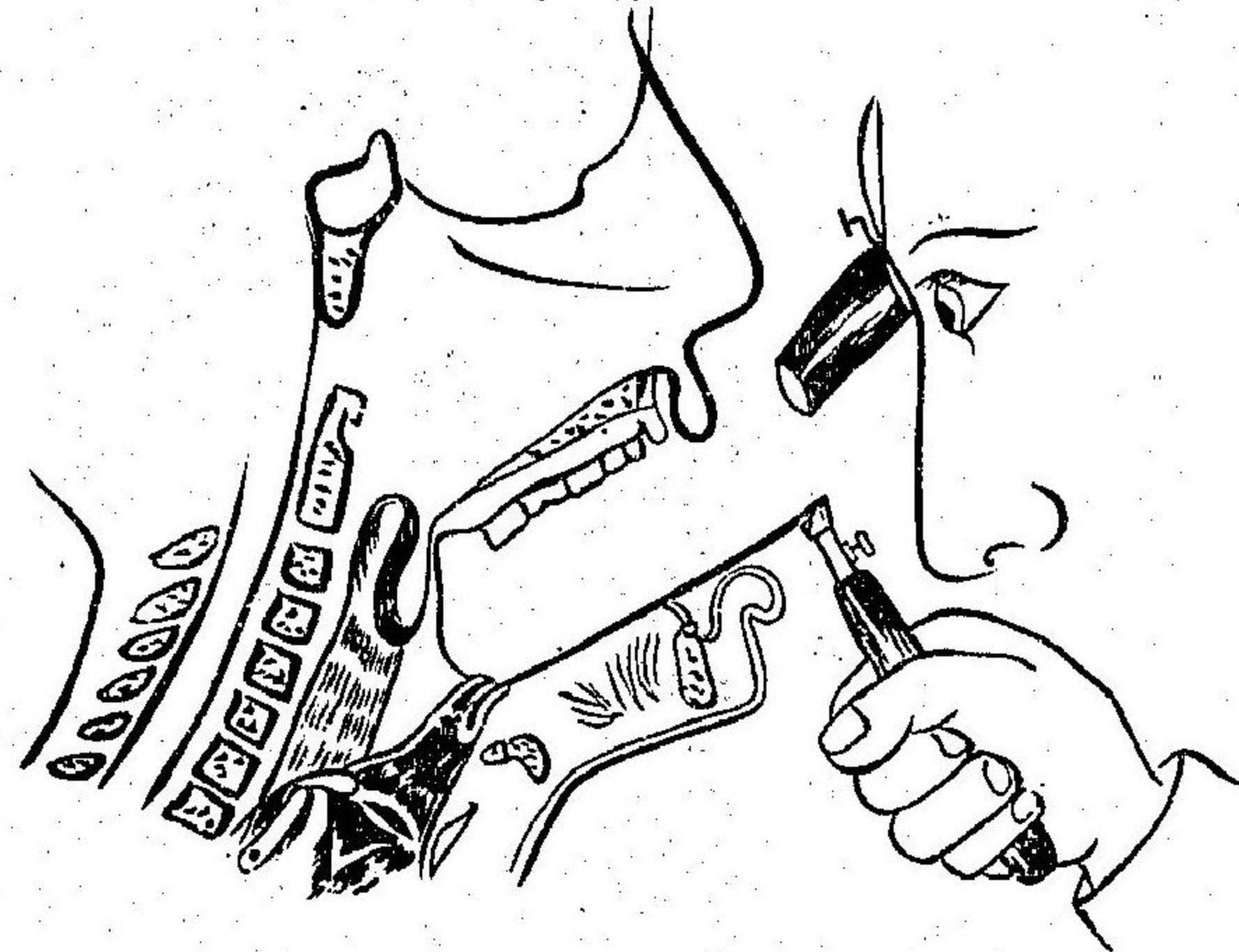
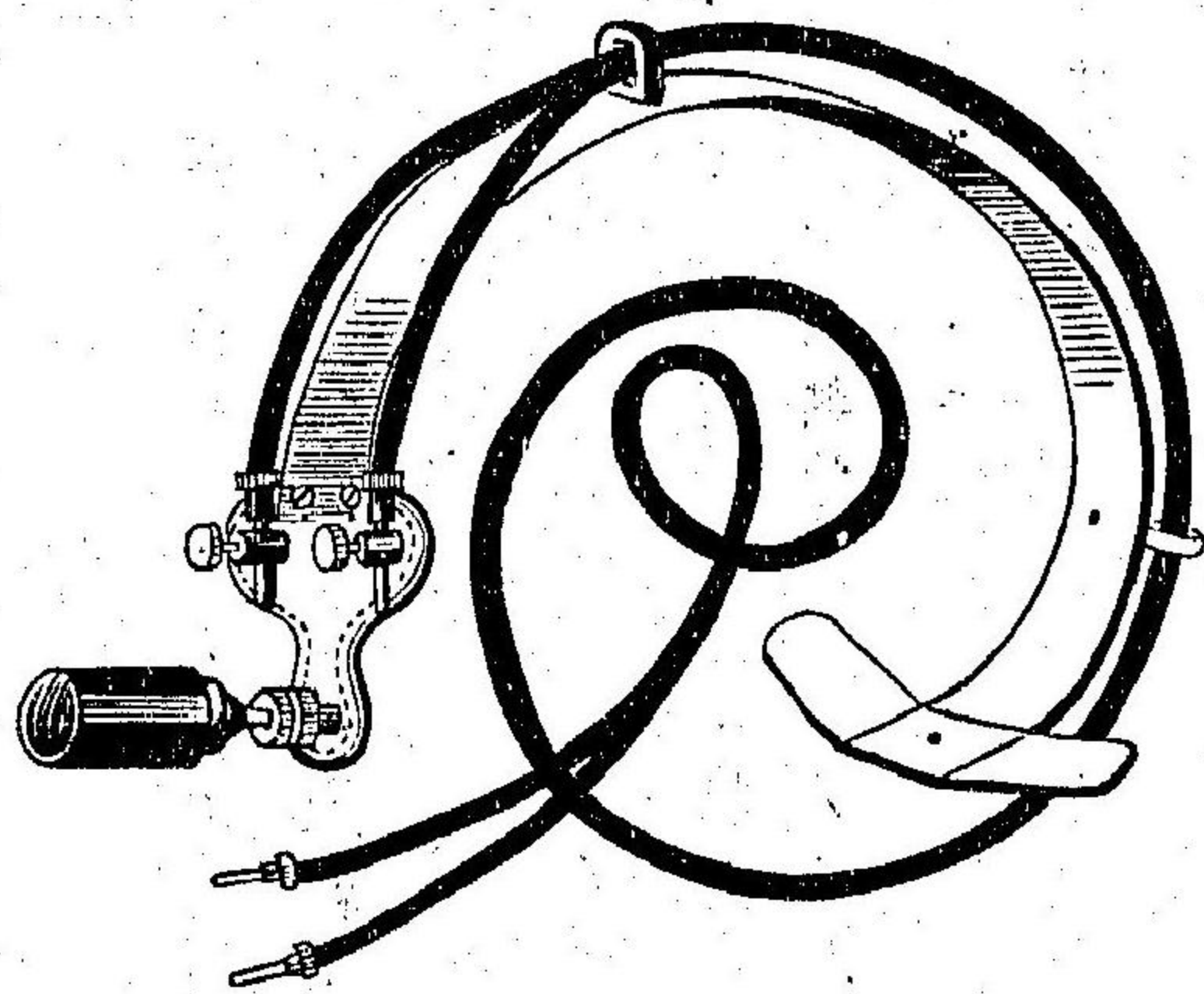


圖 四 十 五 第  
燈 電 額 前



對的闇黒ナルヲ要ス即チ特ニ製作セラレタルフオーゼン氏又ハヘーリング氏

本法ハ副鼻腔ノ疾患ニ在リテ顔面骨ヲ透照シテ検査スル者ニシテ検査室ハ絶



咽頭、氣管、喉頭ニ二〇%古加乙涅塗布ヲ行ヒ適度ニ温メ且ツ油ヲ塗布シタル金屬性長管ヲ挿入シ電燈ヲ以テ管内ヲ明カニ視ツ、徐々ニ深ク進ミ氣管及氣管枝ヲ觀察スルナリ氣管切開口ヨリスルトキハ管ノ長徑短キモノヲ用フ此處ニ揭グルハブリユウニング氏ノ改良セル氣管及氣管枝鏡ナリ(第五十六圖)

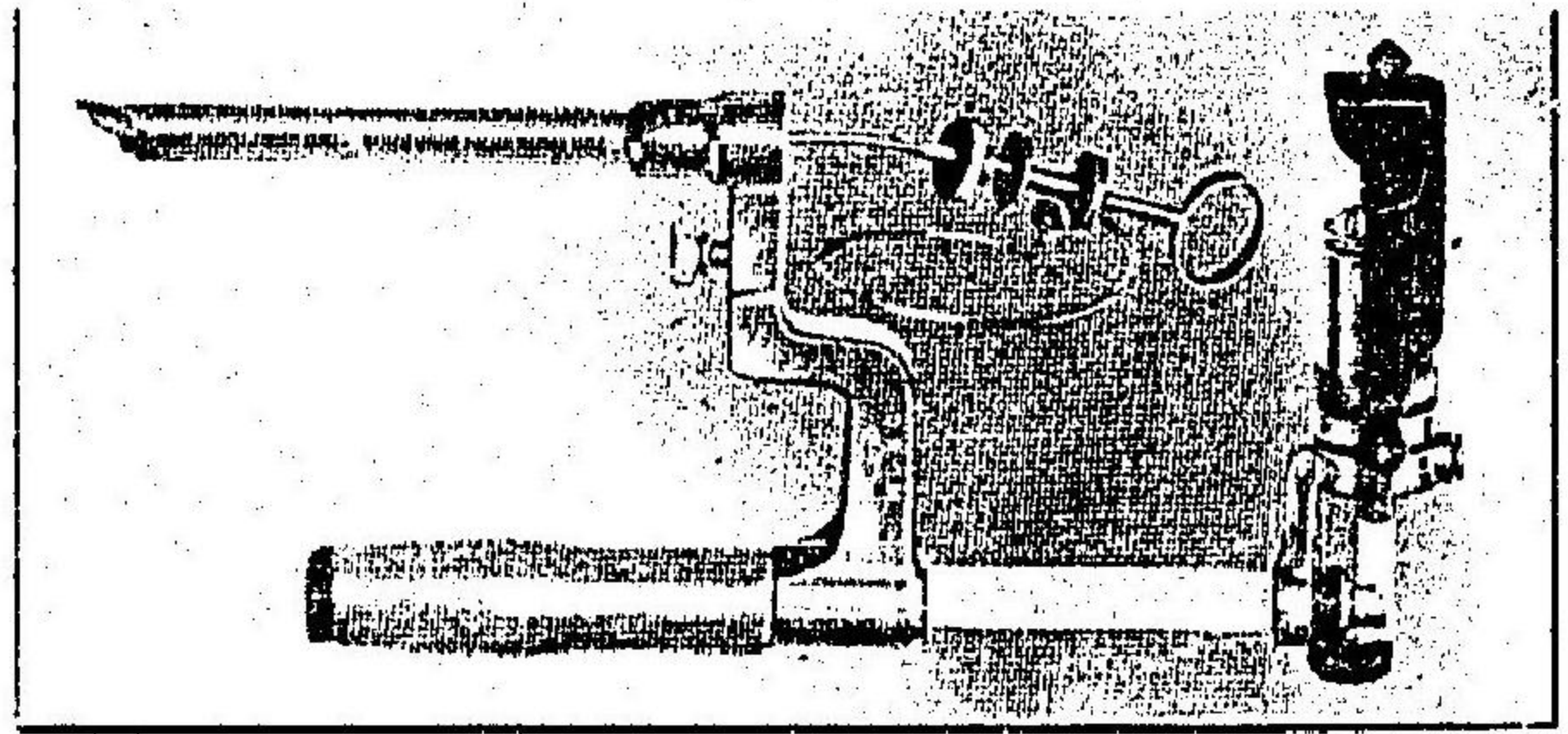
#### 第四編 一般治療論 Allgemeine Therapie.

##### 第一章 全身療法 Allgemeine Behandlung.

上部氣道ノ疾病ヲ治療スルニ當リ只局部ノ處置ニ重キヲ置キ全身療法ヲ等閑ニ附スルハ充分ノ効果ヲ收ムルノ道ニアラズ必ズ他器官ト上部氣道ノ器質的或ハ官能的關係ヲ精査探求シ兩々相俟ツテ治療ヲ施スヲ要ス  
豫防法ハ極メテ緊要ナリ殊ニ加答兒性ノ病症ニアリテ然リ、即チ屢々戶外ニ出デ、外氣ニ慣レシメ、清爽ノ空氣ヲ呼吸シ、或ハ冷水摩擦等ニヨリテ皮膚ヲ強壯ナラシムベシ



ブリュウニング氏氣管枝鏡應用圖



ブリュウニング氏氣管枝鏡及電燈裝置



又厚薄其ノ度ヲ得タル被服ヲ用ヒ喫煙、飲酒等ヲ節制シ或ハ必要ニ應ジテ全然之ヲ禁ズベシ其他温暖ニ過ギ又ハ換氣不良ノ室、強キ隙風襲來スル處、室温交換ノ烈シキ場所ニアルベカラズ

時トシテハ尿酸含有飲食物ノ攝取ニヨリテ容易ニ上部氣道ノ加答兒ヲ誘發シ易キ傾向ヲ有スル人アリ此ノ如キ人ハ糖分又ハ澱粉質ヲ制限シ野菜ヲ用フルヲ可トス喉頭及氣管ノ疾病ヲ治療スルニ當テハ新鮮清淨ナル空氣ハ極メテ必要ニシテ輕度ノ喉頭痛ハ市街ヲ去テ森林高燥ノ地又ハ海濱ニ居ヲ移スノミニテ既ニ著シキ効ヲ收ムルコトアリ

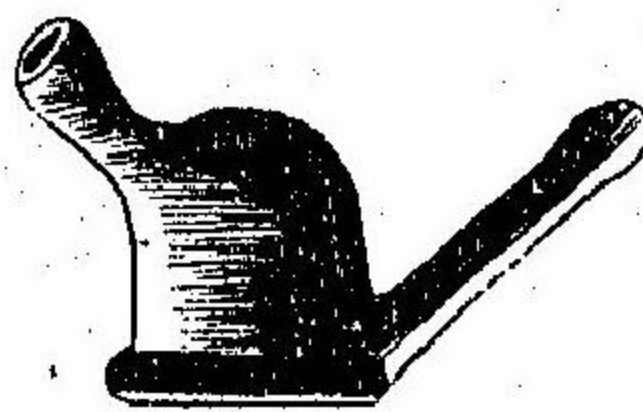
## 第二章 洗滌法 Ausspülungen.

上部氣道ノ疾病ハ多クハ粘液分泌ヲ伴ヒ或ハ膿汁分泌ヲ來スカ故ニ洗滌ヲ要ス

**鼻浴** Nasendouche. 鼻浴ヲ行フニハ通常生理的食鹽水ノ微温液ヲ用ラルモノニシテ最モ簡單ナル方法ハ小ナル茶匙ヲ以テ前鼻孔ヨリ注意シテ徐々ニ注入



圖七十五第  
管浴鼻氏ルケンレフ



シ鼻咽腔ヨリ口腔ニ排出セシメ或ハ之ヲ嚥下スルモノナリ  
(但シ膿汁ノ多量ニ存在スルトキハ通常此ノ方法ヲ用ヒズ且  
嚥下スルヲ不可トス)又フレンケル氏シユミット氏等ノ鼻浴  
管ヲ使用ス

鼻洗滌法 A. der Nasenhöhle. 稍多量ノ液ヲ以テ鼻腔内

ヲ洗滌セント欲セバ五十乃至百瓦ノ内容ヲ有スル「ゴム」球内ニ液ヲ容レ鼻孔ニ  
適合セル嘴端ヲ附着シ置キテ鼻孔ニ向ハシメ「ゴム」球ヲ壓シテ液ヲ鼻内ニ注入  
ス若シ尙ホ多量ノ液ヲ以テセント欲セバ浣腸唧筒ヲ應用スベシ鼻洗滌ヲ行フ  
ニ際シ患者及ビ術者ノ注意スベキコトハ次ノ數項ニシテ就中第二乃至第七項  
ハ主トシテ歐氏管内ニ膿汁又ハ洗液ノ侵入ヲ豫防スルニ必要ナルコトナリト  
ス

- 1 液ノ温度ヲ適當ナラシム即チ攝氏三十五度位ヲ可トス
- 2 「ゴム」球ヲ壓迫スルニ強劇ナルベカラズ
- 3 洗滌液ハ必ず他側ノ鼻道ヨリ流出スルヲ要ス

- 4 左右鼻道ノ開通不同ナルトキハ其開通不充分ナル側ヨリ流入シ善ク開  
通セル側ヨリ排出セシムベシ然ルトキハ液ノ流出佳良ナルモノナリ
- 5 洗滌時ハ決シテ嚥下運動ヲナスベカラズ
- 6 液ヲ注入スル際ニハ鼻呼吸セザルベシ只口腔ヲ通ジテ安靜ニ呼吸シ此  
際「ハアー」ナル發音ヲナスヲ可トス
- 7 洗鼻後數分間ハ擡マザルベシ若シ擡ムトキハ一側ノ鼻道ヲ閉ヂテ他側  
ヨリ噴出セシムベク且ツ決シテ強劇ナルベカラズ
- 8 洗鼻後直チニ寒冷ノ外氣ニ觸レザルヲ宜シトス

含漱 Gurgeln 咽喉腔ニ於ケル膿汁又ハ粘液ヲ排除シ或ハ藥物含有ノ液體ヲ

以テ病變部ニ藥効ヲ作用セシメンガ爲メニ行フ方法ニシテ其法先ヅ藥液ヲ口  
内ニ含ミタル後チ頭部ヲ後屈シテ後下方ニ流下セシメ食道上部ニ達スルニ至  
テ吐出ス此ノ如クスルコト五六回乃至十回ニ及ブ而シテ通常使用スル藥品ハ  
目的ニ因リテ異ナルモノナリ單ニ洗滌ノ爲メニハ清淨ノ微温湯ヲ用ヒ或ハ稀  
薄ノ硼酸水、鹽剝水、揚酸水ノ如キ藥物ヲ含有スルモノヲ用フベシ又之ニ薄荷水



ヲ加味シテ清涼ナラシム其他腐敗性疾病ニ向ツテハ一萬倍ノ過滿俺酸加里液

等ヲ用ヒ或ハ分泌物ノ乾燥凝着シタル

モノニハ亞爾加里性殊ニ重曹食鹽水等

ヲ稱用ス其他左ノ如キ處方アリ

1. 薄荷油 〇、二五

安息香酸 三、〇

有加利丁幾 三、〇

蒸溜水 七五〇、〇

2. ザロール 各一、〇

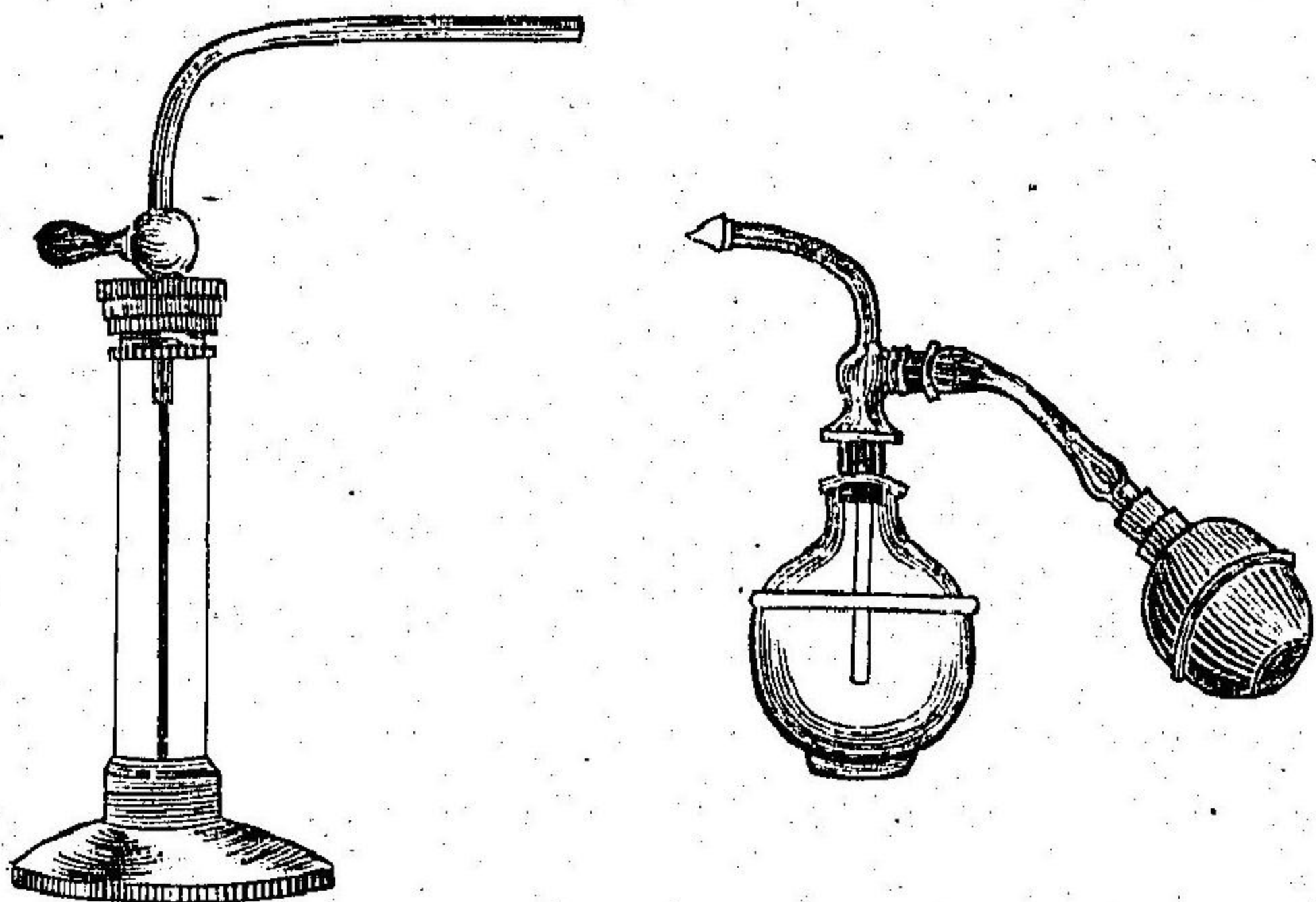
メントール 各一、〇

再溜酒精 九四、〇

右數滴ヲ「コップ」一杯ノ水ニ混ジテ用フ

(キアリー氏)

第 五 十 八 圖



### 第三章 噴霧法 Spray.

液狀藥物又ハ溶解性ノ藥品ハ噴霧裝置

ヲ應用スルトキハ上部氣道ノ全部ニ平等ニ作用セシムルコトヲ得ルモノニシテ噴霧器ハ各部分ニ應ジ之ニ適合セル嘴端ヲ有ス

### 第四章 吸入法 Inhalation.

吸入法ニ種々アリテ種々ノ藥劑ヲ熱湯ニ注加シ紙製漏斗ニヨリテ嗅キ又ハ藥劑ヲ吸收スベキ海綿ヲ有スルクルシヨマン氏假面ヲ用ヒテ一日數回吸入セシムルモアリ或ハ蒸汽噴出裝置(即チ吸入器)ニヨリテ水蒸氣ト共ニ藥劑ヲ噴霧セシメテ吸入スルモノトス一般ニ用ヒラル、藥劑ハ天然礦泉或ハ收斂藥明礬單寧、硫酸亞鉛消毒藥鹽剝硼酸石炭酸麻醉藥臭剝阿片丁幾古加乙淫解凝藥食鹽重曹硼砂等ナリ

### 第五章 粉末藥劑ノ應用 Anwendung von

Pulverförmigen Medicamenten.

粉末形藥劑ヲ應用セント欲セバ吹粉器(第五十九圖又六十圖)ヲ用フ



圖 九 十 五 第

器粉吹氏一キスルピカ

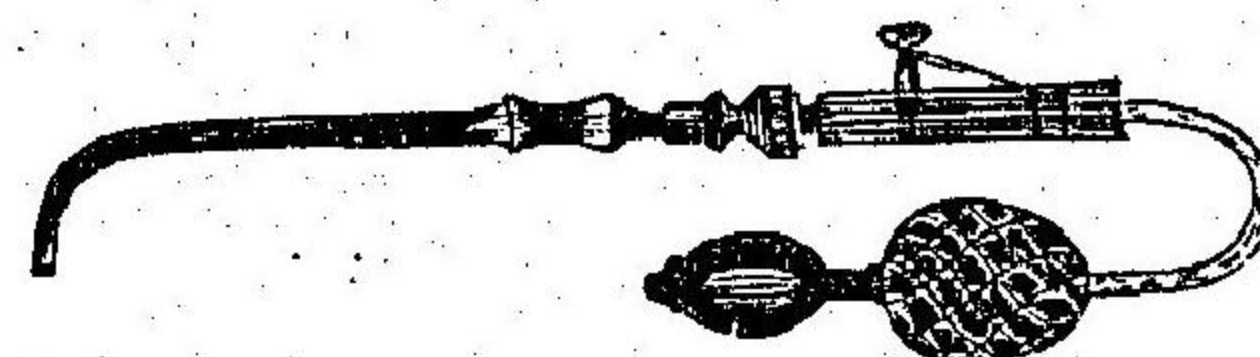
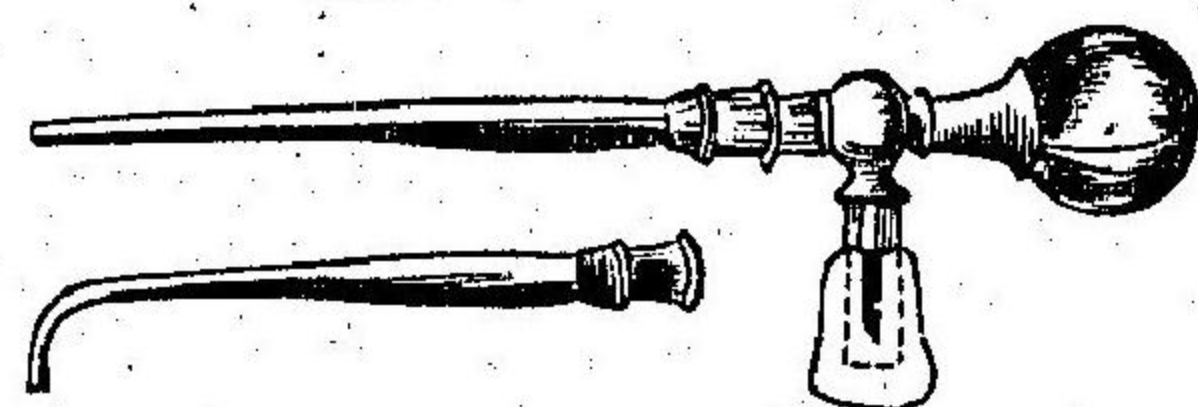


圖 六 十 第

器粉吹頭喉氏ルケンレフ



收、斂、藥

- 1 硝酸銀  
滑石
- 2 「ソツオヨドル」那篤倫  
澱粉

〇、〇五—〇、二

一、〇〇

二、〇〇

3 「ソツオヨドル」亞鉛  
澱粉

一、〇

一、〇—二、〇

4 明礬  
單寧 純又ハ澱粉ヲ混ズ

ルツエ、シユミツト、ハイマン等諸氏ノ改造

シタルモノハ最モ適當ナリ通常應用セラル

ル藥劑ハ次ノ如シ

麻、醉、藥 莫爾比涅、古加乙涅、オイカイン、一回

〇、〇〇五—〇、〇〇二澱粉〇、二—〇、三、オルトフ

オルム(純粹)又ハアネステジン等

消、毒、藥 硼酸(純)又ハ澱粉等分沃度兒、デルマ

ートル「アリストール」アイロールノゾフエ

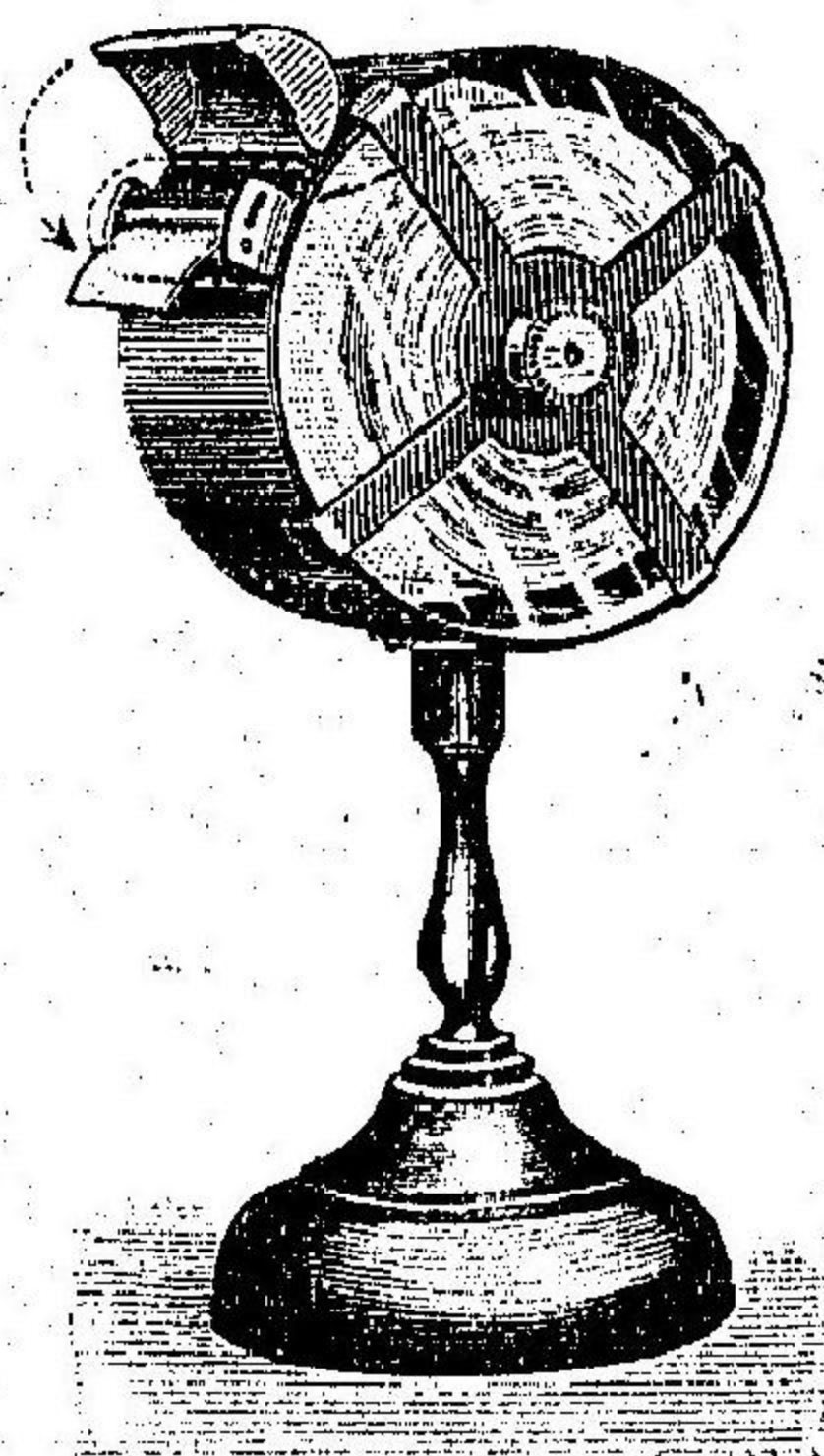
ン等ノ純又ハ護膜末等分ノモノ

第 六 章 塗 布 法 Pinselungen.

藥液ヲ塗布スルニハ鼻腔、鼻咽腔、喉頭等ノ各所ニ適應セル大小形狀ヲ有スル捲綿子ニ消毒綿花ヲ纏絡シ之レニ藥液ヲ浸漬シタルモノヲ以テ直接患部ニ用フ  
ルモノナリ

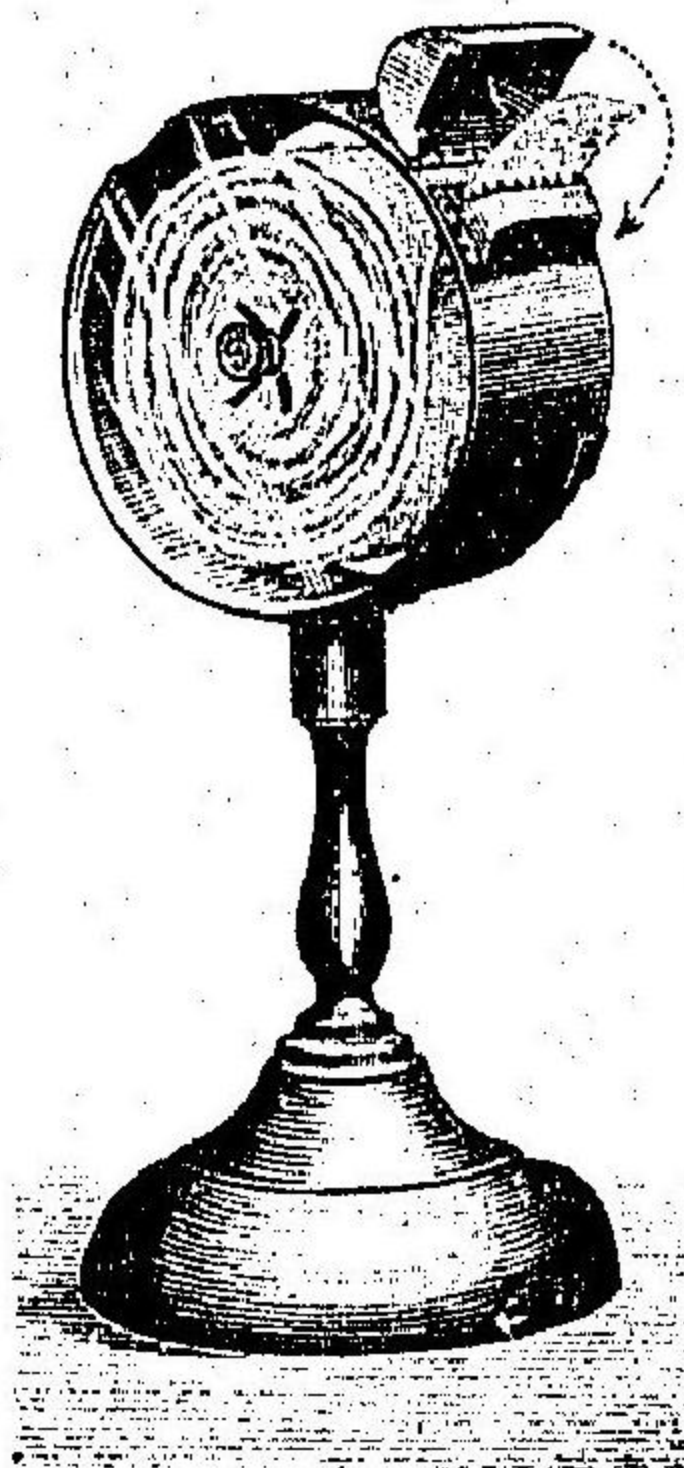
圖一十六第

器容紗綿菌殺



圖二十六第

器容花綿菌殺



收、斂、藥 硝酸銀液(二—一〇%)、單寧グリセリン(五—二〇%)、硫酸亞鉛液(二—三%)  
過クロール鐵液(一—五%)、明礬液(一〇%)、プロクタールゴール液(五—一〇%)  
制、腐、藥 石炭酸液(二—五%)、硼酸水(二—三%)、昇汞水(〇、二—〇、二%)



解凝藥 食鹽水(〇.六—一%)、マンドル氏液(沃度〇.二—〇.四、沃加〇.五—一.〇、リスリン二〇.〇—四〇.〇、メント油又ハ石炭酸付加)  
 局處麻醉及鎮痙藥 古加乙涅(二%—一〇%)手術ニハ一〇%—二〇.〇%ヲ用フ  
 又安知必林ト配合スルヲ可トス(即チ安知必林二.〇古加乙涅一.〇溜水一〇.〇、ア  
 コイン(〇.五—一〇.〇%)、薄荷腦油(一〇.〇—五〇.〇%)、オイカイン液(一〇.二〇.〇%)  
 臭剝液五—一〇%、阿片丁幾五—一〇.〇%、鹽莫水(〇.二—〇.五水一〇.〇)  
 當今血管收縮藥トシテ尤モ稱用セラル、ハ「アドレナリン」ニシテ局部ヲ無血ナ  
 ラシメ手術ヲ行フニ必要ナリ但シ局處麻醉作用古加乙涅ニ及バザルヲ以テ二  
 種ヲ配合セバ一層便利ナリトス

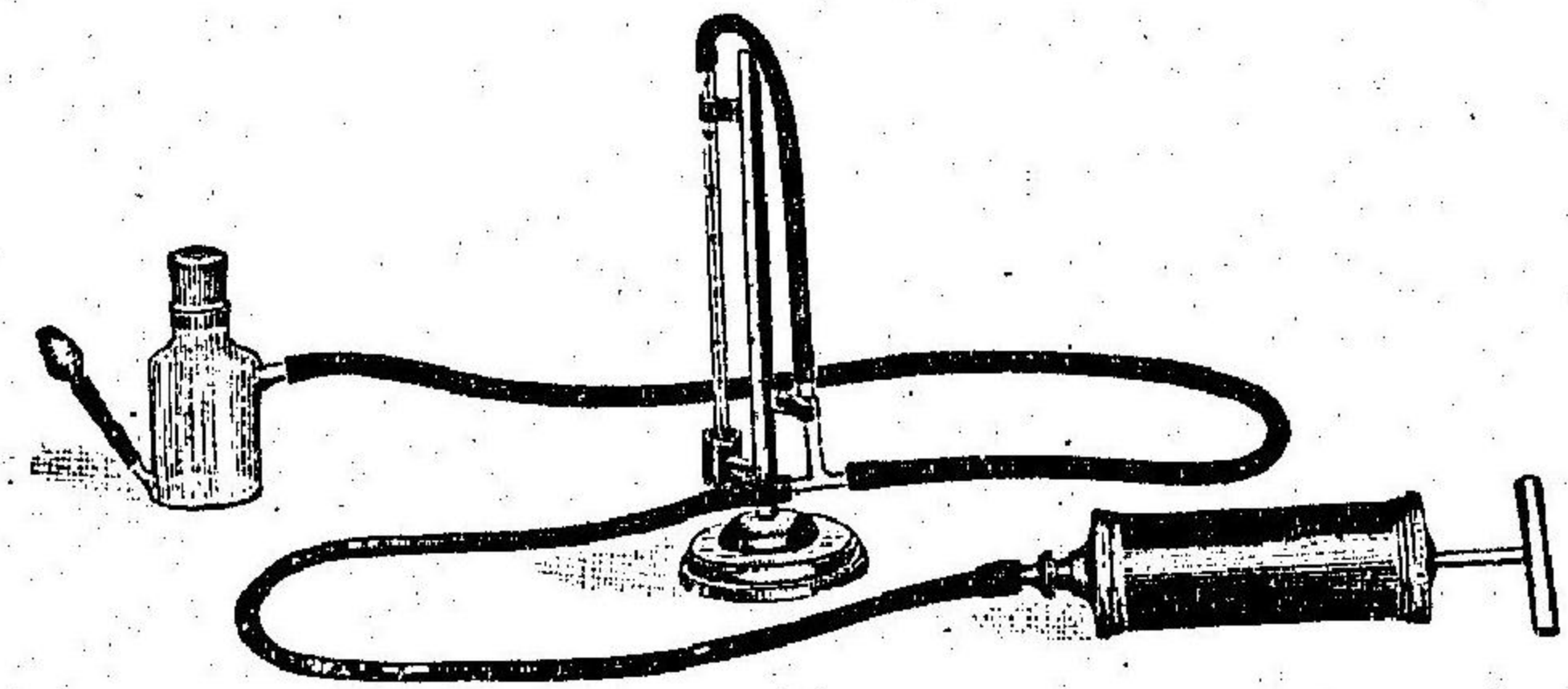
第七章 腐蝕藥 Chemische Aetznittel.

腐蝕藥ハ鼻腔及ビ咽頭ニ應用スルコト多シ  
 「ライビス」使用ニ當リ其ノ一片ヲ熱ヲ與ヘテ溶解セシメ銀製探子ノ尖端ヲ其  
 中ニ刺入シ直チニ引出シテ冷却セシメ探子ノ尖端ニ適宜ノ大サヲ有スル「ライ

ビス球ヲ形成セシムベシ  
 硝酸銀 二—二〇%溶液ヲ造リ綿花ニ浸漬シテ用フ  
 三、クロール醋酸 融解シ易キモノナルガ故ニ捲綿子ニ綿花ヲ纏絡シテ之レニ  
 其小結晶ノ一ツヲ附着セシメ綿花ニ浸漬シタルモノヲ以テ腐蝕ス「ライビス」ヨ  
 リハ腐蝕力強シ  
 「クローム酸」前二者ヨリ一層腐蝕作用強烈ナリ本品ハ溶液及ビ固形體トシテ  
 應用スルモノニシテ溶液ハ十%乃至五〇%トシテ用ヒ結晶ノモノハ其一小片  
 ヲ探子ノ尖端ニ附着セシメタル後チ之ヲ「アルコール」燈火上ニ持來スベシ「クロ  
 ーム酸」溶液ノ再ビ冷却スルトキハ「ライビス」ト同ジク探子ノ尖端ハ「クローム酸」  
 ヲ以テ披蓋セラル、モノナリ  
 乳酸 純若シクハ五.〇%乃至二〇.〇%ノモノヲ用フ主トシテ咽喉ノ結核ニ應  
 用ス  
 以上ノ藥物ヲ以テ腐蝕スルニハ豫メ五—一〇%古加乙涅液ヲ塗布シ置クベシ  
 又腐蝕後亞爾加里液ヲ塗布シテ中和セシムルヲ可トス但シ三、クロール醋酸ハ



圖 四 十 六 第  
置 裝 引 吸



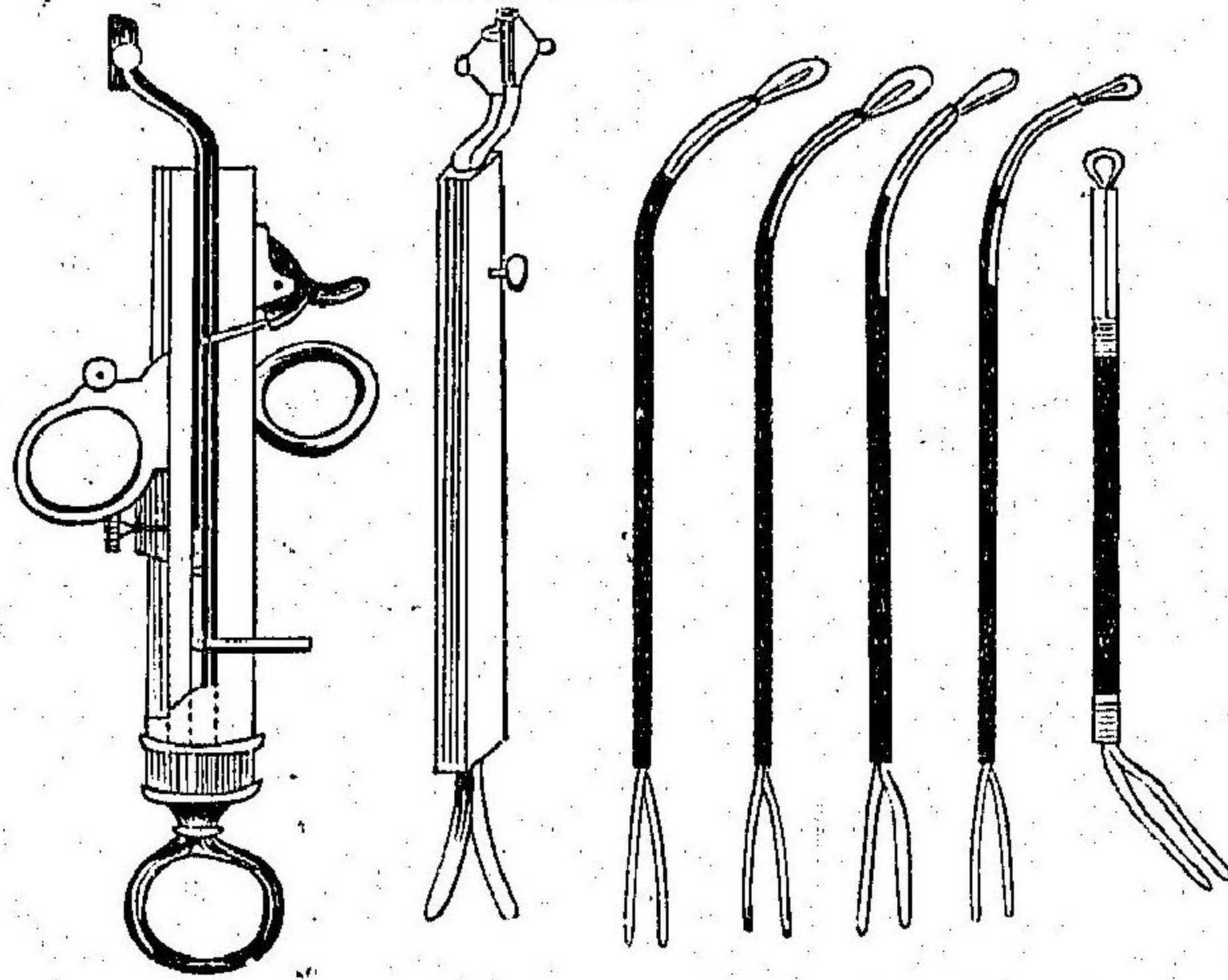
造 製 店 械 器 本 松

第九章 吸引療法 Saugtherapie.

吸引療法ハ主トシテ鼻腔及副鼻腔ノ疾病ニ應用セラル、モノニシテ裝置ハ簡單ナル「ポンプ」ト鼻口ニ適合スベキ嘴端ヨリ成ル、尙ホ陰壓ヲ測定スベキ「マノメーター」ヲ連結スルトキハ安全ナリ、副鼻腔滯膿症ニ用ルトキハ細微ノ腔窩内ニ存在スル膿汁ヲ吸出スルコトヲ得ルモノニシテ一日一回若クハ二三日毎ニ一回ツ、數日間持續使用スルトキハ著効ヲ奏スルコトアリ但シ上顎竇滯膿症ニハ効ヲ見ルコト少ナシ又慢性肥厚性鼻炎ニ用ヒ、閉塞、頭重及ビ頭痛ノ輕快若クハ消失スルコト稀レナラズ

又吸引裝置ヲ應用シテ膿汁分泌部ヲ確認スルニヨリ滯膿ノ部位ヲ診斷スルヲ得ベシ

圖 三 十 六 第  
器 灼 燒 氣 電 氏 ヒ エ シ



第八章 電氣燒灼法 Galvanokautik.

中和セシムルニ及バザルモノトス

電氣燒灼法ハ藥物腐蝕ヨリ強烈ナル作用ヲ粘膜ニ及ボスモノニシテ使用スル部分及ビ其方法ニ從ヒ種々ノ形狀ヲ呈セル白金ヨリ成ル燒灼子ヲ以テ行フモノナリ電原ハ燒灼用藥液内沈入電池ハ最モ簡便ナリ其他蓄電裝置又ハ發電所ヨリ送ル所ノ電流ヲ一定ノ調節器ニ聯絡シテ用フルモノナリ又白金線蹄係ニ電流ヲ通ジテ用フルコトアリ之ヲ熱蹄係ト云フ出血性腫瘍等ヲ灼斷スルニ缺ク可カラザルモノトス



## 鼻咽喉氣管病學各論

## 第一編 鼻腔ノ疾病

## 第一章 鼻粘膜炎症 Entzündungen der Nasenschleimhaut.

## 急性加答兒性鼻炎又鼻感冒 Rhinitis catarrhalis

*acuta s. Coryza acuta s. Schnupfen.*

**原因** 最モ多キ原因ハ外氣温度ノ劇變冷濕強劇ナル光線等ニシテ頭部頸部項部足脚ノ冷却等モ亦之ガ原因トナル又塵埃多キ空氣格魯兒安母尼亞瓦斯等ノ吸入寒熱蒸氣化學的器械的刺戟等ニ由ル又急性傳染病ニ續發スルコト頗ル多シ殊ニ「インフルエンザ」ニ於テ多シトス其他麻疹、猩紅熱等ノ經過中ニ來リ近隣諸臟器ノ疾病ニ續發シ且ツ沃度安知必林ノ應用等ニヨリテ發スルコト少ナカラズ

フレンケル氏ニ據レバ本症ハ散在性流行性ニ來ルコトアリ時トシテハ一家數人ノ同病患者ヲ出スコト稀ナラズト云フ

近來細菌ノ關係ニ着目スルモノ多ク一種ノ小有機體ヲ發見セリト云ヒ或ハ肺炎菌ト同一ノモノヲ見タリト云フモ未ダ一定ノ確證アルニアラズ

**病理** 充血圓形細胞浸潤次デ浮腫狀浸潤上皮細胞剝離及ビ變性赤血球滲漏粘液腺分泌亢盛等ヲ來ス

**症候及經過** 鼻感冒症狀ハ個人ノ特性ニ從ツテ一様ナラズト雖モ最初數回ノ強劇ナル噴嚏ヲ以テ起ルモノ多シ而シテ數時間又ハ數日前ヨリ全身違和倦怠頭重、鼻咽喉腔内癢痒及ビ惡寒等アリ次デ鼻腔内灼熱乾燥癢痒ヲ感ズ又噴嚏續發、鼻閉塞、分泌增多ヲ來ス分泌物ハ初メ水様稀薄ニシテ漸次粘液膿性トナリ遂ニ膿性ニ變ジ一―二週ノ後チニ至リテ消退ス鼻閉塞ハ輕度ナルアリ強度ナルアリ多クハ横臥ニ際シ其下側ハ著シク閉塞スルモノニシテ鼻呼吸爲メニ障害セラレ嗅覺鈍麻又ハ脱失ス熱ハ通常輕度ニシテ合併症ナキトキハ無熱ノコトアリ初生兒急性鼻感冒ハ其ノ症狀甚ダ劇烈ニシテ時トシテハ不穩ノ狀ヲ呈



ス何トナレバ初生兒ハ鼻呼吸ノミヲ營ムヲ以テ鼻閉塞顯著トナルトキハ呼吸困難ヲ來シ安眠ヲ妨ゲラレ又哺乳不充分ナルガ爲メ衰弱ニ陥リ危險ヲ來スコトアリ

**合併症** 眼病及ビ耳病最モ多シ其他副鼻腔、鼻咽腔、喉頭、氣管、枝炎等ヲ起ス

**診斷** 神經性鼻炎ニ於ケル粘膜ノ充血状態ニ酷似スルモノナレドモ神經性

鼻炎ハ直接ノ原因及ビ前驅症ヲ認メズシテ急劇ニ發シ多量ノ漿液性鼻汁流出シ又數分時ノ後チ俄カニ停止スルコトアリ且ツ分泌物膿性ニ變ゼザルト「コカイン」塗布ヲ行フニ貧血ノ一層顯著ナル等ヲ以テ鑑別スルヲ得ベシ

**豫後** 一般ニ佳良ナリ合併症及ビ續發症ヲ起ストキハ時トシテ不良ノコトアリ殊ニ哺乳兒ニ在リテハ多大ノ注意ヲ要ス

**療法** 豫防法トシテハ外氣ノ急劇變換ヲ避ケ塵埃中ニ作業スルモノ又ハ化學的職業ニ従事スルモノハ一時之レヲ中止スル等ナリ

頓挫法トシテ最モ効力アルハ發汗法ナリ種々ノ熱飲料ヲ服用セシメ其他安知必林「アスピリン」、「フェナセチン」、「撒曹」、「ザリピリン」等ノ解熱藥ヲ投ズ

局處療法ハ揮發性、流動性又ハ粉性藥劑ノ嗅引、吹入、塗布及ビ噴霧等ナリ

**處方**

- |                                |                      |  |                     |
|--------------------------------|----------------------|--|---------------------|
| 1 石炭酸<br>苛性安母尼亞液<br>酒精         | 各五、〇<br>二〇、〇<br>一五、〇 | 薄荷腦<br>乳糖  | 〇、一<br>一〇、〇         |
| 右五—十滴ヲ手巾又ハ海綿ニ浸シ每二時數分時<br>嗅引セシム |                      | 右研和一日三—四回鼻内吹入  | 〇、四                 |
| 2 石炭酸<br>鹽酸古加乙涅<br>精製食鹽        | 一、〇<br>二、〇<br>〇、六    | 4 古加乙涅<br>「アブラビア」護膜<br>鹽酸「メルヒネ」                      | 〇、一<br>一〇、〇<br>〇、〇三 |
| 蒸餾水<br>右鼻内噴霧料                  | 一〇〇、〇                | 5 「ビスミット」<br>「アラビア」護膜<br>鹽酸「メルヒネ」<br>右鼻内吹入料(テルリール氏散) | 七五、〇<br>二、〇<br>〇、〇三 |
| 3 古加乙涅                         | 〇、一                  |  |                     |

其他的列並油、カンフル油等ノ吸入法ヲ行フ  
膿性分泌持續スルモノニハ硝酸銀末一、〇陶土二〇、〇ヲ吹入シ或ハ洗鼻ヲ施ス

急性化膿性鼻炎(膿漏性鼻炎) Rhinitis purulenta



*acuta s. Rhinitis blennorrhoeica.*

**原因** 急性傳染病就中丹毒猩紅熱痘疹等ヨリ起リ或ハ淋毒ノ傳染ニ由テ來ルモノニシテ小兒ニ多シ

**症候** 高度ノ粘膜炎腫脹潮紅ヲ來シ分泌物ハ初期ヨリ純膿性ニシテ臭氣ヲ帶ビ時トシテ血液ヲ混ズルコトアリ又全身症狀著明ナリ

**療法** 二%硼酸水又ハ食鹽水ヲ以テ鼻腔ヲ洗滌シテ清淨ナラシメ後チ硼酸沃度兒硝酸銀末等ノ吹入ヲ行フ

**慢性肥厚性鼻炎 又 增殖性鼻炎** *Rhinitis chronica hypertrophicans s. hyperplastica.*

**原因** 急性鼻炎ノ處置ヲ誤リ或ハ頻々再發シテ遂ニ本症ヲ發スルモノ多シ而シテ腺病質貧血痛風等アルモノニ來リ易ク且ツ本症ハ壯年者ニ多ク男子ハ女子ヨリ罹ルコト多シ直接原因トシテハ濕潤ノ氣候氣温ノ變換劇シク且ツ頻

繁ナルコト坐業過温ノ室換氣不良ノ住居厚薄不適當ナル被服煙草酒類ノ過用消化不良循環器障害等ナリ又近隣諸臟器ノ疾病ハ本症ヲ誘發シ易キモノニシテ殊ニ鼻咽腔腺肥大症慢性咽頭炎扁桃腺炎等ヲ患フルモノニ來リ易シ

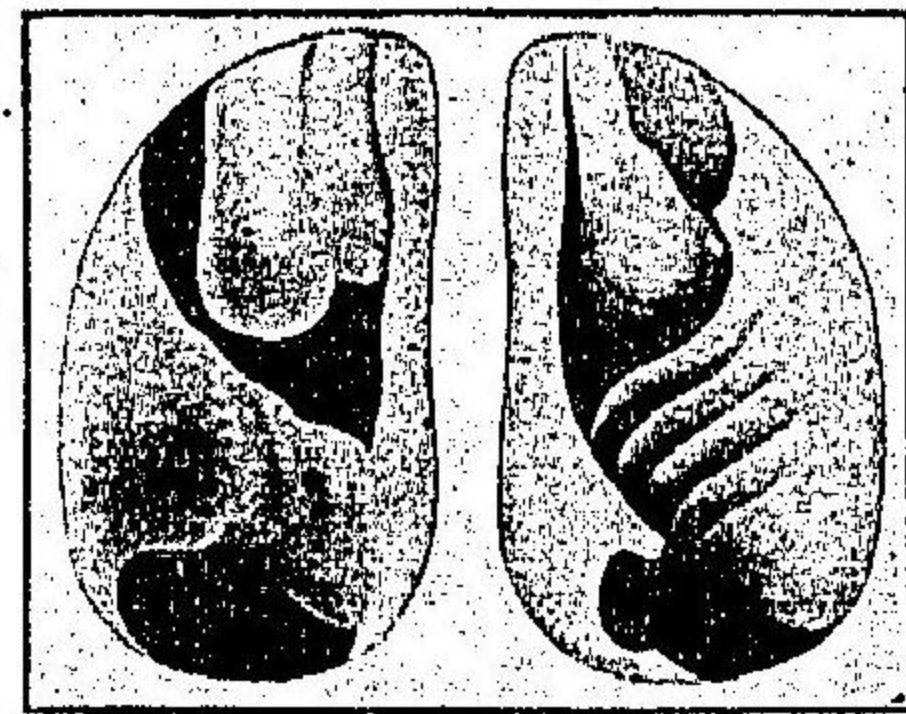
**病理** 鼻粘膜ノ上皮細胞肥厚増殖シ時トシテハ其ノ表面剝離スルコトアリ主要ナル變化ハ固有層ニシテ即チ上皮層下ニ於テ通常腺組織ノ著シク増加スルヲ見ルベシ又腺腔及ビ其排泄管并ニ深部ニ位セル血管著シク擴張シ殊ニ海綿體ニ於テ顯著ニシテ其ノ壁肥厚ス且ツ隨所新生結締織ノ索狀ヲ呈セルモノヲ見ル

**症候** **A 自覺症候**

- 1 **鼻閉塞** 多クハ間歇性ニシテ晝間ヨリモ夜間ニ著シキモノ多シ又兩側同時ニ來ル者アレドモ少ナク通常左右交代性ナリ脈管運動神經性腫脹性鼻炎ニアリテハ突然閉塞ヲ來シ噴嚏ニ伴ヒ容易ニ消退スル者ナリ
- 2 **鼻聲** 鼻腔狹窄又ハ閉塞ニ伴フモノニシテ所謂閉塞性鼻聲ナリ
- 3 **嗅覺異常** 一時性ナルアリ持續性ナルアリ多クハ吸氣ノ進入障害ニ因



第 六 十 五 圖  
肥 厚 性 鼻 炎



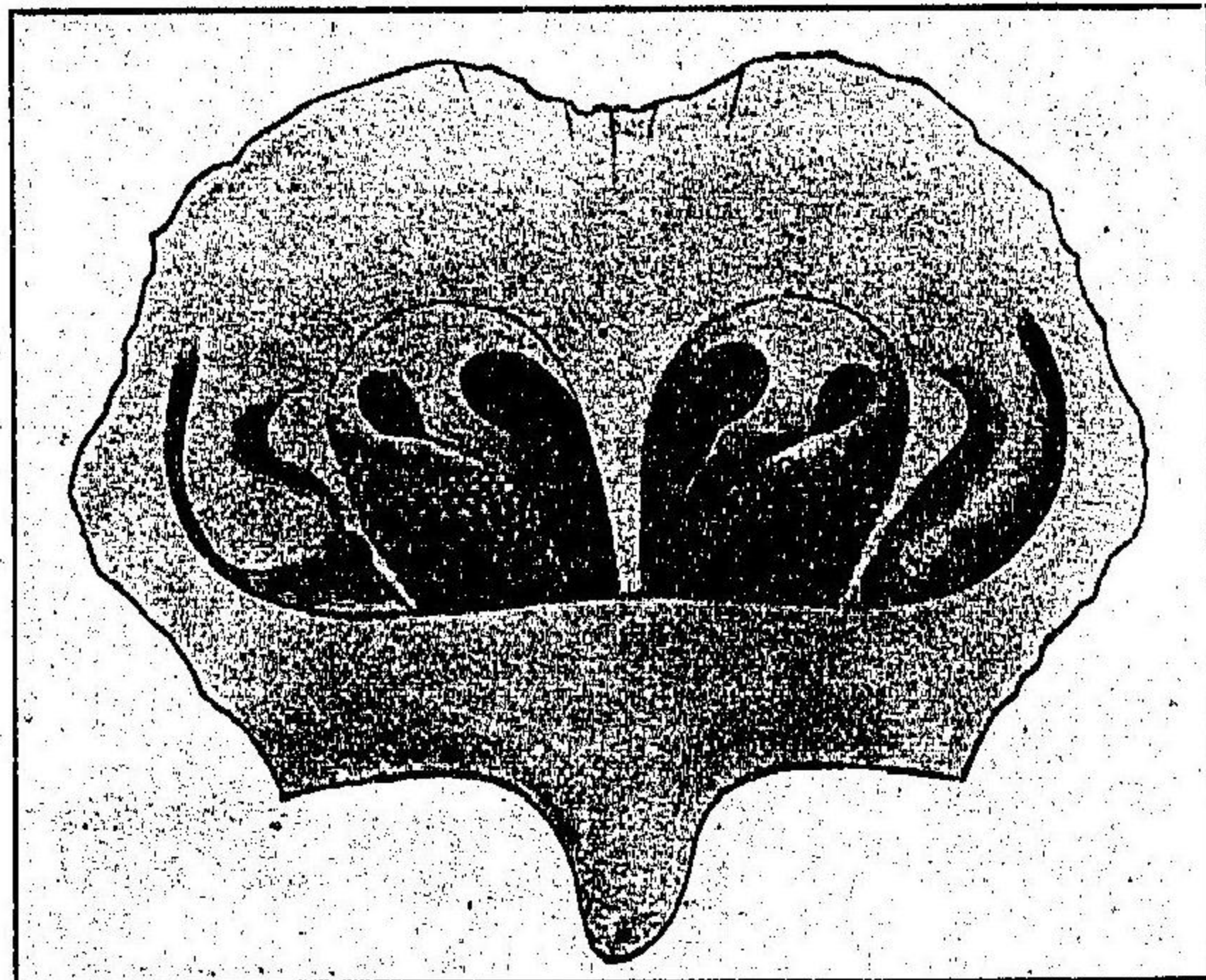
- 4 ル嗅覺鈍麻若シクハ全脫失ニシテ嗅覺過敏變常等ハ稀ナリ
- 4 分泌變常 通常分泌亢盛スルモノニシテ稀レニハ減少シ乾燥ヲ訴フルモノアリ
- 5 衄血 屢々見ル處ナリ
- 6 神經症狀 頭重頭痛眩暈倦怠記憶乏弱不眠咽喉絞扼感肩胛部拘攣喘息等ヲ起ス

**B 他覺症候**

1 粘膜炎發赤腫脹 ハ其ノ主要ナルモノニシテ脈管運動神經性鼻炎及ヒ單純慢性加答兒性鼻炎ニアリテハ赤色稍ヤ著シト雖モ肥厚性鼻炎ニアリテハ發赤高度ナラズ時トシテハ却テ灰白色淡紅色ナルアリ腫脹部位ハ下甲介ニ最モ多ク中甲介及ヒ鼻中隔之レニ次グ甲介粘膜炎ノ肥厚ハ各部一樣ナルアリ又前後兩端ニ著シキアリ且ツ表面平滑ナルモノ多シト雖モ時トシテ膨隆部

第 六 十 六 圖

後檢査ヨリ見タル下甲介後端乳狀肥厚ヲ示ス



- 1 凹凸不平ニシテ恰モ覆盆子狀ヲ呈スルモノアリ又分葉狀ヲ呈スルモノアリ此ノ如キハ特ニ下甲介後端ニ於テ屢々見ル處ナリ
- 2 甲介肥大 骨胞腫ヲ發生シ又中隔彎曲棘狀突起等ヲ生ズ
- 3 分泌物 稀薄水様液ナルアリト雖モ多クハ粘液性或ハ粘液膿性ニシテ黄色又ハ綠色ヲ帶ブルモノナリ膿性ナルハ多ク副鼻腔ノ滲膿症ヲ併有スルモノナリ

**合併症**

慢性咽喉加答兒喉頭加答兒副鼻腔疾患中耳炎外鼻齶血等ナリ

**診斷**

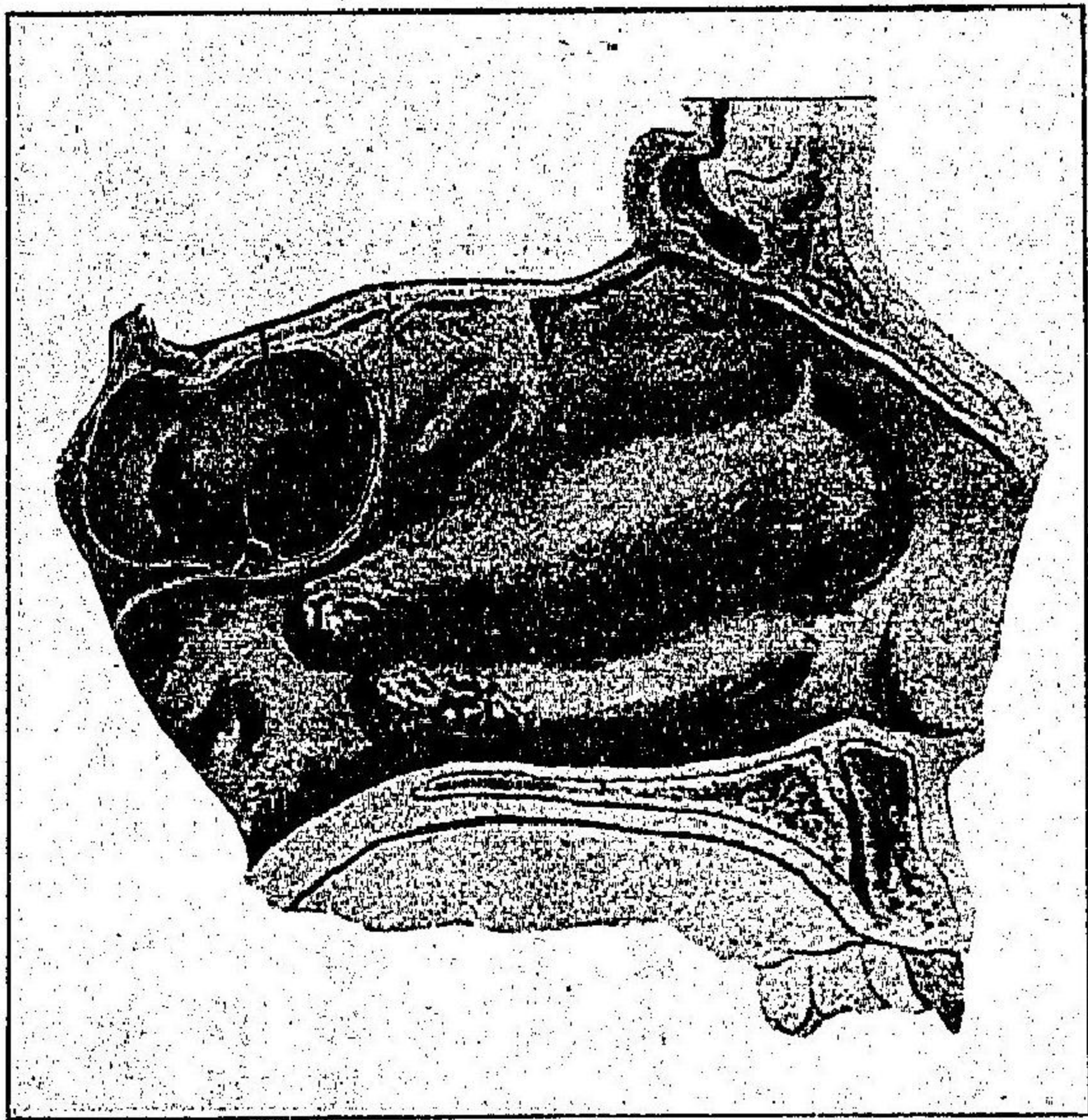
前後檢鼻法ニヨリテ粘膜炎腫脹色澤ヲ視探子ヲ用ヒテ觸診ヲ行ヒ又古加乙涅アドレナリン塗布等ヲ施シテ檢スルトキハ大抵誤ルコトナシ



第 六 十 七 圖

(矢 狀 斷 面)

上 中 下 三 個 ノ 介 甲  
中 介 甲 前 端 平 隆 隆 狀  
中 介 甲 下 部 後 端 乳 頭 狀



**豫後** 一般ニ佳良ナリ  
ト雖モ種々ノ續發性反射  
神經症ハ頗ル頑固ナルモ  
ノアリ

**療法** 原因ヲ去ルベシ  
又體質不良ノモノニハ全  
身療法ヲ行ヒ職業ニヨリ  
テハ之レヲ轉ズルノ止ム  
ヲ得ザルモノアリ  
局處療法ハ腫脹肥厚ノ程  
度狀態ニヨリテ異ナリ

**A** 單純ナル粘膜炎腫脹ニシテ古加乙淫アドレナリン等ヲ塗布スルニヨリテ著  
シク收縮スルモノニアリテハ左ノ如キ種々ノ療法ヲ行フ  
**1 鼻内清淨法** 鼻内ニ分泌物ノ滯積ナカラムヲ要ス其目的ニハ弱亞爾加

里溶液ヲ以テ噴霧法又ハ洗鼻ヲ施スモノニシテ通常重曹水或ハ食鹽水ヲ  
用フ

**2 吹入藥** 洗鼻又ハ噴霧等ノ清淨法ヲ行フタル後チ左ノ如キ藥品ヲ用フ  
**處方**

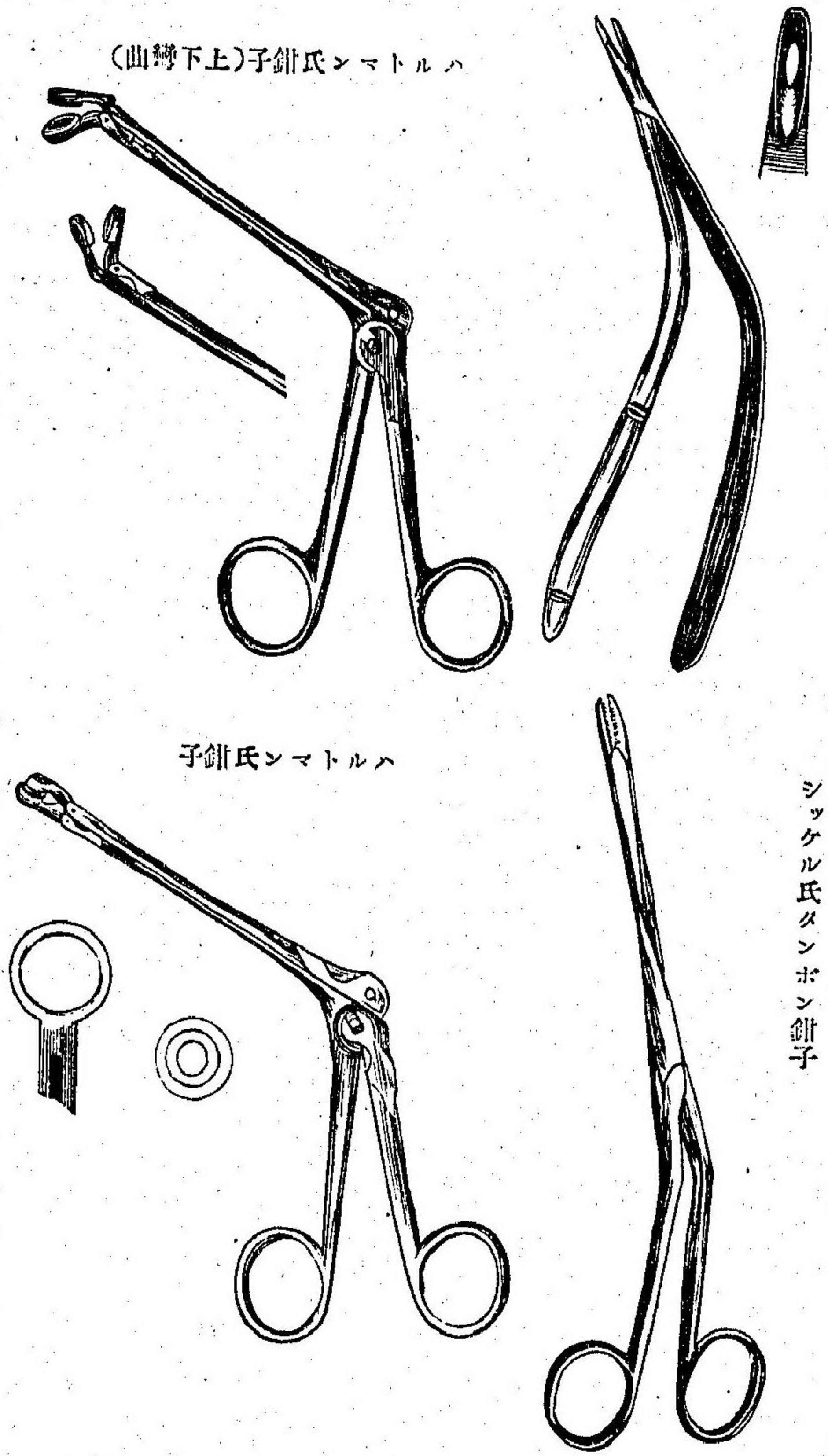
- |               |         |        |     |
|---------------|---------|--------|-----|
| 1 硝酸銀         | 0.05    | 3 沃度兒  | 0.6 |
| 陶土            | 1.0     | 硼酸末    | 0.4 |
| 右極細末トナシ鼻内ニ吹入ス |         | 右吹入料   |     |
| 2 薄荷腦         | 0.1-0.2 | 4 單寧酸  | 0.1 |
| 硼酸那篤儒膜        | 0.5     | 沃度兒    | 0.5 |
| 乳糖            | 0.5     | 硼酸     | 0.5 |
| 右研和吹入料        |         | 右研和吹入料 |     |

**3 塗布藥** 藥液又ハ軟膏ノ塗布ヲ行フモ可ナリ  
**處方**

- |          |       |              |            |
|----------|-------|--------------|------------|
| 1 硝若、亞鉛花 | 各 0.2 | 2 古加乙淫溶液     | 5-10%      |
| ワセリン     | 30.0  | 3 「プロタルゲール」液 | 2-5%       |
| 右爲軟膏塗布   |       | 4 チオノール液     | 2-5-10% 10 |



圖八十六第



2

寒蹄係絞斷法

端ニ限局セルホリープ様肥厚部ヲ絞斷スルモノナリ

クラウゼ氏蹄係ハルトマン氏蹄係等ヲ以テ甲介前後兩

クリーク氏骨鉗子

シッケル氏タンボン鉗子

4 腐蝕法 稍頑固ナルモノニ向ツテハ硝酸銀三クロール醋酸格魯護酸等

ノ實質腐蝕法ヲ行フコトアレドモ完全ノ治癒ヲ求メ難シ

5 醫血法 モ亦輕度ノモノニ用ヒテ効アリ殊ニ頭痛頭重等ニ著効ヲ奏ス  
ルコトアリ

B

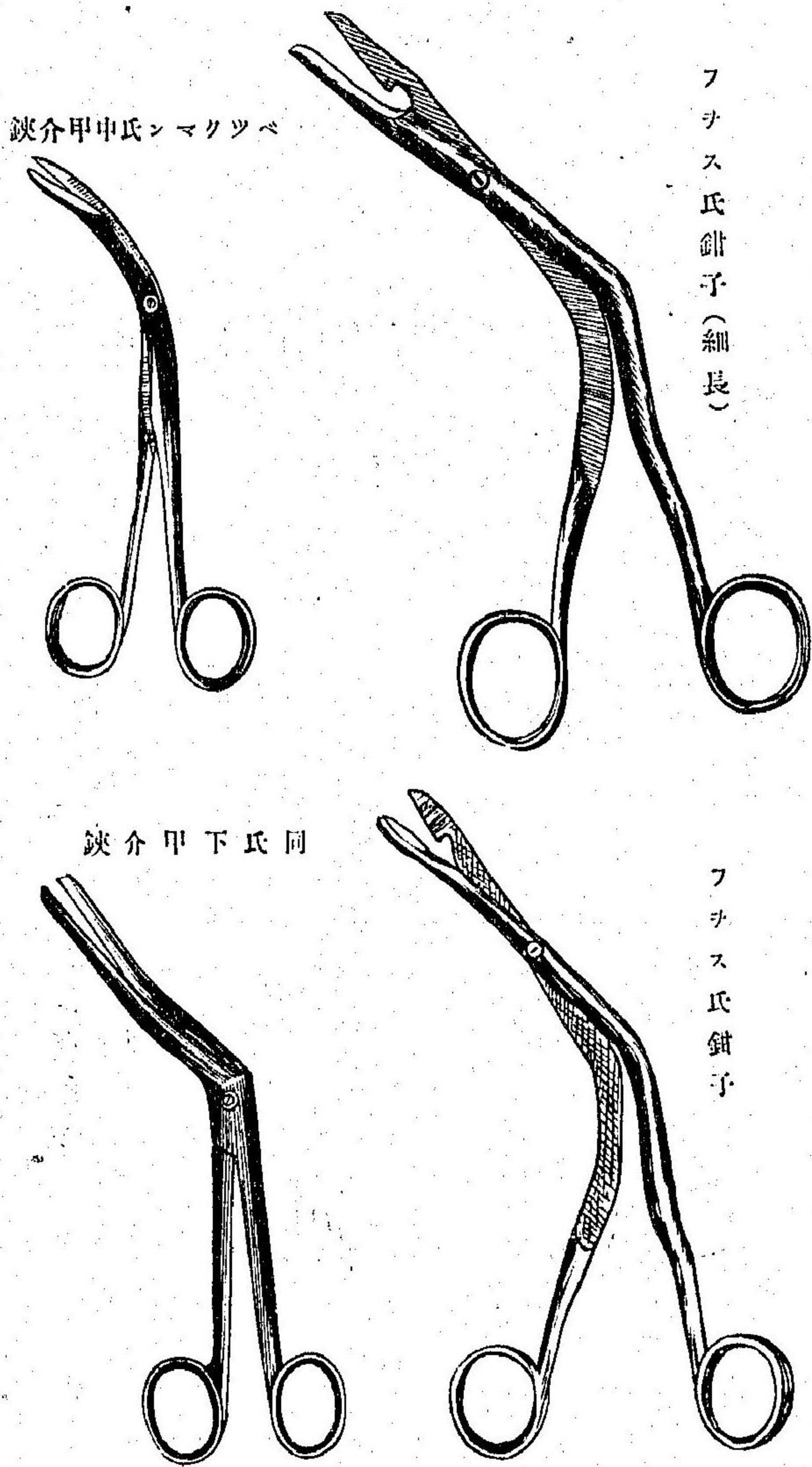
本症ハ通常粘膜炎増殖肥厚甲介肥大骨胞腫形成等ヲ來スモノナルガ故ニ以  
上ノ如キ治療法ニヨリテ奏効セザルモノ多シ然ルトキハ手術的療法ヲ行フ  
ベシ今手術的療法ヲ大別シテ電氣燒灼法絞斷法及ビ切除法鉗除法トス

1 電氣燒灼法 最モ完全ナル方法トシテ近來ニ至ル迄應用セラレタルモ  
ノニシテ一〇—二〇%古加乙涅ノ局處麻醉ヲ施シタル後チ白金燒灼子ヲ  
以テ粘膜炎ヲ燒灼シ或ハ熱灼セル尖銳白金線端ヲ粘膜炎ニ刺入シ内部ヨリ  
癭痕收縮ヲ營マシムルモノナリ又電氣ヲ通ズルヲ得ベキ白金蹄係ヲ以テ  
肥厚膨大部ヲ灼斷スルモノトス然レドモ此等ノ方法ハ腫脹セル粘膜炎ヲ除  
クノ目的ニ副フト雖モ甲介肥大骨胞腫形成等ノ伴フモノニ向ツテハ存外  
効驗少ク徒ラニ患者ヲシテ數回ノ手術ニ苦シマシムルニ終ルヲ遺憾トス



3 鉗除法及剪除法 燒灼法ニ於ケルガ如ク充分局處麻醉ヲ施シタル後チ  
 クリーグ氏グリューンワルド氏ハルトマン氏等ノ鉗子其他種々ノ改造セ

圖 九 十 六 第



ラレタル鉗子ヲ以テ甲介ノ一部分ヲ粘膜ト共ニ鉗除シ或ハハイマン氏鉗  
 又ハベクマン氏鉗ヲ以テ剪除ス若シ後端ニ於ケル茸腫狀肥厚部ヲ殘留シ  
 タルトキハ前項ニ述ベタル蹄係ヲ以テ絞斷スルヲ可トス

後療法

燒灼後ハ局部ニ「ヨドール」<sup>ヨドール</sup>「デルマトール」<sup>デルマトール</sup>硼酸等ヲ撒布シ或ハ單ニ殺  
 菌棉花ヲ輕ク鼻孔ニ栓塞ス

切除後ハ殺菌ガーゼ片ヲ以テ密ニ栓塞シ翌日ヨリ三日目ニ第一回交換ヲ行ヒ  
 爾來毎日一回交換シ一週間位ニシテ止血シ開放スルヲ得ベシ又切除後開放シ  
 テ栓塞セザルコトアリ或ハ斷面ヲ燒灼シテ栓塞ニ代フルモノアリ栓塞法ハ稍  
 ヤ完全ニ止血シ得ベシト雖モ交換時疼痛アリ開放療法ハ出血シ易ク入院患者  
 ニ非ザレバ施行シ難シ宜シク場合ニ應ジテ撰擇應用スベシ

單純削瘦性鼻炎 Rhinitis atrophicans simplex.

此症ノ本性ニ就テハ或ハ「オツエナ」ノ前階級ナリトシ或ハ惡臭ノ治癒シタルモ  
 ノトシ或ハ肥厚性鼻炎ノ續發症ナリトシ未ダ確固タル定説ナシ只茲ニ注目ス



ベキハザイフルト氏ノ所見ニシテ單純削瘦性鼻炎ニ於テハ上皮變性ヲ來サズ假令之アルモオツエナニ於ケルガ如ク廣大ナラズ且ツ其ノ領域狹少ナリト

**症候** 鼻腔ハ異常ニ擴大シ分泌物ハ過多ナラズ屢々變性シ白色帶黃色或ハ帶綠黃色ニシテ鼻底若シクハ咽頭天蓋ニ附着ス粘膜ハ著シク蒼白色ニシテ菲薄トナリ消息子ヲ觸ルレバ容易ニ出血ス而シテ患者ハ嗅覺障害、鼻内乾燥、頭痛等ヲ自覺ス

**診斷**

分泌物痲塊ヲ結バザルト惡臭ナキヲ以テ「オツエナ」ト鑑別スベシ

**療法** 洗鼻、按摩、沃度グリセリン塗布等ヲ行フ

有臭削瘦性鼻炎 又眞正臭鼻 Rhinitis.

*atrophicans fétida s. Ozæna genuina.*

「オツエナ」トハ希臘語ノ「私ガ惡ク嗅グ」ナル意義ニシテ本症ハ其名ノ如ク惡臭鼻ヲ衝クガ如キ特殊ノ鼻疾患ナリ從來其症候ノ一部分ナル惡臭オツエナト云ヒル語ヲ以テ本症ノ名稱トナシ來リシガ病理解剖學ノ進歩ニ伴ヒ近時ニ至リテ

ハ有臭削瘦性鼻炎ト名ヅクルニ至レリ

**原因及本性**

ニ就テハ今日ニ至ルモ未ダ確固ト歸着シタル定説ナシ

1 病竈説

往時本症ハ種々ノ潰瘍性或ハ壞疽性鼻病、副鼻腔滲膿症其外或ル一定ノ病竈アリテ發スルモノナリト説ケルモノアリシガ近來ハ化學的試験、細菌學的研究等ノ進歩ニ伴ヒ

2 細菌説

ヲ唱道スルニ至レリレージュエンベルヒ氏ノ「コッコパチルスオツエナ」*Kocchoillus ozænae* アーベル氏ノ「オツエナ菌」*Bacillus ozænae*, Abel. 説等アリ又

3 脂肪酸游離説

ヲ唱フルクラウゼ氏等アリ、先天梅毒説(ゲルベル氏遺傳説)又ハ單純鼻加答兒、肥厚性鼻炎ニ基因スルヲ説ク續發説アリテ諸説紛々タレドモ最モ信ヲ置カル、ハ一種ノ小有機體之レガ原因トナルベシ但シ其小有機體ノ本體ニ至リテハ未ダ確定スルニ至ラズ

**病理**

粘膜ハ初メ高度ノ圓形細胞浸潤アリ末期ニハ纖維様結締織ノ新生増殖スルニ伴ヒ腺及ビ血管ト共ニ消失ス上皮ハ多クハ立方形成ハ數層ノ磚狀上



皮ニ變化シ最上層ハ角化ス骨質モ亦萎縮シ骨緣ニ於テハ破骨細胞ト共ニ多數ノハウシッフ氏窩ヲ有シ造骨細胞ハ闕如シ若シクハ僅少トナリ腺細胞ハ脂肪變性ヲナス分泌物中ニハ無數ノ細菌ヲ含有スレドモ偶然侵入シテ發育セルモノ多シ只アーベル氏レーウエンベルヒ氏菌ハ注意スベシト雖ドモ是亦果シテ真正ノ原因菌ナリヤ否ヤハ未ダ確實ナラズ

症候

鼻腔異常大分泌物ノ結痂及一種名狀シ難キ鼻ヲ衝クガ如キ惡臭ハ木症ノ主徵候ニシテ鼻鏡ヲ挿入シ鼻腔内ヲ檢スルトキハ鼻壁ハ粘稠膏膩様綠黃色或ハ汚穢灰白色、黑色、褐色等ノ痂皮又ハ殼皮或ハ團塊ヲ以テ被ハレ下組織ト密着シ或ハ相互間ニ粘液性稀薄又ハ濃厚ノ黃綠色膿層ヲ有シ脈フベキ惡臭アリ輕度ノモノハ患者ニ接近シテ始メテ之レヲ知ルニ過ギザレドモ高度ノモノニアリテハ遠隔ノ場處ニ於テ之レヲ嗅グヲ得ベク永ク同室内ニ對談スルトキハ嘔氣ヲ催起スルニ至ルモノアリ

痂皮ヲ去リテ鼻腔内部ヲ窺フトキハ甲介殊ニ下甲介ハ著シク削瘦シ粘膜ト骨質ノ接着強固ニシテ移動シ難ク鼻腔ハ異常ニ廣濶ニシテ前鼻検査法ニヨリテ

鼻咽腔ノ後壁或ハ側壁ヲ窺ヒ見ルヲ得ベシ

外鼻ハ往々扁平ニシテ廣濶、鼻孔稍ヤ仰上スルモノアリ

自覺症候ハ結痂ニヨル鼻閉塞、痂皮ヲ除去スレバ閉塞去ル、嗅覺脫失、頭痛、頭部壓重、眩暈、咽頭乾燥感或ハ消化不良等ナリ

合併症 乾性咽頭及ビ喉頭炎、副鼻腔化膿症、中耳炎等ナリ

診斷 前述ノ主徵候ニ注意スレバ通常容易ナリ又アーベル氏菌ノ検査モ多少ノ價値アリ、其他鑑別上必要ナルハゴットスタイン氏検査法ナリ、真正臭鼻ニシテ合併症ナキトキハ栓塞法ニ依テ短時其ノ惡臭ヲ脱失セシムルヲ得ベシト雖モ副鼻腔潰膿症、梅毒性、結核性等ノ骨壞疽アルトキハ惡臭依然タリ

豫後 稍不良ナリ、削瘦萎縮ハ治癒シ難シ、只結痂、惡臭及ビ其他ノ自覺症ハ輕減シ若シクハ驅除シ得ベシ

療法 鼻洗滌法及ビゴットスタイン氏栓塞ヲ或ハ併用シ或ハ一法ヲ應用ス、鼻洗滌ヲ行フニ用フル藥液ハ極メテ多シ最モ稱用セラル、ハ次ノ如シ

一%炭酸那篤留液水

一%重炭酸那篤留液水



一%食鹽水  
一%クロール加里水  
三%硼酸水

一%過錳酸加里水  
〇、一%サリチル酸水

ゴットスタイン氏栓塞法 ハ螺旋狀小杆ニ指頭大ノ綿花ヲ纏絡シタルモノヲ鼻腔内ニ挿入シテ小杆ヲ除キ十五分間乃至三十分間ヲ經テ綿ヲ拔去ス然ルトキハ痂皮ハ綿花ニ附着シテ大部分除去セラル、ナリ尙ホ殘存セル一部分ハ鑷子又ハ鉗子ヲ以テ除クベシ  
以上諸方法ニヨリテ痂皮ヲ去リ鼻腔内ヲ清淨トナシタル後チ種々ノ藥物ヲ撒布又ハ塗布ス

處方

- |   |             |       |             |      |
|---|-------------|-------|-------------|------|
| 1 | ソツオヨドール亞鉛   | 一、〇   | 右吹入料        | 一、〇  |
|   | 古加乙混        | 〇、二   | 沃度兒         | 一、〇  |
|   | 華攝林刺納林      | 各五、〇  | 硼酸          | 一、〇  |
|   | 右爲軟膏「タンボン」用 |       | ラノリン        | 各五、〇 |
| 2 | 甘汞          | 一、〇   | 右爲軟膏「タンボン」用 |      |
|   | 砂糖          | 一、二、〇 | ヘリウバルサム     | 各等分  |
|   |             |       | グリセリン       |      |

右鼻腔内「タンボン」用

近來ニ至リ四十五度乃至六十度ノ溶融點ヲ有スル固形「バラフィン」粘膜下注射及ビ實扶埜里血清注射、鼻内按摩法、又ハ燻血療法ノ効アルヲ報告スルモノアリ  
試用スベキ方法ナランカ  
以上局處療法ノ外鐵砒石沃度、規那等ヲ體質、病狀ニ應ジテ内服セシムルノ必要ナルハ言フ俟タズ

實扶埜里性鼻炎 Rhinitis diphtherica.

特發スルコト稀ニ多クハ咽頭及ビ喉頭實扶的里ヨリ續發スルモノナリ然レドモ大人ニ於テ鼻粘膜損傷、潰瘍等ノ存在スルトキハ特發スルコトナキニ非ズ又小兒ニ於テハ鼻感冒ノ狀態ヲ以テ數日ヲ經過シ後チ咽頭及喉頭ニ變化ヲ起スニ至ツテ始メテ癰キノ鼻症狀ハ實扶的里ノ特發シタルモノナリシヲ知ルコトアリ

症候

惡寒、發熱、倦怠、頭痛等ノ全身症狀ヲ起シ且ツ鼻閉塞、鼻膿漏及ビ出血アリ



リ鼻粘膜ハ浮腫、腫脹ヲ呈シ汚穢灰白色ノ偽膜ヲ以テ被ハル細菌検査上リヨフレル氏桿菌ヲ見ル

**豫後** 早期ニ診定シ適當ノ治療ヲ加フレバ大抵佳良ナレドモ初生兒又ハ小兒ニ特發シ初メ單純ノ感冒ト診定セラレ鼻咽腔、咽喉ニ蔓延スルニ及ンデ始メテ發見セラレタルモノハ豫後往々不良ナリ又咽頭實扶的里ニ始マリテ鼻腔ニ蔓延シタルモノモ甚ダ危険ナリ

**療法** 血清療法ノ外、實麥答利斯、カンフル、赤酒等ノ如キ興奮劑ヲ與ヘ局處ハ鼻腔内ヲ清拭シ種々ノ防腐殺菌的藥物ヲ粉末トシテ吹入シ或ハ軟膏トシテ塗布シ兼テ古加乙涅、アドレナリン等ノ噴霧及塗布ヲ行ヒ腫脹ノ消退ヲ圖ルベシ

**處方**

- 1 沃度兒 一〇・〇      コカイン 二〇・〇
- ソセリン 五〇・〇      蒸溜水 一〇〇・〇
- 右塗布料
- 2 石炭酸 一・〇      右噴霧又ハ塗布料

纖維性鼻炎 Rhinitis fibrinosa s. Rh. pseudomembranacea s. Rh. crouposa.

本症ハ鼻粘膜ニ厚キ白色若シクハ黄白色ノ偽膜ヲ發生スルモノニシテ一見實扶的里ニ似タリ

**原因** 鼻粘膜損傷、手術殊ニ電氣燒灼後、人工的纖維性鼻炎ニ來ルモノニシテ「ストレプトコックケン」スタヒロコックケン等ヲ檢出ス又原發性ニ肺炎球菌、假性實扶的里菌、種々ノ膿醜、コックケンニヨリテ發起スルモノナリ又初生兒纖維性鼻炎ト稱スルアリテ哺乳期ノ六―八週ノ間ニ來ル通常母ノ產褥時ニ於ケル傳染ニ歸スベキモノニシテ多クハ「ストレプトコックケン」ヲ發見ス然レドモ亦本症ハ實扶的里ニ外ナラズト説クバギンスキー、スタンム等ノ諸氏アリ

**症候** 初メ輕熱アリ、急性鼻感冒ノ狀態ヲ呈シ同時ニ咽頭炎ヲ伴フコト多シ哺乳兒又ハ幼少ノモノハ三九〇ノ熱ヲ發スルコトアリ且ツ鼻閉塞ノ爲メ呼吸不利、營養障害ヲ誘發シ危險ニ陥ルコトアリ鼻内ハ限局性又ハ瀰蔓性黄白色ノ



偽膜アリテ潮紅セル粘膜ニ附着シ之ヲ剝離スレバ出血シ且ツ容易ニ再生ス

**診断** リヨフレル氏菌ノ有無及ビ麻痺、偽膜ノ喉頭ニ蔓延スルコトノ有無並

ニ經過ノ遲速ニヨリテ實扶垣里ト判別スベシ

**豫後** 通常佳良、初生兒ハ往々危険アリ

**療法** 實扶的里性鼻炎ニ略々同ジ

乾酪性鼻炎 Rhinitis caseosa.

稀ニ來ル鼻粘膜ノ炎症ニシテ固有ノ形態ヲ有ス即チ上皮ノ剝離變性ニヨリテ乾酪樣ノ劇シキ惡臭ヲ有スル分泌物ヲ排泄ス屢々副鼻腔ノ化膿「ホリー」骨、骨痲、骨癆等ニヨリテ發スルモノナリ

蜂窠織性鼻炎 Rhinitis phlegmonosa.

外傷、異物、急性傳染病、潰瘍或ハ不明ノ原因ニヨリテ發ス鼻粘膜腫脹劇痛アリ鼻閉塞著シク往々膿瘍ヲ形成ス膿瘍ハ好ンテ鼻中隔前端ノ軟骨ト軟骨膜ノ間ニ生シ表面鮮紅色ニシテ緊張及ビ波動アリ小切開チ加フレバ容易ニ治癒ス

丹毒性鼻炎 Rhinitis erysipalosa.

鼻入口ノ腫裂鼻内手術ニ因リテ來ルモノ多シ鼻粘膜高度ノ腫脹、潮紅、鼻閉塞、分泌亢盛等ヲ來ス

第二章 傳染性新生物 Infectiöse Neubildungen.

鼻梅毒 Syphilis cavi nasi.

鼻ハ他ノ呼吸器ヨリモ梅毒ニ罹ルコト多シ而シテ第一期ニ來ルハ稀ニシテ多クハ續發性トシテ現ハル、モノナリ

**第一期梅毒** 稀レニハ手指、手巾及ビ器械ノ媒介ニヨリテ生ジ又生殖器ト直接接觸ニヨリテ發スルコトアリ

外鼻ノ硬性下疳ハ多ク鼻入口部ニ發シ淺表性潰瘍ヲ造リ邊緣腫起硬結シ底面平坦ナルアリ凸隆スルモノアリ或ハ痂皮ヲ以テ被ハル粘膜硬性下疳ハ殊ニ鼻中隔前端ニ來ル主トシテ扁平菌狀贅生ヲ呈シ動モスレバ惡性新生物ト誤診セラル、コトアリ其色赤色ニシテ軟骨樣硬度ヲ有シ膿ヲ以テ被ハレ出血シ易シ



通常顎縁ニ於ケル淋巴腺腫脹シ無痛性ナリ患者ハ鼻閉塞并ニ頭部及下眼窩部ノ放散性疼痛ヲ訴フ後鼻下疳ハ銳縁ノ潰瘍ヲ呈シ黄色豚脂様苔ヲ以テ被ハレ出血シ易ク嚙下痛及頸痛ヲ訴フ

### 第二期梅毒

主トシテ皮膚及ビ粘膜ニ限局シ軟骨及骨ニ來ルハ稀レナリ若シ來ルコトアルモ間接性ニシテ皮膚及粘膜ヨリ續發ス鼻粘膜二期梅毒ハ當疹 Papulose Syphilis 及ビ紅斑 Erythem ノ二種ノ形態ヲ以テ現ハル甲ハ稀ニシテ乙ハ屢々見ル處ナリ其狀態紅色圓形斑或ハ境界判然タル廣キ潮紅ヲ呈シ單純鼻加答兒ト鑑別容易ナラズ只梅毒性ノモノハ多クハ前端ニ限局シ劇烈ナル症狀ナキモ持續スルコト永ク且ツ分泌物ノ前者ヨリ稍ヤ少キ等ヲ以テ察スベシ扁平胼胝腫ヲ生ズルコトアリ外鼻ニ於テハ鼻翼及前底部ニ刺針頭大乃至扁豆大ノ隆起セル斑點ヲ生ジ褐赤色ヲ呈シ又屢々鼻孔ニ裂創ヲ生ジ膿痂ヲ以テ被ハル粘膜ニ於テハ鼻底及中隔前端ニ好發シ往々鼻腔ヲ狹少ナラシメ時トシテ表在性潰瘍ヲ生ズ

### 第三期梅毒

ハ最モ屢々遭遇スル處ノ症ニシテ感染後一年乃至三年八年乃至十四年ニ發來ス

本症ノ病的變化ハ軟部ノ梅毒性浸潤及ビ鼻骨格ノ炎症ナリ而シテ梅毒性浸潤ハ或ハ限局性腫瘍狀ニ膨起シ(ゴム腫或ハ潮蔓性ナルコトアリ赤褐色ニシテ早晚破壊ス

鼻骨格梅毒ハ原發性及續發性ノ二種アリ

- 1 原發性鼻骨格梅毒 尙二種ニ分ツ即チ甲ハ先ヅ骨ヲ侵シ續テ骨膜ヲ侵スモノニシテ乙ハ先ヅ骨膜ヲ侵シ續テ骨ニ波及スルモノナリ
- 2 續發性鼻骨格梅毒 ハ皮膚或ハ粘膜ノ浸潤ヲ來シ遂ニ破壊シテ骨格ニ及ブモノニシテ通常壞疽及腐骨ニ終ル

發生部ハ骨性鼻中隔次デ鼻底及ビ鼻天蓋ハ好發地點トス鼻腔ヲ檢スルニ粘膜ハ強度ノ腫起潮紅ヲ有シ稀薄膿様或ハ血液膿様組織破片ヲ混ズノ惡臭性分泌ヲ以テ充タサル之ヲ清拭スルニ黄色豚脂様底面峻嶮ナル邊縁ヲ有セル潰瘍ヲ認ムベク探子ヲ以テ深部ニ粗糙ノ骨面ヲ觸ルベシ病勢進行シタルモノハ鼻骨崩壞シ鼻中隔缺損シテ外鼻ノ畸形所謂鞍鼻ヲ呈ス又鼻底ノ疾患ハ口蓋ノ闕損



ヲ來シ開放性鼻聲トナル

經過

適當ノ治療ヲ加ヘザレバ漸進シテ停止スル處ヲ知ラズ初期ニ加療スレバ病機ヲ停止シ又全癒セシムルヲ得ベシ

初生兒遺傳梅毒

ハ子宮内或ハ分娩後四週内外ニシテ發スルモノニシテ多クハ下甲介ニ來リ鼻咽腔ハ通常之ニ與カラザルモノトス初期ハ充血腫脹ヲ來シ二三週ノ後チ分泌期ニ移行シ多量ノ膿汁ヲ洩シ血液ヲ混ズルコトアリ續テ潰瘍ヲ形成ス故ニ初生兒或ハ二三週後ノ哺乳兒ニ在リテ鼻腔内或ハ鼻孔ニ血性痂皮ヲ附着スルトキハ遺傳梅毒ヲ疑フベキモノニシテ宜シクホツホジンゲル氏ノ三症候(鼻炎、蠟樣蒼白、脾腫)ニ就テ檢索ヲ企ツベキモノトス

診斷

硬性下疳ハ惡性腫瘍ト誤診シ易シ又三期症ハ實地上鑑別ヲ要スベキハ結核ナリ

鼻 梅 毒

- 一、患部ノ周圍粘膜炎高度ノ炎症ヲ呈ス
- 二、好發部ハ骨部ナリ
- 三、梅毒性骨壞疽ハ惡臭著シ

鼻 結 核

- 一、然ラズ却テ貧血ヲ呈スルコト多シ
- 二、軟骨部ナリ
- 三、臭氣少ナシ

其他組織檢査及ビ分泌物中ノ結核菌檢査ヲ施シ他部ノ症狀ヲ觀察スルトキハ通常誤ルコト少ナシ

療法

一般驅梅毒療法ヲ行ヒ局處ニハ清拭後沃度兒「デルマトール」「イトロール」等ノ吹入ヲ行フベク鞍鼻ニハ固形「バラヒン」ヲ注射ス汞劑注射療法ハ奏効確實ナレドモ疼痛甚シキハ一大缺點ナリ然レドモ左ノ處方ニヨリテ施行スルトキハ殆ンド或ハ全ク疼痛ヲ感ゼズシテ其効他ノ汞劑ニ讓ラズ

第一液 一—二%靑酸々化汞溶液

第二液 〇.五—一%アコイン溶液

右使用ニ臨ミ各半グラムヅ、ヲ混ジ臀部筋肉内ニ注射ス

鼻結核 Tuberculosis nasi.

鼻結核ハ鼻梅毒ニ比スレバ少ナシ去レドモ往時世人ノ信ジタルガ如ク稀ナラ

- 四、頭痛(夜間増悪)及ビ三叉神經痛ヲ有ス
- 五、沃加内服ニヨリテ症狀減退ス

- 四、缺如ス
- 五、奏効セズ



ズ而シテ原發性ノモノハ少ナク多クハ續發性ナリ  
**症候** 腫瘍狀(結核腫)及ビ潰瘍狀ノ二種ニ區別ス結核腫ハ中隔前端軟骨部ニ生ズルコト多ク顆粒狀若シクハ乳嘴狀ノ結節トナリテ現ハレ出血シ易ク膿又ハ結痂ヲ以テ被ハル潰瘍性結核ハ多クハ中隔軟骨部下甲介前端鼻底等ニ生ジ其面ハ弛緩性肉芽ヲ有シ周圍ニ浸潤アリ粘液膿性ノ分泌物附着ス又潰瘍進行シテ軟骨部ニ穿孔スルコトアリ

自覺症狀ハ初期ハ單純ノ鼻感冒ト略ボ同一ニシテ若シ結核腫増大スレバ鼻閉塞ヲ來ス又潰瘍ヲ生ジ鼻内分泌物膿様又ハ混血性ニシテ臭氣アレドモ劇シカラズ疼痛ハ少ナシ

**診斷** 容易ナラズ殊ニ梅毒ハ誤リ易シ前項梅毒ノ條ニ於ケル診斷ヲ參照シ組織及ビ分泌物等ヲ精密ニ検査シテ鑑別スベシ

**豫後** 原發性ハ稍佳良續發性ハ不良ナリ  
**療法** 早期切除又ハ搔爬ヲ行ヒ濃厚ノ乳酸塗布又ハ電氣燒灼ヲ行フ

鼻硬化腫 Rhinoscleroma.

稀有ノ疾病ニシテ歐洲ニ於ケル地方病ナリ殊ニ奧太利ハ最も多ク伊太利魯西亞之ニ次ギ其他ノ諸邦ニモ亦見ルモノナリ本邦ニハ未ダ之ヲ見ズ

**病理** 往時炎症性或ハ腫瘍ナリト云ヒシモ近時ニ至リ鼻硬化腫菌ハ其病原ナルヲ知ルニ至レリ

**症候** 結節性或ハ蔓延性ノモノアリテ鼻咽腔殊ニ後鼻孔緣軟口蓋背面ニ起始スルコト多ク漸次増進シテ咽喉ニ達スルモノアリ粘膜ハ初メ鮮紅色柔軟ニシテ恰モ肉芽腫ノ如ク表面ハ粘稠膿様ノ分泌物ヲ以テ被覆シ後チ蒼白或ハ暗黒硬固トナリ末期ニ至レバ萎縮シテ癭痕ヲ生ズ固有鼻腔ニ於ルハ前者ヨリ少ナク鼻腔前端殊ニ下甲介前端或ハ鼻底ニ發ス其萎縮期ニ達シタルモノハ鼻底ニ固有ノ變化ヲ起スモノニシテ即チ鼻底著シク扛起シ甲介ト鼻中隔ノ間ニ膨起ス鼻硬化腫ノ自覺症ハ著シカラズ疼痛ハ自發スルコトナク只壓痛アリ硬結増大スルトキ殊ニ咽喉部ニ蔓延スレバ呼吸及聲音障害ヲ起ス



**診断** 梅毒、結核、癩、瘡ト類似スルヲ以テ判定ヲ要ス本症ハ軟骨様硬度ヲ有シ破壊セズシテ癩痕ヲ結ブト其他ノ症状ヲ参照セバ敢テ難事ニ非ズ

**療法** 對症療法

**鼻狼瘡** *Lupus vulgaris nasi.*

鼻粘膜ノ原發瘡瘡ハ稀ニシテ多クハ前庭或ハ顔面ノ瘡瘡ト併發スルモノナリ發生地ハ鼻中隔ノ前下部粘膜ニ粟粒大ノ結節ヲ生ジ或ハ稀レニ豌豆大ノ結節狀腫瘍ヲ形成ス柔軟ニシテ觸ル、トキハ容易ニ出血シ潰瘍トナリ惡臭性膿樣分泌物ヲ以テ被ハル又鼻翼ヲ犯スモノニシテ肥厚硬固トナリ赤色或ハ赤褐色ヲ呈シ結節ヲ形成シ後チ破壊シテ實質缺損ヲ來ス

**療法** 局處療法ハ結核ニ同ジ

**鼻癩** *Lepra cavi nasi.*

鼻粘膜ハ癩ノ好發部ニシテ殊ニ鼻中隔ノ侵襲セララル、コト多シ粘膜ハ初メ先

ヅ瀰蔓性捏粉様膨隆ヲ生ジテ蒼白色ヲ呈シ次デ結節ヲ造リ後チ破壊シテ潰瘍ヲ形成ス潰瘍ハ漸次深部ヲ侵蝕シ屢々鼻中隔穿孔、外鼻ノ變形ヲ來スモノナリ

**馬鼻疽** *Rotz.*

馬鼻疽菌ニ因ル馬ノ觸接傳染病ニシテ人ニ來ルハ稀ナリ鼻粘膜ニ結節或ハ膿泡ヲ形成シ速ニ潰瘍ヲ生ズ鼻汁分泌強盛トナリ漸次濃厚膿樣ニ變ジ臭氣ヲ帶ブ又鼻閉塞著シク頭痛、熱等ノ全身症狀アリ慢性症ハ經過極メテ緩ニシテ認ムヘキ症候ヲ呈セズ僅ニ鼻粘膜腫脹發赤シ粘稠ノ液ヲ洩スニ過ギザルコトアリ

**第三章 鼻腔腫瘍** *Geschwülste in der Nasenhöhle.*

**A 良性腫瘍** *Gutartige Geschwülste.*

**粘液茸** *Schleimpolypen.*

**(浮腫性纖維腫** *Fibroma oedematosum).*

世俗之ヲ鼻茸ト稱シ鼻腔内良性新生物中最モ多キヲ占ムルモノトス從來之ヲ



特殊ノ腫瘍トナセシガ近來ニ至リテハ之ヲ炎性刺戟産物ナリト説キ腫瘍説ヲ駁スルモノ多シ

**原因** 慢性鼻炎副鼻腔慢性症骨瘍異物等ハ本病ノ原因トナル就中副鼻腔粘膜症ハ多クハ鼻茸ト密接ノ關係アルモノニシテ近時鼻茸ハ粘膜症ノ續發ナリトシ又淋膿症ノ原因ナリトスルノ二説アリテ何レカ因ニシテ何レカ果ナルヤ疑ハシトサヘ説クモノアリト雖ドモ予ハ其ノ甲説ニ左担スルモノナリ而シテ本症ハ中年ノ男性ニ多ク十五歳以下ノ幼年者ニハ少ナシ

**病理** 好發部位ハ中鼻道就中副鼻腔開口部ハ近隣竝ニ上鼻道中鼻甲介縁等ニシテ多クハ簇生シ單生スルハ稀ナリ時トシテ副鼻腔ニ發生セルモノ、鼻腔内ニ現ハル、コトアリ其ノ肉眼的處見ハ通常球狀又ハ有莖橢圓又ハ卵圓形ニシテ表面滑澤柔軟浮腫狀沒食子様ニシテ透明灰白又ハ蒼白色ヲ呈シ新鮮ナルモノハ煙草ノ煙色ニ類ス但シ外氣ニ觸ルル部位ハ往々紅色ヲ呈ス大小種々ニシテ粟粒大ヨリ李實大ニ至ルモノアリ組織的検査ニ據レバ浮腫性纖維腫ト稱スベキ形態ニシテ表面ハ通常重層扁平毛圓柱上皮ヲ以テ被ハレ多數ノ盃狀細胞

籍在ス但シ外氣ニ曝露セル部ハ重層扁平上皮細胞ニ變ズ固有粘膜層ハ鬆粗ノ結締組織維網狀ニ走行シ其間腔ハアルブミン含有ノ漿液又ハ粘液ヲ充タシ且ツ腺血管等ハ増殖ス神經ハ往時之ヲ欠クト信ジタリシガ近時存在ヲ證明セリ

**症候** 鼻閉塞分泌過多(膿性)モノハ多クハ副鼻腔ノ淋膿アリト察スベシ嗅覺障害及ビ閉塞性鼻聲ハ最モ顯著ノ症候ニシテ其他頭痛頭重不眠精神沈鬱記臆減退作業怠慢等ノ所謂鼻性精神機能障害アリ又喘息ヲ發スルコトアリ

鼻茸著大トナリシモノハ前鼻孔ノ邊ニ現ハレ或ハ後鼻腔ニ下垂スルモノアリ加之永年存在スルトキハ外鼻ノ變形ヲ來ス即チ鼻梁扁平トナリ鼻骨左右相離隔シ鼻翼ハ軟骨萎縮ノ爲メ柔軟トナル

**診斷** 通常容易ナリ只表面發赤肥厚シタルモノハ慢性肥厚性鼻炎ト誤診セラレ、コトアリト雖トモ古加乙涅塗布ヲ行フニ鼻茸ハ收縮シ難シ又消息子ヲ以テ莖ノ有無移動等ヲ知ルニヨリテ判別スルヲ得ベシ

**豫後** 佳良ナリ然レトモ細小ノモノハ往々看過ナレ易ク又ハ鼻茸本來ノ發生根原地ヲ除キ得ザルトキハ頻回再發ヲ免レザルモノナリ



療法 只手術的療法アルノミ種々ノ藥物療法ノ如キハ絶對ニ無効ナリ手術ニ三種アリ

1 鉗出法 往時鼻科學ノ進歩セザリシ時代ニハ主トシテ應用セラレタル方法ニシテ麥粒鉗子ヲ以テ鼻茸ヲ剔出ス

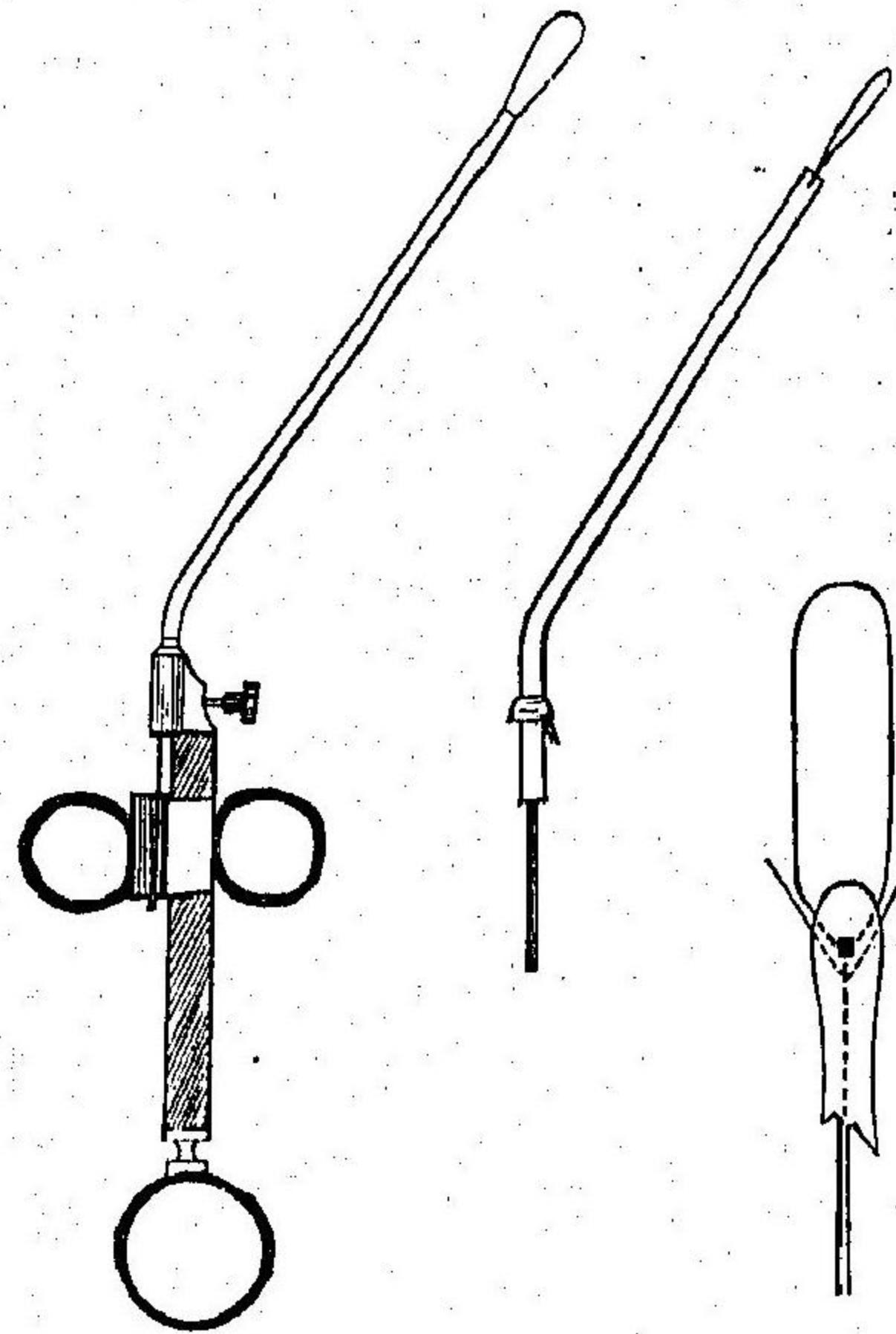


2

寒蹄係法 最モ簡單ニシテ且ツ適切ナル方法ニシテ現時專ラ稱用セラル、クラウゼ氏蹄係ハ極メテ便利ナリ其法鼻中隔及外壁ニ一〇%

古加乙涅ヲ塗布シタル後チ蹄係ヲ鉛直ニ保持シテ其ノ間隙ニ挿入シ適當ノ部ニ至レバ下方ヨリ外上方ニ廻轉シテ鼻茸ヲ其蹄係中ニ入レ漸次上方ニ押シ上ケテ莖部ニ達シタルトキ絞縮シテ牽引スベシ

第六十六圖  
クラウゼ氏用絞縮器



3 熱蹄係法 寒蹄係ニ於ケル如ク白金線蹄係ヲ以テ絞窄シ電氣ヲ通ジテ之ヲ灼斷スルナリ此ノ方法ハ出血ヲ來スコト少キ便アレトモ白金線蹄係ハ柔軟ニシテ充分捕獲シ難シ  
後療法ハ肥厚性鼻炎ノ部ヲ參照スベシ

乳嘴腫 Papillom.

硬固ノ乳嘴腫ヲ發スルコトアリ鼻腔内ニハ稀レニシテ鼻前庭ノ近圍ニ生ズ之レニ反シテ後鼻竅ニハ屢々乳嘴狀表面ヲ有スル纖維腫即チ硬性乳嘴腫又纖維乳嘴腫ヲ生ズ其構造及外觀ハ慢性肥厚性鼻炎ニ於ケル莓實狀肥厚部ト類似ノモノナリ

血管纖維腫 Fibroangiom (Angiofibrom).

眞正ノ纖維腫ハ甚ダ稀有ニシテ血管纖維腫トシテ發ス殊ニ中甲介ニ生ズルコト多シ組織ハ多數ノ毛細管或ハ脈管ヲ含有スル纖維腫ニシテ時トシテハ浮腫



狀ヲ呈ス

出血性鼻中隔茸 Blutender Septumpolyp.

稀レニ見ル處ノ茸腫ニシテ男性ヨリ女性ニ多キガ如シ鼻中隔軟骨部ニ發生シ表面平滑或ハ乳嘴狀ヲ呈シ大豆大ヨリ李實大ニ至リ多クハ莖ヲ有ス臨床上鼻閉塞アリ時々著シキ出血ヲ來スヲ特徴トス  
茸腫ハ鏡檢上肉芽腫、血管纖維腫、或ハ血管擴張性茸 Teleangiectatische Polyp. ナルニト多シ

B 惡性腫瘍 Bösartige Geschwülste.

鼻腔内惡性腫瘍ハ概シテ稀レニシテ肉腫ハ癌腫ニ比スレバ較々多シ

肉腫 Sarcom.

幼年者及少壯者ニ發スルコト多シ發生部位ハ鼻中隔軟骨上部ヲ最多トシ篩骨

之ニ次グ鼻側壁、鼻底及其他ノ部ニハ極メテ稀ナリ多クハ圓形細胞或ハ紡錘形細胞ヨリ成リ其發育急速ニシテ鼻閉塞甚ダシク又時々劇シキ出血ヲ來ス鼻背上部ハ扁潤廣展シ外皮ハ腫起鬱血ヲ呈ス屢々副鼻腔、眼窠、口腔或ハ頭蓋腔ニ向ツテ蔓延シ遂ニ崩潰シテ組織及ビ分泌物ノ分解ニ由ル惡臭ヲ放ツ

豫後及經過

癌腫ニ比スレバ稍々佳良ナリ殊ニ有莖性ノ纖維肉腫ナルトキハ其發育緩慢ニシテ早期手術ニヨリテ蔓延ヲ防止スルヲ得ベシト雖ドモ通常不良ナリ殊ニ小圓形細胞肉腫ハ經過迅速ナリ尤モ發生部位患者ノ體力、年齡等ニヨリテ異ナリ

癌腫 Carcinom.

肉腫ヨリモ更ニ稀ニシテ發生部位ハ鼻腔上部又屢々副鼻腔ナリ常ニ高齢ノ者ニ發シ多クハ圓柱細胞或ハ扁平上皮癌ナリトス

症候

ハ肉腫ト略ボ同一ニシテ發育ハ一層迅速ナリ破壊シテ膿性分泌物ヲ來シ漸次近圍組織ヲ荒蕪頽敗セシム



## 第四章 異物及鼻石 Fremdkörper u. Rhinolithen.

## 異物

鼻腔異物ノ侵入道ニ三アリ前鼻孔、後鼻竇及ビ鼻壁ノ罅隙(外傷性)之レナリ  
前鼻孔ヨリ入ルモノハ異物ノ大多數ニシテ主トシテ小兒ニ於テ實驗スルモノトス小兒ハ時トシテ自己ノ手ニヨリテ時トシテ戯ニ他兒ノ手ニヨリテ送入セラル、コトアリ而シテ異物ノ種類ハ多クハ豆類、紙片、硝子球、果實類、鉛、ゴム管、小石等ナリ

後鼻竇ヨリ侵入スル異物ハ食片、果實核等ニシテ嘔吐、錯嚥下及軟口蓋麻痺ニ際シテ來ル

外傷性異物ハ稀有ニシテ銃丸、木片等多ク稀レニ狂人ニアリテハ小刀片其他驚クベキ大ナルモノヲ挿入スルコトアリ又鼻腔内逆生齒牙及ビ結石モ内部ニ發生シタル異物ニ外ナラズ

## 鼻石

鼻石ハ小異物等之レガ核トナリ其ノ周圍ニ鹽類ノ沈着堆積スルニヨ

リテ生ズルト説クモノアリ又核ヲ有セザルモ發生シ能フト説クモノアリ有核説ハ之ヲ非難スルモノ少ク無核説ハ左担スルモノ多カラズ有核論者ハ假令核ヲ發見セザルモノアルモ最初存在シタル凝血或ハ軟性異物ハ中心ニ在ル間ニ溶崩シテ形態ヲ失シタリシヤモ知ルベカラズト云フ

鼻石ノ成分ハ無機質殊ニ磷酸及ビ碳酸石灰、尿酸、麻痺、亞、酸化鐵等ヨリ成リ有機質ハ脂肪、蛋白及ビ纖維ナリトス

## 症候

大小、形狀、種類ニヨリテ一様ナラズ、小ニシテ平滑ナル無刺戟性異物ハ往々異常ヲ覺エズ數年月間之ヲ知ラザルコトアリ尖端及稜角ヲ有シ或ハ豆類ノ如キモノニシテ膨脹スルトキハ出血、鼻塞及ビ疼痛ヲ起ス久シク滯留セル異物ハ必ズ分泌亢盛、膿様ニシテ臭氣ヲ帶ビ頭痛、半面知覺異常、神經痛、癩癩様發作、精神機能障害ヲ發ス其他時トシテハ眼ノ障害ヲ惹起スルコトアリ

## 療法

小ニシテ平滑ナル圓形ノ異物ハ豫メ、コカイン液ヲ鼻内ニ注入シ又噴霧シ置キ強勢ナル噴擻ヲナスカ或ハ噴嚏ヲ誘發シ易キ藥粉ヲ鼻内ニ吹入スルトキハ前鼻孔ヨリ驅出スルヲ得ルコトアリ通常反射鏡ニヨリテ鼻内ヲ充分照



シツ、鑷子又ハ鉗子等ヲ以テ抽出スルヲ得ベシ不穩ノ小兒ニハ時トシテ麻醉ヲ應用セザル可カラズ

### 第五章 衄血 Epistaxis (Nasenbluten).

全身諸臓器中出血シ易キコト鼻腔ノ右ニ出ヅルモノナシ、恐ラクハ一回モ衄血ヲ患ヒザル者ハ稀有ナルベシ蓋シ鼻ノ解剖的關係ノ損傷シ易キ位置ニアルト血管頗ル富饒ニシテ且ツ破綻シ易キガ爲メナリ

#### 原因

ヲ分チテ左ノ數種トス

- 1 局處病變 鼻腔内創傷例バ異物癢痒ヲ醫センガ爲メノ摩擦消息子、歐氏管、カテーテル等或ハ出血性鼻中隔茸、肉腫等ナリ
- 2 全身病 血行器病、貧血、萎黃病、惡液質、白血病、梅毒、結核、腎臟病等
- 3 急性傳染病 猩紅熱、麻疹、實扶埜里、インフルエンザ等
- 4 出血性素因 壞血病、血友病、ウエルホッフ氏紫斑病
- 5 中毒 磷中毒等

6 其他多血質ノモノ及ビ婦人ノ月經時ニ代償性鼻出血トシテ來ルコトアリ

**出血部位** 鼻中隔前端軟骨部所謂キーゼルバハ氏部位(強度ノ擴張毛細管ト一種ノ海綿様組織ヲ有ス)ヲ最多トス鼻底之ニ次ギ甲介其他ハ稀ナリ

**症候** 原因ニ應ジテ異ナリ或ハ毫モ異常ヲ覺エズシテ突然出血シ或ハ前驅症例之バ輕度ノ頭痛顔面潮紅鼻内癢痒感アリ、一側ニ來ルコト多ク兩側出血ハ熱性病或ハ血液變常症ニ見ルモノナリ出血ノ僅微ナルモノハ點滴狀ニシテ劇烈ナルモノハ搏動性ニ或ハ持續性ニ迸出ス色ハ多クハ鮮紅色罕ニ少量ノ出血ノ際ニ於テハ暗黒或ハ茶褐色ヲ呈ス一時ニ多量ニ出血スレバ眩暈卒倒ヲ來シ反復數回ノ出血ヲ來ストキハ全身貧血ヲ惹起スルニ至ル

**診斷** 通常容易ナレドモ夥シク湧出スルトキハ出血地點ヲ確定スルニ苦シムコトアリ必ズ先ヅキーゼルバハ氏部ニ注目シ次デ他部ヲ検査スベシ出血部後方ニ位シ且少量ニシテ後鼻孔ヨリ咽喉ニ流注シ咯出スルトキハ咽喉、胃、肺等ノ出血ト誤認セラル、コトアリ



**豫後** 原因ニ關ス出血素質重症熱性病等ニヨリテ來リ經過長キモノ及ビ反復スルモノ等ハ危險ナリ又老人ノ衄血ハ腦溢血ノ前徵タルコトアリ

**療法**

出血部位ヲ確認シ其部ニ向テ止血法ヲ試ムベシ

1 **栓塞法** 殺菌綿紗片或ハ綿花塊ヲ緊密ニ挿入充塞スベシ奏効確實ナラザレバ上中下ノ各鼻道ニ別々ニ挿入シ全鼻腔ノ栓塞ヲ行ヒ炎症的合併

症ノ起ラザル限リ兩三日間放置ス

衄血アルトキハ其ノ出血點ヲ極メズシテ直チニ收斂性藥液(一半クロール鐵液等)ヲ注入スルモノアルハ往々見ル處ナリ之レ不用ナルノミナラズ時トシテ却テ有害ナリ

2 **腐蝕法** 習慣性衄血ハ再發ヲ防グ爲メニ局部ヲ格魯謨酸(ライピス)等ヲ以テ腐蝕ス(治療總論參照)

3 **燒灼法** 其作用前者ニ同ジク電氣ヲ以テ局部ヲ燒灼ス  
其他原病ニ向ツテ治療ヲ加フベキハ勿論ナリ

**第六章**

**鼻腔畸形**

Formanomalien der Nasenhöhle.

先天性畸形即チ前鼻孔閉塞後鼻竇閉塞鼻中隔ノ局部又ハ全部缺如重複中隔等ハ稀ニシテ鼻腔異常ノ狹隘過狹長鼻或ハ廣潤過扁淵鼻ハ之ヲ見ルコト稍ヤ多シ然レドモ最モ多クシテ臨床上緊要ナルモノハ左ノ如シ

**A 鼻中隔畸形**

Formanomalien der Nasenscheidewand.

鼻中隔畸形ハ多ク發育ニ際シテ現ハル、モノニシテ鼻中隔ノ高徑著シク増大スルニ當リ周圍ノ骨ニ支持セラル、時ハ同強同質部ハ彎曲ヲ生ジ骨部及軟骨部ノ如キ不同質部ハ屈折ヲ觀ルコト多シ又發育ノ力他方面ニ働カズシテ鼻中隔ニ局所隆起ヲ起スモノナリ或ハ兩種ノ形態合併スルモノアリ通常第二生齒期前ニ於テハ稀ナリ

**鼻中隔彎曲**

Devitatio septi nasi.



人誰レカ絶對的眞直ナル鼻中隔ヲ有スルモノアラシ統計ニ據レバ著シキ彎曲ハ七十乃至八十%ニシテ稍常形ニ近キ僅少ノモノト雖モ比較的眞直ニ過ギザルモノナリ

彎曲狀態ハ多種多樣ニシテC形、S形、鉤形、屈折性等アリ屢々棘或ハ櫛ヲ併發シ時トシテハ鼻梁ノ彎曲ヲ見ルヲ得ベシ

**原因** 鼻中隔附着部ノ轉位又ハ不規則、近隣諸部殊ニ篩骨甲介等ノ過度ノ發育肥大等ナリ其他外傷等ニ依リテ來ル

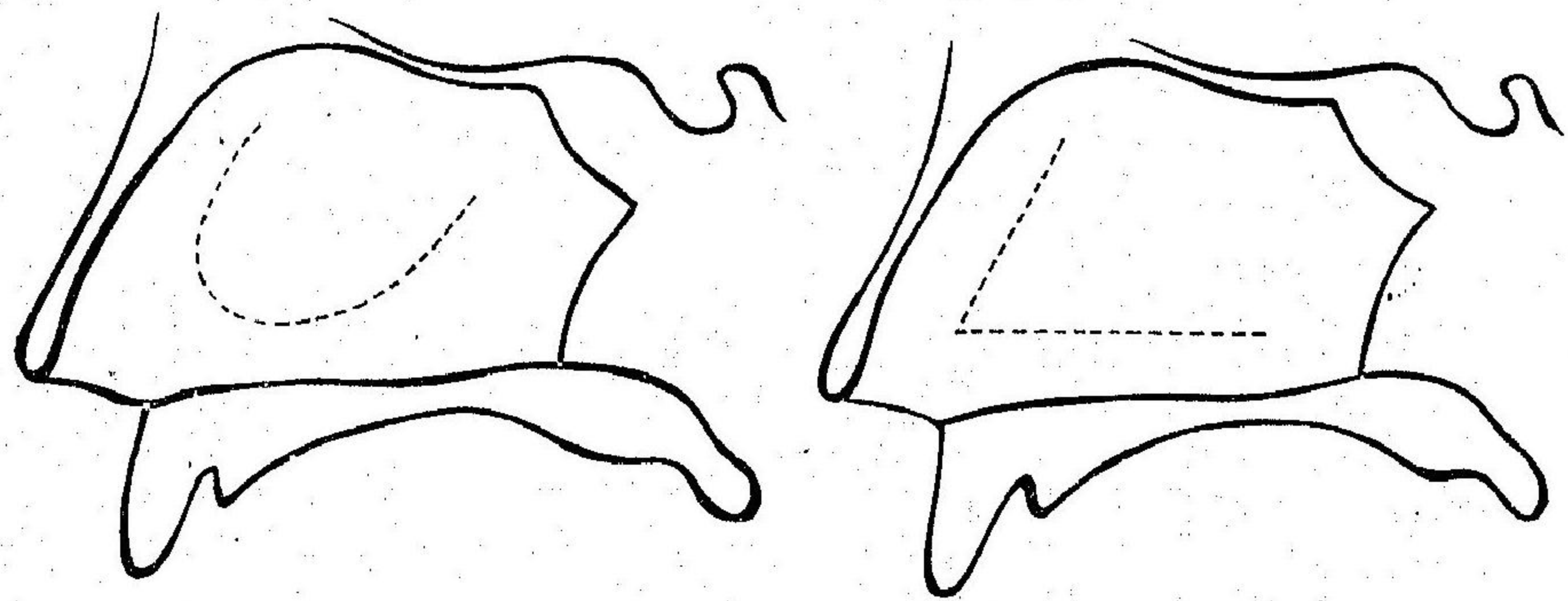
**症候** 種々ノ神經性障害及ビ鼻閉塞ニシテ鼻腔内ハ凸側ハ狹ク往々中甲介、上甲介ト觸接シ凹側ハ時トシテ廣濶ナレドモ多クハ下甲介代償性肥大ニヨリテ同時ニ狹窄症ヲ有ス

**診斷** 局部肥厚症、棘又ハ櫛トハ他側凹彎ノ存否ニヨリテ鑑別ス

**療法** 中隔彎曲ヲ矯正スルハ眞ニ合理的療法ナレドモ重症ノ彎曲ハ多クハ常ニ効果ナキモノナリ其ノ方法輕症ノモノニハ綿花栓塞、護謨管、象牙、水牛桿ノ插入ヲ行ヒ矯正スルコトアリ高度ノモノニ在リテハユース氏壓迫器使用法

第 六 十 七 圖

鼻 中 隔 窓 狀 切 除 術 切 線



等アレドモ痔瘡、壞疽等ヲ免レザルノ缺點アリ最モ適當ナルハ

**粘膜下窓狀切除術** Submucosae Resection

tenesection. ナリ其ノ手術式左ノ如シ

1 **消毒** 患者ハ顔面殊ニ鼻部ヲ石鹼ヲ

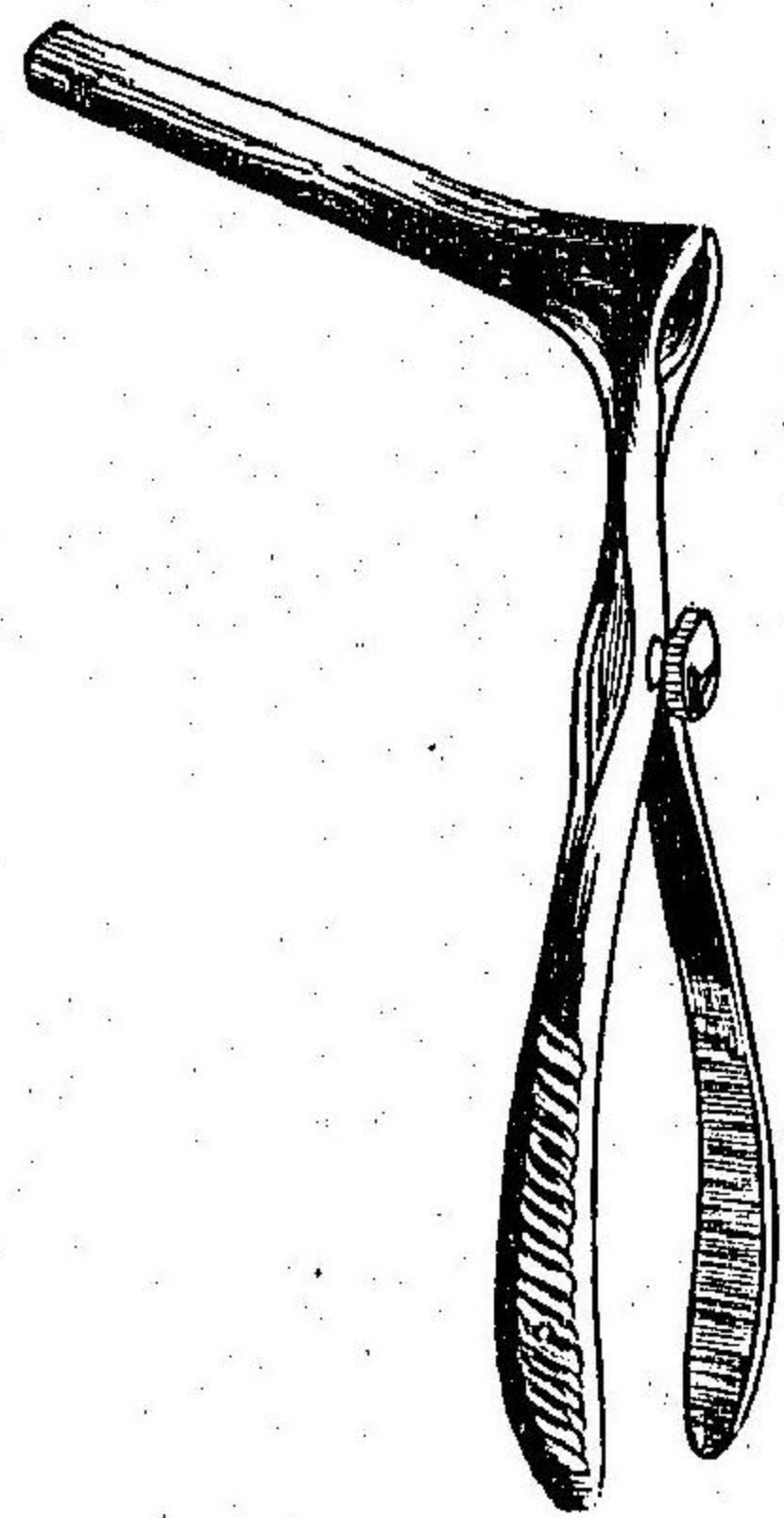
以テ洗ヒ鼻前庭部及外鼻ハ稀薄ナル昇汞水ヲ醃シタル綿紗ヲ以テ清拭ス鼻腔内ハ食鹽水又ハ硼酸水ヲ以テ洗滌スルヲ以テ足レリ何トナレバ鼻腔内ニハ有害菌存在セザルガ故ナリ

2 **麻醉** 〇、五—一%古加乙涅溶液ニ「アドレナリン」ヲ混ジタルモノ(一〇、〇ノ古加乙涅溶液中二、〇)ヲ「ラワツ」注射器ヲ以テ粘膜ト軟骨ノ間ニ注射ス然



第 六 十 九 圖

キリアン氏中鼻道鏡



スヲ挿入シ鏡間ニ軟骨ヲ置キテ離開シ軟骨刀ヲ以テ之ヲ切離ス(第六十  
九圖)

切片ハ麥粒鉗子ヲ以テ剔出シ尙ホ殘存スル部ハハルトマン氏鉗子等ヲ  
以テ切除ス彎曲部軟骨ノミニ止ラズ骨ノ一部ヲ切除スルヲ要スルトキ

5 6

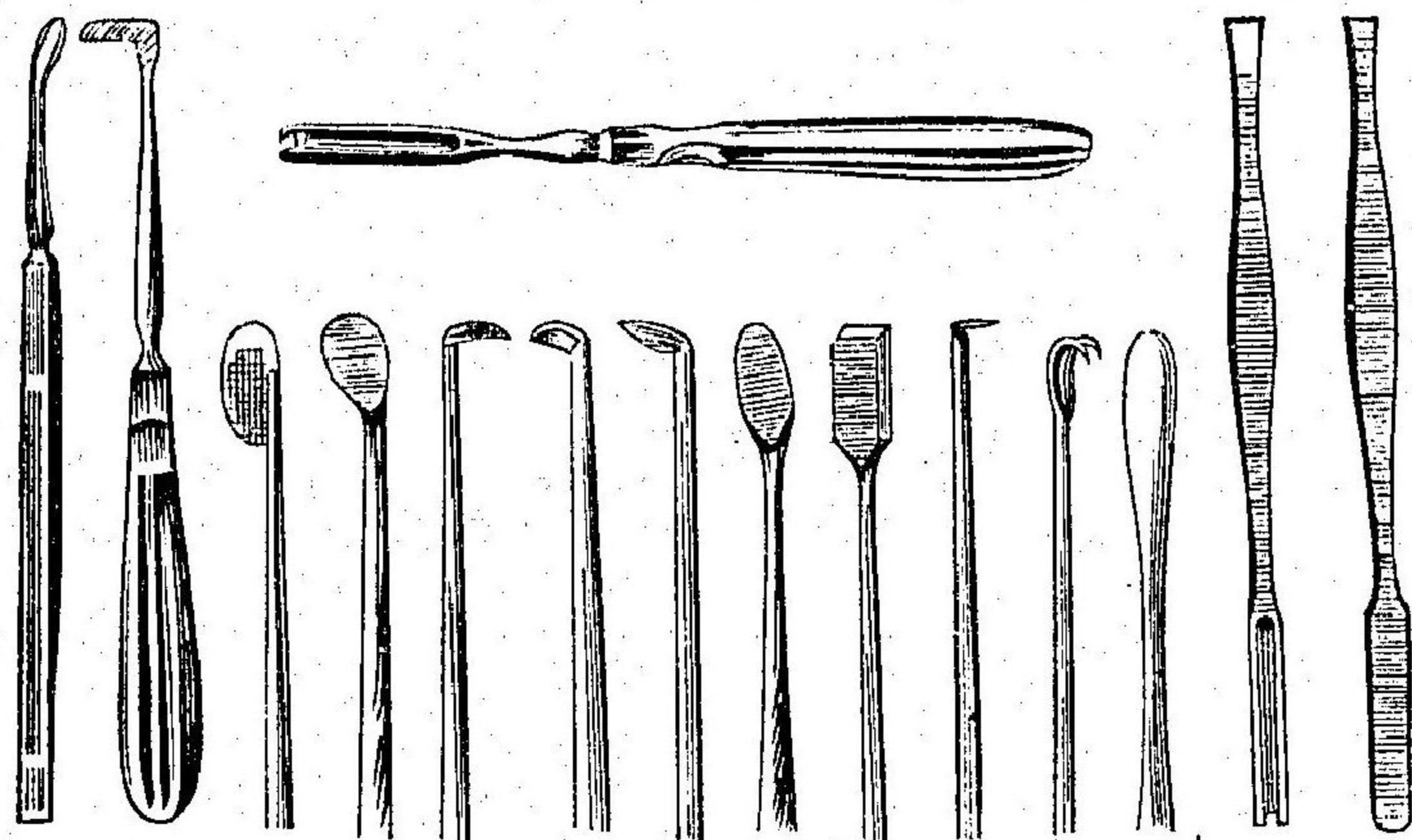
キニ一部ニ切開ヲ加ヘ其孔ヨリエレバトリウムヲ挿入シ  
反對側粘膜炎ヲ行フベシ此際モ亦鼻腔内ニ小指ヲ挿入シテ雙合法  
ヲ用フルコト前ノ如シ

固有切除 軟骨若シクハ骨或ハ二者共ニ之ヲ切除スルコト恰モ壁ニ窓  
ヲ穿ツガ如シ窓狀切除術ノ名  
此ニ因ス

軟骨切除ハキリアン氏軟骨刀  
ヲ用フルヲ便トス即チ剝離セ  
ラレタル粘膜炎ノ兩葉間ニ開張  
器(キリアン氏中鼻道鏡)ヲ可ト

第 六 十 八 圖

鼻中隔窓狀切除器(ループ氏定機)



3 4

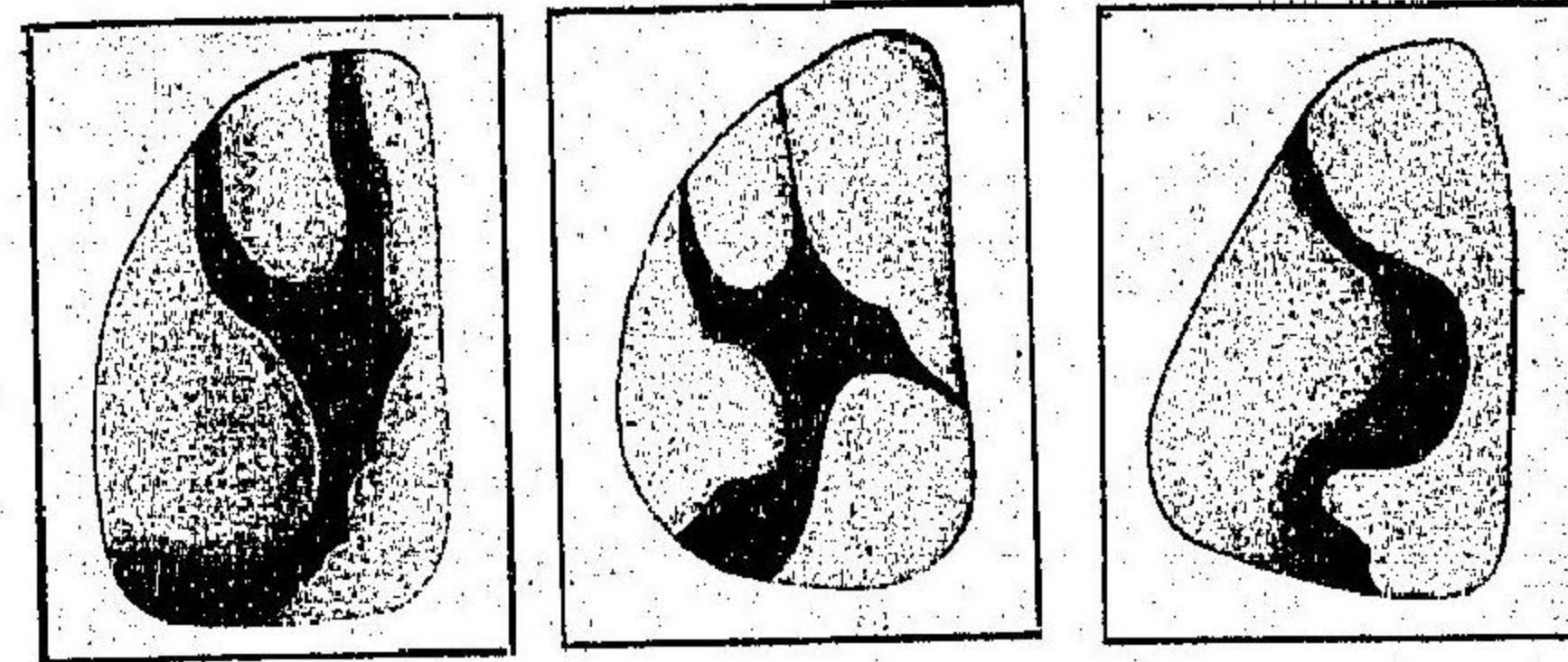
ルトキハ粘膜炎蒼白色トナル尙ホ  
他側ニモ注射シ或ハ更ニ二〇%  
古加乙混溶液ヲ塗布スルトキハ  
奏効充分ナリ

粘膜炎切開 鼻中隔凸彎側ニ於テ  
第六十七圖ニ示スガ如ク切開シ  
軟骨膜ト共ニ軟骨ヨリ剝離シ其  
ノ基底ニ於テ後上方ニ翻轉シ小  
綿球ヲ以テ之ヲ固定ス

軟骨ノ穿孔 凸側粘膜炎ヲ剝離シ  
終レバ軟骨ヲ穿破ス此際凹側粘  
膜炎ヲ損傷スルコトアルヲ以テ凹  
側ハ鼻腔内ニ小指ヲ挿入シテ雙  
合法ヲ行ヒツ、軟骨刀ヲ以テ徐



圖十七第  
形畸隔中鼻



7  
ハ骨鉗子又ハ把柄ノ下部ニ於テ屈曲セル銃鎗狀ノ鑿ヲ用フ  
粘膜瓣整復 最後ニ翻轉セル粘膜瓣ヲ整復シ出來得ベクパー二ノ縫合  
ヲ行ヒ或ハ單ニ對側粘膜面ニ向テ附着セシメ殺菌綿花又ハ綿紗ヲ以テ

輕ク壓定栓塞ス

8  
後療法 術後二—三日ニシテ「タンボン」ヲ交換  
ス爾來局處ノ狀態ヲ精査シ或ハ粘膜創ニ肉芽  
ヲ生ズレバ硝酸銀ヲ以テ腐蝕ヲ行フベシ

鼻中隔隆起(棘及櫛) Vorsprünge der

Nasenscheidewand (Spina septi u. Crista septi).

軟骨性ナルコト多ク稀レニ骨性基底ヲ有ス通常一側  
ニ來リ兩側ニ來ルハ少ナシ時トシテ鼻中隔彎曲ノ凸  
側頂點ヨリ發シ或ハ獨立のニ平坦面ヨリ突隆スルコ  
トアリ其圓錐形若シクハ類方錐形ノモノハ棘ト名ケ

症候

堤狀或ハ櫛狀ノモノヲ櫛ト稱ス

鼻狹窄及ビ種々ノ神經症狀ヲ起ス殊ニ喘息神經性咳嗽心悸亢進等ノ

原因トナルコト多シ

療法

彎曲症ヲ合併スルモノハ

前章ニ於ケル窓狀切除術ヲ行フベ  
シ單ニ櫛或ハ棘ノ獨立シテ發生セ  
ルモノニハ次ノ方法ヲ應用ス

1 鑿去術

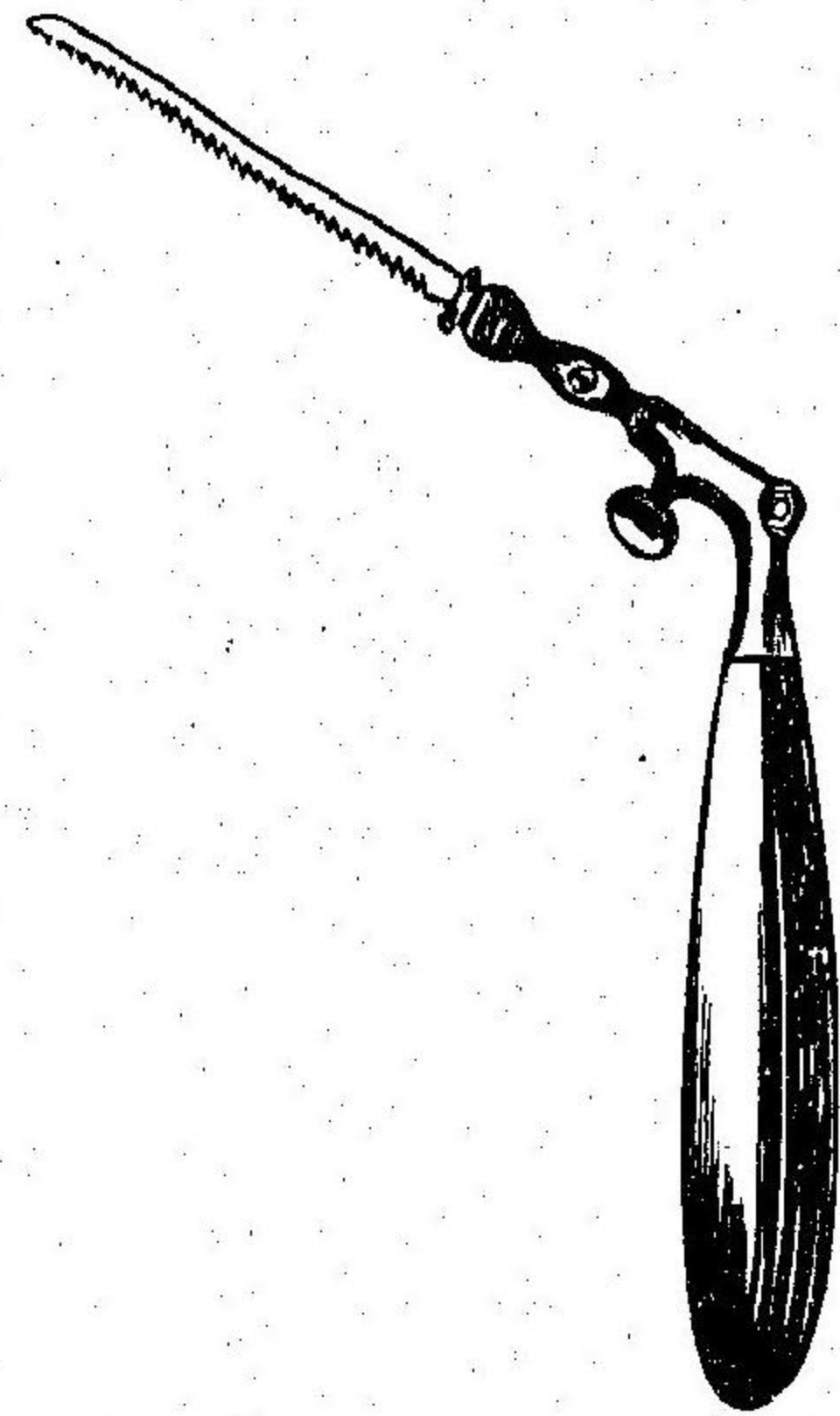
棘或ハ櫛ノ小ナル  
モノハ鑿ヲ以テ粘膜ト共ニ  
削除スルニテ足レリ大ナル  
モノハ粘膜ヲ剝離スルヲ佳  
トス鑿ハハイエク氏矢狀鑿

圖五十七第

ベックマン氏手鋸



圖六十七第



ヲ用フル時ハ便利ナリ

2

鋸斷術

ベックマン氏手鋸ヲ以テ下方ヨリ上方ニ向テ鋸斷ス



3 鑽除術 電氣「モートル」ニ連結シタル適當ノ直徑ヲ有スル鑽子ヲ以テ粘膜ト共ニ或ハ粘膜ヲ剝離シタル後チ鑽除ス

4 電氣燒灼術 軟骨部ノ棘ニ應用セラル、コトアリ但シ燒灼後ノ潰瘍ハ容易ニ治癒ニ赴カズ

以上種々ノ方法アリト雖ドモ各々一得一失アリ何レガ優秀ナルヤ遠ニ斷案ヲ下シ難シ鑿鋸或ハ鑽ハ出血シ易ク電氣ハ疼痛反應症狀著シキコトアルモ亦各得點ヲ有ス要スルニ簡單ノ器械ヲ以テ目的ヲ達スルヲ佳トスベシ予ハ鑿去術ヲ棘ノ大小基底ノ廣袤ニ應ジテ粘膜ト共ニ或ハ粘膜下ニ於テ施行スルトキハ十分効ヲ奏スルモノナルヲ實驗ス

B 鼻側壁ノ畸形 Anomalien der lateralen

Wand d. Nasenhöhle.

中甲介膨隆 中甲介ノ前端骨胞狀ニ腫脹シ粘膜ハ恰モ「ボリープ」狀ヲ呈ス然レドモ其粘膜赤色ナルト探診スレバ骨質ヲ包含スルヲ以テ判別ス可シ

第七十七圖 後天性前鼻孔閉塞 (癬痘)



篩骨胞膨隆 中下甲介ノ間ニ於テ外壁ヨリ膨出シ屢々中甲介ヲ壓排シテ其位置ヲ奪ヒ中甲介ト誤認セラル、コトアリ

併發ス

症候 小ナルハ著シキ

症狀ヲ呈セズ膨大スルト

キハ鼻閉塞、嗅覺脫失等諸

種ノ神經症狀ヲ發ス

療法 鼻鉗、蹄係、鉗子等

ヲ以テ之ヲ切除ス

C 鼻癥着及閉鎖 Synechien u. Atresien.

原因 先天性アリ後天性アリ前部ノ癥着ハ痕瘡、梅毒、痘瘡及腐蝕ヨリ來ルコトアレドモ多クハ先天性ナリ中部癥着ハ鼻甲介領域ニ現ハル、モノニシテ絲



狀、索狀又ハ帶狀ノ癒着ヲ下甲介ト中隔間ニ來スヲ常トス通例甲介粘膜燒灼、甲介切除術後ニ見ルモノニシテ膜様閉鎖及癒着ナルコト多シ後部閉鎖ハ稀ニシテ結締織性、骨性或ハ混合性ナリ

**症候** 鼻閉塞症狀及反射神經症狀ヲ呈ス時トシテハ毫モ異常ヲ呈セザルモノアリ

**診斷** 視診及探子検査ニヨリテ明カナリ

**療法** 骨性癒着ハ之ヲ鑿去スベシ膜性ノモノハ銳刀又ハ鋏ヲ以テ截開シ再ビ癒着セザル様後療法ニ注意スベシ即チ綿紗、厚紙板、硬護謨、錫箔、銀製栓管等ヲ挿入シ置クヲ要ス

### 第七章 鼻前庭ノ疾病 Krankheiten der

Vestibuli nasi.

#### 濕疹 Eczema.

**原因** 腺病質貧血ノモノニ發シ易ク多クハ鼻腔及ビ副鼻腔ノ疾病又ハ腺増殖症等ニヨリテ發シ若シクハ手巾指頭等ノ頻回ノ刺戟ニ因ル

**症候** 多クハ慢性狀態ヲ呈シテ發スルモノニシテ單ニ發赤、濕潤ヲ來シ又小膿胞、皮膚肥厚、輝裂、痂皮等ヲ生ズ此輝裂ハ顔面丹毒ノ侵入門戸トナルコトアルヲ以テ注意スベシ患者ハ鼻孔ノ不快緊張感、癢痒、疼痛時トシテ輕度ノ鼻閉塞ヲ感ズ又屢々、フルンケル、鬚瘡ヲ併發スルコトアリ

**療法** 局處療法ノ必要ナルハ言フヲ俟タズ其他全身療法并ニ鼻腔内ノ疾病ニ向ツテ適當ノ療法ヲ併セ行フベシ局部ニ痂皮アルトキハ先ヅ之ヲ除去シタル後チ一—二%硝酸銀液ヲ塗布シ且ツ次ノ如キ藥物ヲ用フ

#### 處方

- 1 硝着、亞鉛花 各二、〇  
華攝林 三〇、〇  
右一日數回塗布
- 2 水楊酸 二、〇 亞鉛花、澱粉 各二、四、〇  
華攝林 五〇、〇  
右一日二—三回塗布
- 3 白降汞 二、〇—五、〇  
華攝林、刺納林 各五〇、〇
- 4 安息香酸 一、〇 亞鉛花 五、〇  
豚脂 三〇、〇  
右一日數回塗布
- 5 無臭イヒチオール (ウキルソン氏軟膏) 三、〇  
ウキルソン氏軟膏 三〇、〇  
右同上



鬚瘡

Sicosis vestibuli nasi.

男子ニ多ク發スル疾病ニシテ葡萄狀菌ノ侵入ニヨリテ毛囊炎ヲ起シ頂點ヲ鼻毛ノ穿通セル膿胞ヲ形成シ周圍ハ僅ニ發赤シ疼痛アリ本症ハ屢々反復痂皮ヲ結ビ頑強ニシテ容易ニ治癒セザルモノナリ又濕疹、フルンケルヲ併發スルコトアリ

療法

破潰以前ハ緩和性ノ軟骨ヲ塗布シ又疼痛アルモノニハ溫卷法ヲ行フ痂皮ヲ生ジタルトキハ濕疹ノ療法ニ於ケルガ如シ

瘡

Furunkel.

濕疹又ハ鬚瘡ニ續發シ或ハ單獨ニ發ス一個乃至數個ノ小瘡ナルコトアリ時トシテハ大ナル膿瘍ヲ形成シ又稀レニハ周圍ノ蜂窩織炎ヲ續發スルコトアリ

酒皰鼻

Acne rosacea.

鼻及其ノ近圍ノ限局疾患ニシテ時トシテハ愕クベキ醜形ヲ呈スルニ至ルモノアリ酒客ニ多ク婦人生殖器病、胃腸疾患、寒冷、血行障害等ニ因ルモノナリ

症候

汎發性濃紅色斑ヲ呈シ毛細管擴張ヲ明カニ見ルヲ得ベシ指壓ニヨリ消退ス外皮ニ於ケル結節相融合シ胡桃大ニ達スルアリ皮脂腺ノ炎性浸潤或ハ化膿ヲ來シ或ハ組織肥厚ス

自覺症ハ顯著ナラズ僅ニ温感ヲ有スルアリ、化膿シタルトキハ疼痛ヲ訴フ。

經過

慢性

療法

原因ヲ探リ之ヲ治療スベシ又局處ニハ輕症ノモノハ十%硫黃軟膏、イヒチオール軟膏ヲ塗布シ重症ノモノハ電氣燒灼或ハ亂刺時トシテハ一部ノ切除ヲ行フ

處方

- |   |        |      |       |      |
|---|--------|------|-------|------|
| 1 | 精製樟腦   | 五、〇  | ラノリン  | 五、〇  |
|   | 沈降硫黃   | 一〇、〇 | ワセリン  | 一〇、〇 |
|   | 蒸溜水    | 適宜   | 亞鉛華軟膏 | 五、〇  |
|   | 右爲泥狀塗布 |      | 石灰水   | 五、〇  |
| 2 | チオノール  | 一、〇  | 右塗布料  | 九、〇  |



### 第二編 副鼻腔ノ疾病 Krankheiten der Nasennebenhöhlen.

Nasennebenhöhlen.

#### 第一章 上顎竇疾患 Krankheiten der Kieferhöhle. 急性上顎竇炎 Sinusitis maxillaris acuta.

**A 急性漿液性上顎竇炎** S. max. acuta serosa. ハ固有鼻腔粘膜ノ急性炎ニ併發スルモノナリト雖モ通常現著ノ特有症候ヲ發セズ

**B 急性化膿性上顎竇炎** S. max. acuta purulenta.

**原因** 急性傳染病就中「インフルエンザ」實扶的里丹毒及ビ齒牙ノ疾病ニ基  
因スルモノ多シ又上顎骨外傷、鼻ノ手術(燒灼、栓塞等)及ビ急性鼻加答兒ニ續發ス  
**症候** 發熱時トシテ「惡寒」ヲ伴ヒ上顎骨部ノ緊張感若シクハ疼痛ヲ有ス疼  
痛ハ咳嗽、噴嚏及ビ頭首前屈、輕キ叩打等ニヨリテ増劇ス一朝多量ノ膿汁漏泄ヲ  
來ストキハ緩解スルヲ常トス他覺的ニハ頰部ノ腫脹、壓痛アリ鼻粘膜ハ急性炎  
症ヲ呈シ中鼻道ニハ粘液膿性ノ分泌物ヲ見ル其他眼瞼浮腫、結膜炎、流涙ヲ來ス

コトアリ

**經過及豫後** 原因ニ由リテ異ナリ而シテ自然治癒ヲ來スコト稀レナラズ

**療法** 鼻粘膜腫脹ヲ減退セシメ排膿ヲ佳良ナラシムルヲ要ス即チ古加乙湿  
アドレナリン「溶液」ヲ塗布シ或ハ噴霧シ頰部ニ氷囊時トシテハ温卷法ヲ施シ兼  
テ腸管誘導法、發汗劑内服等ヲ併用スベシ

#### 上顎竇水腫 Hydrops anti Highmori.

鼻加答兒ニ續發シ粘膜腫脹ノ爲メニ鼻腔ト竇孔トノ交通遮斷セララル、ニヨリ  
テ起ルト云フ然レドモ後來囊腫狀ニ變性スベキ竇内新生物ニ基因スルモノナ  
ルベシト説クモノアリ

**症候** 他覺症候ハ當該顔面部ノ腫脹、犬齒窩ノ膨隆等ニシテ自覺症候ハ鈍痛  
三叉神經領域ニ於ケル神經痛等ナリ



慢性化膿性上顎竇炎 (ハイモル氏竇蓄膿症)

*Sinuitis maxillaris purulenta chronica*  
(*Empyema atri Highmori*).

上顎竇慢性症ハ稀レニ漿液性ノモノナキニ非ズト雖モ通常化膿性ナリトス而シテ種々ノ副鼻腔疾患中最モ屢々見ル處ナリ

**原因** 急性鼻炎、急性上顎竇炎ヨリ移行スルモ殊ニ「インフルエンザ」性ニ多シ又急性症狀ナクシテ上顎齒牙及ビ齒槽ノ慢性疾患ニ基因スルモノ亦頗ル多シ殊ニ第一大臼齒、第二小臼齒若シクハ第二大臼齒ノ齶齒ヨリ來ル往時本症ノ最多數ハ齒牙ニ因スルモノト認メラレシガ近來決シテ然ラザルヲ知ルニ至レリ其他外傷慢性鼻炎、「オツエナ」梅毒、結核等ヨリ續發スルモノアリ

**病理** 竇内粘膜炎、腫脹、充血時トシテ溢血アリ浮腫狀ヲ呈シ屢々「ポリープ」或ハ肉芽増殖、側壁骨瘍ヲ來ス

**症候** 自覺的及他覺的ニ區別ス

**自覺症候** 前額鼻根及ビ眼窩部ノ鈍痛時トシテ發作性鑽痛アリ又往々上

下眼窩神經痛ヲ發ス但シ頰部ニ疼痛ヲ有スルハ稀レナリ其外他ノ鼻病ニ於ケルガ如ク鼻性神經症狀ハ殆ンド必發ニシテ又嗅覺減退、膿汁嚥下ニ因スル消化器系ノ慢性疾病ヲ併發ス若シ又嗅覺全ク脱失セザルトキハ鼻汁ノ惡臭ヲ自覺シ不快ヲ感ズ

**他覺症候**

慢性鼻加答兒症狀ヲ呈シ中鼻道附近ノ粘膜炎腫脹膨出シ又粘液茸ノ發生スルアリ多クハ中鼻道ニ膿汁ノ排出スルヲ見ルモノナレドモ又少シモ無キコトアリ鼻咽腔ニ流下スルコトアリ膿汁ハ黄色若シクハ綠色ニシテ不快ノ臭氣ヲ放ツ排膿ハ頭位ノ變換ニ伴ヒ又ハ鼻腔内腫脹ノ度ニ應ジテ異ニシテ通常朝ニ多キモノナリ膿若シ鼻内ニ交通孔ナクシテ少シモ排泄セザルトキハ犬齒窩部又ハ鼻腔内ニ向テ骨ヲ壓迫膨出シ遂ニ穿孔スルニ至ル稀レニハ眼窩部ニ壓ヲ蒙リテ眼球突出症ヲ來スコトアリ

**經過**

極メテ慢性ニシテ十數年ニ亘ルモノ少ナカラズ時トシテハ治療姑息ニ流レ病勢一進一退定マリナク且ツ患者ハ苦惱ノ爲メニ高度ノ神經障害ヲ來シ甚シキハ厭世觀ヲ起スモノアリ



豫後 概シテ佳良ナリ

診斷

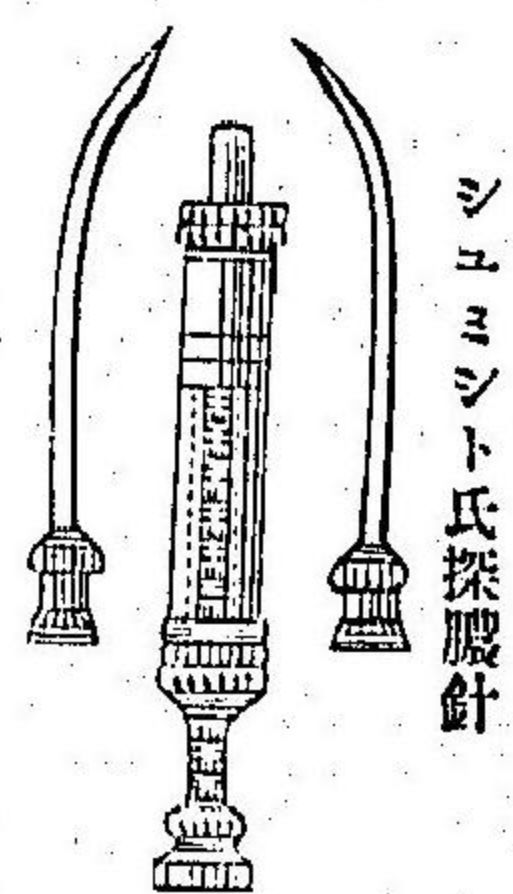
鼻閉塞アリテ膿ノ排出部ヲ認メザルモノハ慢性肥厚性鼻炎ト誤リ易シ假令膿ノ排出アルモノト雖モ他ノ副鼻腔滲膿症トノ鑑別容易ナラズ先ヅ鼻内ヲ清拭シテ後チ五%乃至十%ノ古加乙澁溶液ヲ中鼻道ニ塗布シテ粘膜炎ヲ收縮セシメ膿ノ流出部ヲ精檢スベシ

ベール、フレンケル氏ハ頭首ヲ前屈セシメ且ツ同時ニ健側ヲ少シク低位ニアラシムルトキハ竇内ノ膿汁ハ中鼻道ニ現出スト云フモ確實ナラズ又フオゼン及ビヘーリング氏電氣燈ヲ以テ口腔内ヨリ徹照スベシ偏側ノ上顎竇滲膿症アレバ健側ニ比シテ暗黒ニ透見スベシ但シ此方法ハ骨壁ニ厚薄ノ差アリテ確實ナラザルコトアリ又囊腫等トノ鑑別ニハ不充分ナルモノトス

確實ナルハシユミット氏探膿針ヲ以テ吸出シ又キヨルネル氏放水針予ハ單ニ真直ノ套管針ヲ用ヒテ充分効ヲ奏スヲ以テ下鼻道壁ヲ穿刺シ或ハキリアン氏管ヲ中鼻道ノ上顎竇口ニ挿入シ之ニ護膜管ヲ連結シ先ヅ試ミニ緩徐ニ空氣ヲ吹入スベシ膿ノ存在スルトキハ空氣ハ膿ニ混ジ水泡音ヲ聴取シ嫌惡スベキ臭

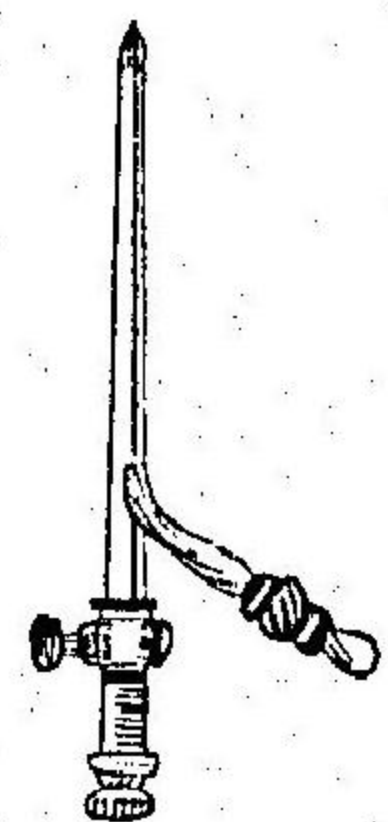
氣ヲ發生ス若シ液體ヲ注入スルキハ膿ハ液ニ混ジテ鼻孔ヨリ流出ス

圖四十七第



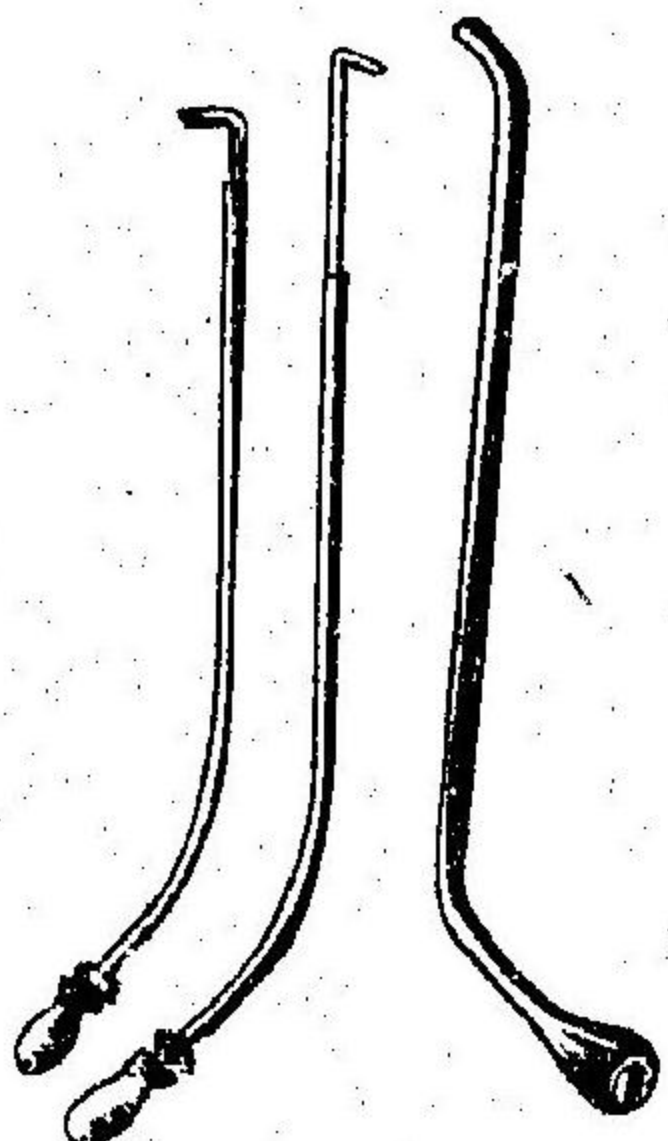
シユミット氏探膿針

圖五十七第



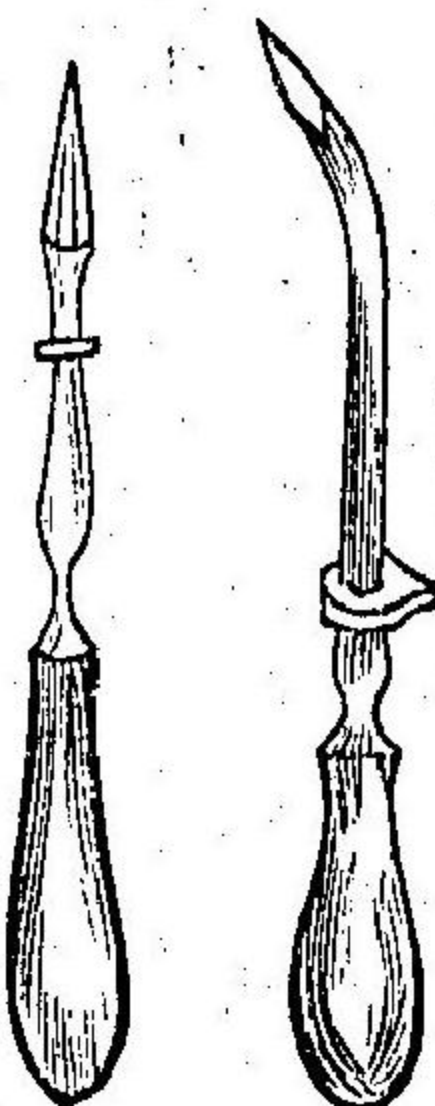
ケロルネル氏管

圖六十七第



ハルトマン氏管

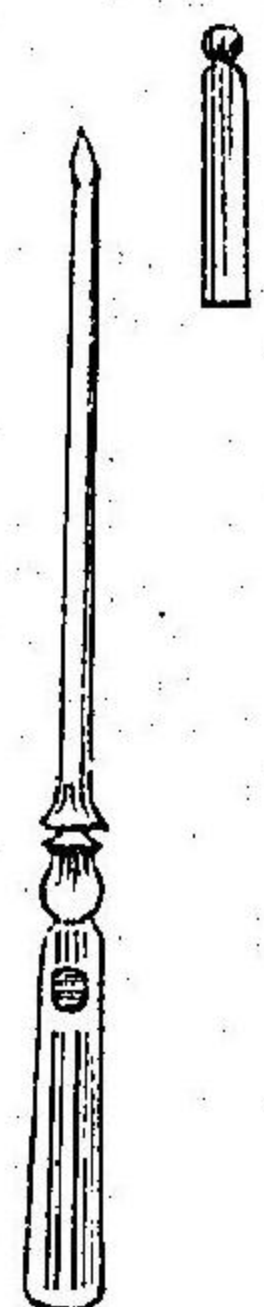
圖七十七第



クラウゼ氏穿刺器

ハルトマン氏齒槽突起穿刺器

圖八十七第  
針管套



キリアン氏上顎竇管

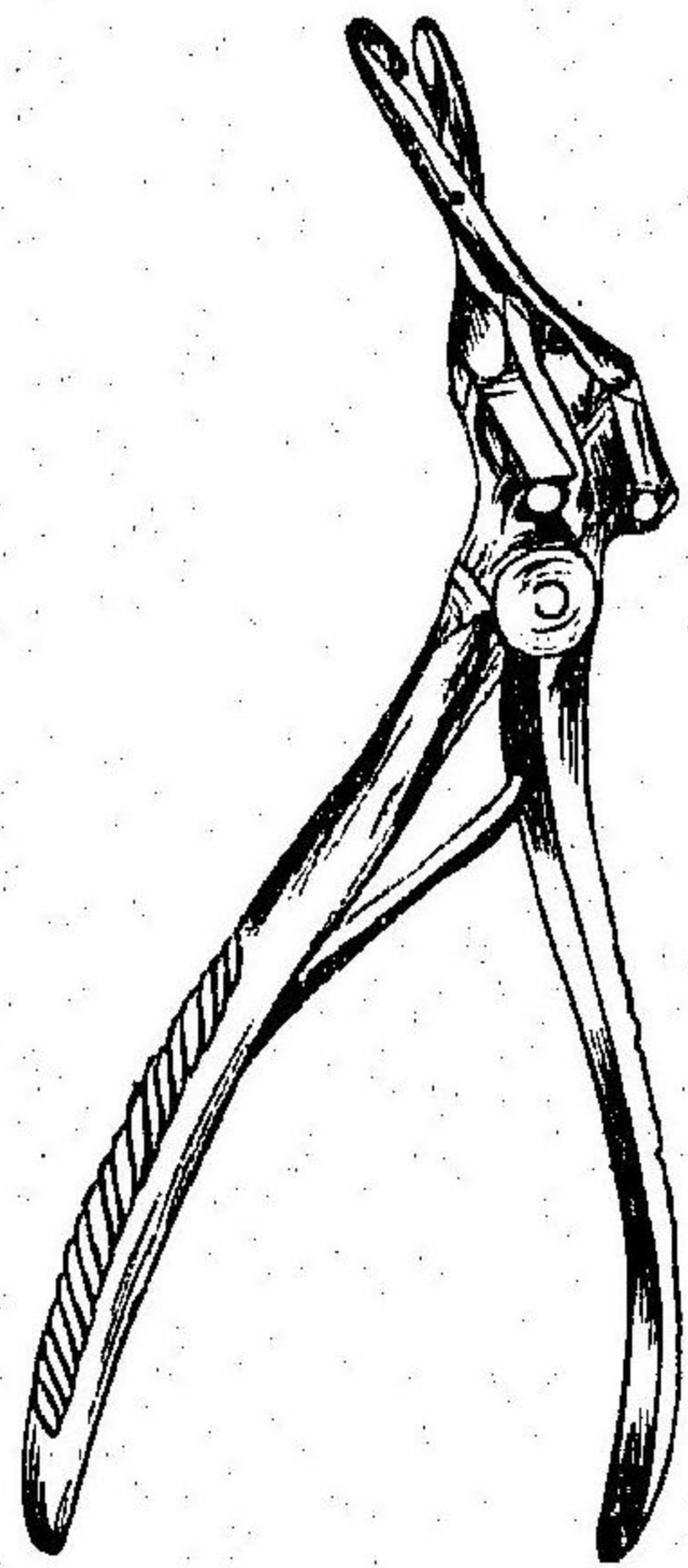
療法

外科的手術ヲ佳トス之ヲ大別シテ鼻腔内手術法、齒槽突起ヨリスル手術法、犬齒窩ヨリスル手術法トス



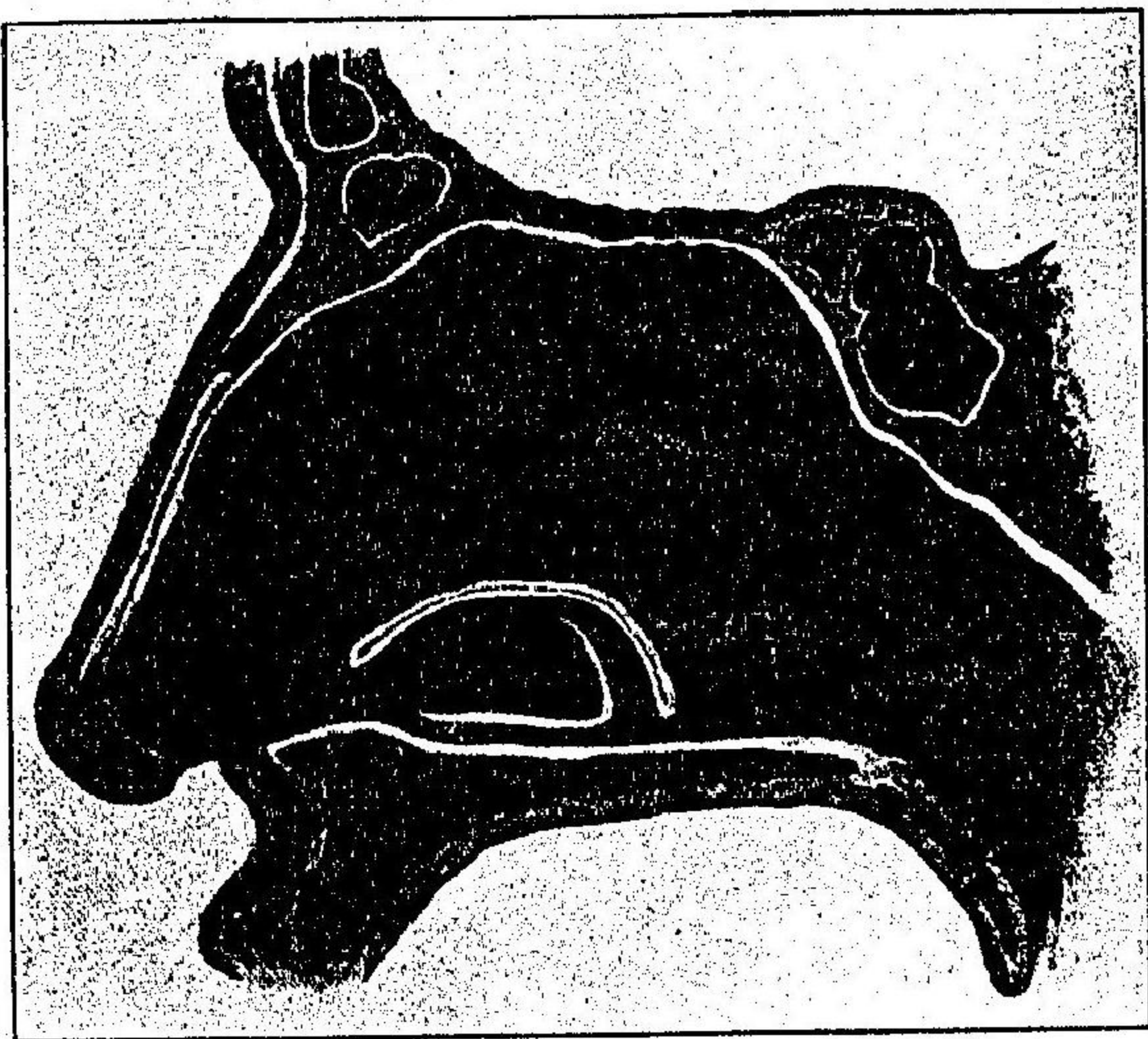
A 鼻腔内手術法

第七十九圖



ヤンセン、ミッドルトーン氏有刃鉗子

第八十圖



下甲介前部切除竝ニ下鼻道ヨリ上顎竇ヲ穿開シタルヲ示ス

1

上顎竇排出口ヨリ洗滌スル法 診断ニ使用シタル方法ト同一ニシテ先ヅ古加乙涅「アドレナリン」溶液ヲ中鼻道及ビ其附近ニ塗布シ或ハ中甲介尖端膨出シテ妨害トナルトキハ之ヲ剪除シ「ハルトマン」氏又ハ「キリアン」氏管ヲ挿入シ「硼酸水食鹽水」等ヲ以テ洗滌ス但シ竇内ニ「ポリープ」發生シ或ハ骨瘍アルトキハ奏効少ナシ

2

下鼻道ニ人工的穿孔ヲ造リ洗滌スル法 ミクリッツ氏或ハオノヂー氏クラウゼ氏等ノ穿開器ヲ以テ下鼻道側壁ニ大ナル孔ヲ作り或ハ電氣動力ヲ應用シタル「トレヒン」ヲ以テ穿通シ更ニ鑽子若クハ骨鉗子ヲ以テ其孔ヲ擴大シ種々ノ彎曲ヲ有スル銳匙ヲ以テ搔爬シ且シ洗滌スル方法ナリ此法モ亦前方ト同ジク竇内ニ「ポリープ」骨瘍等アルトキハ一時排膿ノ減少若クハ歇止スルコトアルモ再發ヲ免レズ(第八十圖)

B 齒槽突起ヨリスル手術法

(コーペル氏法(Cooper))

(コーペル)



2 **デンケル Denker 氏法** ベンニングハウス氏創意ノ法ニ基キ案出シタル

1 **デゾー、キユステル Desault-Kistler 氏法** 全身麻酔半麻酔ヲ可トス又ハ局處麻酔(中隔窓狀切除術ノ際ニ於ケル注射液三―四筒)ヲ行ヒ患側上下齒列間大小臼齒部ニ大ナル殺菌「ガーゼ」片ヲ籍入シ血液ノ咽頭ニ流入スルヲ防ギ鈍鉤又ハステルンベルヒ氏舉唇器ヲ以テ口唇ヲ舉上シ、犬齒窩ニ於テ頬粘膜翻轉部ヨリ約〇五仙迷口唇ニ近ク長サ四五仙迷ノ横切開ヲナシ骨ヲ鑿開シ竇ノ内腔ヲ窺フルニ足ルベキ穴ヲ穿テ内腔ノ病變部ヲ除去シ「ヨードホルムガーゼ」ヲ挿入シ創口ハ開放シテ術ヲ終ル

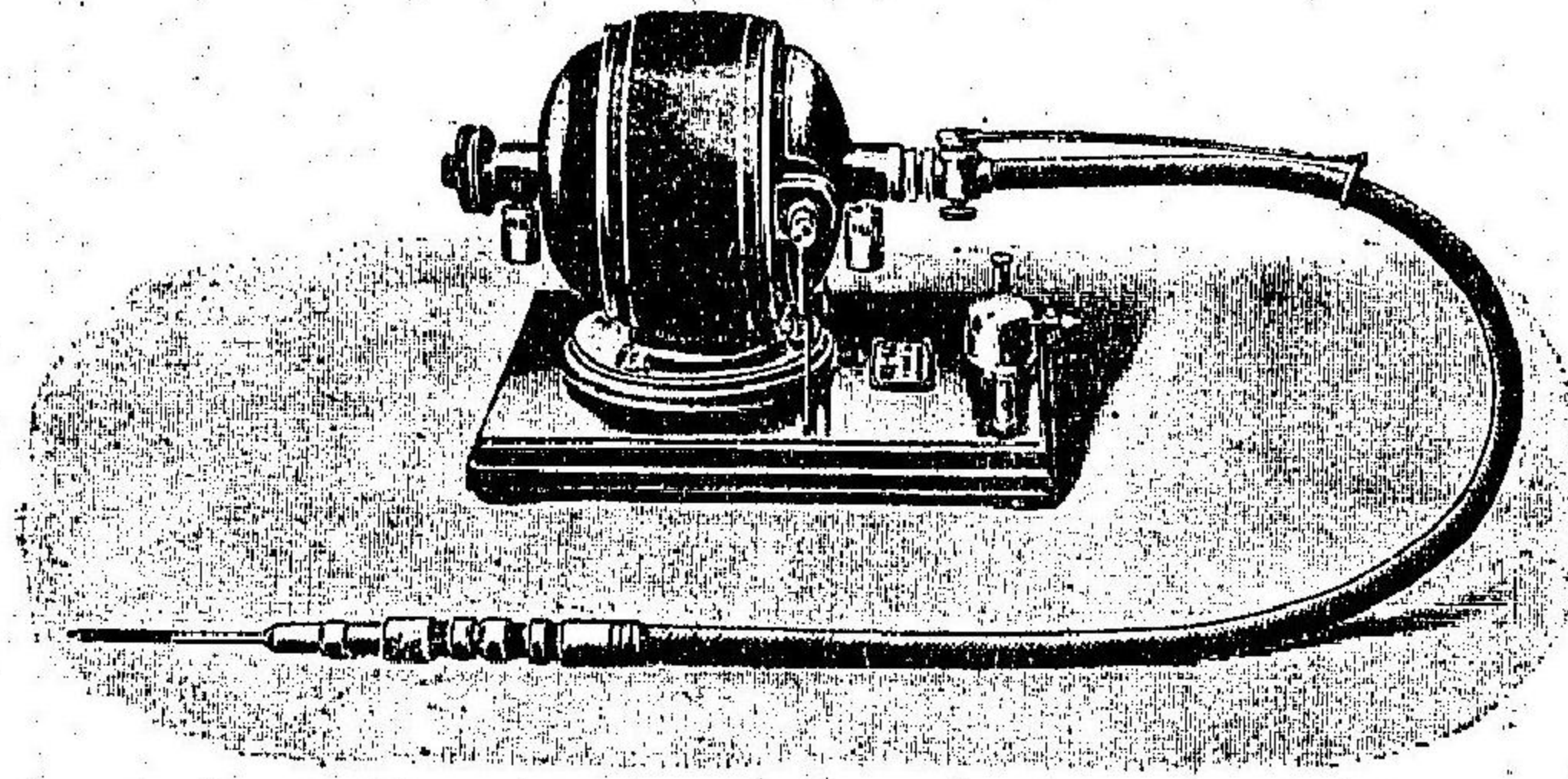
後療法ハ三四日ノ後第一回綿紗交換ヲナシ爾來毎日交換洗滌シテ數月ニ至ル

**C 犬齒窩ヨリスル法 (根治手術)**

ヲ以テ顎竇ヲ穿通シ次デ洗滌ス此法モ亦穿開孔大ナラズ故ニ充分内部ノ病變部ヲ搔爬スルコト困難ナルヲ以テ慢性症ハ根治セザルコト多シ

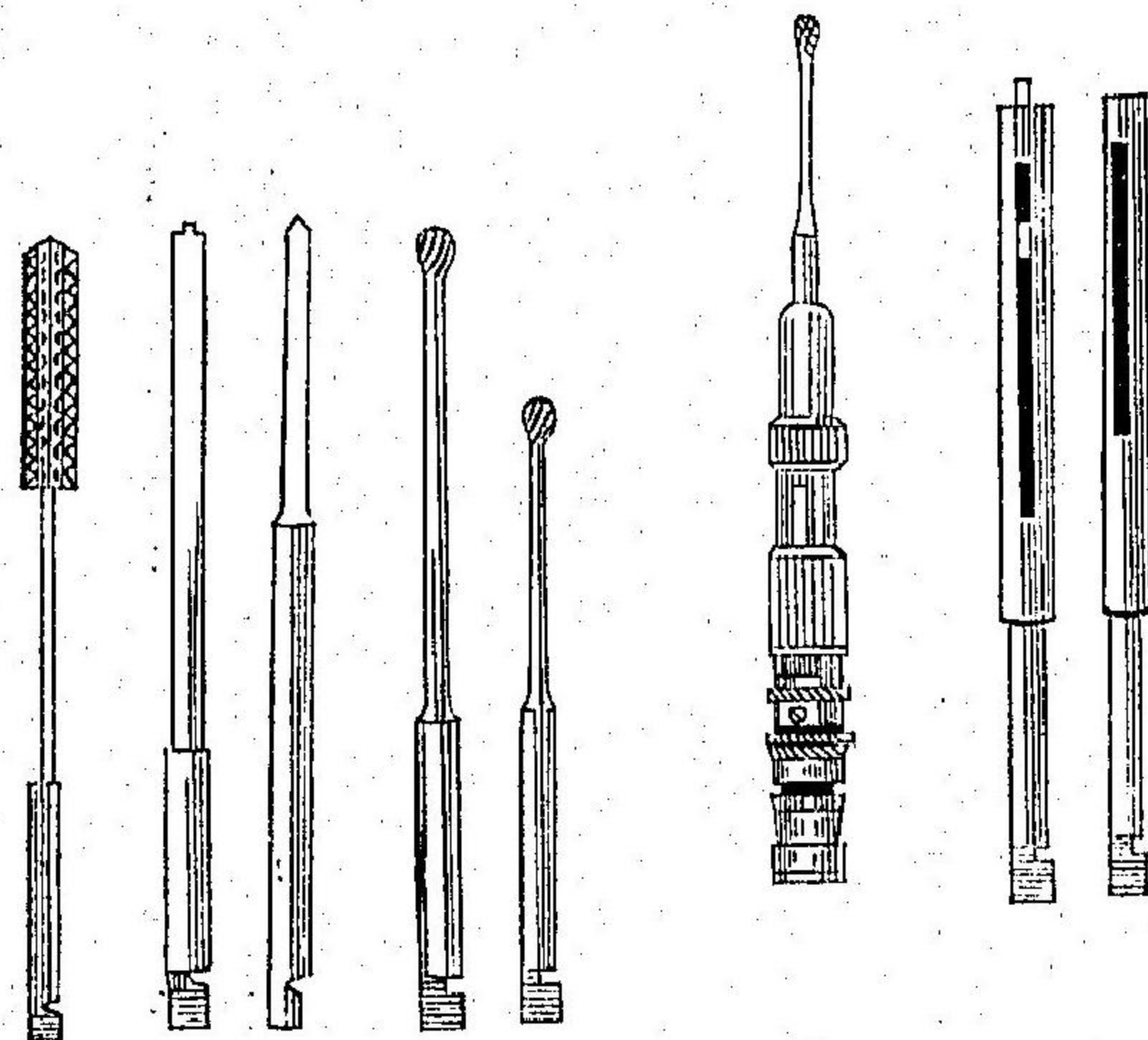
第十八圖

電氣原動機



第十八圖

同部上附器



主トシテ齶齒ニ基因スル症ニ應用スルモノニシテ鑿錐又ハ電氣力應用ノ鑿子







腫瘍腫等ナリ

第二章 前額竇ノ疾病 Krankheiten der Stirnhöhle.

急性前額竇炎 Sinusitis frontalis acuta.

原因 多クハ急性鼻炎ヨリ來ル其他急性上顎竇炎ノ原因ト同ジ(但シ齒牙ニ因スルモノナシ)又異物、外傷等ニ由ルモノ少ナカラズ

症候 主徴候ハ前額痛ニシテ同時ニ急性鼻感冒ヲ併發スルコト多シ前額痛ハ眉毛部ノ持続性壓重感ナルアリ或ハ眼ノ深部ニ發作性鑽痛ヲ感ジ膿性滲出物ヲ生ズルトキハ前額部ノ疼痛劇甚ニシテ屢々神經痛様ノ性質ヲ有ス稀レニハ前額部ノ發赤腫脹ヲ見ルコトアリ

鼻内検査所見ハ中鼻道前部ノ粘膜炎、充血、腫脹、受衝機過敏ニシテ其他熱及不快ノ全身症狀ヲ發ス

診斷 種々ノ麻醉藥、鎮痙藥温浴法等ニヨリテ輕快セザリシ前額痛ノ中鼻道前部ニ「コカイン」綿栓ヲ施シテ容易ニ緩解スルモノハ診斷ヲ助ク

療法 多クハ特殊ノ治療ヲ加ヘサルモ鼻炎ノ消散ト共ニ治癒ス又古加乙涅「アドレナリン」液等ヲ塗布シ排泄ヲ佳良ナラシムベシ

慢性前額竇炎(前額竇瀝膿症) Sinusitis

frontalis chronica (Empyema sinus frontalis).

原因 上顎竇瀝膿症ニ同ジ(但シ齒牙ニ因スルモノナシ)

症候 排泄孔ノ閉閉ニ從テ異ナリ開放性ノモノハ症狀比較的輕易ニシテ時トシテハ缺如スルコトアリ多クハ間歇性疼痛、上眼窠神經痛ヲ發シ頭首ノ前屈、咳嗽、飲酒等ノ爲メニ増悪ス又種々ノ鼻性精神機能障害ヲ發シ嗅覺鈍麻若シクハ脱失ヲ來ス其他眼症狀、結膜炎、角膜炎並ニ機能障害ヲ起ス鼻内ヨリ間歇性或ハ持続性ニ惡臭濃汁分泌アリテ中甲介ト鼻外壁ノ間ニ現ハレ又中甲介前端肥厚シ此部ニ「ポリ」プヲ發生スルコト少カラズ

粘膜炎ノ腫脹又ハ「ポリ」プ等ノ爲メニ閉塞性トナルトキハ病狀甚ダ顯著ナリ往々腦症狀ヲ併發シ時トシテハ竇内壁破壊シテ腦膜炎ヲ起スコトアリ眼窠壁モ



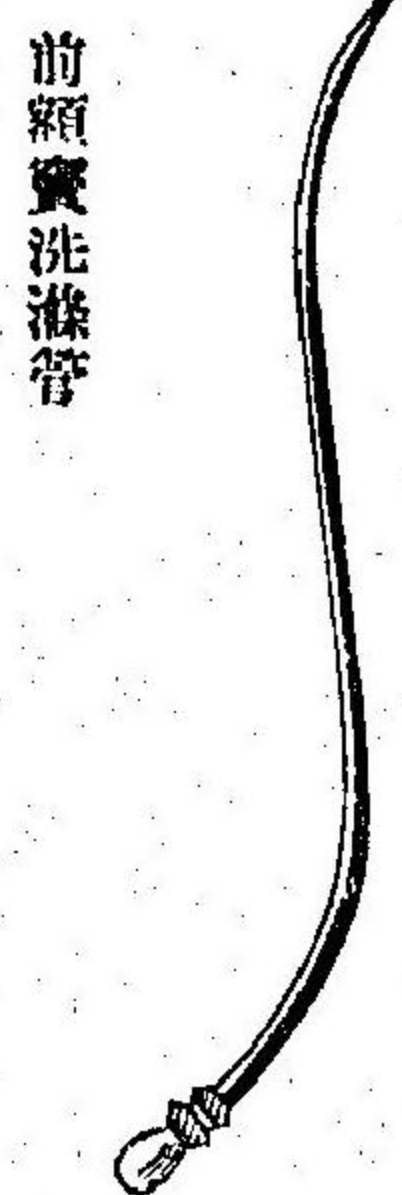
亦屢々穿孔スルコトアリテ眼球外下前方ニ壓セラレ疼痛ヲ發シ顔貌醜形ヲ呈スルノミナラズ著シキ眼ノ障害ヲ起スモノアリ

**診斷** 容易ナラズ殊ニ初期ニ於テ或ハ潜在性ノモノニ於テ然リ膿汁ハ上顎竇滯膿症ニ於ケルカ如キ嫌悪スベキ劇臭ナラズ電燈透照法、探子検査法、試驗的洗滌法、吸引法等ヲ行ヒ診斷スルコトヲ得ベシ

**療法**

中甲介ノ爲メニ排膿困難ナルモノハ之ヲ切除シ微温食鹽水又ハ硼酸水ヲ以テ洗滌ス頑固症ニハ硝酸銀水(二—五%)、プロタルゴール液等ヲ注入ス又吸引法ヲ行ヒ著効

第八十五圖



前額竇洗滌管

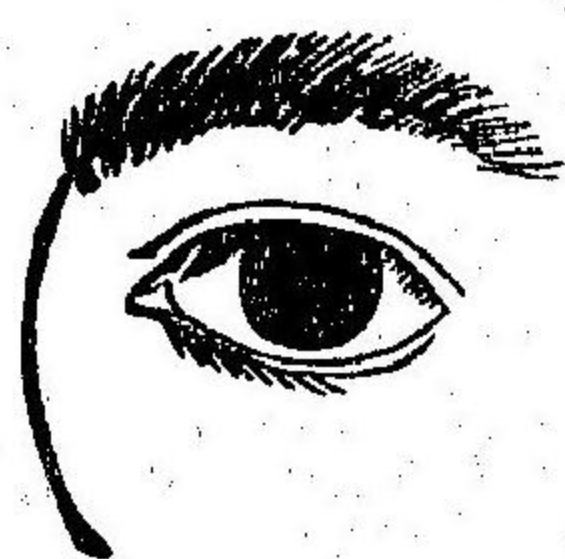
ヲ奏スルコトアリ

**キリアン氏根治手術法** 眉毛顯黚線ヨリ鼻骨下端ニ到ル皮膚切開ヲ行ヒ骨膜ニ達シ皮下蜂窩織ヲ充分ニ剝離シ鈎ヲ以テ上方ニ牽引シ骨膜ニ二個ノ切開ヲ加フ一ハ上切開ニシテ上眼窩緣ヲ距ル六—八密迷内方鼻骨上端ニ達スルモノ一ハ下切開ニシテ上顎骨前額突起ニ於テ皮切ニ一致セシム骨膜ハ皮瓣ト共ニ

上方ニ牽引シ鑿ヲ以テ廣ク前壁ヲ開キ充分竇内ノ病的組織ヲ搔爬シ了レバ更

第八十六圖

キリアン氏手術  
皮膚切開線



ニ竇底ニ向テ進ミ近圍ノ骨壁、病的篩骨蜂窩組織等ハ鉗子又ハ銳匙ヲ以テ必要アラバ鑿ヲ以テ遺漏ナク之ヲ除去シ上眼窩緣ハ橋狀ニ殘スヲ佳トス次デ全部若シクハ大部分ノ皮膚縫合ヲ行ヒ綿紗又ハ排膿管ヲ挿

入シ術ヲ終ル

前額竇新生物ハ纖維腫、骨腫等ナリ

**第三章**

**蝴蝶竇ノ疾病**

Krankheiten der Keilbeinhöhle.

蝴蝶竇炎ハ臨床上一只化膿性ノモノヲ見ルヲ得ベシ

**症候**

頭痛ヲ主トス後頭部或ハ眼ノ深部ニ疼痛アリ膿性分泌ハ鼻中隔後緣ニ於テ中甲介ノ高サニ當リテ現出シ或ハ後鼻腔ニ流出ス

**療法**

洗滌ヲ行フベシ時トシテ中甲介切除術ヲ要ス



### 第四章 篩骨蜂窩ノ疾病 Krankheiten der Siebeinzellen.

篩骨蜂窩滯膿症 ヲ主トス其ノ發生ハ他ノ副鼻腔病ト同ジ

症候及經過 急性症ハ深部頭痛劇シク鼻根部ニ煩累ナル鈍痛或ハ鑽痛アリ慢性症ハ分泌物滯溜シ竇粘膜ノ囊腫様變性ヲ來シ又骨胞腫ヲ生ジテ鼻閉塞

鼻涙管壓迫眼窩内下壁ノ膨脹鼻背ノ擴大兎眼等ヲ起ス其他通常嗅覺脫失或ハ

減退ヲ來ス

診斷 中甲介縁ト鼻外壁間ノ膿汁ハ前篩骨蜂窩滯膿症ニ現ハル、者ニシテ

上鼻道或ハ嗅裂ノ膿汁ハ後篩骨蜂窩滯膿症ニ見ル處ナリ

療法 鼻粘膜ノ増殖肥厚部或ハ鼻茸ヲ除去シタルノミニテ排膿佳良トナリ

爲メニ治癒スルコト少ナカラズ

鼻外手術ハ屢々施行セラル、モノニ非ズ多クハ鼻内手術ナリ豫メ中甲介及ビ

鼻茸等ヲ切除シグリューンワルド氏有刃鉗子若シクハハエック氏銳鉤又ハ銳匙

ヲ以テ蜂窩骨壁ノ數ヶ所ヲ破壞シテ充分ニ搔爬ス

附圖 鼻腔切斷面



A 前額斷

5 鼻中隔棘狀隆起

B 矢狀斷 (鼻中隔壁)

- 1 方形軟骨
- 2 鉛直板
- 3 蝴蝶竇
- 4 歐氏管隆起
- 5 歐氏管口
- 6 後鼻棘
- 7 鋤骨
- 8 鼻中隔側極
- 9 前鼻棘

C 矢狀斷 (鼻側壁)

- 1 蝴蝶竇
- 2 中甲介切斷端
- 3 後篩骨竇口
- 4 前篩骨竇口
- 5 前額竇
- 6 半月狀裂孔
- 7 上顎竇口部
- 8 鼻涙管口
- 9 篩骨胞
- 10 下甲介切斷端



第三編

鼻咽腔ノ疾病

Krankheiten der

Nasopharynxes.

第一章

急性鼻咽腔炎

Rhinopharyngitis acuta.

本症ハ屢々見ル處ノ疾病ニシテ或ハ鼻及咽頭炎ニ續發シ或ハ原發性ニ來リ次  
デ鼻腔及ビ咽頭ニ蔓延ス

**原因及病理** 急性鼻炎ト同一ナリ屢々咽頭扁桃腺肥大シ腺窩ニ膿栓ヲ見ル  
コトアリ其性狀及外觀ハ口蓋扁桃腺炎ニ於ケルガ如シ

**症候** 鼻或ハ咽頭炎ノ症候ノ爲メニ隱匿セラレテ著シク感ゼザルモノ多シ  
ト雖モ亦後頭部項部ノ局處疼痛歐氏管閉塞ニ因スル種々ノ耳症狀即チ耳鳴難  
聽充塞感耳痛等ヲ發スルヲ特徴トス

後鼻検査ヲ行フトキハ鼻腔粘膜發赤腫脹シテ粘液性分泌物ヲ附着シ咽頭扁  
桃腺腫脹シ白色又ハ黄色ノ膿栓固着スルヲ見ル(腺窩性咽頭扁桃腺炎)

**合併症**

歐氏管炎中耳炎鼻炎及ビ咽頭炎等ナリ



豫後 佳良

療法 急性鼻炎ノ療法ト同シ

第二章 慢性鼻咽腔炎 Rhinopharyngitis chronica.

慢性症ハ稍屢々見ル處ノ疾病ニシテ注目スベキモノナリ

原因 急性症ノ轉ジタルモノ少ナカラズ又慢性鼻炎及咽頭炎ニ續發シ喫煙

飲酒苛辛刺激嗜好品等モ其因ヲ成ス

症候 他覺的症候ハ多クハ粘膜肥厚シ浸潤充血中等量ノ粘稠ナル分泌物ヲ

附着シ濾胞ハ肥大スルヲ見ル又咽頭扁桃腺肥大中咽頭窩ニトルンワード氏囊

腫ヲ形成スルコトアリ又歐氏管咽頭壁附近ノ組織ハ肥厚増殖シ時トシテハ下

方ニ延長シ後口蓋弓ノ後方ニ當リテ索狀又ハ珠數狀ノ隆起ヲ呈スルモノアリ

(側索咽頭炎)自覺的症候ハ病症ノ輕重及持續ニヨリテ異ナルモ多クハ乾燥異物

感アリテ嚔咳或ハ吸吸狀運動ニヨリテ咯出排除ヲ試ム此際動モスレバ出血ス

ルコトアリ其他惡心嘔吐發語障害ヲ來シ分泌物ノ集積ニヨリテ鼻閉塞ヲ起シ

或ハ嚔下ニヨリテ慢性胃加答兒ヲ惹起ス又項部及肩胛部ノ拘攣様壓痛ヲ來ス  
コト少ナカラズ以上ノ如キ肥厚性症ニ反シテ粘膜及濾胞ノ削瘦ヲ來スコトア  
リ所謂乾性咽頭炎是レナリ粘膜ハ滑澤ニシテ分泌少ナク固ク粘膜ニ膠着シ容  
易ニ排除スルヲ得ズ色ハ褐色黑褐色ヲ呈シ久シク滯留セルモノハ臭氣ヲ放ツ  
經過及豫後 緩慢ニシテ再發シ易ク往々生涯全治セザルモノアリ  
療法 原因ニ注意シ之ヲ除クヲ要ス局處療法ハ最モ必要ニシテ鼻浴噴霧塗  
布沃度石炭酸グリセリン液吹粉或ハ搔爬等ヲ應用ス

處方

- |          |         |      |      |
|----------|---------|------|------|
| 1 安息香酸曹達 | 一〇      | 3 硼砂 | 一〇〇〇 |
| 滑石末      | 五〇      | 重曹   | 一〇〇  |
| 右吹入料     |         | 佩里設林 | 二〇〇  |
| 2 硝酸銀    | 〇、三—一、〇 | 蒸溜水  | 八〇〇  |
| 澱粉       | 一〇〇     | 右噴霧料 |      |
| 右同上      |         |      |      |



### 第三章 腺樣增殖症(咽頭扁桃腺增殖症)

Adenoide Vegetation (Hyperplasie der Rachenmandel).

慢性鼻咽腔炎ニ於テ腺組織ノ肥厚スルコトハ前章ニ之ヲ述ベタリ茲ニ腺增殖症ト稱スルハ似テ異ナルモノニシテ初メツエルマーク氏、フオルトリニー氏等ニ據テ觀察記載セラレ後チコッペンハーゲン市ガウキルヘルム、マイエル氏、W. Meyer (一八六八年)ノ豐富ナル材料ニ就テ其病理、組織、原因、症候及療法等ヲ詳説シタルニヨリテ闡明トナリシモノニシテ腺樣增殖症 Adenoide Vegetation. ノ名ハ實ニ同氏ニヨリテ命セラレタルモノナリ本症ハ殆ンド全ク小兒病ニシテ學令期ニ最モ多ク十五歳以上ニ至レバ稍少ナク大人ニ見ルハ稀ナリ而シテ本症ノ發生ニハ男女貧富ノ差別ナキカ如シ只海濱ハ山地ヨリ多ク、白人種ハ他人種ヨリ多キカ如シ

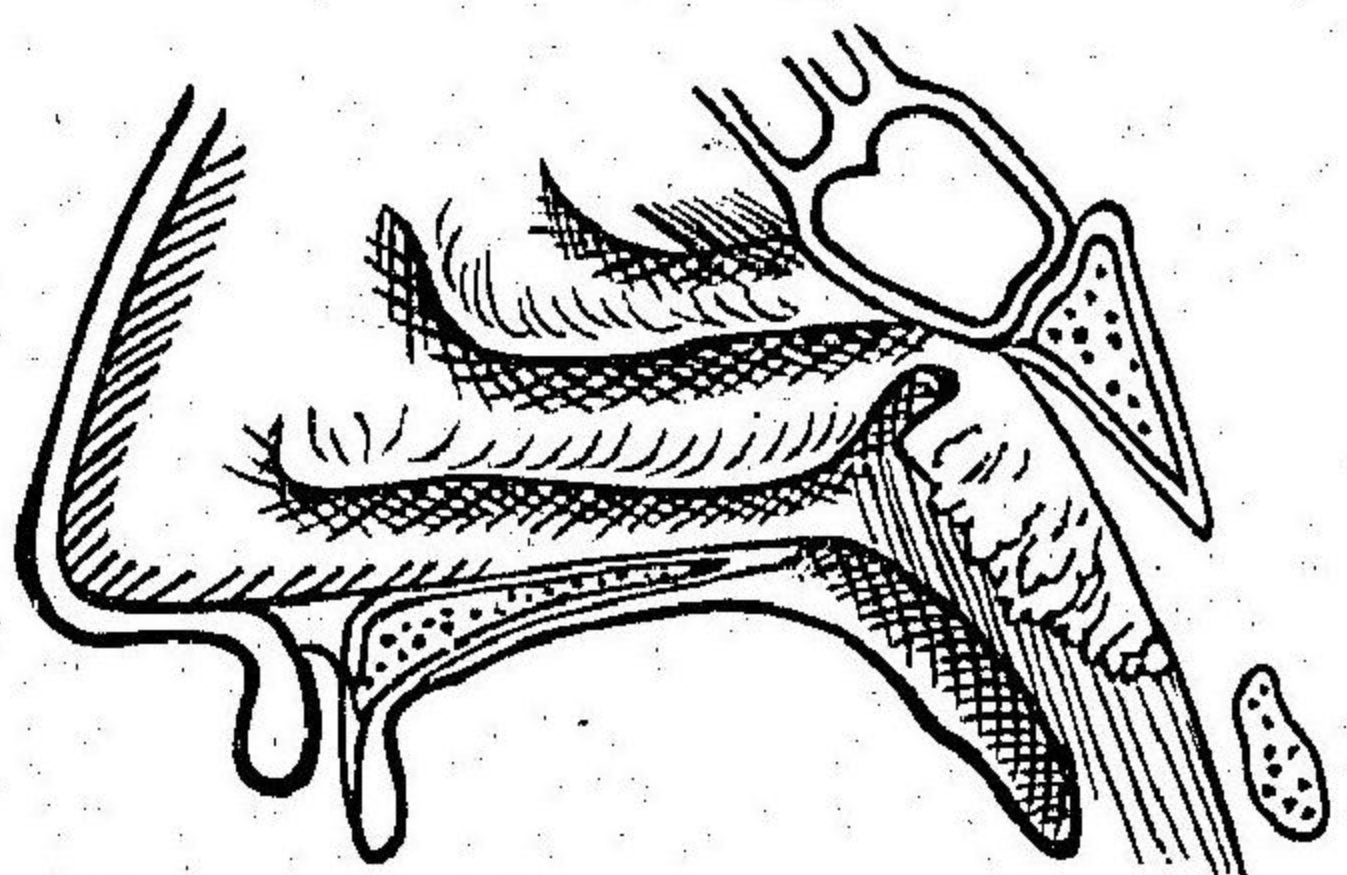
**原因** 多クノ點ニ於テ猶不明ナリ遺傳ノ關係ハ幾ンド疑フベカラザルガ如ク

一家數人若シクハ近親等ニ之ヲ實驗スルコト稀ナラズ其ノ主要ナル誘因ト認ム可キハ上部氣道ノ急性炎、種々ノ傳染病殊ニ麻疹、流行性感胃、實扶埜里百日咳、猩紅熱等ナリ

#### 病理解剖 肉眼的二種ノ形態ヲ區別ス

- A 圓形ノ腫瘤ニシテ表面ハ四條乃至五六條ノ縱溝ニ由リテ分葉狀ヲ呈ス大ナルハ胡桃大ニシテ後鼻竇ヲ充塞スルモノナリ
- B 瀰蔓性ニシテ單一腫瘤狀ヲナサズ個々分立シ或ハ簇生シテ隨所之ヲ發生シローゼンミユルレル氏窩、歐氏管隆起等ニ及ブモノアリ

圖七十八第 (面斷狀矢) 腺樣增殖腔咽鼻

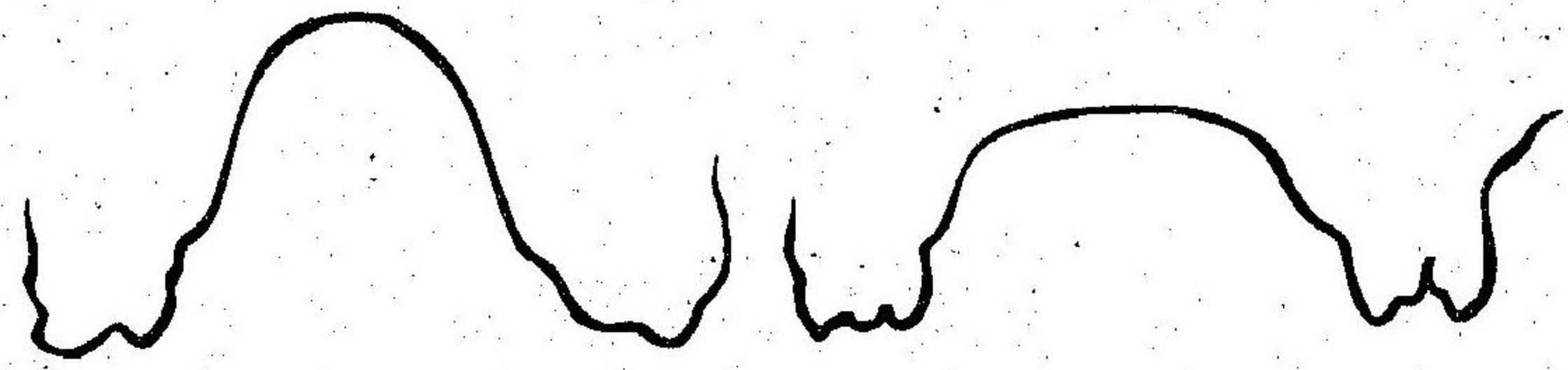


兩種ノ形態共ニ粘液ヲ以テ被ハル硬度ハ一様ナラズ硬固ナルモノアレドモ通常柔軟ニシテ指ヲ以テ碎破シ得ベキ脆弱ニシテ恰モ天鵝絨ニ觸ル、ガ如シ組織的構造ハ網狀結締織ト多數ノ淋巴細胞ヨリ成リ上皮ハ圓柱或ハ毘毛上皮



第八十九圖

畸形口蓋 常形口蓋

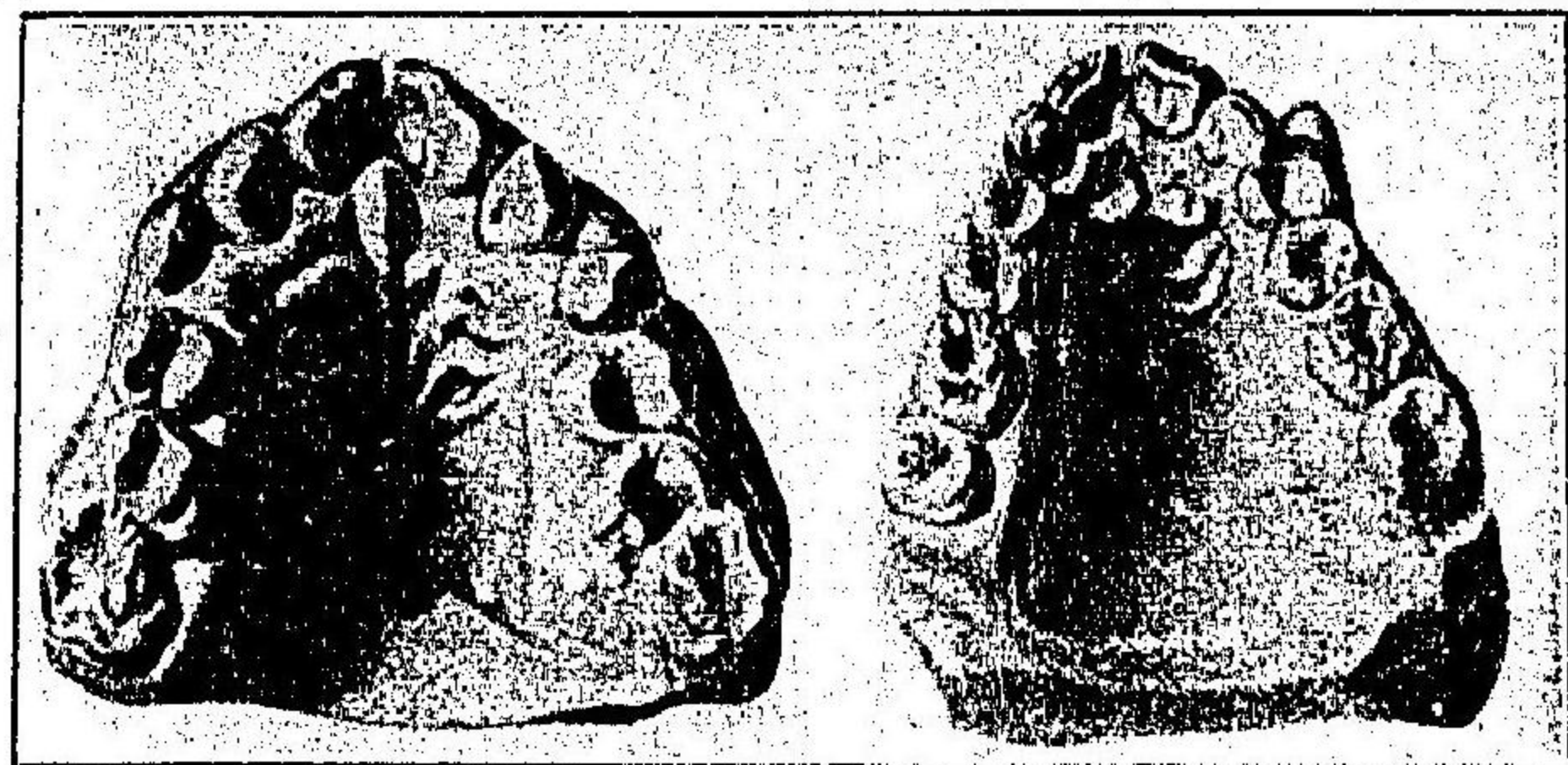


模範的「アデノエテ」顔貌

第九十圖

第九十一圖

(ル據ニ氏ルネルヨキ)形畸蓋口ル因ニ症殖増腺桃扁桃咽



第八十八圖

鼻咽腔腺樣增殖症 (後鼻檢査)



ナリ處々ニ無色細胞ノ遊走スルアリ且ツ多クノ濾胞ヲ有ス其他陳舊症ニハ結  
締織ノ增殖血管壁ノ肥厚及ビ硝子樣變性ヲ見ル或ハ出血ニ因スル黄色素ヲ見  
ルコトアリ

症候

增殖ノ程度廣袤及ビ患者

ノ年齢ニ從テ一樣ナラズト雖モ其  
主徴候ハ鼻閉塞ニシテ鼾聲高ク幼  
少ノモノハ爲メニ睡眠不安床中煩  
悶往々俄然蹶起スルコトアリ其他  
言睡ハ閉塞性鼻聲トナリ常ニ口呼  
吸ヲ營ム本症ハ幼時ニ於テ永ク持  
續スルトキハ一種特有ノ顔貌ヲ呈  
スルニ至ルモノニシテ即チ顔面筋  
弛緩鼻唇溝消失シ常ニ半開口狀ヲ呈シ顔面ノ表情動作遲鈍トナリ外鼻ノ發  
育不完全ニシテ所謂「アデノエテ」顔貌ト稱スル痴貌ヲ呈スルモノナリ又抑壓作



業倦怠、頭重、記憶減退等ノ鼻性精神機能障害ヲ起ス  
 合併症及續發症ノ主要ナルハ聽器障害ニシテ歐氏管閉鎖又ハ急性及慢性中耳  
 炎ヲ起シ耳鳴、難聽、耳漏等ヲ來スモノ多シ其ノ他上部氣道ノ加答兒症ヲ發シ易  
 キモノニシテ鼻粘膜充血腫脹シ持久性ノモノハ肥厚性鼻炎ヲ續發シ鼻汁分泌  
 亢盛、鼻孔糜爛、發赤或ハ衄血ヲ來スコト稀ナラズ又慢性咽頭炎ヲ生シ咳嗽頻發  
 スルコトアリ口蓋及舌扁桃腺肥大症ヲ兼ネ且ツ時トシテハ口蓋骨ノ畸形齒列  
 不整、胸部發育不全、貧血、惡液質、遺尿、喉頭痙攣、急痲發作ノ原因トナルコトアリ

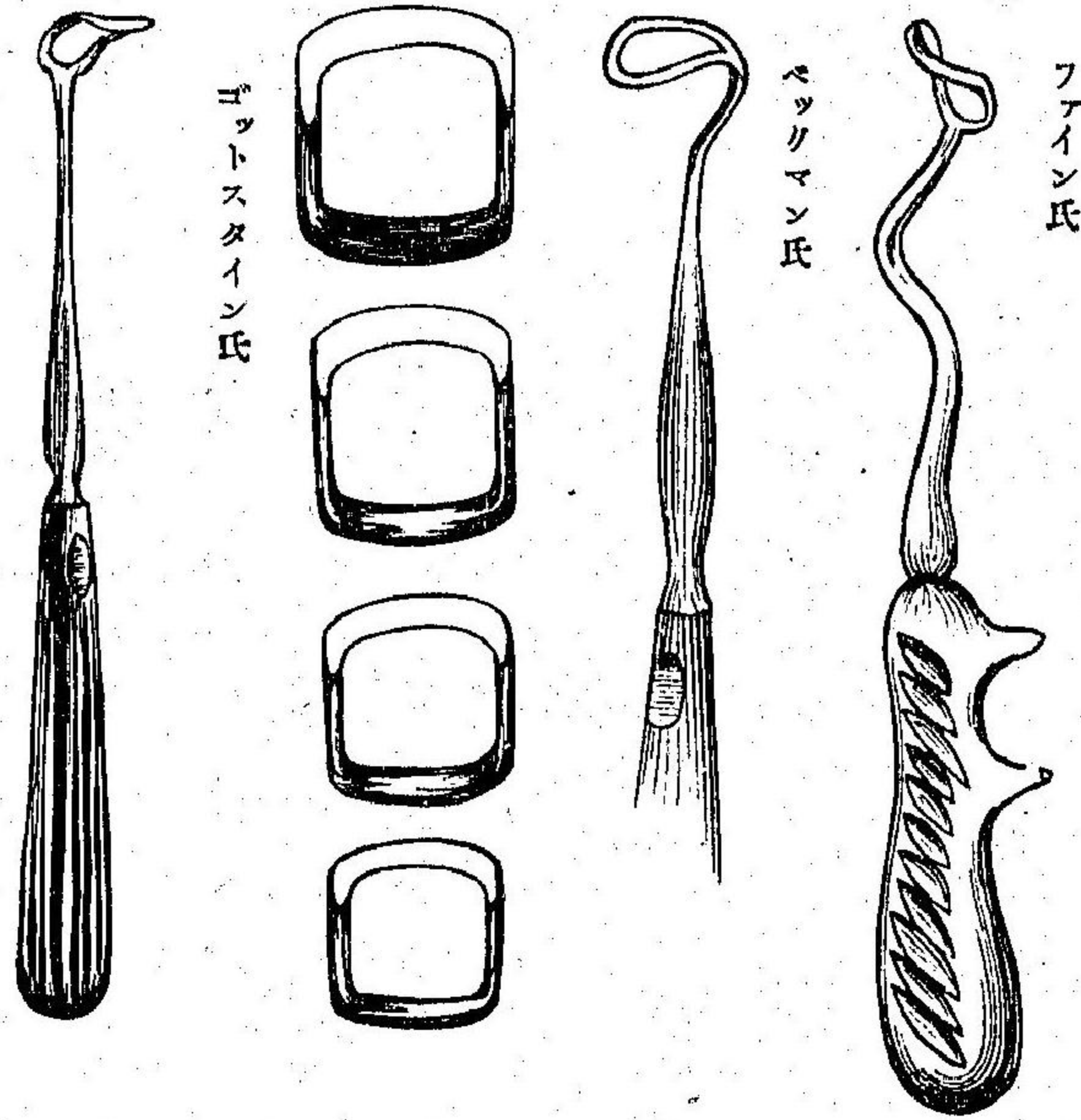
**診斷** 前鼻検査法ニヨリテ視ルヲ得ルコトアリト雖モ通常後鼻検査法又ハ  
 觸診法ニ據ラザルベカラズ前述ノ諸症狀ヲ綜合參酌スレバ難事ニ非ズ只鼻咽  
 腔其表面平滑硬固、咽頭後壁膿瘍、疼痛嚥下困難、惡性腫瘍附近組織ヲ破壞シ易シ  
 等ト判別ヲ要スルコトアリ

**豫後**

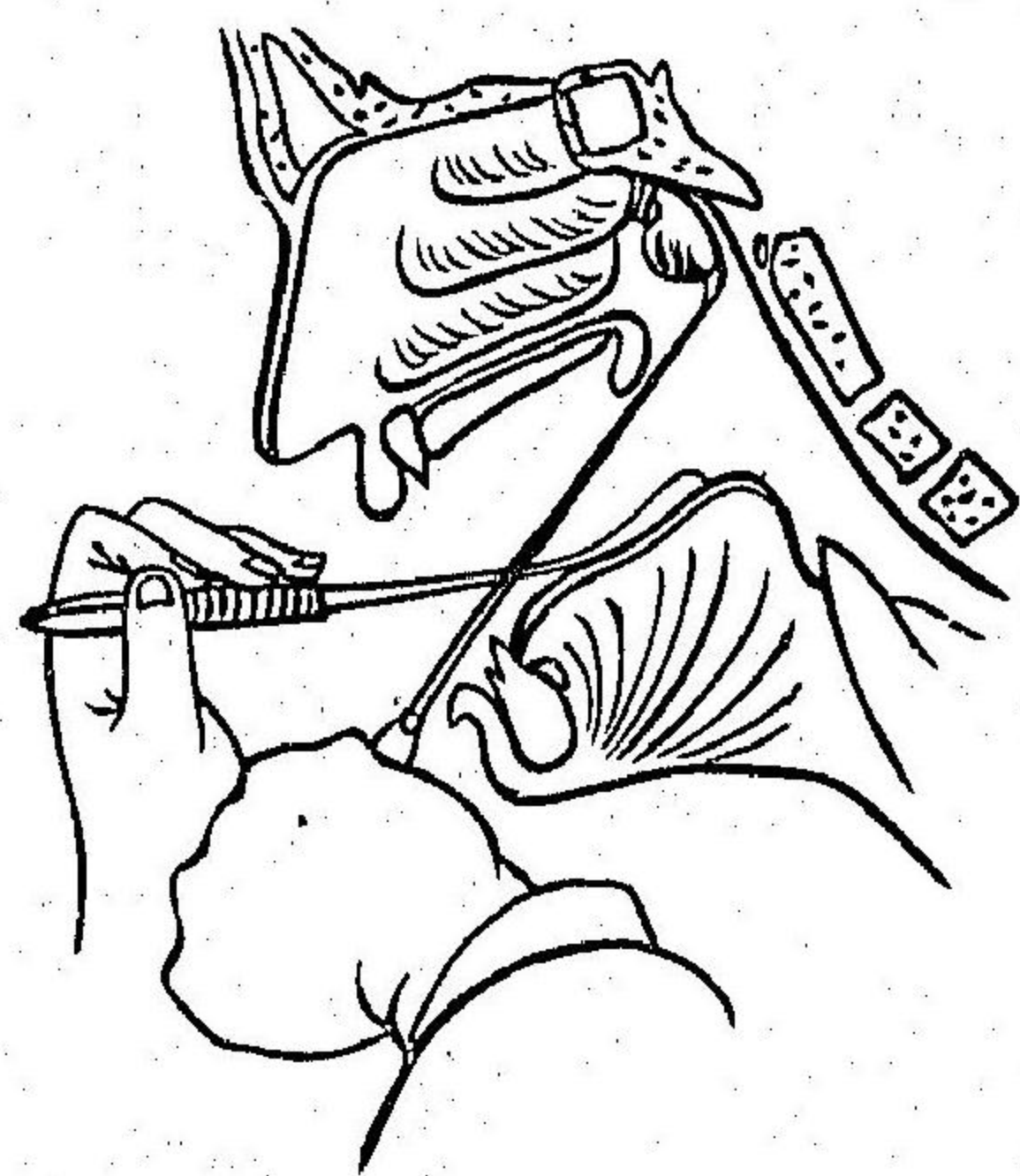
一定ノ年齢ニ達スレバ萎縮スルコトアレトモ其以前ニ於テ種々ノ障  
 害ヲ他ニ及ボシ殊ニ學令期ニ多キモノナルガ故ニ智育ノ妨害トナルコト甚シ  
 キヲ以テ萎縮ノ來ルヲ待ツノ愚ヲ學ブベカラズ宜シク速ニ手術スベキモノト

ス手術スレバ速ニ諸症狀消散シ數日ニシテ治癒ス但シ時トシテハ再發スルコ  
 トアリ

圖 二 十 九 第  
刀 狀 輪



第九十三圖 咽頭扁桃腺切除法



**療法**

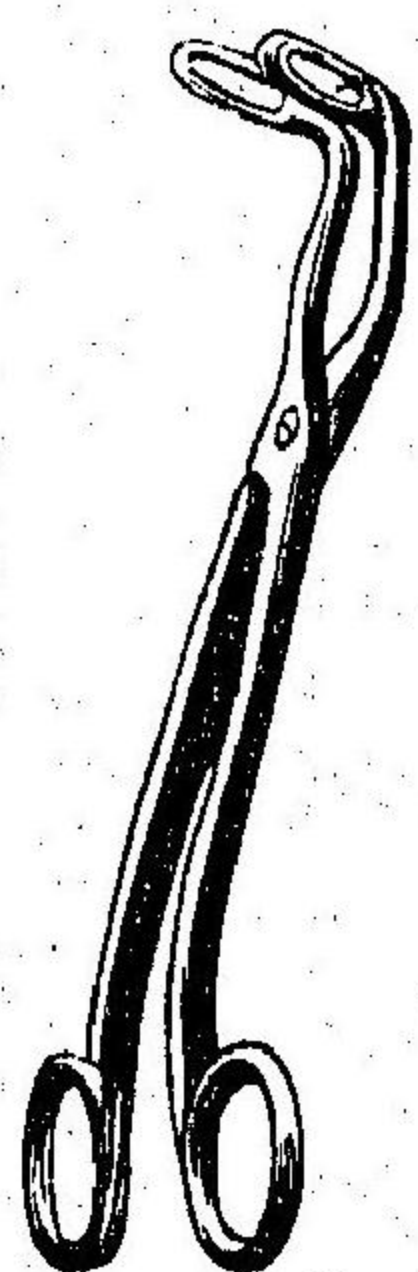
沃度劑内服、沃度液塗布等ハ姑息療法ニシテ奏効著シカラザルヲ常ト



ス最モ確實ニシテ安全ナルハ切除術ナリ但シ手術後ニ服藥及ビ塗布ヲ應用スルトキハ恢復ヲ補助スルモノナリ

手術法種々アリ通常口腔ヨリスルヲ佳トス器械ハ鉗子或ハ銳匙等ヲ用フル方  
法アリト雖モ實地上最モ賞用セラル、ハベツクマン氏輪狀刀(ゴットスタイン  
氏輪狀刀ノ變形)ナリトス先ヅ豫メ合漱ヲ行ハシメ局處ニハ五—一〇%古加乙

第九十四圖



ニューラス氏後鼻腔鉗子

ニ熟練ニ歸セザルベカラズ

切除後出血ハ著シカラズ且ツ暫時ニシテ止ム術後兩三日ハ熱性食餌ヲ禁ジ合  
漱並ニ食鹽水又ハ硼酸水鼻腔内注入ヲ施行セシムベシ通例四五日乃至七日ニ  
シテ全治スルモノナリ

第四章 鼻咽腔腫瘍 Geschwülste der

Nasenhöhlenraumes.

鼻咽腔纖維腫 Nasenhöhlenfibrom.

後頭骨基礎纖維軟骨上頸椎或ハ蝴蝶骨ノ翼狀突起又ハ體或ハ口蓋骨鉛直板等  
ヨリ發生シ鼻咽腔ニ顯出スルモノニシテ男性ニ多シ

症候

鼻閉塞著明ニシテ増大スルトキハ兩側同時ニ密閉シ少シモ鼻呼吸ヲ  
營ムコト能ハズ常ニ閉塞性鼻聲ヲ發シ且ツ聽力障害ヲ起ス又屢々大出血ヲ來  
スモノナリ發育著シク周圍ノ各部ニ向テ増大スルトキハ外鼻及顔面ノ膨出ヲ  
來シ或ハ咽頭ニ突出シテ嚥下困難次デ呼吸困難ヲ起シ眼窩骨壁ヲ侵ストキハ  
眼球突出涙漏ヲ來シ又三叉神經痛、兎眼、眼運動障害、視力障害等ヲ發ス若シ頭蓋  
腔内ニ侵入スルトキハ腦症狀ヲ惹起シ危險ニ陥ル如此本症ハ臨床上正シク惡  
性腫瘍ノ型態ヲ具フルガ如シト雖モ決シテ轉移スルコトナク又近隣諸組織ヲ  
浸潤崩壞スルコトナキ點ハ眞ノ惡性腫瘍ノ列ニ入ル、ヲ得ザル處ナリトス  
鼻内検査ヲ行フニ著變ヲ有セザルアリ或ハ蒼白又ハ淡紅色腫瘍ノ粘液膿樣ノ



分泌物ヲ以テ披蓋セラル、アリ探子ヲ以テ之ニ觸ルレバ直ニ出血ス口部咽頭ヲ検査スルニ小ナルモノハ何等ノ異常ヲ認メザルモ稍ヤ著シク發育セルモノハ軟口蓋ハ壓出セラレ若クハ後面ヨリ腫瘍ノ露出スルモノアリ後鼻検査ヲ行フトキハ表面平滑ノ腫瘍ヲ認ム

**鑑別** ヲ要スベキハ「ポリープ」及肉腫ナリ「ポリープ」ノ鼻咽腔ニ垂下セルモノハ常ニ有莖性ニシテ而モ細長ナリ纖維腫ハ廣キ基底ヲ有シ且ツ其發育迅速ニシテ近隣ヲ壓迫ス

肉腫ノ崩壞ハ浸潤性ナレドモ纖維腫ハ器械的壓迫ニヨルヲ異ナリトス且ツ組織ノ鏡檢ニヨリテ判定スルヲ得ベシ

**豫後** 動モスレバ危険症ヲ起スコトアリ

**療法** 姑息療法及根治療法ノニアリ

**姑息療法** ハ呼吸及嚥下困難ヲ去リ且出血ニ因スル衰弱ヲ防グヲ主トスルモノニシテ電氣分解法或ハ電氣蹄係法ヲ適當ナリトス又麥角内服モ多少ノ効アリ根治療法ハ豫備氣管切開術ヲ行ヒ次デ前提手術即チ外鼻瓣轉上顎骨或ハ口蓋

板ノ一時的切除ヲ施シ後チ腫瘍ヲ根底ヨリ剔出スルモノナリ然レドモ此手術ハ危険ヲ來スコト稀レナラズ

**鼻咽腔惡性腫瘍** Bösartige Geschwülste der

Nasenhöhle.

鼻咽腔ニ來ル惡性腫瘍ハ肉腫及ビ癌腫ニシテ咽頭腔及ビ鼻腔ヨリ蔓延スルモノ多シ

**第五章 傳染性新生物** Infectiöse Neubildungen der

Nasenhöhle.

**鼻咽腔梅毒** Syphilis rhinopharyngis.

- 初期梅毒ハ病毒ノ附着セル歐氏管「カテーテル」ニヨリテ發スルコトアリ
- 二期梅毒ハ鼻梅毒ヲ参照スベシ
- 三期梅毒ハ軟口蓋上壁ニ發スルコト最モ多ク幾シト毎ニ潰瘍ヲ見ルモノニシ



ヲ咽頭穹窿、鼻中隔後緣、後壁、側壁或ハ口部咽腔ニ蔓延ス

**症候** 嚥下痛、軟口蓋腫脹發赤、屢々後頭部ノ疼痛、耳痛ヲ有ス、分泌物ハ多量ニ

シテ粘液膿性又屢々混血性ナリ、本症ニ於ケル消化器障害及ビ惡液質ハ此ノ如キ分泌物ノ嚥下ニ基因スルコト多シ

**診斷及療法** 鼻梅毒ヲ參照スベシ

**鼻咽腔結核** Tuberculosis rhinopharyngis.

原發性結核ハ稀レニシテ時トシテハ潜伏性咽頭扁桃腺結核ノ存在スルコトアリ

續發性結核ハ鼻結核或ハ咽頭結核ヨリ來ル

**症候** 鼻腔結核ノ如ク浸潤腫瘍及ビ潰瘍ヲ形成ス、自覺症狀ヲ有セザルアリ

潰瘍ヲ生ズレバ、耳ニ放散スル疼痛、異物樣感、嚥下痛ヲ起ス

**診斷及療法** ハ鼻結核ヲ參照スベシ

11	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24
斜	橫	口	口	歐	食	會	咽	舌	舌	口	後	下	內	右	右	無	下	鎖	左	甲	下	上	後	右	左	舌	舌	ウ	迷	氣	大	奇	下	左	右
拔	披	蓋	蓋	氏	會	會	頭	頭	頭	蓋	鼻	岩	頸	鎖	內	名	甲	骨	頸	狀	喉	喉	環	反	反	下	咽	キ	走	管	動	行	行	無	無
裂	裂	張	咽	咽	軟	軟	窩	窩	窩	帆	腔	標	靜	骨	頸	狀	下	下	動	動	狀	頭	狀	廻	廻	咽	咽	ル	走	及	動	靜	大	名	名
筋	筋	筋	筋	筋	筋	筋	道	骨	壁	(右側)		實	脈	下	動	動	動	動	脈	脈	神	神	筋	神	神	神	神	シ	氣	氣	脈	脈	靜	靜	
												ノ	終	端	脈	脈	脈	脈	脈	脈	經	經		經	經	經	經	副	神	管	枝	脈	脈	脈	脈

附 圖 III

(前額斷面ヲ後方ヨリ望ム)

**第四編 咽頭ノ疾病**

Krankheiten des Rachens.

**第一章**

**咽頭粘膜ノ疾病**

Schleimhautentzündungen

des Rachens.

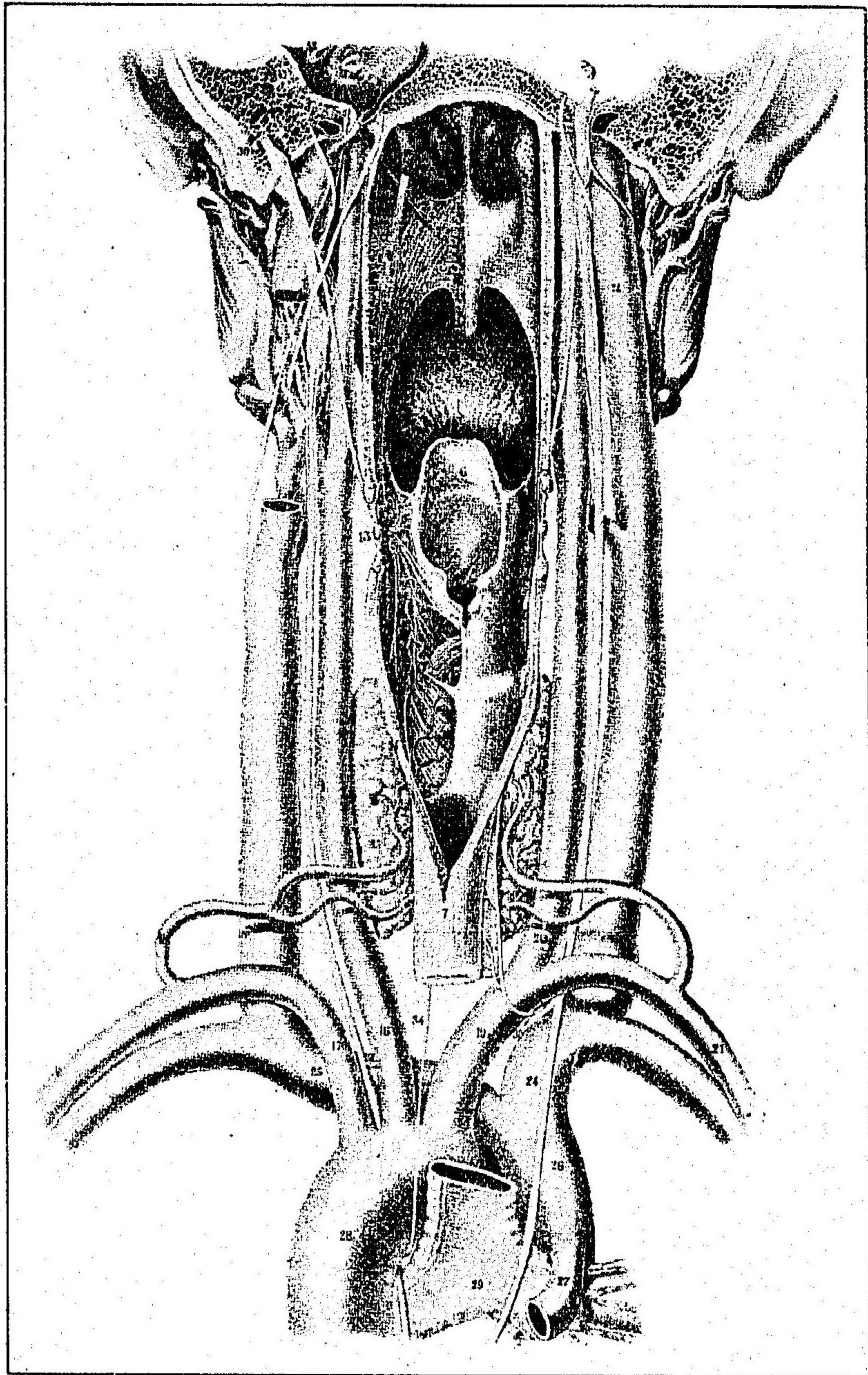


## 急性加答兒性咽頭炎又加答兒性安魏那

*Pharyngitis acuta catarrhalis s. Angina catarrhalis.*

**原因** 急性鼻炎ト同一ノ原因ニ依リテ起リ或ハ合併若クハ續發ス又鼻腔及ビ鼻咽腔手術後ニ起ルコトアリ其他傳染病例之バ麻疹猩紅熱「インフルエンザ」及ビ百日咳等ニ際シテ來リ或ハ器械的、化學的、温熱的刺戟ニヨリテ來ル  
本症ハ春秋二期ニ多ク時トシテ流行性ニ來ルコトアリ例之バ軍隊病院等ニ於テ見ル處ナリ

**症候** 輕微ニシテ自覺セザルモノアリト雖モ通常中等度ノ發熱、全身異和ヲ覺エ且ツ局部ノ乾燥感、異物樣感并ニ分泌亢進、疼痛及嚥下障害ヲ起ス  
咽頭検査ヲ行フニ粘膜ハ充血、腫脹ス時トシテ側壁ニ於テ顯著ニシテ歐氏管咽頭皺襞腫起シテ後口蓋弓ノ後部ニ膨出シ(急性側索咽頭炎)又發炎セル濾胞ノ周圍ニ著シキ腫脹ヲ來スコトアリ(濾胞性又肉芽性咽頭炎)時トシテハ病變口峽部ニ著シク後口蓋弓及ビ懸壅垂ノ浮腫ヲ來ス



(ル 據 ニ 氏 カ ム シ ル)



豫後 佳良

療法 局所療法ハ含漱(一般療法參照)ヲ行ヒ且ツ「セメント」ル「華攝林」(2:30)ニ  
| 四%硝酸銀水安知必林古加乙涅水(總論參照)ノ塗布ヲ行フ頸部ノ「フリース」ニ  
ツツ氏卷法モ亦効アリ  
局處療法ト共ニ症狀ニ應ジテ安靜ヲ命ジ流動食ヲ與ヒ解熱發汗劑ヲ服用セシ  
ムル等肝要ナリ

慢性加答兒性咽頭炎 Pharyngitis catarrhalis chronica.

原因 ヲ別ツテ直接原因及間接原因トス

A 直接原因 ハ急性咽頭炎ノ反覆襲來鼻閉塞ニ因ル口呼吸、不潔ノ空氣中  
ニ於ケル久時ノ談話又ハ謠吟過度ノ飲酒喫煙工場生活例之ハ毛織物、製粉、煙草  
「セメント」製造業化學的刺戟近圍臟器ノ炎症傳播等ナリ

B 間接原因 ハ年齡二十歳ヨリ五十歳ニ多シ(男性)氣候、體質異常(腺病貧血)  
其他削瘦性鼻炎、慢性癩麻質斯、慢性腸胃病、心臟病腎臟病及糖尿病等ナリ



症候

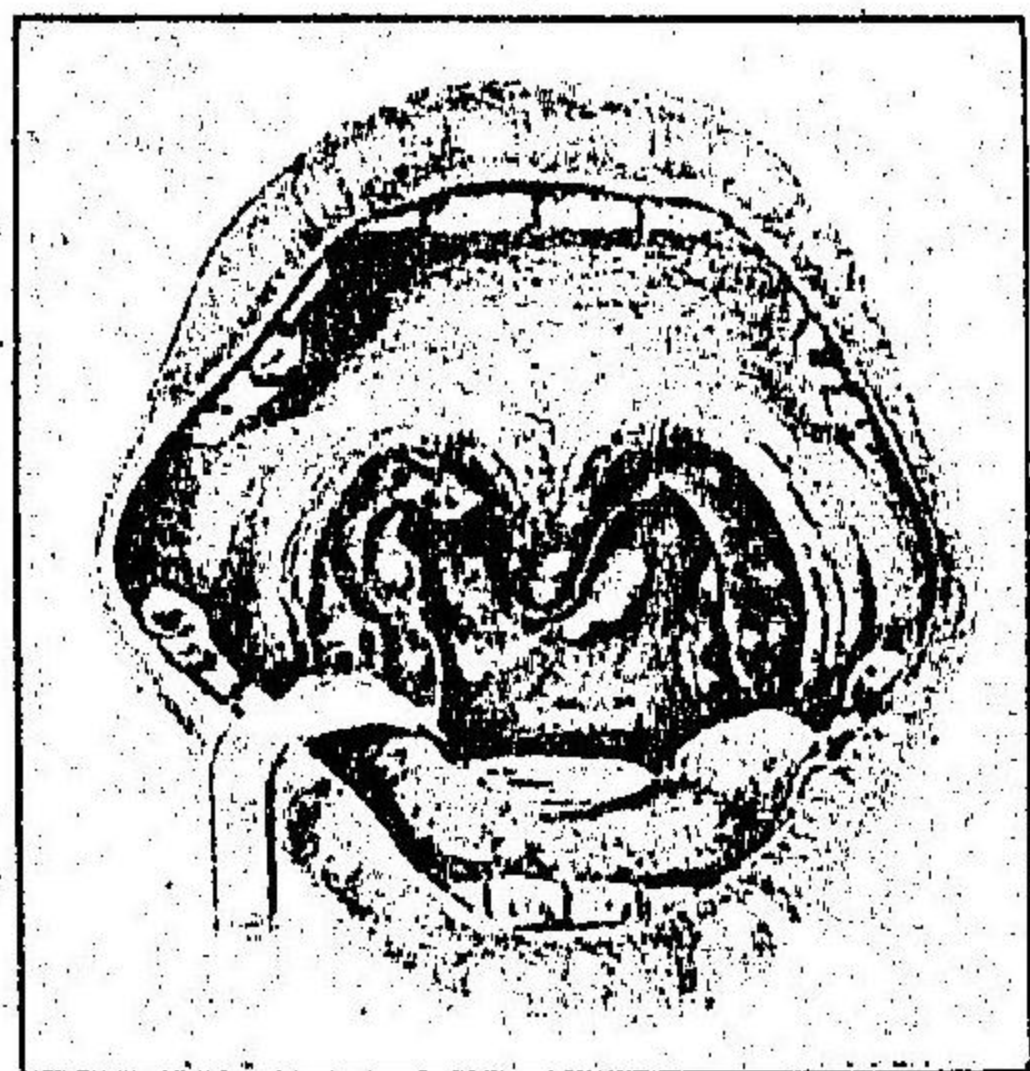
分泌異常ヲ來スコト多ク時トシテハ少量ニ時トシテハ少量ナリ其粘稠ナルモノハ之レヲ排除スルコト容易ナラズ努力的絞扼運動ニヨリテ漸ク咯出スルヲ得ベシ甚敷ハ血液ヲ混ズルコトアリ通常朝起ノ際ニ著シ又多クハ咽頭内ニ乾燥、癢、異物、灼熱ノ感ヲ有ス又發聲疲勞ヲ來シ易シ疼痛ハ極メテ稀レニシテ僅カニ空嚥下ニ際シテ感ズルモノアリ其他反射神經症狀ヲ來スコトアレドモ稀有ナリ他覺的症候ノ種類ニヨリテ慢性咽頭炎ヲ左ノ如ク區別ス

A 單純慢性咽頭炎 Pharyngitis chronica simplex 粘膜上皮ハ通常肥厚潮紅シ或ハ所々ニ白色斑ヲ認メ且ツ一部ノ菲薄若クハ糜爛ヲ生ズ又粘膜ノ表面ニハ擴張セル靜脈ヲ見、粘液性分泌物附着ス

B 慢性顆粒性及濾胞性咽頭炎 Pharyngitis granulosa et follicularis chronica 咽頭後壁ニ於テ肥厚セル粘膜面ハ粟粒大乃至扁豆大ノ隆起ヲ現ハスモノニシテ粘液腺排泄管ノ周圍ニ於ケル腺樣組織ノ浸潤ニヨリテ濾胞ヲ形成スルモノナリ顆粒ハ簇生スルアリ又點々散在スルアリ時トシテハ相連結シテ長形隆起トナルモノアリ

本症ハ屢々舌根扁桃腺肥大症ヲ併發ス小兒ニ在リテ此ノ如ク顆粒ノ簇生ヲ見且ツ口蓋扁桃腺肥大ヲ有スルトキハ多クハ咽頭扁桃腺肥大ヲ兼ヌルモノト察スベシ

第十九五圖  
顆粒性咽頭炎



C 側索咽頭炎 Pharyngitis lateralis 單純咽頭炎又ハ顆粒性咽頭炎ニ併發シ或ハ獨立症トシテ發スルコトアリ咽頭側壁後口蓋弓ノ後方ニ當リ赤色ノ長形隆起ヲ呈シ殊ニ絞扼運動ニ際シテ著シク現ハル、モノナリ此隆起ハ上ハ歐氏管隆起ニ下ハ喉頭入口部ニ達スルモノアリテ大ナルハ指頭大ヲ有シ異物樣感、聽器ノ障害、發聲障害或ハ

種々ノ反射症狀ヲ起ス

予ハ高度ノ神經障害ヲ起シ煩悶シテ自殺ヲモナシカネ間敷キモノヲ實驗セリ

D 乾性咽頭炎 Pharyngitis sicca 慢性肥厚性咽頭炎ノ末期ニ起ルト説クモノアリ



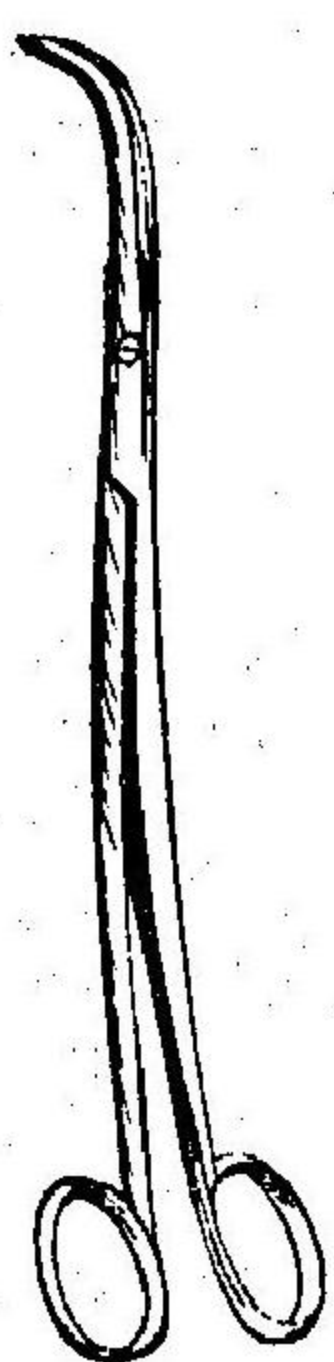
レドモ又特發結核糖尿管病スルコトアリ粘膜炎萎縮シ乾燥滑澤時トシテハ微細ノ皺襞様表面ヲ見ルコトアリ少量ノ分泌物凝着シ患者ハ乾燥癢痒感ヲ有ス而シテ喉頭及鼻咽腔ノ粘膜炎モ共ニ侵サルコト少カラズ

**豫後** 概シテ佳良ナリ然レドモ頑固ニシテ終生治癒セザルモノアリ是レ患者ノ治療上ノ忍耐及ビ攝生ノ如何ニヨリテ異ナリトス

**療法** 原因的障害ヲ除クハ必要ニシテ場合ニヨリテハ職業ヲ轉ズルヲ要ス爲メニ治癒ヲ速カナラシムコト少カラズ

局所療法ハ病症ノ種類ニヨリテ一様ナラズト雖ドモ通常藥液塗布含漱吸入電氣燒灼及ビ觀血の小手術ヲ行フ單純肥厚性炎ニハ收斂劑塗布(治療總論參照)殊ニ沃度偏里設林(マンドル氏液)ヲ稱用ス或ハ格魯兒亞鉛硝酸銀皓礬水單寧酸偏里設林等ヲ用フ顆粒性咽頭炎ハ塗布藥

ハルレ氏鉗



第九十六圖

索膨隆ハハルレ氏鉗若クハ鉗子ヲ以テ切除スルヲ佳トシ電氣燒灼法ハ癒着或ニヨリテ治癒シ難シ宜シク腐蝕法電氣燒灼法或ハ鉗子切除法ヲ應用スベシ側

ハ反應性炎症ヲ起シ易キヲ以テ實用スルモノ少ナシ  
乾性咽頭炎ニハマンドル氏沃度偏里設林ノ塗布最モ効アリ

咽頭實扶埕里 Rachendiphtherie.

**原因及病理**

咽頭ハ實扶埕里ノ好發生地ニシテレヨフレル氏菌ノ傳染ニヨリテ發ス然レドモ多クハ他種ノ細菌殊ニ連鎖狀球菌ノ混合傳染ニヨル者ナリ實扶埕里菌ハ健康者ノ咽頭ヨリ檢出スルコトヲ得ルモノニシテ粘膜炎ノ糜爛剝脫或ハ他ノ誘因アルニ非ラサレバ例令咽頭ニ實扶埕里菌アリトモ悉ク發病スルモノニ非ズ

本症ハ小兒ニ多ク成人ニ少ナシ而シテ一回ノ罹病又ハ血清注射ヲ以テ永久免疫質タルコト能ハザルモノニシテ數回犯サルモノアリ

實扶埕里菌ノ組織内ニ侵入スルヤ凝固偽膜形成壞疽血管變性ヲ來スモノニシテ且ツ血中ニ毒素ヲ發生シ各器官ヲ襲撃シ全身症狀ヲ起ス殊ニ心臟ヲ侵スコト著シク心臟麻痺ヲ來シ易シ又屢々腎臟炎ヲ惹起スルモノトス



症候、二日―七日ノ潜伏期ヲ有シ俄然發熱三十八度乃至四十度ニ昇ルコトアリテ時トシテ輕熱ニシテ稀レニハ無熱ナルモノアリ殊ニ混合傳染ニアラザルトキニ然リトス而シテ通常頭痛倦怠食慾缺乏等アリ且ツ咽頭痛嚥下障害ヲ

第九十七圖  
咽頭實扶埤里



發ス疼痛ハ劇甚ニシテ耳ニ波及スルモノ少カラズ又小兒ハ症狀劇シク啼泣不穩且ツ譫語ヲ發スルコトアリ脈搏ハ通常細小ニシテ頻數ナリ  
咽頭検査ヲ施ストキハ初期ニハ灰白色ノ斑點散在スルモノニシテ漸次増大シテ互ニ相融合シ廣ク披膜ヲ有スルニ至ル而シテ好發部位ハ口蓋扁桃腺及側壁ニシテ前後口蓋弓及懸壅垂ニ蔓延スルコト多シ周圍ノ粘膜ハ發赤腫脹シ屢々浮腫狀ヲ呈ス灰白色ノ披膜ハ之ヲ偽膜ト稱シ下組織ト密着シ容易ニ剝離セズ若シ之レヲ剝離スレバ實質缺損及ビ出血ヲ來ス  
經過 四五日乃至八日ニシテ偽膜ハ弛緩シテ剝離シ咳嗽ニヨリテ咯出セラ

ル剝離後ノ創面ハ上皮ヲ蒙リテ治癒シ若シ深部迄侵サレタルトキハ癩痕ヲ形成シテ治癒ス

重症實扶埤里ニ在リテハ壞疽ヲ來スコト少ナカラズ殊ニストレプトコッケンノ混合傳染ニ多シ甚シキハ偽膜ハ汚穢灰白色乃至褐色ニシテ脆弱性或ハ泥樣ニ變ジ惡臭ヲ放チ實質大缺損ヲナシテ敗血症ヲ來シ數日ニシテ鬼籍ニ上ルコトアリ

治癒後種々ノ麻痺ヲ起スモノシテ例令バ口蓋麻痺眼筋麻痺其他稀レニ四肢ノ筋麻痺ヲ來スコトアリ最モ注意スベキハ恢復期ニ於ケル心臟麻痺ニシテ何等ノ前兆ナクシテ突然襲來シ數分前迄談笑嬉戯セシモノ傍ラ人ナキ折卒然死ニ陷ルモノアリ

診斷 腺窩性扁桃腺炎或ハワグンサン氏安魏那ト誤ルコト多シ偽膜剝離ノ難易及ビ細菌學的檢索ニヨリ鑑別スルヲ得ベシ

豫後 早ク適當ノ治療ヲ加フレバ多クハ佳良ナレドモ診定セラルハコト遲クシテ併發症ヲ發シ或ハストレプトコッケン混合傳染ニシテ腐敗壞疽性ノモ



ソハ不良ナリ

**療法** 特效薬トシテ治療血清アリ速ニ注射ヲ施スベシ其他局所ニハ石灰水、硼酸水過濃備俺酸加里液等ノ含漱ヲ施シ腐敗性ノモノハ局所ノ清浄法ヲ講ジ内服薬ハ主トシテ強心劑ヲ用ヒ高熱ニハ解熱薬ヲ併用ス

ワンスアン氏安魏那 Angina vincenti.

**原因** ワンスアン氏ニヨリテ發見セラレタル二種ノ病原菌ノ侵入ニヨリテ起ル病原菌ノ形態ハ甲ハ紡錘形桿菌ニシテ乙ハ螺旋狀菌ナリ而シテ本症ハ十七歳乃至二十五歳ノ青年殊ニ男性ニ多シ

**症候** ワンスアン氏安魏那ハ通常其病的變化ニヨリテ糜爛性及潰瘍性ノ二種ニ區別ス甲ハ單ニ被膜形成及ビ粘膜ノ糜爛ヲ來スモノ乙ハ被膜形成ト共ニ組織壞疽ヲ來シテ潰瘍ヲ生ズルモノナリ多クハ片側ニシテ扁桃腺ニ灰白色ノ被膜ヲ形成ス其狀一見實扶埵里ノ如シ邊緣不正ニシテ發赤及ビ浮腫ヲ呈ス被膜ハ初期ニ於テ剝離スルコト難カラザレドモ多クハ出血スルモノナリ翌日ニ至

レバ更ニ其部ニ被膜新生シ漸次蔓延シテ大部ニ亘ルニ至ル而シテ通常頸腺腫脹ス

●**自覺症** ハ咽頭ノ乾燥、扁桃腺腫脹肥大ノ爲メニ嚥下困難ヲ起シ加之全身異和、食欲缺乏時トシテハ聲音障害、耳痛、不眠等ヲ來ス然レドモ熱ハ比較的輕度ナルヲ常トス

**診斷** 實扶埵里ト鑑別スルコト容易ナラズ單ニ臨床的所見ノミニテハ之ヲ區別シ難シ只本症ハ全身症狀ノ稍ヤ輕キト經過短キトニ注意ベシ確實ナルハ細菌學的検査ニシテワンスアン氏菌ハ結核菌ノ如クカルボルフクシンヲ以テ染色スルヲ得ベシ又潰瘍性ノモノハ梅毒ト疑ハシ須ラク周到綿密ノ検査ヲ施スヲ要ス即チ先ヅ全身梅毒症狀ノ有無ヲ確定スベク且ツ梅毒ニアリテハ頑固ニシテ永ク持續シ頸部ノ疼痛著シク殊ニ嚥下痛ノ著シキヲ以テ知ルベシ

**豫後** 良ナリ但シ潰瘍性ノモノハ瘢痕ヲ貽ス

**療法** 沃度丁幾、クロム、硝酸銀、石炭酸、偪里設林、硫酸亞鉛、メチーレン、ブラウノ塗布并ニ防腐含漱薬水卷法或ハブリースニツツ卷法其他對症療法ナリ



丹毒性咽頭炎

Pharyngitis erysipelatoza.

原因 丹毒球菌ノ侵入ニヨリテ發スルモノニシテ鼻及咽頭手術後ニ發シ又扁桃腺々窩等ニ於ケル肉眼的ニ認ムベカラザル上皮剝脫部ヨリ感染ス又他部ニ於ケル丹毒ノ蔓延ニ由リテ發スルコトアリ

症候 輕症ハ單純加答兒性咽頭炎ニ酷似シ數日ニシテ治癒スルモノナリ又重症ノモノハ高熱稽留シ嚥下障害、耳痛等アリ喉頭ニ蔓延スルトキハ聲音障害ヲ來ス咽頭粘膜ハ高度ノ潮紅腫脹アリ時トシテハ浮腫増劇シテ水泡ヲ生ジ終ニ膿瘍ヲ形成スルコトアリ

豫後 輕症ハ一週内外ニシテ治癒スレトモ重症ハ危險ニ迫ルコトアリ加之腦膜炎、肺炎、聲門水腫等ヲ發シテ不幸ノ轉歸ヲ見ルコト無キニ非ズ

療法 對症療法

蜂窠織性咽頭炎 Pharyngitis phlegmonosa.

粘膜損傷部ヨリ「ストレプトコッカス」ノ侵入ニ因リテ發スルモノニシテ症候豫後療法等ハ丹毒性咽頭炎ト殆ンド同一ナリ

壞疽性咽頭炎 Pharyngitis necrosa.

實扶埤里、猩紅熱、丹毒、痘瘡、瘰癧等ヨリ續發スルモノ多シ又稀レニハ原發性ノモノアリ

症候 發熱、嚥下困難、頭痛、精神抑壓等ヲ來シ次テ呼吸惡臭ヲ發ス

粘膜表面ハ灰白黑色ノ小斑點或ハ水泡ヲ生ジ次テ潰瘍トナリ漸次増大ス底面ハ汚穢ナル壞死片ヲ以テ覆ハレ之ヲ除去スレバ容易ニ出血ス

豫後 疑ハシ敗血症、心臟麻痺ヲ起シテ斃ル、モノ多シ

療法 局所清潔ト強心劑内服ヲ主トス其他對症療法ナリ

咽頭贅口瘡

Soor des Rachens.

原因 鵝口瘡菌ノ侵入ニ因ルモノニシテ口内不潔ニヨリテ誘發セラル通常殘留セル乳汁ノ分解ニヨリテ來ルコト多シ故ニ小兒ニ於テ屢々見ルモノナリ又成人ニ來ルコト稀ナラズ殊ニ重病者ノ口内不攝生ニ際シテ發ス

症候 粘膜面ニ白色ノ小斑點ヲ生ジ之ヲ拭去スルニ容易ニ剝離シ局部ノ發赤腫脹アリ時トシテハ小斑點ハ數個相融合シ或ハ出血スルコトアリ自覺症候ハ疼痛、灼熱感、唾液分泌過多ヲ來ス小兒ハ哺乳困難ノ爲メ衰弱スルコトアリ



**療法** 口内清潔ヲ主トス即チ豫防法トシテハ二%硼酸水鹽剝水等ノ含漱小兒ニアリテハ五%重曹水ヲ浸シタル綿紗ヲ以テ口内ヲ清拭ス又發病シタルトキモ同様ノ方法ヲ行フベシ五%硼砂偏里設林ノ局所塗布モ著シキ効アリ頑固症ニハ一—五%硝酸銀水又ハ一萬倍昇汞水ノ塗布ヲ行フ

## 第二章 扁桃腺ノ疾病 *Krankheiten der Tonsillen.*

### 腺窩性扁桃腺炎 *Tonsillitis lacunalis.*

**原因** 急性傳染性疾患ナレドモ現今未ダ確定シタル特殊ノ病原菌ヲ認メズ只、ストレプトコッカス<sup>レ</sup>及ピスタヒロコッカス<sup>レ</sup>又ハ一種ノ「チプロコッカス」等ヲ分泌物中ニ發見スルコト多シ  
本症ハ急性關節痲質私ニ前驅スルコトアリ且ツ痲質私痛風等ノ素質アルモノハ罹リ易ク又扁桃腺肥大ハ本症ニ罹リ易キ素因ヲ有ス而シテ一回犯サレタル人ハ爾來再三反復スルモノナリ又咽頭扁桃腺及舌扁桃腺モ共ニ侵襲セラレ、コト少ナカラズ年齡ノ關係ハ二十歳——三十歳ノ成人ニ多ク高齢者ニハ

稀ニシテ男女ニ於ケル區別ナシ氣候ノ關係ハ寒濕及氣温ノ變遷時ニ多シ又流行性ニ襲來スルモノニシテ學校、軍隊、病院内或ハ一家族數人ニ發病スルヲ見ルコトアリ注意スベキハ鼻腔内手術後ニ屢々實驗スル者ニシテ殊ニ電氣燒灼後ニ多シトス

**症候** 通常惡寒戰慄ヲ以テ起リ稍高キ發熱ヲ來シ甚敷ハ四十度若クハ以上ニ達ス同時ニ若クハ前驅シテ頭部疼痛ヲ感シ時トシテハ安眠シ難ク嚥下ニ際シ増劇シ加之耳内ニ放散ス又發音不充分トナリ言語不明瞭トナル其他頭痛腰痛、脈搏迅速、口渴、舌苔及ピ口内放臭等アリ

開口セシメテ咽頭ヲ檢スルトキハ扁桃腺腫大潮紅シ腺窩ニ於テ白色乃至帶黃白色ノ少點狀若クハ稍大ナル膿點ヲ附着ス

**經過及續發症** 數日ニシテ熱下降シ疼痛止ミ腫脹漸次減退スルモノナリ或ハ體温一旦下降シ或ハ下降セズシテ直チニ扁桃腺周圍炎次テ膿瘍ヲ續發スルモノアリ稀レニハ側頸部ニ蔓延シ漸次下行シテル—ドウキヒ氏安魏那トナリ或ハ喉頭水腫ヲ續發シテ死亡スルコトアリ



**診断** 通常容易ナリ只膿點散在性ナラズシテ相融合シテ偽膜狀ヲ呈スルモノハ實扶埜里ト誤ルコトアリ但シ其偽膜ハ本症ニ在リテハ容易ニ剝離シ之ニ反シ實扶埜里ニ在リテハ困難ニシテ強テ之ヲ剝離スレバ實質缺損シ出血スルヲ以テ知ルベク又細菌學的検査ヲ施セバ確實ナリ

第九十八圖  
扁桃腺性扁桃炎



**豫後** 續發性重症ヲ起セバ危険ナレドモ然ラザレバ通常佳良ナリ

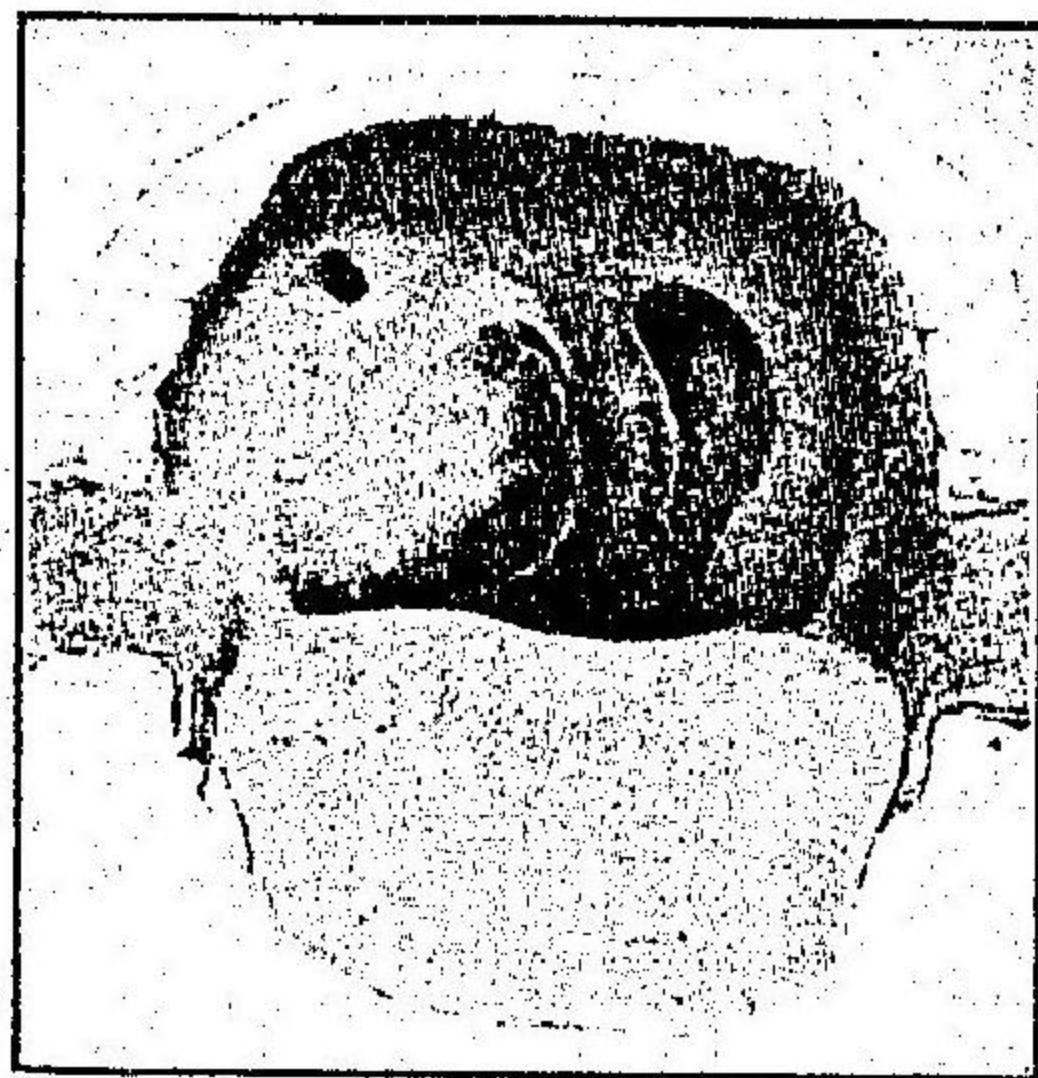
**療法** フレンケル氏ハ特効藥トシテ規尼涅ヲ賞用ス(大人量大凡一回〇七又揚曹モ効驗アリ其他安知必林「ザ

リピリン「ザロール」等ヲ用フ

局所塗布藥ハ七—一〇%石炭酸「グリセリン」ヲ佳トス之レニ古加乙涅ヲ加フルモ宜シ又〇—〇.五%昇汞水ヲ塗布ス頸圍ニハ水褌法ヲ施シ口内ニ氷片ヲ含マシメ又含漱セシム周圍膿瘍ヲ起シタルトキハ切開シテ排膿セシムベシ

第九十九圖

(扁桃腺周圍炎切開創示ス)



急性扁桃腺周圍炎及扁桃腺周圍膿瘍  
*Peritonsillitis acuta et Peritonsillarabscess.*

**原因** 急性扁桃腺炎殊ニ腺窩性扁桃腺炎ニ續發ス又猩紅熱實扶埜里ニ來ルコトアリ

**症候** 惡寒戰慄發熱三十九度—四十度扁桃腺部ノ劇痛等ヲ以テ初マル疼痛ハ屢々耳部ニ放散スル事アリ其發生スルヤ腺窩性扁桃腺炎ノ經過中體温一旦平常ニ復シ疼痛無ク殆ンド恢復シタルガ如キ状態ニアルモノ突然前記ノ症狀ヲ惹起スルコト多シ病勢増進スルトキハ顯著ノ嚥下困難ヲ來タスモノニシテ此際患者ハ甚敷苦惱ノ顔貌ヲ呈シ辛フシテ僅カニ流動物ヲ嚥下スルヲ得ルアリ或ハ全ク一滴ノ水モ通過セズ且ツ鼻腔ニ逆出スルモノアリ

次テ著シキ症候ハ談話障害ニシテ是レ一ハ疼痛及腫脹ノ爲ニ開口シ能ハザル



ト一ハ軟口蓋浮腫ノ爲ニ鼻咽腔閉鎖シ難キトニ因ル、通常患者ハ安眠スルコトヲ得ズ、神經過敏トナリ營養障害セラル

咽頭検査ハ開口困難ノ爲メニ障碍セラル、コト多シ口蓋弓及軟口蓋ハ高度ノ潮紅腫脹ヲ呈シ、壓痛甚シク未ダ膿瘍ヲ形成セザルトキハ觸診スルニ硬固ニシテ化膿スルトキハ波動ヲ生ス、懸壜垂及他側ノ口蓋弓又著シク腫脹シ口蓋帆運動制限セラル

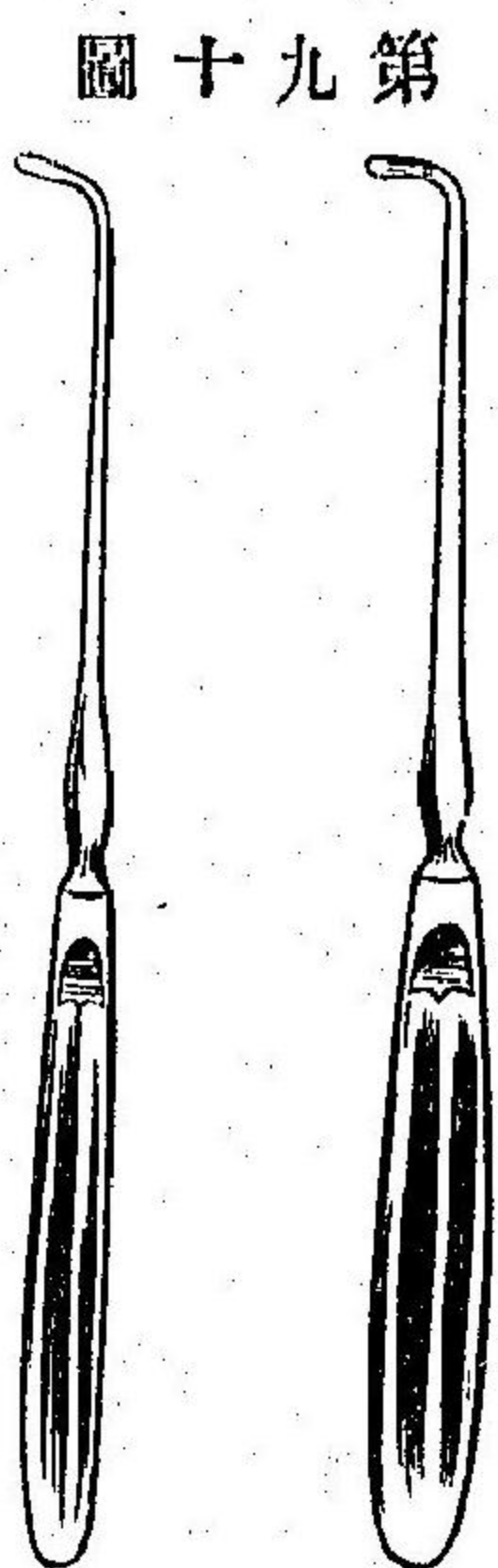
**合併症** 時トシテ喉頭水腫ヲ發シ又ルードウキヒ氏安魏那ヲ續發スルコトアリ

**豫後** 佳良但シ合併症アルトキハ危険ナリ

**療法** 初期ニ癒瘡木丁幾(毎二時十滴ツ)ヲ用ヒ頓挫セシムルヲ得ベシト稱スレドモ確實ナラズ又鹽素酸加里ノ内服モ稱用セラル

初期亂刺ヲ行フトキハ頓挫スルコトアリ其他局所ハ安知必林、古加乙涅、アドレナリン、石炭酸、偲里設林等ヲ塗布シ又氷片ヲ含マシメ頸部ニ氷囊ヲ付シ且ツ含漱ヲ行ハシム、既ニ膿瘍ヲ形成シタルトキハ排膿ヲ企ツベシ、排膿法ハ疼痛ノ最

モ著シキ部位ニ於テ切開スルヲ佳トス之ニ用フル小刀ハ初學者ハ必ズ尖端約一仙迷ヲ除キ他部ハ悉ク綿紗若クハ絆創膏ヲ以テ纏絡被覆スルヲ忘ルベカラズ又刀尖ハ外方ニ向ケザルベシ何トナレバ頸動脈ヲ損傷スルノ危険アレバナ



第九圖  
エシユレ氏扁桃腺穿刺鉤  
シユミット氏扁桃腺穿刺鉤  
スレバ排膿佳良ナリ

又扁桃腺基底ノ後上部ニ於テ後口蓋弓ニ接シタル部分ニ彎曲セルシユミット氏穿刺鉤ヲ少シク壓ヲ加ヘテ挿入スルトキハ容易ニ膿竈ニ達スルヲ得ベシ更ラニエシユレ氏穿刺鉤ヲ以テ之ヲ開大

口蓋扁桃腺肥大症 Hypertrophia tonsillae palatinae.

小兒期ニ多キ疾病ニシテ腺組織ノ肥厚増殖并ニ結締組織ノ増殖ニヨリテ扁桃腺



膨大ス

原因

症候

急性扁桃腺炎、寒冒、腺病質、慢性咽頭炎、鼻閉塞等ニ因リテ來ルコト多シ  
 輕症ノモノハ苦痛ヲ感セズ只時トシテ異物様感ヲ有スルコトアリ稍  
 ヤ著シキ肥大ニアリテハ咽腔内狹隘又ハ異物感アリ殊ニ嚥下時ニ著シ且ツ多  
 クハ慢性咽頭炎ヲ併有スルガ故ニ分泌亢進、嚥咳、咳嗽ヲ發ス其他嚥下及ビ呼吸  
 ノ障害ヲ來スコトアルモ稀レナリ多クハ睡眠時鼾聲ヲ放チ時トシテハ安眠ヲ  
 妨ゲラル又稀レニハ喘息、聲音變化等ヲ發ス咽頭検査ヲ行フニ扁桃腺ハ腫脹膨  
 大シテ甚敷ハ左右互ニ接觸スルモノアリ表面凹凸不平ニシテ腺窩深ク屢々腺  
 窩内ニ白色或ハ黄色乾酪様膿栓ヲ見ルコトアリ而シテ充血ハ通常缺如スルモ  
 ノトス

合併症

咽頭扁桃腺及ビ舌扁桃腺肥大症、歐氏管炎、中耳炎等ヲ併發ス又屢々  
 急性症狀ヲ發シ或ハ周圍膿瘍ヲ來スコトアリ

豫後

良

療法

藥液塗布、腐蝕法等ハ寸效ナシ宜シク手術的療法ヲ行フベシ

A 扁桃腺切除術 Tonsillotomy ハ最も簡單ニシテ確實ノ方法ナリ之ニ使用スル  
 器械及術式種々アリ

準備 三%硼酸水ヲ以テ含漱セシメタル後チ扁桃腺基部ニ二、五%古加乙  
 淫溶液或ハアドレナリン等分ノモノヲ塗布ス

術式 約十分ヲ經テ豫メ消毒シ置キタル切除器ヲ右手ニ取り左手ニ持チタル  
 舌壓子ヲ以テ舌背ヲ押下シ充分咽腔ヲ開キテ器械ヲ挿入シ其環狀部ニ扁桃腺  
 ヲ箝入セシメテ之ヲ當該側ニ向ツテ壓定シ然ル後切除スルモノトス此際頭部  
 ヲ固定スベシ其器械運用法ハ種類ニ由リテ異ナルモノニシテ又各得失アリト  
 雖モ要スルニ器械ハ簡單ナルベク撰擇ハ各人ノ慣用ニ從フヲ佳トス  
 マチウー氏切除器ハ環狀部ニ箝入シテ壓定シタル後チ拇指ヲ以テ銳針ヲ扁桃  
 腺ニ刺入シ次デ移動性弓狀刀ヲ牽引シテ切除ス

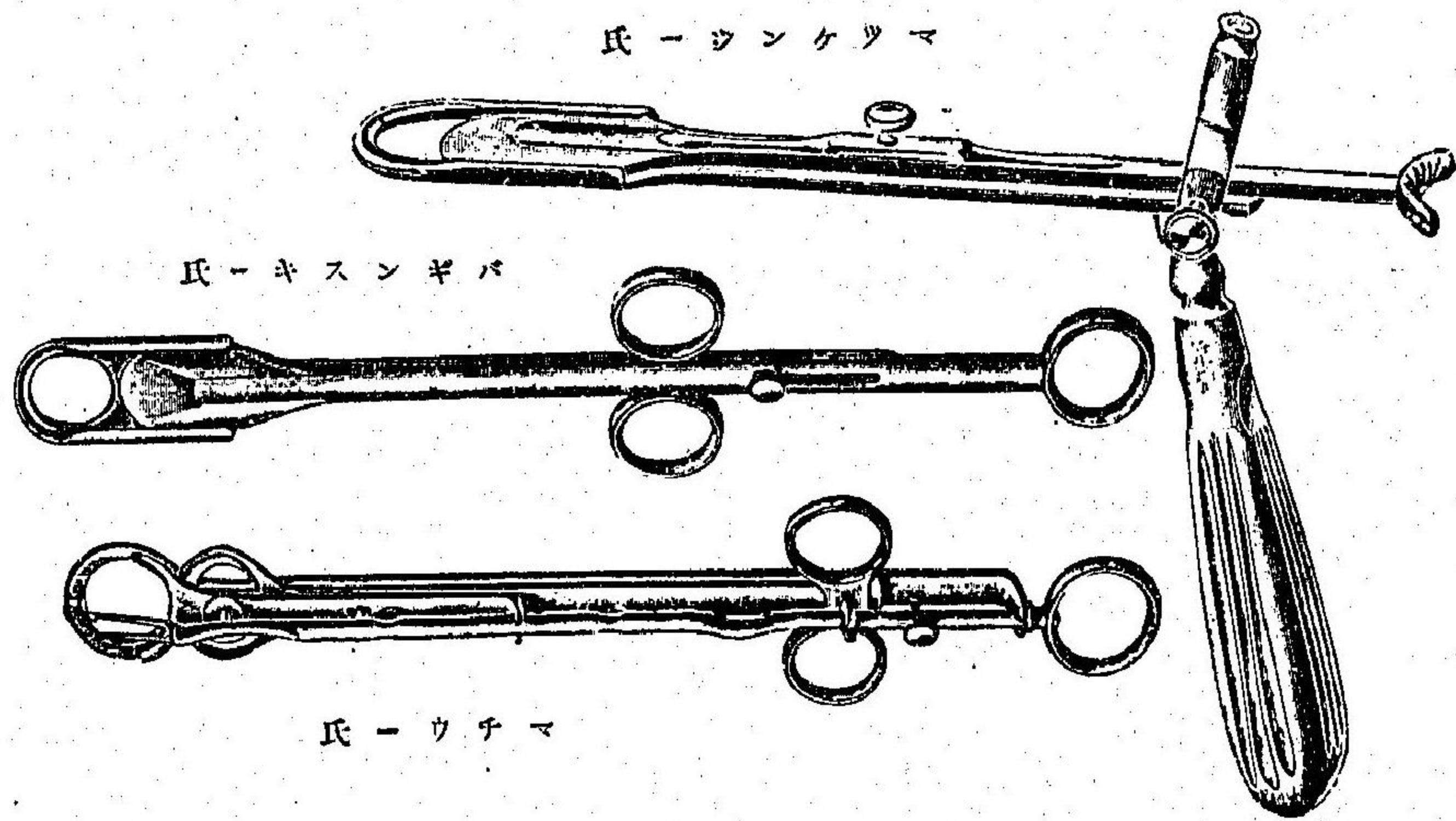
マツケンジ一氏切除器ハ扁桃腺ヲ環狀部ニ箝入壓定シテ拇指ヲ以テ移動性刀  
 刃ヲ前進セシメ押壓ニヨリテ切除ス此切除器ハ壓定充分ナルヲ便トス  
 バギンスキ一氏切除器ハマツケンヂ一氏切除器ニ類シテ只其構造簡單ナルモ



第十九圖

扁桃腺刀

マツケツン氏



ギンソン氏

マウチ氏

ノナリ(第九十一圖)

**B 剪除法** 片手ニ持チタル双  
 銳鉤ヲ以テ扁桃腺ヲ把持シ他手  
 ニ彎曲セル剪刀ヲ持チテ扁桃腺  
 ノ基底部分ニ於テ徐々ニ切除ス此  
 方法ハ大人ニ在リテハ屢々腺ノ  
 基底廣汎性ニシテ切除器ノ環ニ  
 箱入セズ或ハ箱入スルモ脱出シ  
 易キモノアルガ故ニ必要ナリ然  
 レドモ銳鉤ヲ牽引スルコト強キ  
 ニ過グベカラズ爲メニ大出血ヲ  
 來スコトアレバナリ

**C 寒蹄係除去法** 金屬線ノ強  
 堅ナルモノヲ用ヒ扁桃腺基底部分

ヲ絞斷スル方法ニシテ小兒ノ柔軟ナル扁桃腺ニ應用スルコトアリ

**D 熱蹄係除去法** ハ成人ニアリテ試用スベシ成人ノ扁桃腺肥大症ハ時トシ  
 テ切除後大出血ヲ來スコトアレバナリ小兒ニ在リテモ亦出血ノ惧レアル體質  
 ノモノニハ應用スルヲ佳トス其法白金線蹄係ヲ以テ腺ノ基底ヲ圍擁シ電流ヲ  
 通ジテ灼斷スルナリ

**後處置** 手術施行後兩三日ハ流動性微温若クハ冷食餌ヲ攝取セシメ可及的談  
 話ヲ避ケ安靜ヲ守リ屢々合漱セシム殊ニ食後ハ丁寧ニ行フベシ牛乳等ノ創面  
 ニ附着スルトキハ動モスレバ傳染性病機ノ好繁殖地トナルモノナレバナリ  
 又切除後萬一出血ノ甚シキコトアラバ指又ハリコルド氏止血器ヲ以テ壓迫法  
 ヲ行フヲ最モ佳良トス少量ノ出血ハ單寧酸又ハ明礬ノ溶液ヲ以テ合漱シ氷片  
 ヲ含ム等ニヨリテ止血スル者ナリ

舌扁桃腺肥大症

Hyperplasia tonsillae linguae.

主トシテ二十歳乃至四十歳ノ成人ニ發スル疾病ニシテ女性ハ男性ヨリ多シ而



シテ女性ニ於ケルモノハ月經時ニ増大スルコトアリト云フ  
**原因** 種々ノ咽頭炎、刺戟性食物、酒精、煙草ノ過用ニ因ル又梅毒結核ヲ患フ  
 ル人ニ屢々見ル處ナリ

**症候**

異常ヲ感セザルモノ少ナカラズ然レドモ  
 神経質ノモノナルカ或ハ腺肥大著シク會厭軟骨ニ  
 接觸スルニ至レバ種々ノ症候ヲ發現スルモノニシ  
 テ通常頸部壓迫感、異物様感アリ時トシテ婦人ニ在  
 リテハ舌根部ヨリ上下ニ運轉スル球ノ存在ヲ訴フ  
 ルモノアリテ(比斯的里球)嚥咳、嚥下運動等ニ依リテ  
 之ヲ除去セント試ムルモノナリ又多クハ分泌増多  
 シ或ハ發聲障害ヲ來ス而シテ疼痛ヲ缺如スルヲ常  
 トス喉頭鏡検査ヲ行ヒ又舌背ヲ強ク壓下スルトキハ容易ニ自撃スルヲ得ベシ  
 通常舌根ニ於テ小豆大、大豆大若シクハ豌豆大ノ小隆起簇生シ會厭軟骨舌面及  
 ビ遊離縁ニ接着スルヲ見ル時トシテ一團塊トナリテ口蓋扁桃腺ノ如キ外觀ヲ

第十九圖  
 舌扁桃腺肥大症



呈スルコトアリ腺ノ表面或ハ會厭軟骨窩ニ粘稠ノ分泌物ヲ附着ス  
**豫後** 佳良

**療法** マンドル氏沃度液ヲ塗布シ且ツ收斂性含漱ヲ行フ大ナルモノハ鉗子  
 切除又ハ電氣燒灼ヲ行フベシ

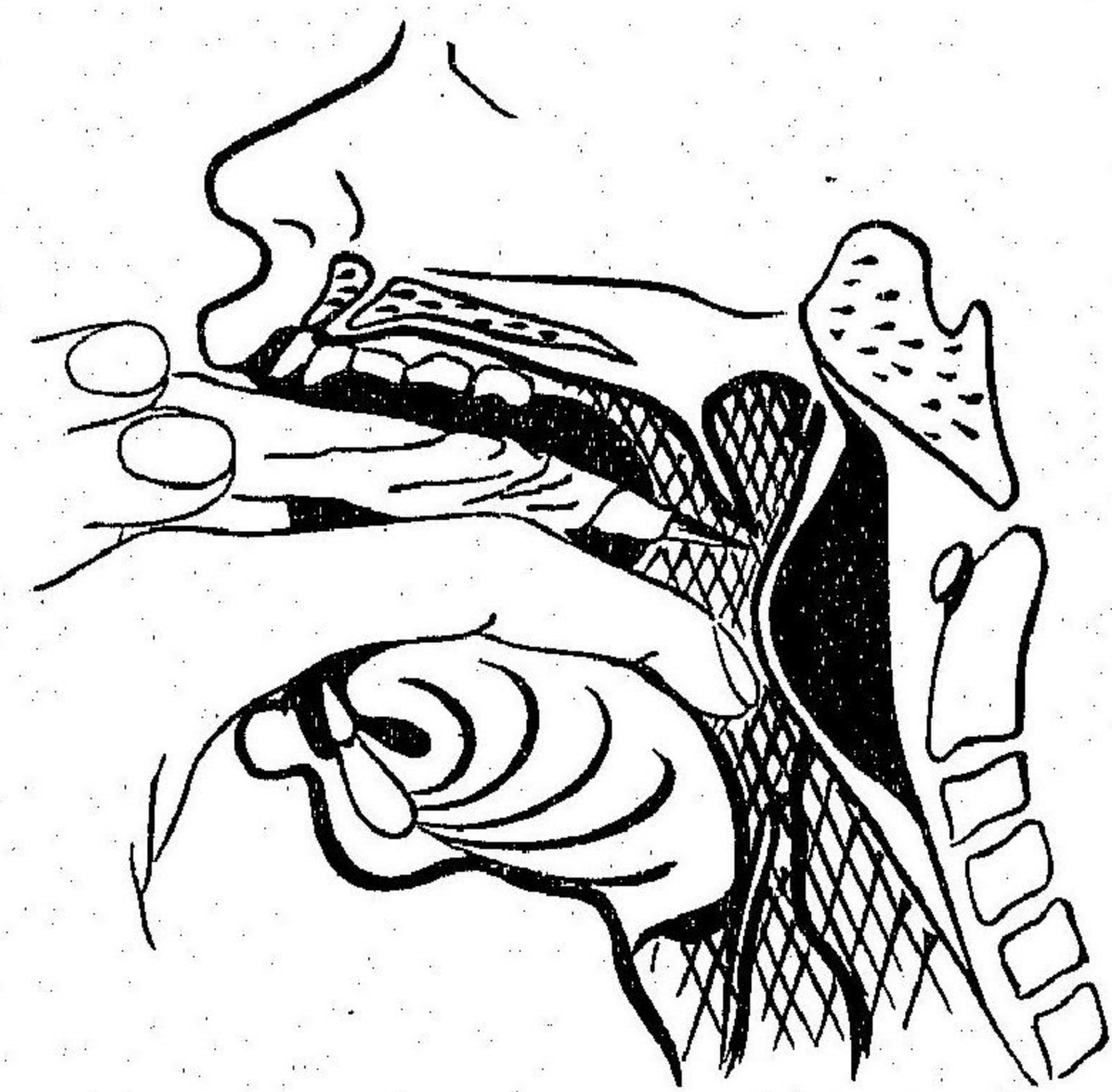
**第三章 咽頭後壁膿瘍 Retropharyngeal abscess.**

**原因** 三歳以下ノ小兒ニ在リテハ正中線ノ兩側第二第三頸推ノ高サニ於テ  
 咽頭括約筋ト脊推前髓膜トノ間ニ相對性淋巴腺ヲ存在スルモノニシテ其腺ヲ  
 化膿ニヨリテ發スルモノナリ故ニ本病ハ小兒病ト云フモ可ナリ何トナレバ年  
 令ノ増スニ從ヒ其腺ハ漸次萎縮消退スルモノナレバナリ然レドモ體質虛弱ノ  
 モノ梅毒性、結核性、腺病質ノモノニハ永ク存在シ加之化膿シ易シ  
 稀レニハ頸部ノ皮膚病、鼻病、咽腔ノ疾患ニ續發スルコトアリ  
 又外傷、頸推カリエス、質扶埕里等ニヨリテ來リ或ハ中耳化膿症ノ經過中ニ發ス  
 ルコトアリ



症候

急劇ニ發現スルコト稀レナリ通常徐々ニ進行シ稍大ナル膿瘍トナルニ及ビテ初テ注意ヲ喚起スルモノ少カラズ初期ニハ患者ハ只氣力ニ乏シク嘔



第三十九圖  
咽後膿瘍穿孔刺

乳嚥下ニ多少ノ障害アルノミ熱ナク又疼痛ナク殆ンド診斷シ能ハザル程ナリ然レドモ病勢進行スル時ハ部位及ビアブセスノ大小ニヨリテ一様ナラザレドモ多クハ鼻呼吸困難閉鎖性鼻聲嚥下困難時トシテ窒息ニ瀕スルコトアリ咽頭内ヲ検査スルニ後壁ノ粘膜ハ潮紅シ或ハ蒼白色ナルコトアリ或ハ常態ヲ呈スルアリテ腫脹膨隆シ指頭ヲ以テ觸

ルニ波動ヲ有ス又顎下部ニ於テ稍硬固ナル腫物ヲ觸ルコトアリ骨瘍ニ因ル流注膿瘍ニ於テハ項部強直頭首廻轉時ノ疼痛アリ中耳化膿症ニ續

發スルモノハ乳嘴突起尖端及ビ其下方ニ壓痛腫脹等アリ時トシテハ顔面神經麻痺ヲ伴フ

診斷 視診及觸診スルトキハ通常容易ニ診定スルヲ得ベシ探膿針ヲ以テ膿ヲ吸出スレバ確實ナリ

豫後 原發性腺化膿性ノ者ハ佳良ナリ只遅ク診定セラレテ患者衰弱甚敷トキハ危険ナリ續發性ノモノハ良ナラズ

療法 切開又ハ穿孔ニヨリテ排膿セシム切開ハ膿ノ流出甚シキ爲メニ窒息スルコトナキニ非サルガ故ニ深ク注意ヲ要ス其他營養ヲ佳良ナラシメ強壯劑ノ内服ヲ併用スレバ治癒ヲ速ナラシム續發性ノモノハ對症療法ヲ施スベシ

第四章 傳染性新生物 Infectiöse Neubildungen.

咽頭結核 Tuberculosis pharyngis.

原因 咽頭結核ハ通常肺及喉頭結核ニ續發スルモノ多ク原發性ノモノハ稀レナリ(II)年齡ノ關係ハ幼者及ビ老人ニハ稀ニシテ成人ニ多ク而シテ男性



ハ女性ヨリ著シク多シ(Shillerozenberg氏)

症候

主要ノ自覺症候ハ咽頭ノ疼痛ニシテ輕易ナルモノアレドモ多クハ緊縮灼熱乾燥及ビ異物ノ感ヲ伴ヒ耳内ニ放散スル劇痛アリテ嚥下ニ當リ著シク増劇ス爲メニ攝食困難ナリ加之口蓋帆ノ浸潤ヲ來シ鼻咽腔ノ閉鎖充分ナラザル爲メニ液體ヲ嚥下セントスルニ際シ鼻腔ニ逆流スルコト少ナカラズ寧ろ流動物ヨリモ却テ軟キ固形物ヲ求ムルニ至ル其他鼻聲ヲ帯ビ口内惡臭ヲ放ツ他覺検査所見 好發地ハ軟口蓋口蓋帆咽頭後壁及ビ扁桃腺等ニシテ懸垂垂及ビ舌根扁桃腺ニモ亦屢々來ルモノナリ

通常局所ノ病變ヲ浸潤結節潰瘍ノ三種トス

浸潤ハ粘膜腫脹發赤シ同時ニ結節ノ散在スルヲ見ルコトアリ

結節ハ帽針頭大又ハ黍大ニシテ灰白色或ハ帶黃白色ヲ呈シ容易ニ破壊シテ潰瘍ヲ形成スルモノナリ

潰瘍ハ最モ多ク遭遇スル所ニシテ小ナル圓形潰瘍アリ又數個相合シ鑿掘シタル如キ大潰瘍ヲ造ルコトアリ淺表ヨリ漸次深部ニ進ミ紫赤色針頭大ノ肉芽ヲ

生ジ汚穢ノ豚脂様分泌物ヲ以テ被覆セラレ邊緣ハ不正ニシテ發赤浸潤ヲ呈シ屢々小結節ヲ有ス又多クハ頭部淋巴腺腫大ス

豫後

原發性ノモノハ治癒スルヲ得レドモ續發性ノモノハ多クハ不良ナリ營養物攝取ノ能否ハ其經過ニ大關係ヲ有ス

診斷

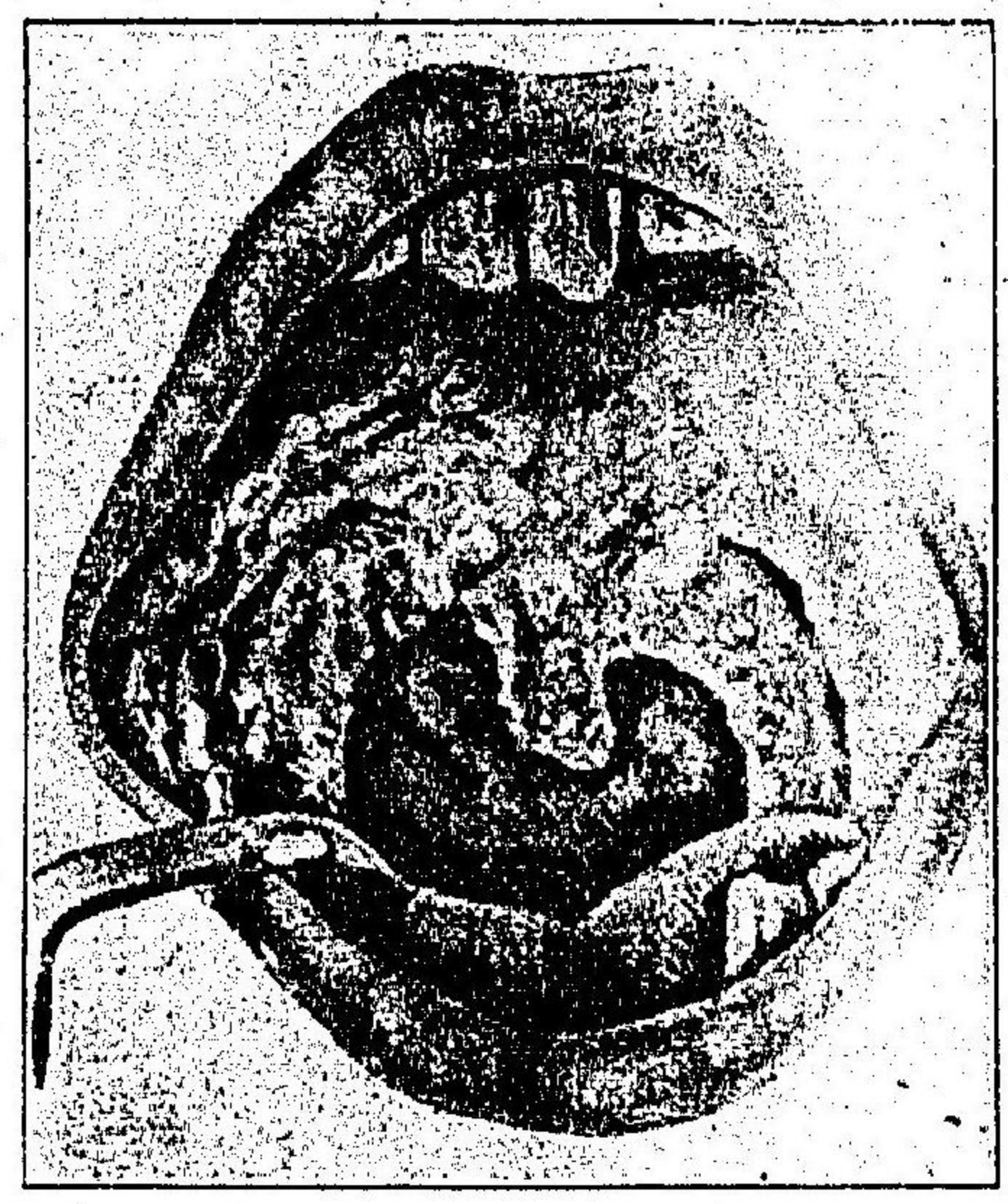
分泌物及ビ組織ノ細菌學的或ハ組織學的検査ヲ施セバ明カナリ其他後章ノ鑑別表三八四頁ヲ參照スベシ

療法

初期潰瘍ノ小ナル時期ニ電氣燒灼法ヲ行ヒ又ハ潰瘍面ヲ充分ニ搔爬シタル後チ濃厚ノ乳酸液(五〇—八〇%)ヲ以テ腐蝕スルトキハ時トシテ瘢痕形成ヲナシテ治癒スルコトアリ潰瘍瀰蔓性ニシテ殊ニ續發性ノモノニアリテハ劇痛ヲ除キ營養物攝取ヲ容易ナ

第九十四圖

咽頭結核





ラシムルコトヲ肝要トス即チ一〇%古加乙涅又「アコイン」溶液塗布又「ホルト  
フォルム」ノ撒布劑或ハ砥劑ヲ稱用ス且ツ搔爬モ疼痛ヲ輕減セシムルヲ得ルモ  
ノナリ

咽頭梅毒 Syphilis pharyngis.

第一期梅毒 硬性下疳ヲ生ズルコト稀レナラズ接吻、煙管其他ノ不潔ナル飲食  
具等ノ媒介ニヨリテ發スルモノナリ通常扁桃腺ニ多ク其他ノ部ニハ稀ナリ粘  
膜ノ表層潰瘍ヲ生ジ滲潤硬結ヲ以テ圍繞シ邊緣發赤ス稀レニ蠶蝕性下疳アリ

第二期梅毒 ハ三種ノ形態ヲ有ス

- 1 紅斑 粘膜充血、粘膜下組織ノ腫脹ニシテ主トシテ口蓋弓、懸壺垂、扁桃腺  
ニ現ハル通常周圍ノ健全粘膜ト境界判然タリ
- 2 扁平「コン」チローム又乳狀斑 乳頭ノ充血及ビ輕度ノ細胞滲潤ニシテ卵  
圓形又ハ橢圓形ノ灰白色不透明ノ扁平隆起ヲ呈ス之レ咽頭梅毒ノ特徴  
ニシテ好ンデ口峽、口唇、口蓋弓、扁桃腺、頰粘膜等ニ發ス
- 3 潰瘍 ハ通常扁平「コン」チロームノ崩潰シテ生ズルモノニシテ淺表性ナ  
リ多クハ偽膜樣被覆ヲ有ス

第九十五圖 第三性膿潰瘍



性硬固ナリ後チ破壞シテ潰瘍ヲ形成ス  
潰瘍ハ邊緣銳利ニシテ鑿掘セル如ク底面ハ汚穢分泌物又ハ組織崩壞片ヲ附着  
シ除去スレバ容易ニ出血ス而シテ漸次深ク侵蝕シテ骨ニ達スルモノアリ潰瘍

第三期梅毒 病變ノ種類ハ  
粘膜滲潤、護膜腫、蕾疹穿孔肉  
芽腫等ニシテ滲潤ヲ來スト  
キハ表面隆起深紅色ヲ呈ス  
穿孔ハ軟口蓋ニ於ケル滲潤  
或ハ潰瘍ニ續發ス護膜腫ハ  
真正ノ腫瘍狀ヲ呈シ咽頭後  
壁及ビ側壁又ハ口蓋帆ニ生  
ズルコト多シ表面滑澤彈力



治癒スレバ癩痕收縮ヲナシ所謂星狀癩痕ヲ形成ス時トシテハ軟口蓋ハ後壁又ハ側壁ト相癒着シテ鼻咽腔ト交通遮斷セラル、コトアリ

症候 第一期及第二期

ノ咽頭梅毒ハ著シキ自覺症ヲ有セザルモノ多シ第三期ノモノハ稍顯著ノ障害ヲ喚起スルモノニシテ潰瘍ノ咽頭後壁又側壁或ハ舌根ニ生ジタルトキハ嚥下痛ヲ發ス但シ本症ニ於ケル嚥下痛ハ比較的輕微ナルヲ常トスレドモ時



第九十六圖 梅毒性癩痕

トシテ劇痛ニシテ食物攝取ノ困難ナルモノヲ實驗スルコト稀ナラズ口蓋ニ大ナル穿孔アルモノハ開放性鼻聲トナリ又食片ノ鼻腔ニ竄入スルコトアリ癒着

性癩痕アルモノハ其部位又ハ程度ニ應ジテ種々ノ障害ヲ發ス

診斷 結核、癌腫、狼瘡等ト判別ヲ要スルコトアリ通常全身症狀ニ鑑ミ局所ノ

狀態ヲ觀察スル時ハ必シモ困難ナラズ後章鑑別表三三四頁ヲ參照スベシ

豫後 初期ニ適當ノ治療ヲ施セバ通常治癒スベシト雖モ時期或ハ程度ニヨリテ異ナリ

療法 一般驅梅毒法ニ從フ(鼻梅毒參照)局所ニ向ツテハ初期ノ下疳ニハ硝酸銀

又ハ石炭酸腐蝕法ヲ行ヒ防腐性含漱劑ヲ與フベク潰瘍或ハ蕾疹ニハ沃度液(沃度二〇沃加二〇水一五〇)ノ塗布ヲ稱用ス其他「プロタルゴール」液ノ塗布、オルト「フォルム」「イトロール」「デルマトール」等ノ撒布亦用フベシ

咽頭狼瘡 Lupus vulgaris pharyngis.

狼瘡性結節ハ後壁、懸壺垂、口蓋帆稀レニ扁桃腺ニ發スルモノニシテ原發性ハ稀レニシテ多クハ顔面狼瘡ニ續發ス

咽頭狼瘡ハ通常特著ノ自覺症狀ヲ現ハサザルモノニシテ他覺検査ニヨリテ散



在性或ハ集簇性ノ結節ヲ發見ス初メハ鮮紅色ニシテ周圍ノ反應炎症ト判然境界ヲ示サハルモ後チ蒼白色トナリ他ノ粘膜ト限劃スルニ至ル破壊スレバ潰瘍ヲ生ジ恰モ結核性潰瘍ヲ見ルガ如シ然レドモ其周圍ニ於テ往々癥痕形成ニヨリテ治癒シタル部ヲ見ルモノナリ疼痛ハ缺如スルヲ常トス或ハ僅カニ之ヲ有ス

### 咽頭癩 *Lepia pharyngis.*

咽頭癩ハ通常結節性ニシテ扁豆大乃至榛實大ノ黃白色光輝アル滲潤ヲ以テ來ル好ンデ軟口蓋口蓋弓懸壜垂或ハ後壁ニ發ス屢々中心ヨリ崩壞シテ潰瘍ヲ生ズ

### 第五章 咽頭腫瘍 *Geschwülste des Rachens.*

咽頭ノ良性腫瘍ハ概シテ稀ニシテ纖維腫乳嚙腫囊腫粘液腫及ビ血管腫等ナリ之ニ反シ惡性腫瘍ハ屢々實驗スル處ニシテ通常肉腫及癌腫ナリ

#### 咽頭肉腫 *Sarcoma pharyngis.*

肉腫ハ扁桃腺(偏側ニ多シ)ニ發スルコト多ク他部ニハ稀ナリ而シテ通常淋巴肉腫及ビ圓形細胞肉腫トシテ來ル

**症候** 高度ノ扁桃腺肥大症ニ於ケルガ如キ聲音ノ變化嚙下困難病側頸部ノ疼痛疼痛ノ耳部放散出血及加答兒等ナリ

**診斷** 扁桃腺肉腫ハ初期ニ於テハ單純肥大症ト疑ハシト雖モ通常其潮紅顯著ナルト彈力性硬固質ナルト迅速ノ發育トニヨリテ判定スルヲ得ベシ又破壞シテ潰瘍ヲ形成スル時ハ謔腫ト類似ノ狀態ヲ呈スルモノナリ此ノ如キモノハ沃度劑ノ應用其他ノ症狀ニ鑑ムルトキハ之ヲ識別スルコトヲ得ベシ又組織學的検査ヲ行フトキハ確實ナリ

**豫後** 不良

**療法** 初期ノ外科的療法ハ合理的ナレドモ再發ヲ免レズ其他電氣分解法又對症療法ヲ行フ

淋巴肉腫ハ多量ノ亞砒酸ノ服用ニヨリテ少シク輕快スルコトナキニ非ズ



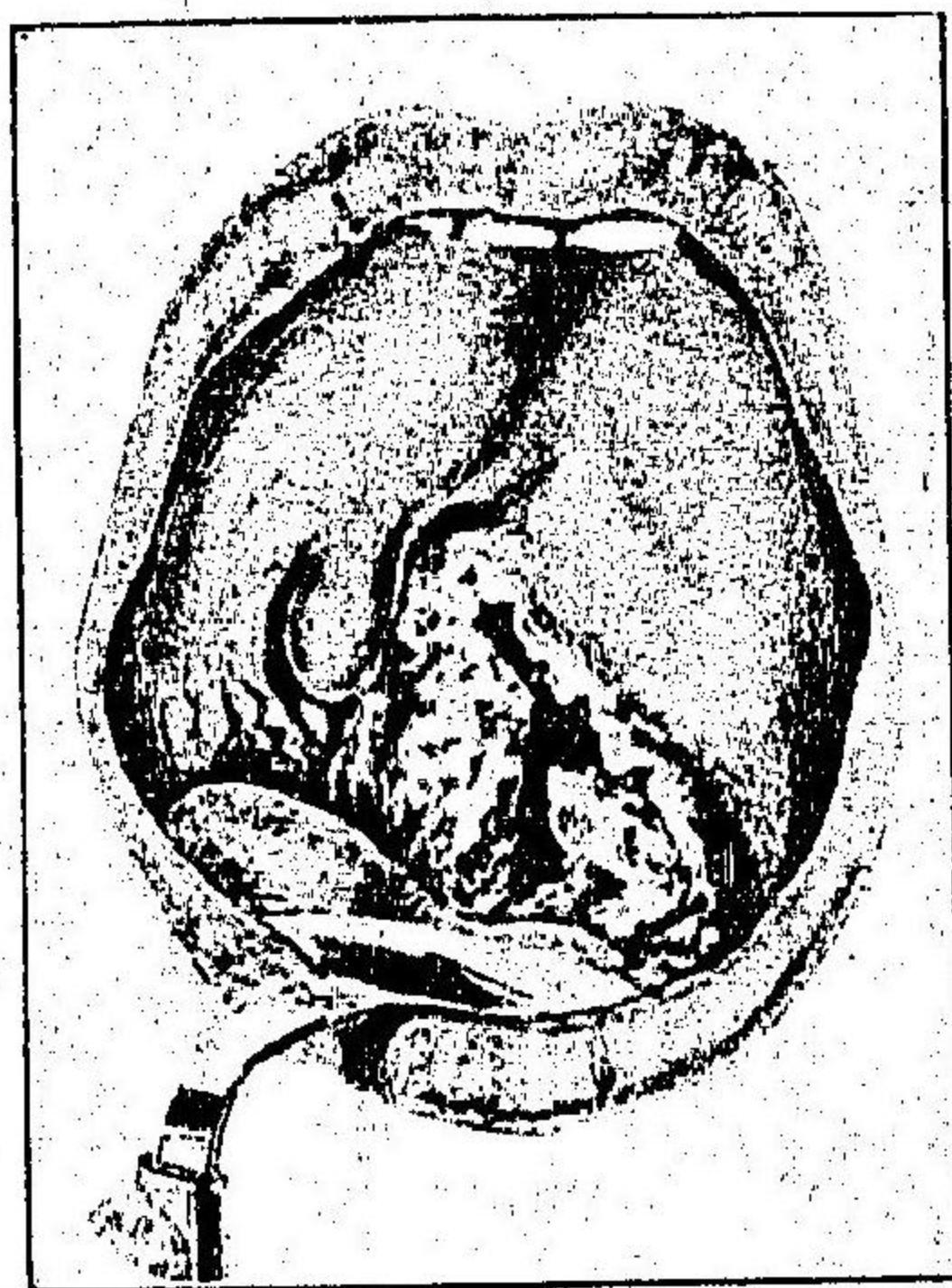
咽頭癌腫 Carcinoma pharyngis.

扁桃腺ニ原發スルコトアレドモ多クハ咽頭下腔喉部咽腔ヨリ移行スルモノナリ

症候 不定ニシテ誤リ易シ例之木

症ニ於テ殆ンド毎常現ハル、耳部ノ放散性疼痛アル際ニ咽頭検査ヲ施スモ其部ニハ病變ヲ認メザルコトアリ又嚥下痛ハ初期ニ於テ缺ルコトアルヲ以テナリ然レドモ後チニ至レバ發スルヲ常トス其他出血分泌過多ヲ來

第十九七圖 咽頭癌



ス

診斷

肉腫ト似テ異ナリ癌腫ハ表面凹凸不平ニシテ硬度強ク肉腫ハ平滑ニシテ弾力性ヲ有ス其他後章鑑別表ヲ參照スベシ

豫後 不良

療法

肉腫ニ同ジ對症療法ニ過ギズ

第六章 咽頭異物 Corpora aliena pharyngis.

咽頭異物ハ魚骨針義齒竹木片葉莖等ニシテ食塊ニ混ジテ嚥下セララル、ニヨリテ來ルヲ常トス好ンデ箱在スル部分ハ舌會厭窩口蓋扁桃腺窩舌根部等ニシテ其他ノ部分ニモ存在スルコト稀ナラズ

症候

大ナル異物ハ呼吸障害ヲ來スコトアリ尖銳ナルモノ殊ニ魚骨ノ刺入シタルトキハ刺痛ヲ感ジ嚥下時ニ増劇ス時トシテ膿瘍ヲ生ジ又ハフレグモノネヲ續發スルコトアリ

診斷

大ナル異物ハ喉頭鏡検査法ヲ應用シ又指ヲ以テ觸診法ヲ行フトキハ容易ニ之ヲ診定スルコトヲ得ベシト雖モ小魚骨ノ如キハ分泌物ノ爲メニ明視スルヲ得ザルコトアリ注意スベキハ一旦刺入シタル異物ノ排除セラレタル後チ尙ホ其部ニ刺痛ヲ貽シテ異物ノ存在スルガ如キ感ヲ有シ醫門ヲ叩クモノアルコトナリ須ラク充分ノ探查ヲ遂ゲ在否ヲ斷定スベシ



療法

其存在ヲ確定シタル後チ鉗子其他ノ適當ノ器械ヲ以テ摘出スベシ

咽頭角化症 Hyperkeratosis pharyngis.

原因 上皮ノ角質變性増殖(シーベンマン氏)シタルモノナリト云ヒ又「レプト、リキス」菌ニヨル炎症(ベエ、フレンケル氏)ナリト云フ本症ハ喫煙セザルモノニ發スルコト多シ

症候 白色圓錐狀ノ隆起ニシテ尖形「コンガローム」ニ類似ノ觀ヲ有ス多クハ口蓋扁桃腺窩、舌根、側索、後壁等ニ生シ容易ニ除去スルコト能ハズ自覺症ハ通例缺如ス時トシテ異物様感アリ

扁桃腺結石 Concrements pharyngis.

稀有ニシテ扁桃腺組織内ニ白型様硬固ノ灰白色又ハ帶綠灰白色ノ團塊ヲ認ム通常著シキ自覺症ナク只僅カニ異物感ヲ有ス然レドモ其刺激ノ爲メニ屢々扁桃腺炎ヲ繼發スルコトアリ

第五編

喉頭ノ疾病

Krankheiten des Kehlkopfes.

第一章

喉頭粘膜ノ炎症

Schleimhautentzündungen

des Kehlkopfes.

急性加答兒性喉頭炎

Laryngitis acuta catarrhalis.

原因 固有ノ原因ハ聲音過度ノ使用例之バ謠吟、呼號等ナリ其他ノ原因及病理上ノ關係ハ悉ク他ノ上部氣道粘膜ノ急性炎症ト同一ナリ(原因總論參照)又屢々鼻腔、咽頭ノ疾病ニ併發或ハ續發シ加之急性氣管及ビ氣管支炎ヲ喚起スルコトアリ又自轉車乗用者ハ本症ニ罹ルコト多シト云フ

症候

自覺症候ハ患者ノ個人性、病勢ノ強弱廣表或ハ病變部位等ニヨリテ一定セザレドモ通常喉内乾燥、灼熱、粗糙ノ感ヲ發シ咳嗽、嚔咳及ビ聲音嘶啞ヲ伴フ聲音變化ハ輕度ナルアリ或ハ殆ンド失聲ニ近キモノアリ疼痛ハ著シカラザルヲ常トスルモ會厭軟骨、披裂會厭襞、後壁等ノ炎症劇救トキハ嚔下運動、咳嗽等ニ由ツテ劇痛ヲ發スルコトアリ

分泌物ハ初期ハ稀薄粘液様膠様或ハ蛙卵様ニシテ血液ヲ混ズルコトアリ漸次病症ノ増進スルト共ニ膿性ヲ帶ブルニ至ル呼吸、障害ハ成人ニハ稀ナリ只聲門下ニ腫脹ヲ來シ或ハ分泌物乾固スルトキニ起リ吸氣的喘鳴ヲ發ス然レドモ小



兒ニ於テハ屢々高度ノ狹窄症狀ヲ呈スルモノアリ(小兒急性喉頭炎ニ詳述ス)他覺症候ハ程度及ビ部位ノ異ナルニ從ツテ甚ダ不同ナル粘膜炎ノ發赤腫脹ヲ認ム即チ輕度ノ血管充漲ヨリ汎發性ノ潮紅ニ及ビ時トシテハ粘膜炎ノ一部ニ會厭軟骨披裂軟骨ノ尖端等時トシテハ聲帶及ビ假聲帶ニ蔓延スルモノアリ潮紅ノ程度モ亦不定ニシテ鮮紅色ヨリ汚穢黯紅色ニ至リ粘膜炎表面ノ光澤ヲ失ヒ處々ニ溷濁或ハ上皮ノ剝脫ヲ見ル聲帶ハ獨リ固有ノ白色ヲ保留スルコトアルモ又他部ヨリ蔓延シ來リ若クハ獨立炎症ヲ發シテ光澤ヲ失ヒ充血及ビ腫脹スルコトアリ假聲帶ノ腫脹高度ナルトキハ聲帶ハ覆蓋セラレテ狹ク見ユルモノナリ又屢々筋ノ浸潤麻痺ノ爲メニ聲帶ノ緊張力微弱トナリ聲門ノ閉鎖完全ナラズシテ聲音變化ヲ起スコトアリ殊ニ甲狀披裂筋及ビ後披裂間筋ニ來ルコト多シトス

急性喉頭炎ノ變形トシテ記スベキモノ左ノ如シ

**乾性喉頭炎** *Laryngitis sicca* 分泌物乾燥シ聲帶緣或ハ喉頭後壁ニ褐色ノ痂皮ヲ凝着スルモノニシテ鍛冶工料理人等ノ如キ火ニ接近スルモノニ發シ易シ

**出血性喉頭炎** *Laryngitis haemorrhagica*

乾燥凝結セル痂皮ノ剝脫部ヨリ血液ノ滲漏スルモノアリ又腸胃ノ疾患及ビ局所血行障害例之バ甲狀腺腫、淋巴腺腫等或ハ腎臟病、インフルエンザ、白血病等ニヨリテ發スルコトアリ

**聲門下喉頭炎** *Laryngitis hypoglottica* 聲帶直下ノ

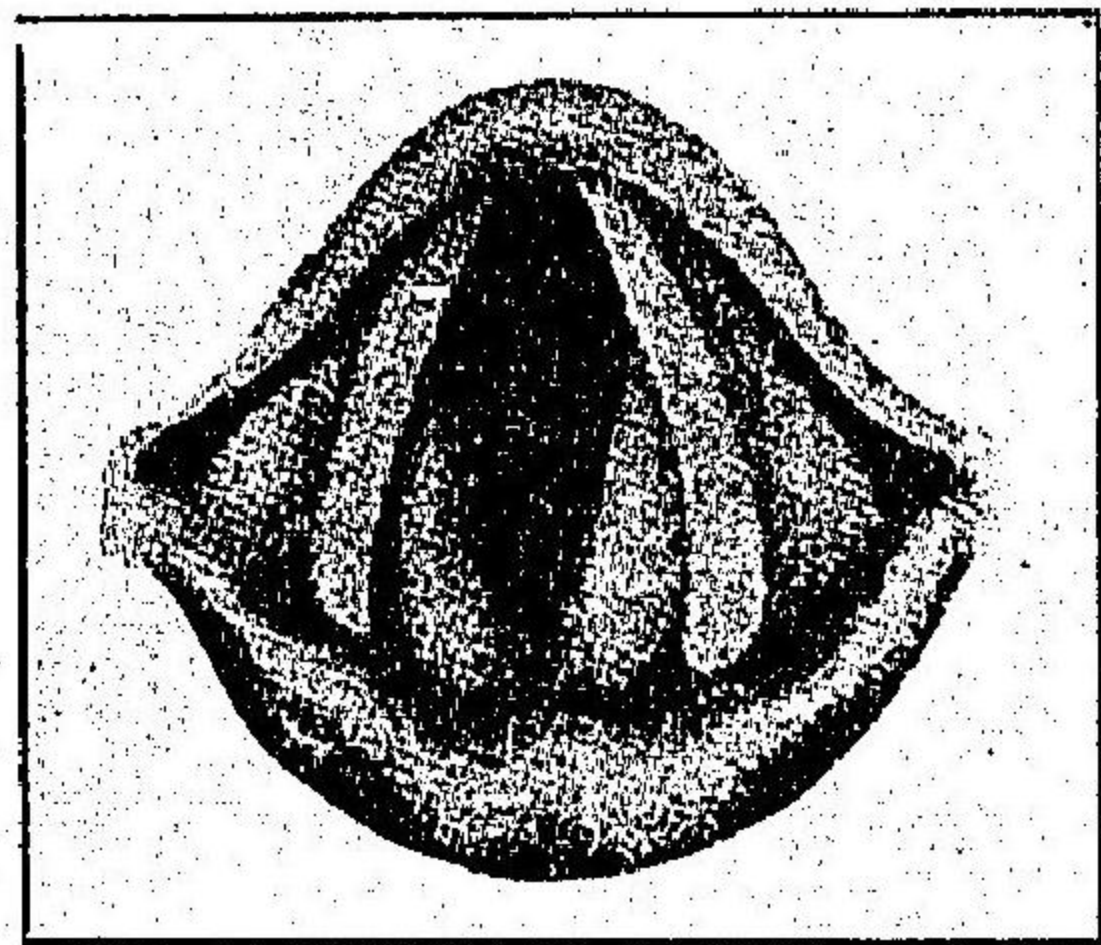
粘膜炎腫脹ニシテ赤色ノ堤狀隆起ヲ現ハシ恰モ聲帶ヲ支持スル枕ノ如ク又ハ聲帶ト并行シテ第二聲帶ノ觀アリ本症ハ呼吸困難ヲ起ストキハ小兒ノ假性格魯布ト誤認セララルコトアリ

**經過** 輕度ノモノハ兩三日ニシテ治癒ス時ト

シテハ特殊ノ治療ヲ要セザルコトアリ然レドモ中等度ノモノハ一二週ヲ費シ合併症アルモノイニフルエンザ性ノモノハ猶多クノ日子ヲ要ス若シ不攝生殊ニ聲音過強ノ使用、飲酒、喫煙或ハ治療ヲ施サル等ノコトアラシカ通常慢性症ニ陥ルモノナリ

**豫後** 概シテ佳良ナリ續發性ニシテ其原因病ノ重症ナルトキハ危險ヲ來ス

第九十八圖  
聲門下喉頭炎





コトナキニ非ズ

療法 原因療法ヲ肝要トス喫煙、飲酒ハ嚴禁スベク談話モ可成的之ヲ避クベシ原因寒胃ノ如キ單純ナルモノ或ハ發熱スルトキハ發汗解熱劑ヲ服用セシメ頸部ニ濕布卷法ヲ施シテ靜臥セシムルヲ要ス咳嗽刺戟ニハ鎮咳劑ヲ分泌強盛ニシテ粘稠ナルモノニハ祛痰劑ヲ用ヒ兼テ緩下劑ニ由リ便通ヲ整フベシ其他吸入モ稱用セラル

局所療法ハ却テ刺戟ヲ與フルガ故ニ初期ニハ寧ロ應用セザルヲ佳トス然レドモ亦安知必林古加乙涅溶液噴霧或ハ塗布及ビ稀薄ノ石炭酸備里設林(時トシテ古加乙涅混和)ノ塗布ヲ行フテ奏効アリ

處方

- 1 鹽莫比 〇、五  
杏仁水 一五、〇  
右滴劑一日四五回六滴乃至十滴、服用
- 2 鹽酸「アボモルヒネ」 各〇、〇一五  
鹽莫比
- 3 鹽酸アボ莫比 〇、〇三  
稀鹽酸 〇、五
- 單舍 六、〇  
蒸溜水 一〇〇、〇  
右一日三四分服

- 單舍 一二〇、〇  
蒸溜水 一五〇、〇  
右二—三時一食匙 (小兒用)
- 4 阿片末 各〇、〇三  
叶根末  
安知歇親林 〇、二五  
乳糖 〇、五
- 5 吳剝 三一六、〇  
古加乙涅 〇、一五  
水 一五〇、〇  
右吸入料(鎮咳)
- 6 食鹽 各二、〇  
重曹  
吳曹
- 7 「メントール」 〇、五  
重曹 二、五  
糖 一、〇  
亞刺比亞ム 五、〇  
單舍 適宜  
右二十五丸トシ一二丸ヲ、口内ニ含ム
- 8 「ユカイン」 〇、〇二  
安知必林 二、〇  
糖 二〇、〇  
單舍 適宜  
九十粒トナシ隨時口内ニ含ム

小兒急性喉頭炎(假性格魯布)

Laryngitis acuta der Kinder (Pseudokroup).



小兒ノ急性喉頭炎ハ大人ニ於ケルモノト全然別種ノ觀ヲ呈スルモノニシテ二歳乃至五歳ノ小兒ニ來ルコト最モ多シ

**原因** 大人ノソレト異ルコトナシ只腺病性鼻咽腔腺増殖症、口蓋扁桃腺肥大症ヲ有スル小兒ハ侵襲セラレ易シ

**症候** 通常夜間突然發スルモノニシテ安眠セル小兒ハ遽然トシテ呼吸困難咳嗽(犬吠性)嘶嘎ヲ起シ吸氣の喘鳴ヲ發シ相貌ハ不安恐怖ノ狀ヲ呈シ紫藍色ヲ帶ビ心窩喉窩助間等ニ吸氣の陷凹ヲ呈シ恰ソド窒息セントスルガ如シ此ノ如キ劇烈ナル症狀モ數時間ノ後チ或ハ一時間餘ニシテ全ク煙滅シ發汗ヲ來シテ就眠ス然レトモ翌夜再ビ同様ノ症狀ヲ發スベシ  
他覺的所見ハ主トシテ聲帶下粘膜ノ腫脹ニシテ畢竟聲帶下喉頭炎ノ狹細ナル小兒ノ喉頭ニ發シタルガ爲メニ外ナラズト説クモノアレトモ本症特有ノ定期的發作及消散ハ分泌物ノ蓄積及ビ反射的聲門痙攣ノ之ニ關與スルモノナラント唱フルモノアリ

**診斷** 自覺症候及ビ検査法ニヨリテ容易ナレトモ異物、喉頭實扶埤里ト錯ル

コトアリ然レトモ偽膜ヲ發見セザルコト症狀ノ忽然消散スルコト及ビ反覆スルコト等ノ特徴アルヲ以テ判別スルヲ得ベシ

**豫後** 概シテ良ナリ時トシテハ窒息ニ陥リ鬼籍ニ上ルモノ罕ナラズ但シ此ノ如キ場合ハ既ニ蜂窩織炎等ヲ發シタルニ由ルコト多シ

**療法** 原因療法ヲ行フヲ要ス發作時ハ室内ノ換氣及濕潤ニ注意シ食鹽水、重曹水等ノ吸入頸圍ノフリースニツツ巻法、酒精摩擦等ヲ施シ發作強劇ナルトキハ胸骨部ニ芥子泥ヲ貼付シ且ツ吐劑、鎮咳劑ヲ用ヒ窒息ニ陥ラントスルモノハ挿管術又ハ氣管切開術ヲ施スベシ

**處方**

- 1 鹽酸「アボモルヒネ」 〇.11  
蒸餾水 10.0
- 2 吐根浸 100.0  
亞片丁幾 (〇.11) 二一五滴  
炭酸加里 〇.5  
單舍利別 一五.〇
- 3 右每一時一茶匙  
磷酸古堊乙混 〇〇.11  
杏仁水 二.〇  
單舍利別 一五.〇  
蒸餾水 三五.〇  
右每三時半茶匙



## 慢性加答兒性喉頭炎 Laryngitis

chronica katarhalis.

極メテ多キ疾病ニシテ程度ノ差異コソアレ吾人人類ノ多數ハ本症ニ罹ルト云  
 フモ可ナリ而シテ其醫療ヲ乞フニ至ルモノハ放置スルモノニ比スレバ遙ニ少  
 ナシ又通例成人ニ發スルモノニシテ殊ニ男性ニ多シ  
 慢性喉頭炎ハ其病變ノ狀態ニヨリテ之ヲ肥厚性及削瘦性ニ區別ス

## A 慢性肥厚性喉頭炎 Laryngitis

hypertrophica chronica.

**原因** 急性症ニ續發シ又同一ノ原因ニヨリテ發ス殊ニ聲音過用、喫煙、飲酒、塵  
 芥吸引ハ其最ナル者ナリ本症ハ又職業的疾患ニシテ原因總論及ビ鼻咽頭疾病  
 ノ原因部ニ述ベタルガ如ク謠吟者、士官、教師、穀粉商、石工、煙草製造人等ニ著シク  
 多ク其他鼻咽頭病ニ併發シ特ニ急性症ノ前驅スルコトナクシテ慢性症ニ罹ル

コト多シ

**症候** 自覺症候ハ乾燥異物及ビ癢痒ノ感、聲音嘶啞、聲咳、咳嗽、粘痰等ニシテ聲

音變化ハ輕度ノ者ハ長時ノ談話後ニ初メテ發スルコトアリ或ハ分泌物ノ除去

ニヨリテ著シク輕快スルアリ又高度ニシテ全失聲ニ至ルモノアリ  
 分泌ハ少量ニシテ西穀米樣膠樣或ハ溷濁膿樣凝塊ヨリ成リ時トシテ痂皮ヲ結

ブ呼吸困難ハ稀レニ發スルコトアリ  
 他覺的變化ハ病變ノ廣表及ビ部位等ニ從ヒ千差萬別ニシテ不定ナリ一般ニ發  
 赤腫脹ヲ呈ス而シテ發赤ハ聲音過度ノ使用、咳嗽頻發等ノ爲メニ急性症ニ於ケ

ルガ如ク著シキモノアリ  
 會厭軟骨ハ侵襲セラル、コト比較的多シ殊ニ喫煙家、飲酒家ニ於テ然リ粘膜潮

ラシム

紅、靜脈怒張、肥厚、變形等ヲ來シ且ツ運動不全ノ爲メニ喉頭内部ノ検査ヲ困難ナ  
 ラシム  
 假聲帶ハ亦屢々犯サル、部位ニシテ肥厚膨隆シテ眞聲帶ハ狹小トナリタルガ  
 如キ觀ヲ呈シ或ハ全ク掩蔽セラル、モノアリ而シテ發聲時假聲帶ノ遊離緣相



接觸振顫シテ不快ナル粗糙音所謂假聲帶音ヲ發ス又モルガン氏竇粘膜增殖症ヲ見ルコトアリ

聲帶ハ著シク充血スルコトアリ又極メテ輕微ナルアリ或ハ單獨ニ或ハ他部ト共ニ犯サル、モノニシテ遊離線鈍圓トナリテ光澤ヲ失ヒ時トシテハ血管露出シ或ハ局所性或ハ汎發性疣狀腫起ヲ生ズ之ヲ結節性聲帶炎又聲帶トヲホムト稱ス又聲帶ノ前及ビ中三分一境界部ニ於テ遊離線ニ小結節ヲ生ズ通常相對性ニ來ルコト多シ之レヲ謠人結節 Sängerknöchen ト云フ此小結節ハ又小兒ニ見ルコト稀レナラズ之レヲ小兒結節ト云フ(後章謠人結節參照)

披裂間部ノ侵襲セラル、トキハ粘膜ハ腫脹著シキモ強度ノ潮紅ヲ來サザルヲ常トス屢々後壁ノ前面ニ於テ一個乃至數個ノ廣莖性粘膜贅生ヲ來タシ發聲時ニ當リ聲帶ノ閉鎖ヲ妨グ加之高度ノモノハ囊狀ヲ呈シ聲門ニ箝在シ嘶啞ヲ起スコトアリ

**合併症** 筋ノ麻痺殊ニ橫披裂筋、斜披裂筋并ニ甲狀披裂筋麻痺ヲ來ス其他持久性症ハ喉頭硬皮症、聲帶下腔腫脹ノ爲メ狹窄症狀ヲ發シ或ハ潰瘍、後壁ニ裂創

等ヲ來ス

**診斷** 結核及梅毒トノ關係ニ注意スベシ通常爾餘ノ病狀及ビ鏡檢所見ニヨリテ診斷スルコト困難ナラズ

**豫後** 概シテ佳良ナレドモ頑固ニシテ終生治癒セザルモノ稀ナラズ之レ多クハ患者ガ原因タルベキ職業ヲ斷然放棄スルノ困難ナルト永ク治療ヲ繼續シ且ツ充分ノ攝生ヲナスコト能ハザルニ基因ス又慢性炎症ヲ有スル粘膜ハ病菌ノ乘シ易キガ爲ニ結核等ノ侵襲スル事アリ又新生物發生ノ原地タルヲ得ベシ

**療法** 原因ヲ驅除スルヲ緊要トス時トシテハ職業ヲ中止セシメ或ハ轉セシムルヲ要スルコトアリ鼻腔、鼻咽腔及咽喉ニ疾患アラバ必ズ之ヲ治療スベシ又都會ノ地ヲ去リテ田園生活ニ移リ或ハ浴湯ニ趣ク時ハ良効ヲ奏スルコトアリ局所療法ハ必要ニシテ粘膜腫脹瀰蔓性ニシテ結節、硬皮症等ヲ有スル者ニ向ツテハ收斂劑、解凝劑ノ應用ハ有力ナリ即チ液劑ヲ注入或ハ塗布シ粉末劑ハ吹粉器ヲ用ヒテ喉内ニ吹入スルナリ通常患者ヲシテ發音セシメ其瞬間ニ吹入ス末熟ノ術者ニアリテハ注入或ハ吹入ニ際シ藥劑ヲ氣管内ニ竄入セシメ患者ヲシ



テ咳嗽頻發ノ爲メニ苦惱セシムルコト少ナカラズ注意スベシ  
 又藥劑ハ初メ稀薄ノモノヲ用ヒ漸次濃厚ノモノニ移ルヲ可トス殊ニ硝酸銀ニ  
 於テ然リ例之バ左ノ如シ

第一週	一日一回	四%硝酸銀
第二週	二日一回	五%同
第三週	一週五回	五%同
第四週	一週四回	七%同
第五週	一週三回	七%同
第六週	一週二回	一〇%同

處方

- 1 一—一〇%格魯兒亞液
- 2 二—一〇%單寧備利設林
- 3 沃度丁幾(或ハ偏里設林等分)
- 4 マンドル氏沃度偏里設林
- 5 四—一〇%硝酸銀液
- 6 二—一〇%「プロタルゴール」液
- 7 硝酸銀 〇.〇五—〇.二
- 8 陶土 一〇.〇
- 9 「ソツオヨドール」亞鉛 一.〇—二.〇
- 10 滑石 一〇.〇
- 11 單寧粉等分ノモノ
- 12 沃度兒礮酸等分ノモノ

其他潰瘍面ニハ硝酸銀腐蝕法、結節性ノモノニハ格魯謨酸腐蝕法若クハ電氣燒灼法ヲ行ヒ時トシテ搔爬術、切除術ヲ施行ス又筋麻痺ニ電流ヲ應用スベシ  
 又全身狀態ニ應シ鐵劑、沃度劑ノ内服ヲ用ヒテ効アリ

**B. 削瘦性乾性喉頭炎** *Laryngitis atrophica sicca.*

**原因** 鼻咽頭及副鼻腔化膿症ノ細菌的或ハ營養失常的病機ノ蔓延傳播ニヨリテ起リ分泌物若シ惡臭ヲ有スル時ハ喉頭「オツエナ」ト稱ス(有臭削瘦性鼻炎參照)又此ノ如キ上部氣道ノ疾病ヲ合併セズシテ獨立ニ起ル「アリアヴェル」氏ニ據レバ扁平顔面頭蓋ヲ有スル少女ニ多ク此際又妊娠モ關與スルモノノ如シト其他乾燥セル塵埃含有ノ氣中勞働者又ハ火ニ接近スル職業及ビ習慣性口呼吸者ニ於テ來ル又遺傳ハ證明スルヲ得ベク貧血、腺病質梅毒、甲狀腺腫アルモノニ發スルコトアリ

**症候** 主徴候ハ聲音變化、乾燥異物感、咳嗽、嚥咳及ビ一時的呼吸困難ナリ  
 聲音變化ハ迅速ナル變轉ヲナスヲ特有トス分泌物ノ聲帶間又ハ表面ニ乾燥固



着スルトキハ嘶嘎ヲ來シ略出セラル、ヤ直チニ平常ノ聲音ニ復スルモノナリ  
 咳嗽及呼吸困難モ亦同一ノ理由ニ因リテ強弱ノ差異アリ  
 他覺的所見 喉頭粘膜ハ乾燥シテ光澤アリ局部或ハ全部ニ發赤ス殊ニ披裂間  
 部喉頭聲帶下腔ハ黃色或ハ帶綠色或ハ暗褐色ノ枯燥凝結セル痂皮ヲ以テ被覆  
 セラル或ハ半流動性分泌物ノ聲帶間ニ縷ヲ牽クモノナリ而シテ痂皮ノ略出セ  
 ラル、トキハ粘膜潮紅シ屢々小出血點ヲ見ルコトアリ

豫後

全治スルコト難シ

療法

凝着セル分泌物ニハ亞爾加里劑ノ吸入或ハマンドル氏液ノ塗布又ハ  
 注入ヲ稱用ス又内服藥ニハ沃度劑、結列阿曹篤、アボモルヒネ等ヲ用ヒ轉地療養  
 モ亦良効ヲ奏スルコトアリ  
 惡臭性症ニハ「レゾルチン」的列並底「ミルトール」「チモール」等ノ吸入ヲ行フテ効  
 アリ

慢性喉頭炎ノ特殊形態

a 喉頭厚皮症 *Pachydermia laryngis.*

原因

過度ノ發聲、喫煙、飲酒ノ濫用ニ因ス又結核、梅毒、癌腫、狼瘡等ニ續發ス甲  
 フ原發性厚皮症ト云ヒ乙ヲ續發性又症候性厚皮症ト云フ

病理解剖的變化

喉頭粘膜ノ上皮増殖及ビ表層角質變性并ニ結締織増  
 殖ヲ來スモノニシテ通常之ヲ疣贅性又限局性ト汎發性ノ二種ニ區別ス

疣贅性厚皮症ハ專ラ上皮過生ニヨリテ生ジ曾テ乳嘴腫トシテ記載セラレタル  
 モノニシテ多クハ前連合部、聲帶前部、聲帶突起及ビ中部或ハ後壁ニ發シ會厭軟  
 骨喉頭面ニ發スルハ稀レナリ

汎發性厚皮症ニ於ケル結締織變化ハ續發性ニアラズシテ先ツ粘膜ノ結締織ニ  
 變化ヲ生ジ上皮ハ却テ續發性ニ變性スルモノナリ

上皮變化ハ其表層ハ角質變性ヲ來シ無核或ハ核不明ノ磚狀上皮細胞ニ變ジ其  
 下際ニ於ケル圓柱細胞層トノ中間ニハ大核星芒狀或ハ棘狀突起ヲ有スル多角  
 細胞ヲ有ス又上皮及ビ結締織ハ増殖スルノミナラズ乳嘴ヲ生ズ殊ニ聲帶突起



部ニ於テ發育顯著ナリ

**症候** 嘔聲、嚥下困難、結節相互ノ壓迫ニ由ル、及ビ呼吸困難ヲ來シ且ツ異物感

咳嗽、聲略痰アリ

他覺的所見 好發部位ナル聲帶突起ハ固有ノ蒼白或ハ淡紅色平滑ノ隆起ヲ生ジ多クハ相對性ニシテ其偏側ノ内方ニ小皿狀ノ窩ヲ有シ他側ノ凸面ト相適合スルモノナリ、膺形成ニ就テハウキルヒヨ一氏ハ粘膜ノ軟骨ニ附着スルコト緊密ナルガ爲メナリトシ、レチー氏ハ對側磨耗ノ續發作用ナリトセリ又クツトネル氏ハ原因ヲ兩者ニ歸スルヲ至當ナリト唱ヒタリ、次テ多ク發スル部位ハ披裂間部ニシテ大小種々ノ隆起ヲ生シ往々巔狀或ハ鋸齒狀ヲ呈ス

**經過及豫後** 緩慢ナリ原發性ノモノハ良ニシテ續發性ノモノハ原病ニ關

ス

**療法** 沃度加里ノ内服ヲ賞用ス局所療法ハ硝酸銀、沃度堀里設林、〇、五—五%

苛性加里液、五十%乳酸液、撒里矢兒酸一、〇、飽水及亞爾個保兒各五、〇ノ混和液塗布及ビ食鹽水、二—三%醋酸、醋酸礬土、鉛糖溶液等ノ吸入ヲ行フベシ

藥物療法奏効ナキトキハ鉗子、キユレット、電氣燒灼、電氣分解等ヲ應用ス續發性厚皮症ニ向ツテハ其原病療法ヲ行フ

**b 慢性增殖性モルガン氏竇炎 Laryngitis chronica**

*ventricularis hyperplastica.*

本症ハモルガン氏竇粘膜ノ廣基性腫瘍狀ヲ呈シテ脫垂スルモノニシテ往時ハ之ヲ單純ノ粘膜炎ト説明シ Prolaps ventriculari Morgagni ト稱セシガフレンケル氏キアリ一氏等ノ說ニヨレバ炎症ノ結果粘膜炎増殖シテ竇腔消失スルノミナラズ又膨出スルニ至ルモノナリト云フ

**症候** 聲音嘶、嘔咳、略痰等アリ高度ノモノハ喉頭狹窄症狀ヲ發ス

他覺的所見 一側又ハ兩側ノモルガン氏竇ヨリ黃白色灰白色或ハ紅色ノ聲帶ヲ掩蔽シ若クハ下喉頭腔ニ懸垂セル廣基性腫瘍狀物ヲ突出ス其兩側ニ發シタルモノハ相觸接スルコトアリ

**療法** 廣袤大小ニ應ジテ藥液塗布法、腐蝕法、電氣燒灼法、亂刺法、切除等應用セ



ラル

c 慢性聲帶下喉頭炎 Laryngitis hypoglottica chronica.

原因 急性聲帶下喉頭炎ノ移行及ビ慢性喉頭炎ニ續發スルモノ多シ其他結核梅毒硬化腫淋巴性惡液等ハ本症ノ原因トナル

症候 聲音嘶啞及ビ呼吸障害ヲ主徵トス高度ノモノハ窒息スルニ至ル

他覺的所見 通常兩側時トシテ片側聲帶ノ遊離縁ニ沿フテ淡紅平滑稀ニ凹凸不平ノ隆起ヲ生成ス、ソハ或ハ聲帶自己ニ或ハ聲帶直下ノ粘膜ニ屬シ或ハ兩者ニ屬ス而シテ通常前方ハ狹小ニシテ後方ハ廣大ナリ其狀恰モ第二聲帶ノ存在スルガ如シ又前後兩壁ニ沿フテ架橋様ニ聯結セラル、モノ稀ナラズ  
聲帶運動ハ異常ナキコトアリ或ハ障害セラル、コトアリ

經過 極メテ緩慢ナリ

豫後 原病及ビ處置ノ如何ニ關スルモノニシテ之ヲ定ムルニハ慎重ナルベシ屢々窒息ニ陥ルモノアリ

療法 原因病ノ治療ヲ行ヒ局所療法トシテハ輕症ハ塗布、吸入等ヲ行ヒ重症ニハ腐蝕法、電氣燒灼法、電氣分解法、切除法等ヲ行フ呼吸困難ノ顯著ナルトキハ氣管切開術、ブーシー擴張法、オドウアイアー氏挿管法等ヲ行フ

d 謠人結節 (小兒結節) Sängerknötchen (Kinderknötchen).

原因 聲音濫用ヲ主トス殊ニ高調音ヲ發スル婦人ニ多シ小兒結節ハ過度ノ叫喚唱歌或ハ腺病(アレキサンデル氏)等ニ基因ス又本症ヲ新生物トシテ記載セルモノアリ

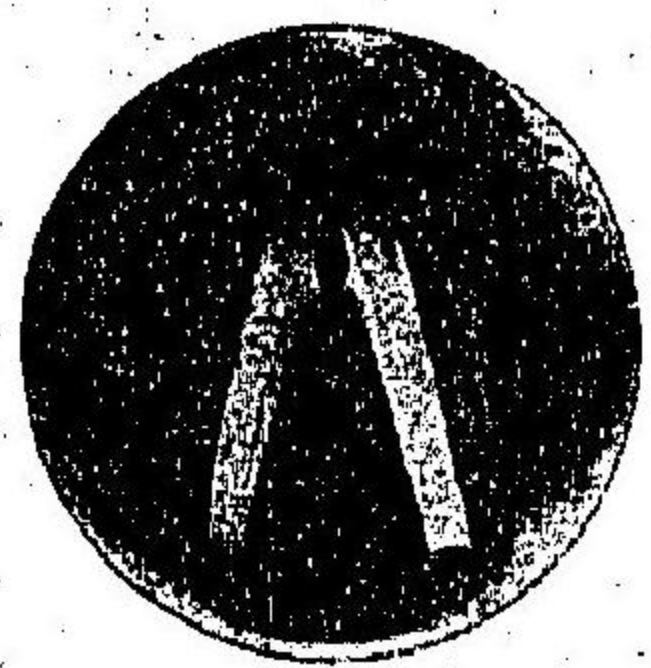
症候 微細ノ結節ハ殆ンド聲音障害ナキガ如シト雖モ謠歌者ノ如キ微妙ノ聲音ヲ要スルモノハ直チニ其異常ヲ發見スルモノナリ大ナルハ著シキ聲音嘶啞ヲ來シ且ツ容易ニ疲勞ス故ニ發聲久敷ニ至レバ聲音ノ變調ヲ來スモノナリ他覺的所見 聲帶遊離縁ニ於テ一側或ハ左右相對性(他側ノ少ク前或ハ後方ニ位スト云フ)ニ圓形或ハ三稜形白色ノ隆起ヲ見ルモノニシテ其好發部位ハ聲帶ノ前中三分一ノ境界部ナリ大小不同ニシテ麻實大乃至粟粒大ナルモノ多シ



**診断** 喉頭鏡検査ヲ行ヒバ通常診断シ得ベシト雖モ其小ナルモノハ往々看過セラレ又粘液ノ凝着セルモノト誤認セラル、コト少カラズ

**豫後** 概シテ良ナリ然レドモ謠歌者ノ如キハ終生以前ノ如キ精妙ナル美音ヲ發スルコト能ハザルニ至ルモノアリ

第九十圖  
第九十節  
諸人ノ結節



禁止等必要ナリ

**經過** 慢性ナリ數年間同大ノ結節ニ止リ或ハ増減ス小兒結節ハ腺病ノ治癒ト共ニ消退スル事多シ

**療法** 細小ノ結節ハ銳匙ヲ以テ注意シテ徐々ニ爬除シ稍大ナルモノハ銳鉗子ヲ以テ切除シ或ハ腐蝕法、電氣燒灼等ヲ行フ其他少量ノ沃度劑内服發聲

**蜂窠織性喉頭炎 (急性粘膜下喉頭炎) Laryngitis phlegmonosa (Laryngitis acuta submucosa).**

本症ハ管ニ粘膜ノミナラズ粘膜下組織モ亦侵襲セラル、モノニシテ漿液性滲

潤ヲ來シ時トシテ化膿ス(喉頭膿瘍 Kehlkopfabcess.)

**原因** 急性加答兒性喉頭炎ノ原因ハ若シ強劇ナルトキハ同ジク本症ノ原因トナルモノナレドモ本症ハ主トシテ細菌殊ニ連鎖狀球菌及ビ葡萄狀球菌ノ侵入ニ基因スルヲ認メザル可ラズ而シテ其發炎誘起者ハ上皮剝脫部、異物殊ニ魚骨ニヨル損傷或ハ潰瘍等ヨリ侵入スルモノナリ其他扁桃腺炎急性蜂窩織性咽喉炎ヨリ移行シ又丹毒、膿毒症、腸室扶斯、痘瘡等ニヨリテ發ス、注意 ベキハ結核、梅毒、瘤腫等ノ浸潤又ハ潰瘍部ニ於テ好ンデ限局性蜂窩織炎或ハ膿瘍ヲ生ズルコトナリ

症候

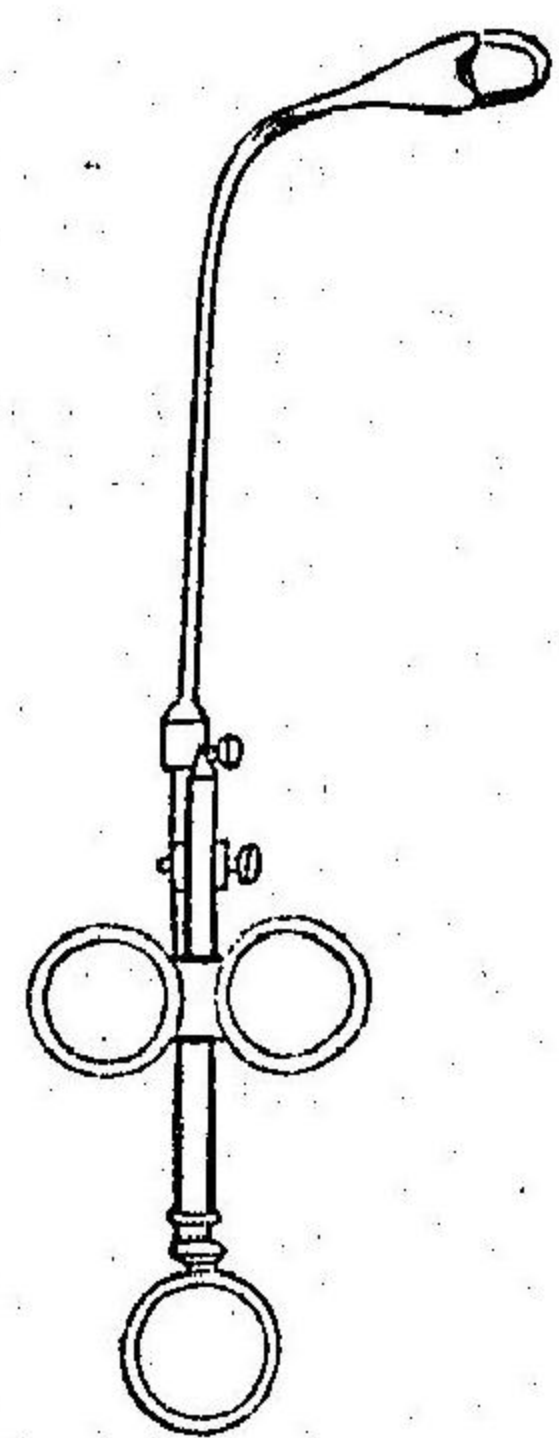
聲音嘶啞、呼吸困難及ビ嚥下困難ヲ起シ又輕度ノ惡寒、頭痛、倦怠等ヲ伴フ傳染性蜂窠織炎、丹毒等ニ於テハ劇烈ニ發來シ惡寒、戰慄、發熱四十度以上ニ至ルコトアリ又嚥下痛甚敷ク耳内ニ放散ス然レドモ輕症又ハ限局性ノモノハ間々僅ニ異物感、咳嗽、聲啞等ノ症狀ヲ呈スルニ過ギザルモノアリ

他覺的所見ハ部位及ビ廣袤ニ從テ一樣ナラズト雖モ粘膜ハ發赤腫脹シ浮腫高度ナルモノハ却テ蒼白ニシテ透明ニ近シ病變ハ喉頭全部ニ亘ルコトアリ又一



部ニ局限スルコトアリテ好ンデ粘膜下組織ノ發育顯著ナル部位ニ發ス即チ會

ステール氏「ギユレナン」



喉軟骨前面、披裂會厭皺襞、披裂間部、假聲帶或ハ聲帶下腔等ニシテ聲帶ハ稀レニ犯サル、ノミ、膿瘍ヲ形成スルトキハ發熱著シク嚙下困難及ビ呼吸困難モ亦一層強劇ナリ腫脹部ハ波動ヲ生ジ次デ膿汁ハ黄色ニ透見セラル、ニ至ル

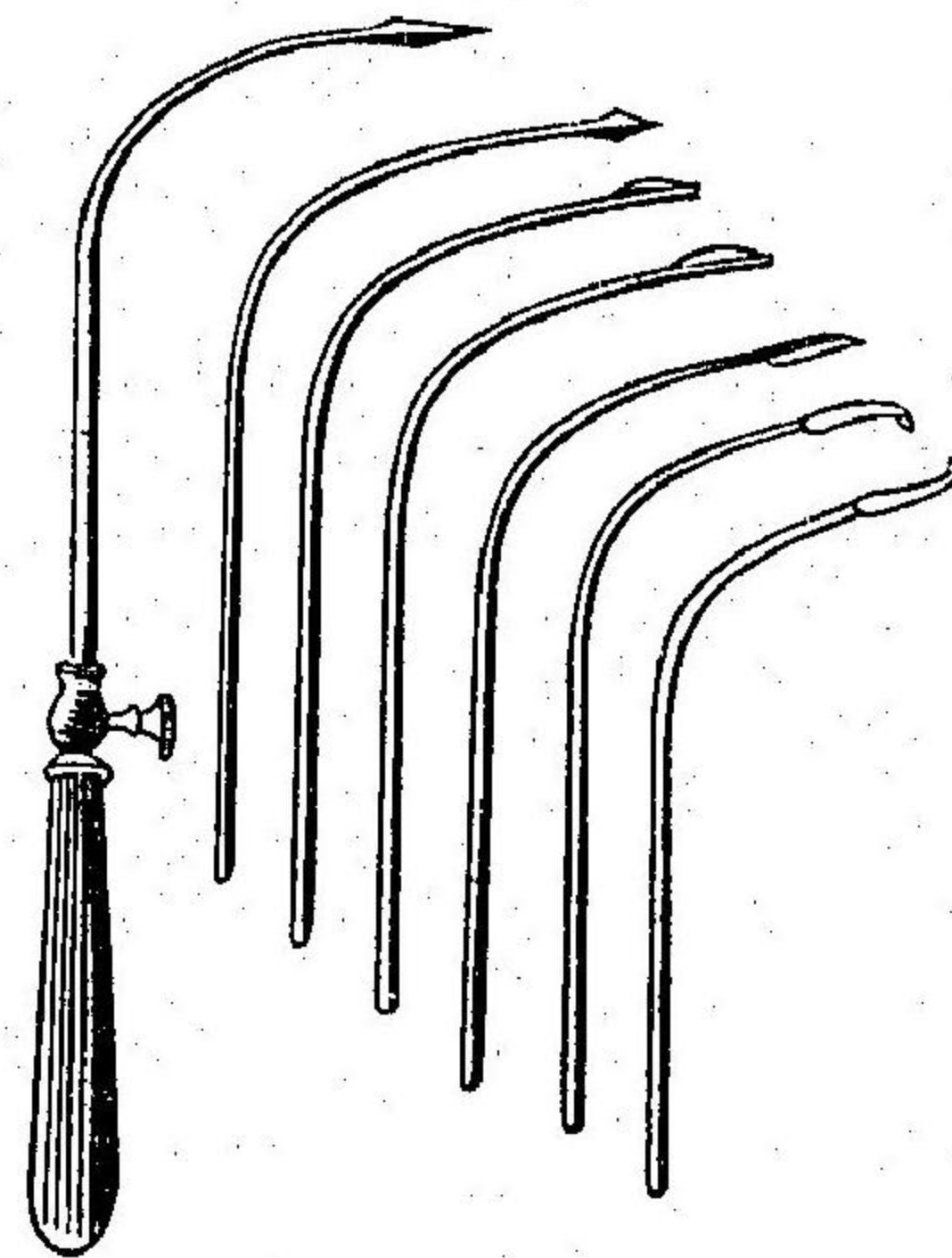
診斷 通常困難ナラザレドモ其

原因ヲ知ルコトハ決シテ容易ナラズ宜シク近隣器官殊ニ口腔、咽頭、淋巴腺、脊柱、甲狀腺及ビ食道ノ検査ヲ忘ルベカラズ

豫後

危険ナリ突然窒息、心臟麻痺ヲ起シ、或ハ敗血症、膿毒症ニヨリテ斃ル、

第百十圖  
フレンケル氏喉頭刀



コトアリ

療法 全身及ビ局所療法ヲ行フベシ、即チ原因ニ向ツテ處置ヲ施シ對症療法トシテ滋養物強心劑ヲ與ヘ兼ネテ解熱劑又ハ下劑等ヲ服用セシム

局部ハ亂刺ヲ行フベシ由リテ以テ狹窄症狀減弱シ或ハ消退スルコトアリ尙ホ奏効ナクシテ呼吸困難著シキトキハ氣管切開術或ハ插管術(此ノ方法ハ實扶埤里治療法ノ項ニ詳ナリ)ヲ行ヒ膿瘍形成ヲ認メタルトキハ直チニ切開スベキモノトス

喉頭實扶埤里及格魯布 Kehlkopfdiphtherie s. Croup.

原因

リヨフレル氏實扶埤里菌ノ侵襲ニ因ルモノニシテ小兒ニ多ク成人ニハ稀ナリ實扶埤里ト格魯布トハ別種ノ疾病ナリヤ否ヤニ就テハ現時ノ見解ニ據レバ病理解剖上並ニ臨床上兩者ノ區別判明ナラズト云ヒ或ハ臨床上ノ差異アルノミナリト云フ又咽頭實扶埤里ヨリ下行蔓延シタルヲ喉頭實扶埤里トナシ喉頭ニ原發シタルヲ格魯布ト稱スルモノアリ



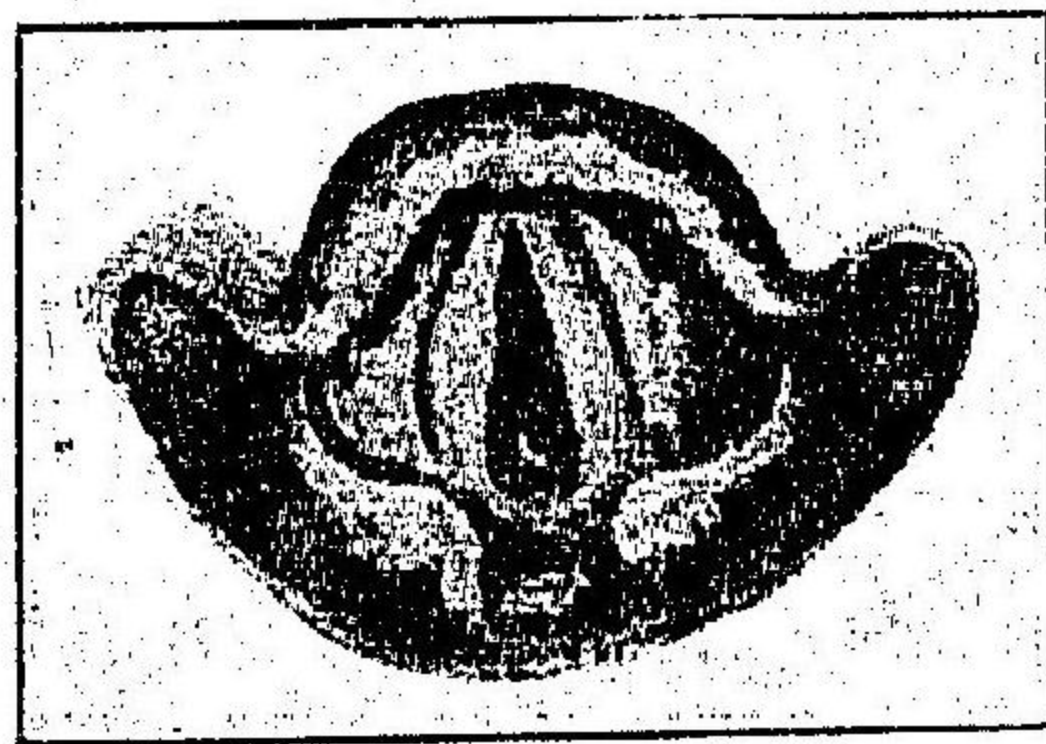
症候

潜伏期ハ平均四日ニシテ初期ニ於テ自覺症ハ輕微ナリ通常感冒ノ症狀即チ發熱倦怠食慾不振等ヲ發ス稍成長セル小兒ハ頸部疼痛及ビ乾燥ヲ訴フルコトアリ次デ著明ノ症狀ヲ呈スルニ至ル

咳嗽期第一期ハ聲帶侵襲セラレテ聲音嘶啞及ビ咳嗽ヲ發ス咳嗽ハ固有ニシテ乾燥粗烈犬吠様ナリ嘔聲ハ時トシテ高度ニシテ全ク失聲ニ至ルコトアリ次デ狭窄期第二期ニ移ル此時期ニハ無響性咳嗽呼吸氣延長吹笛様又ハ曳鋸様雜音呼吸困難ヲ來ス病勢進行スルニ從ヒ高度ノ持續性呼吸困難ヲ來シ竟ニ假死期第三期ニ移行ス即チ心窩喉窩及ビ肋間ニ吸息の陷凹ヲ現ハシ冷汗淋漓顔面四肢ノ紫藍色苦惱ノ顔貌ヲ呈シテ半醒半睡ノ狀ニ陥リ知覺鈍麻搖擗ヲ來シ脈搏緩徐トナリ時々結代シ遂ニ窒息若クハ心臟麻痺ニ因リテ斃ル

喉頭鏡検査ハ幼者ニ在リテハ困難ナレドモ若シ之ヲナシ得ルカ或ハ直達検査法ヲ行フトキハ初期ハ粘膜潮紅腫脹シ次デ會厭軟骨假聲帶及聲帶ニ於テ小斑點若クハ線狀索狀被苔ヲ散見シ漸次蔓延シテ汚穢灰白色ノ島嶼狀若クハ連續性ノ偽膜ヲ生ジ時トシテハ氣管内ニ及ブラ見ルコトアリ又聲帶下腔ノ粘膜炎

第一百圖  
喉頭實扶埕里



脈シ加之聲帶ノ外轉運動不全ナルガ爲メニ狭窄症狀ヲシテ益々強劇ナラシムルモノナリ

熱ハ輕微ナルアリ又三十八度乃至三十九度或ハ以上ニ昇ルコトアリ其高度ニ

達スルハストレプトコッカスノ混合傳染或ハ氣管枝炎肺炎等ノ續發シタルニ因ル

腺腫脹ハ著シカラザルコトアリ混合傳染性ノモノハ多クハ著明ニシテ壓痛アリ又屢々蛋白尿ヲ認ム

診斷 假性格魯布ト誤リ易ク時トシテハ甚ダ困難ナリ其ノ鑑別ハ喉頭鏡検査ニ依ラザルベカラズ

確實ノ診斷ハ偽膜ノ細菌検査ナリ

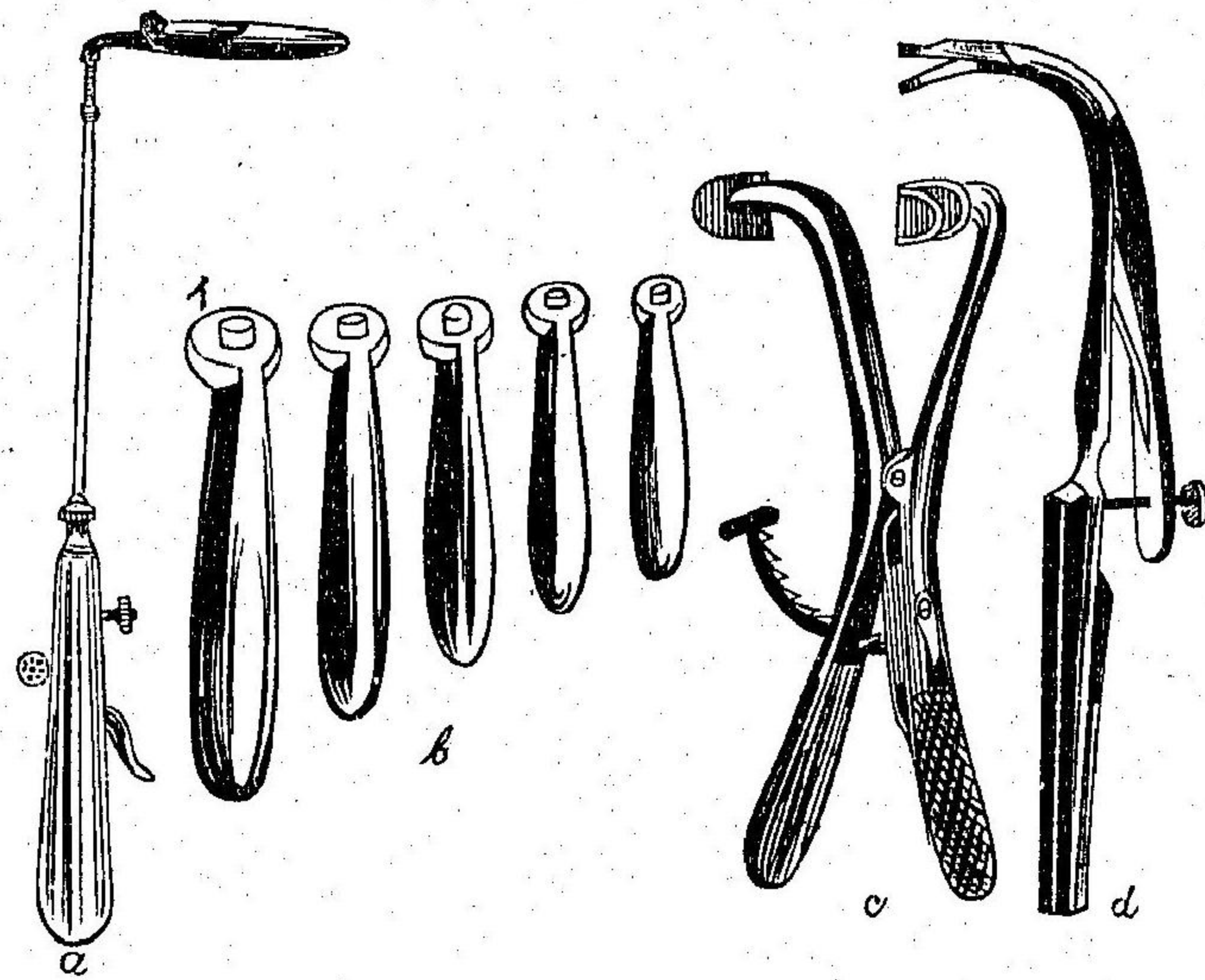
豫後

注意ヲ要ス患者幼少ナレバ從ツテ益々危險ノ度ヲ加フルモノニシテ又病症蔓延ノ度ニヨリテ差異アリ氣管枝炎肺炎等ヲ續發スルモノ及ビ混合傳染性ノモノハ良ナラズ其他或ハ輕症ノ觀アルモ突然心臟麻痺ニ由リテ斃ルモノアリ之レ輕症ナルガ爲メニ久敷看過セラレテ毒素ノ充分ニ血中ニ移行ス



第三百二圖

オドワイア氏挿管器



二圖 d) 開口器 第三百二圖 c) 其他誘導子(管内ニ挿入セラル)測子等ナリ

挿入法 患者ヲ椅子ニ倚ラシメ(小兒ハ看護人ノ膝上ニ固定ス)喉頭鏡應用ノ下ニ若クハ直チニ左示指ヲ深ク喉内ニ挿入シテ會厭軟骨ヲ扛舉セシメ挿入器ヲ用ヒテ管(頭部イ)ヲ後方ニ向ハシムヲ聲門ニ挿入シ挿入器ヲ拔去スベシ挿管ニハ豫メ絲ヲ付シ置キ其一端ヲ口腔外ニ固着セシメ抽出時索引ニ便ナラシム但シ絲ノ刺戟ノ爲

ルニ基因セズンバアラズ

**療法** 血清注射(方法其他ハ都テ世ノ熟知ヲ行ヒ且ツ初期ニハ頸部ノ氷罨法

氷片含保等ヲ命ジ且ツ吸入法或ハ藥液注入等ヲ併用ス又常ニ強心劑ヲ與フルヲ忘ルベカラズ其他高熱ニ對シテハ解熱藥ヲ投ズルコトアリ吸入藥ハ解凝性藥劑即チ一—二%重炭酸曹達水石灰水等ヲ用ヒ或ハ四—五%乳酸等應用セラ

ル又二—五%石炭酸水、〇、二五%昇汞水、二—三%硼酸水、一—二%クレオリン水

二%リゾール液等ノ消毒藥ヲ併用若クハ單用スルモノトス

以上ノ治療法ニ由テ偽膜ハ剝離略出セラレ呼吸困難輕減シ漸次恢復スルモノナリ又吐劑ヲ與ヘテ略出ヲ補助シテ効アリ然レドモ治療ノ機ヲ失シタルモノハ血清ノ効ヲ顯ハササルニ先チ既ニ窒息ニ陥リ或ハ心臟麻痺ノ爲メニ鬼籍ニ上ルコトアリ窒息ニ對シテハ未ダ救急ノ餘地ヲ存ス此際施スベキハ挿管術若クハ氣管切開術ナリ

挿管術

Intubation ハ米國人オドワイア氏 O'Dwyer ガ初メテ世ニ紹介シタルモノニシテ之ニ要スル器械ハ挿管器(第三百二圖 a) 挿管(第三百二圖 b) 除管器(第



メニ咳嗽ヲ誘發シ不快及ビ苦惱甚敷ク自ラ絲ヲ引キテ管ヲ脫出セシムルコトアルガ故ニ注意ヲ要ス

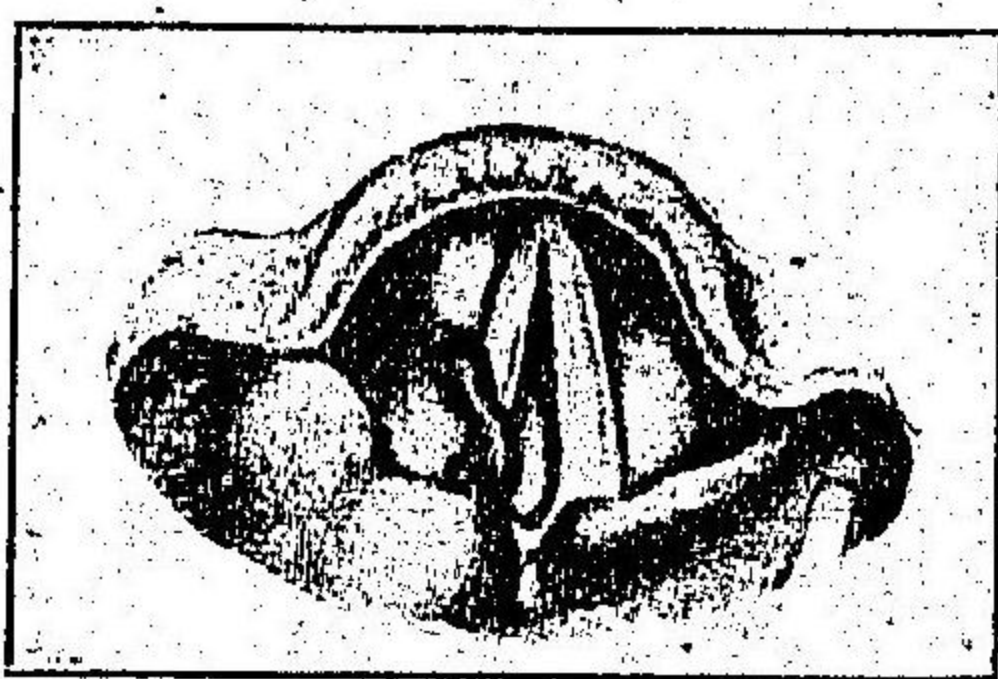
挿管術ハ場合ニヨリテハ氣管切開術ニ比シ優勝ト認ムベキ點ヲ有ス即チ容易ニ行ハル、コト空氣ノ天然道ヨリ肺ニ進入スルコト治療持續ノ短キコト是ナリ又缺點トシテハ瘢痕狹窄、痔瘡、咳嗽、流涎、嚥下等ナリ痔瘡ハ餘リ長時間ノ挿入ニ由リテ發スルモノニシテ三十時間以上持續シテ放置スルヲ戒ム

### 第二章 喉頭軟骨膜炎 Perichondritis laryngis.

**原因** 續發性ノモノ多シ即チ梅毒、結核、室扶斯、痕瘡、瘤腫、痘瘡、實扶垚、猩紅熱、敗血症、損傷、異物及骨折等ニ因ス其他蜂窠織炎稀レニハ喉頭内手術後又ハ食道消息子過用ノ爲メニ發スルコトアリ特發性炎ノ存否ニ就テハ諸家ノ說一定セズ

**病理** 軟骨ヨリ軟骨膜ニ或ハ軟骨膜自己ニ發スルモノニシテ軟骨膜腫脹滲出并ニ化膿ヲ誘起シ軟骨ハ壞死ニ陥リ部位ニ應ジテ或ハ咽頭又食道ニ或ハ稀

第三百三圖  
右披裂軟骨膜炎(フチス性)



レニ外部ニ破潰ス時トシテハ肥厚、化骨、癒着、關節強直等ヲ貽ス喉頭軟骨膜炎ハ披裂軟骨ニ來ルコト最モ多シ

### 披裂軟骨膜炎 Perichondritis arythaenoides.

披裂軟骨及ビ其近圍ノ粘膜發赤腫脹屢々浮腫ヲ呈シ聲帶運動障害セラレ聲帶突起或ハ披裂軟骨上ニ大小ノ破開口ヲ有シ排膿セラ

ル、ヲ見ルコトアリ軟骨ノ一部脱落スルトキハ陷凹ヲ遺ス

### 環狀軟骨膜炎 Perichond. cricoidea. 軟骨板部ニ發

スルコト多シ前喉頭面侵襲セラレ、トキハ喉頭下腔ノ後壁ニ著明ノ腫脹發赤アリ聲帶運動障害セラレ又軟骨板咽頭面ノ侵サル、トキハ筋浸潤及ビ停止點ノ變常ニヨリテ聲帶外轉麻痺ヲ起シ呼吸困難ヲ發ス

會厭軟骨膜炎 Perichond. epiglotticus. 殊ニ梅毒結核ニ多ク腫脹、發赤、膿瘍



及ビ崩壊ヲ來ス

甲狀軟骨膜炎

Perichond. thyroidea

内或ハ外面又同時ニ侵サル、モノ

ニシテ内面ノ炎症ハ往々片側聲帯ノ輕微ナル運動障害ヲ有スルニ過キザルモノアレドモ腫脹増大スルトキハ喉頭側壁又ハ前部ノ膨隆ヲ來シ假聲帯モ亦腫脹ス外面ノ炎症ハ皮下ニ弾力性或ハ波動性腫瘍ヲ觸レ壓痛ヲ感ス

症候

原因及ビ部位ニ從テ不同ナレドモ喉頭ノ潰瘍性症狀ト相似タリ殊ニ會厭軟骨及披裂軟骨膜炎ニ在リテハ壓迫嚙下、談話或ハ咳嗽ノ際ニ疼痛ヲ發シ其他咳嗽、嘔聲、呼吸困難等ヲ來ス膿瘍破壊スルトキハ惡臭アル血性膿ヲ洩シ又壞死軟骨ヲ略出ス

診斷

内外視診、觸診及ビ自覺症候、裸出軟骨ノ目撃、探子検査等ヲ行フトキハ通常診定スルヲ得ベシ時トシテ、ゴム腫性滲潤、惡性腫瘍等ト誤ルコトアリ

經過及豫後

慢性ニシテ數月數年ニ亘ルモノアリ豫後ハ原因ニ從テ異ニシテ比較的佳良ナルハ梅毒外傷等ヨリ來ルモノナリ然レドモ突然膿瘍ノ破潰、浮腫等ニヨリテ窒息スルコトアリ其他癩痕形成筋ノ官能障害、關節強直症等ノ爲

メニ聲音及呼吸異常ヲ貽スコト多シ

療法

原因療法ヲ施スコト緊要ナリ局所ニ對シテハ頸圍ノ氷巻法、水蛭灰白軟骨塗擦ヲ行ヒ鎮痛ノ目的ニハ一〇—二〇%古加乙涅液塗布、腫脹甚シキモノハ亂刺法ヲ施シ膿瘍ハ切開スベシ若シ窒息ノ危險迫リタルトキハ氣管切開術ヲ要ス其他鎮咳劑、充奮劑等ヲ用フベシ

第三章

傳染性新生物

Infectiöse Neubildungen.

喉頭結核

Tuberculosis laryngis.

原因

喉頭ハ肺及淋巴腺ニ次ク結核菌ノ好侵襲地ニシテ原發性ハ稀レニシテ殆ンド常ニ肺結核ニ續發スル者ナリ(三分ノ一ハ續發スト云フ)年齢及兩性ノ關係ハ小兒ニハ稀レニシテ四十歳乃至五十歳以上ハ少ク最モ多キハ二十歳ヨリ四十歳ノ間ニアリ又男性ハ女性ニ比スレバ多シ(3:1)

病理

粘膜固有層及ビ粘膜下層ニ潮蔓性圓形細胞浸潤ヲ來シ散在性結節ヲ生ズ其乾酪變性ヲ來スヤ上皮破壊シ淺表性潰瘍ヲ形成ス潰瘍若シ深ク侵蝕ス



ルトキハ終ニ筋及ビ軟骨ヲ侵スニ至ル時トシテハ軟骨膜炎ヲ起シ軟骨ノ壞死ヲ續發スルコト稀レナラズ又上皮ハ乳嘴狀息肉ヲ生ジ潰瘍面ニハ肉芽増殖ス其他喉頭筋ノ削瘦及ビ脂肪變性ヲ來スコトアリ

症候

聲音變化ハ第一着ニ現ハル、症候ニシテ初メハ輕度ノ嘔聲ヨリ終ニハ失聲ニ至ルモノアリ是レ一ハ炎性浸潤潰瘍等ニ由テ聲帶壓迫セララル、ガ爲

メニシテ一ハ破裂軟骨ノ腫脹軟骨膜炎筋痿弱或ハ反廻神經麻痺等ニ基因ス

咳嗽ハ頻發シ患者ニ苦惱ヲ與フ殊ニ喉頭後壁ノ侵サレタルトキニ著シ

咯痰ハ時トシテハ少ナク時トシテハ多クシテ粘液膿性ナリ屢々血液ヲ混ズ(然

レドモ多量ノ出血ハ通常肺ヨリス)

嚥下障害ハ多クノ場合ニ見ルモノニシテ疼痛ノ爲メニ嚥下困難トナリ或ハ誤

嚥ヲ來ス殊ニ會厭軟骨破裂軟骨部ニ病變アルトキハ著シ

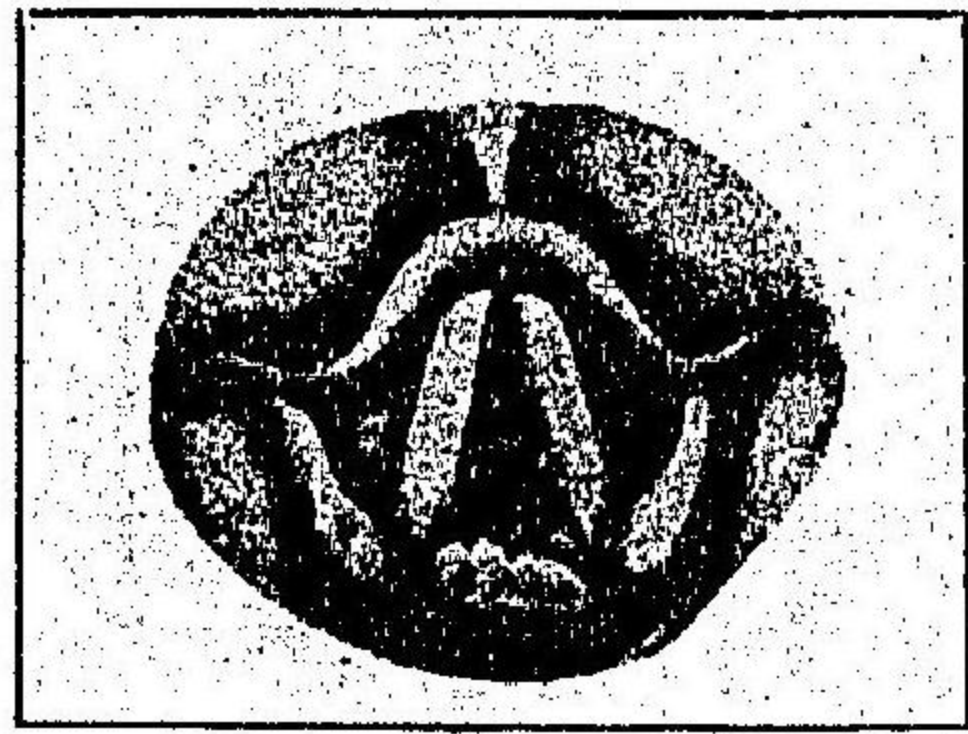
疼痛ハ嚥下時ニ最モ著シキモノニシテ又咳嗽發聲ニ際シテ來ル時トシテハ自

發性疼痛アリ

呼吸困難ハ炎性腫脹ノ顯著ナルトキニ現ハル、コトアルノミ

第一百十四圖

喉頭後壁結核浸潤



其他咽喉内異常感搔爬ノ感日哺潮熱食氣不振等ヲ有ス

他覺症候ハ其時期廣袤部位ニ由リテ異ナリ外部ヨリ壓迫スルニ疼痛ヲ覺ユル

モノアリ之レ多クハ續發性軟骨膜炎又ハ頸部淋巴腺炎ノ併發ニヨル

咽頭粘膜ハ著シク貧血シ蒼白色ヲ呈スルヲ常トス

然レドモ絞扼運動ニヨリテ容易ニ充血狀態ニ變化

ス

喉頭鏡検査所見ハ次ノ如シ

A 結核性浸潤 Das tuberculöse Infiltrat 後壁

破裂軟骨、破裂會厭襞、會厭軟骨等ノ粘膜ニ發生シ易ク聲帶モ亦屢々侵サル、コトアリ

後壁浸潤ハ特異ニシテ或ハ堤狀或ハ丘狀ノ蒼白色又ハ發赤セル隆起ヲ呈シ或ハ尖形圓錐形隆起ヲ生ジ或ハ乳嘴腫樣贅生物トナリテ現ハル(第一百十四圖)

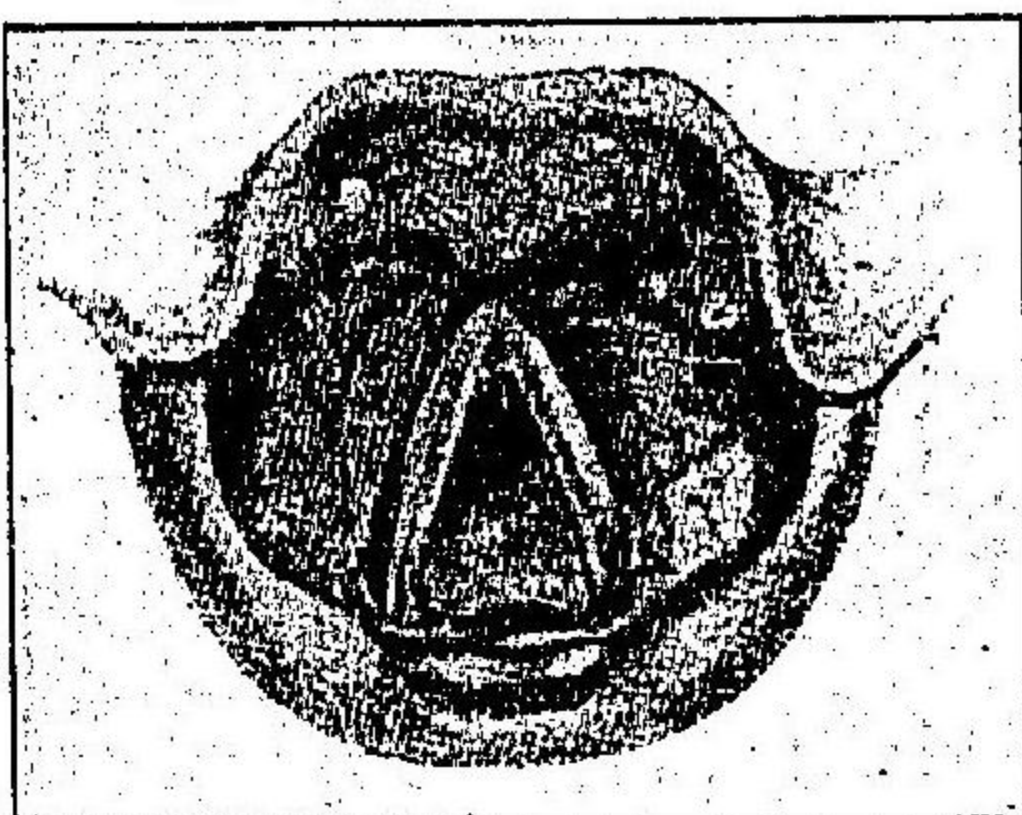
破裂軟骨及ビ破裂會厭襞ハ其腫脹顯著ニシテ棍棒狀或ハ腸詰狀ニ變ジ運動阻礙セララル、コトアリ



會厭軟骨モ亦著シク腫脹スルコトアリ遊離縁鈍圓或ハ蹄鉄狀或ハ頭巾狀隆起ヲ形成シ尋常ノ三倍乃至八倍ニ達スルモノアリ  
 聲帶浸潤ヲ來ストキハ限局性又汎發性潮紅ヲ呈シ遊離縁腫大シテ鈍圓トナリ或ハ粗糙不正トナル

第百五十圖

淺表性結核性潰瘍



處ニシテ即チ聲帶突起、披裂軟骨及ヒ會厭軟骨ノ遊離縁若クハ喉頭面ナリ潰瘍縁ハ不正ニシテ著シク鑿掘セラレタルガ如ク邊緣及ヒ基底ニ肉芽ヲ發生シ或ハ汚穢灰白色ノ頽敗物、粘液膿様物ヲ以テ被ハル會厭軟骨ハ潰瘍ヲ生ズル

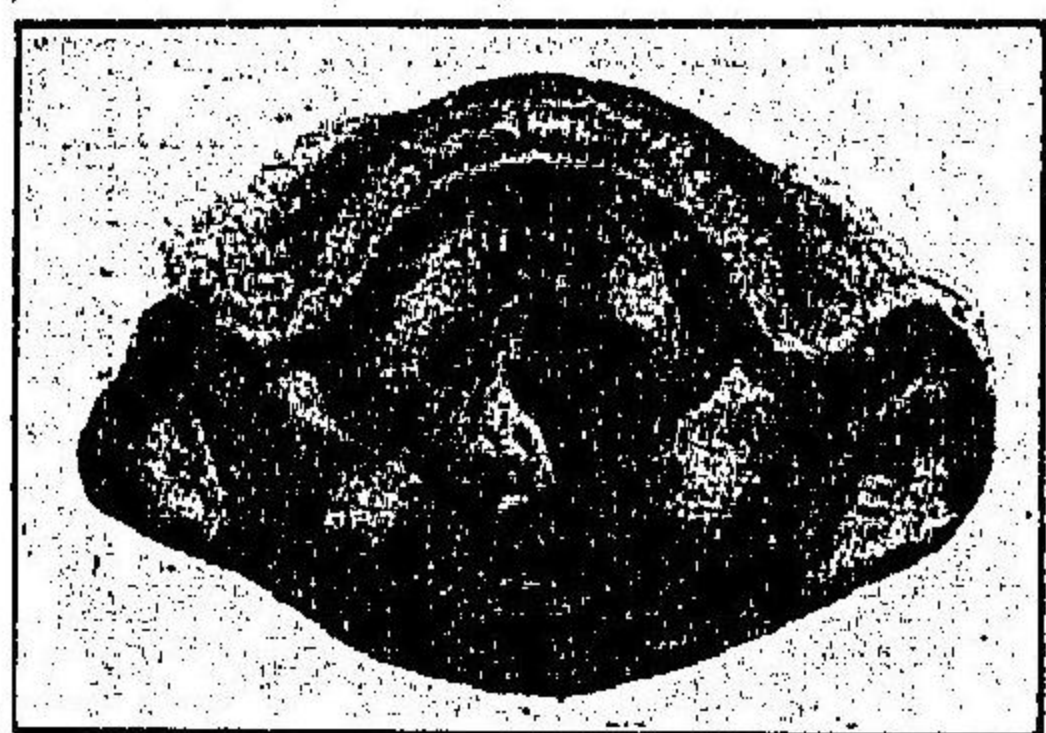
假聲帶ハ稍ヤ不平ノ蒼白或ハ潮紅セル橢圓形或ハ類圓形腫脹ヲ來シ聲帶ヲ觀能ハザラシム(屢々竇粘膜増殖症ト誤ルコトアリ)

**B 結核性潰瘍** Das tuberculöse Geschwür 浸潤部

ノ破壞ニヨリテ生ズ初期ニハ淺表性ニシテ少ナシト雖モ漸次蔓延シテ廣汎性トナリ或ハ深襲性トナル而シテ潰瘍ヲ發生シ易キ部位ハ最も突隆シタル

第百六十圖

結核性腫



コト最モ多キモノニシテ全部ノ缺損ヲ見ルコトアリ後壁潰瘍ハ乳嘴腫様贅生性浸潤部ノ表面或ハ其溝部ニ生ジ噴火口様潰瘍ヲ形成ス

聲帶潰瘍ハ表面及遊離縁ニ生ズルモノニシテ表面ニ於ケルモノハ上皮剝離シ粗糙不平、暗赤色トナリ光澤ヲ失ヒ淺表性窩ヲ生ジ遊離縁ニアリテハ不正鋸齒狀ヲ呈シ或ハ聲帶突起部ニ於ケルガ如ク皿狀又臍窩狀ヲ形成ス  
 其他續發性軟骨膜炎、環狀披裂關節強直及反廻神經麻痺ヲ認ムルコトアリ

**C 結核性腫瘍** Der tuberculöse Tumor. ハ多クハ若

年者ニ來ルモノニシテ好シク聲帶前連合、モルガン氏竇及後壁ニ發ス通常扁豆大ヨリ榛實大ニシテ其ノ發育遲徐ナリ帶紅色或ハ灰白色疣狀若クハ乳嘴腫狀ニシテ結節ノ堆積ヨリ成ル

診斷 浸潤潰瘍及部位等ニ鑑ムレバ通常困難ナラズ殊ニ原發肺結核ノ存在



及ビ結核菌ノ證明ハ診斷ヲ確實ナラシム然レドモ肺結核ノ症狀輕微ニシテ證明シ難ク且ツ喉頭症狀ノ最初期ニ在リテハ困難ニシテ單純加答兒ト疑ハル此際病變ノ偏側若クハ局部ニ限制スルハ通常結核ニ重キヲナスモノナリ其他結核性ノ浸潤又ハ結核腫ハ梅毒又ハ悪性腫瘍ノ初期ト區別シ難キコトアリソハ後章鑑別表(三八四頁)ヲ参照スベシ

**豫後**

多クハ不良ナリ殊ニ會厭軟骨及ビ其他ノ喉頭入口部ニ病變アルモノハ嚥下困難甚敷爲メニ營養障害顯著ニシテ病勢ノ増悪スルコト迅速ナリ原發性ノモノハ早ク適當ノ治療ヲ加フレバ治癒スルコトナキニ非ズト雖モ稀有ナリ

**療法**

多クハ肺結核ヲ併有スルモノナルガ故ニ之レニ對スル全身療法ヲ專一トス

局所療法ハ其病變ノ狀態ニ應ジテ一様ナラズ同一ノ目的ニ使用スル藥物モ亦千差萬別ニシテ一モ特効ヲ奏スルモノアルナシ要スルニ病勢猖獗ニシテ且ツ患者甚シク衰弱シ病變部瀰蔓性ナルトキハ緩和療法ヲ撰ビ若シ肺ノ症狀輕微

ニシテ營養佳良ナル者ニ向ツテハ充分ナル襲撃的療法ヲ行フベシ次ニ之ヲ詳述スベシ

**A 一般療則**

ハ如何ナル程度ノ病症ニモ應用スベキ方法ニシテ

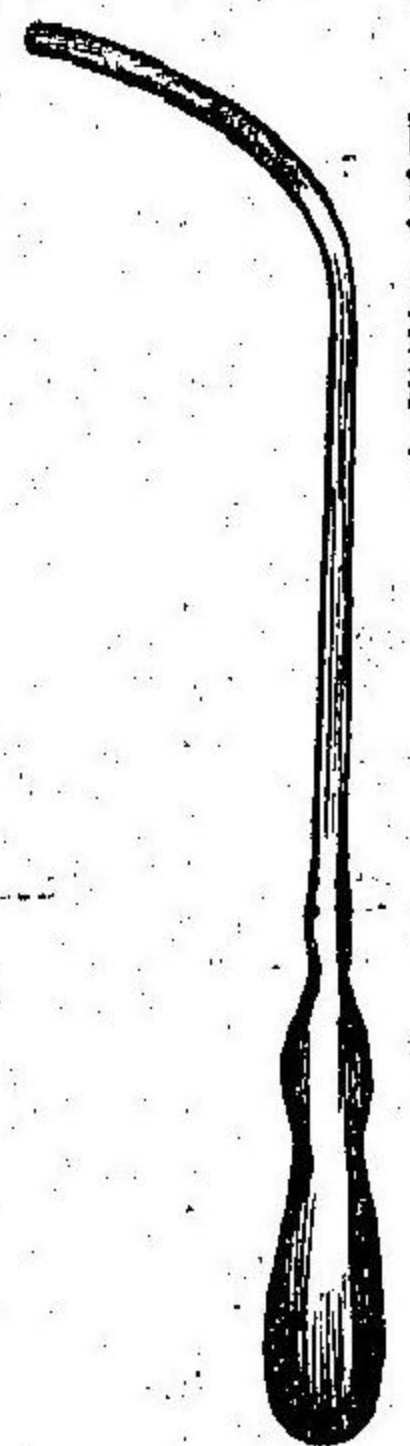
- 一 喉頭ノ安靜ヲ主トス即チ可及的談話ヲ避ケ止ムヲ得ザレバ呬語若クハ筆談セシム
- 二 外來刺戟ヲ避クベシ即チ病室内ニテ喫煙ヲ禁ジ患者ハ勿論麴芥ナカラシム
- 三 食餌ハ嚥下痛ヲ覺エザル患者ト雖モ柔カキ物ヲ攝取シ且ツ辛烈性嗜好品ヲ禁ズ

**B 局所療法**

ハ病症ノ時期程度廣表ニヨリテ一様ナラズ

- 一 初期加答兒狀態ヲ呈シ或ハ輕微ハ浸潤ヲ有スルモノ

第百七十圖

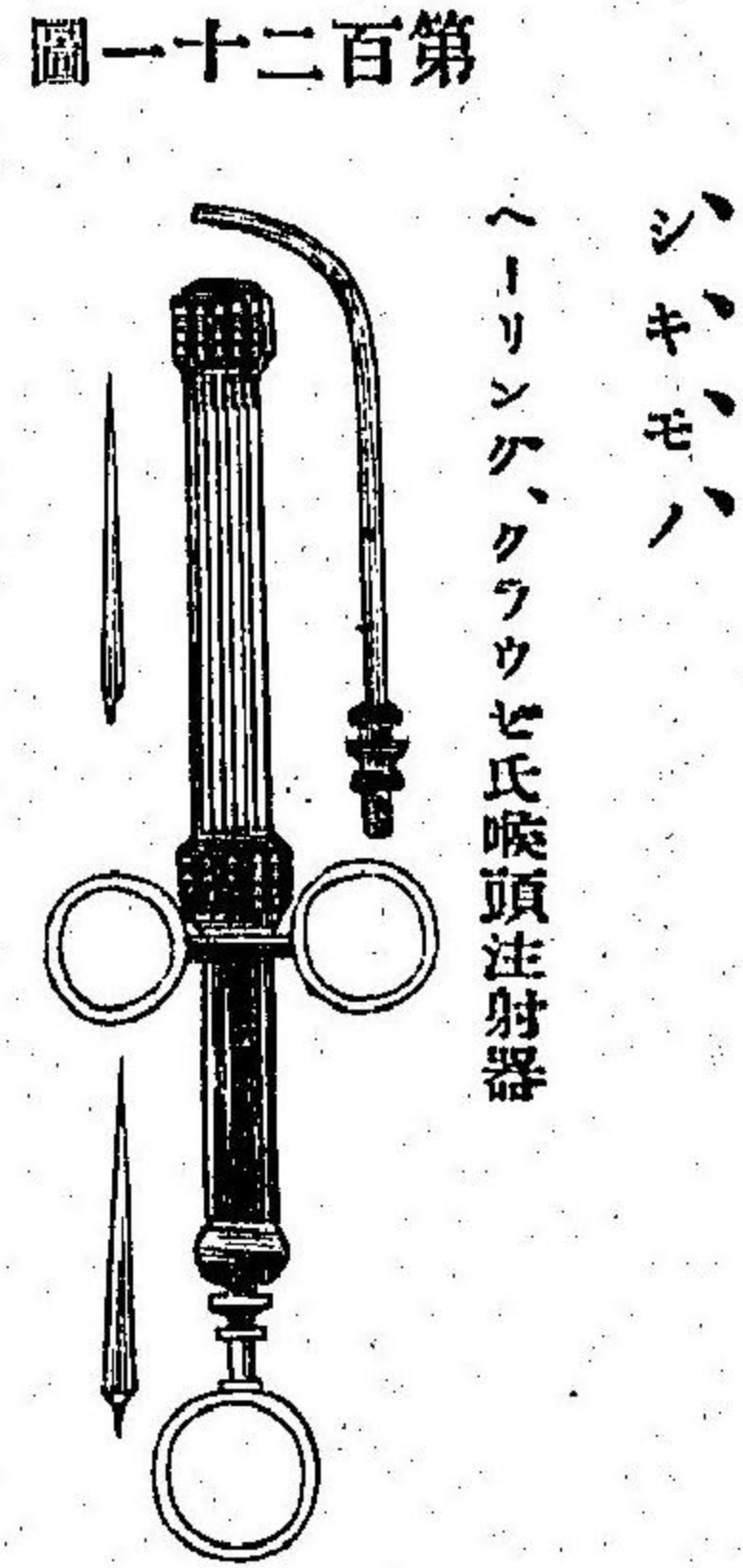
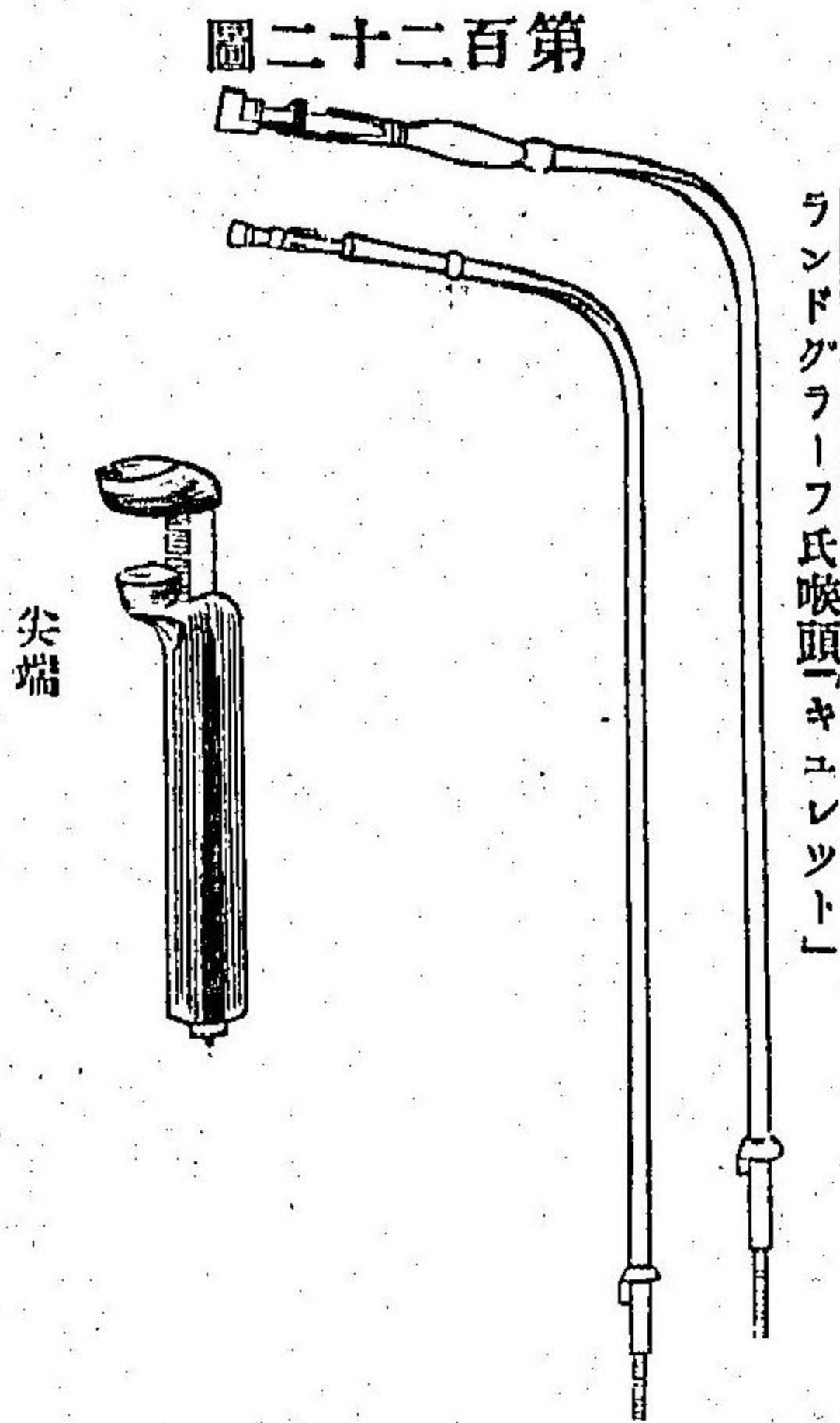


喉頭用接納子

此時期ニ在リテハ一般療則ニ重キヲ置キ同時ニ緩和ノ藥劑ヲ用フ(治療總論參



布シテ癥痕ヲ結バシム又電氣燒灼ヲ應用スルモ佳ナリ通常「キュレット」ハ會厭

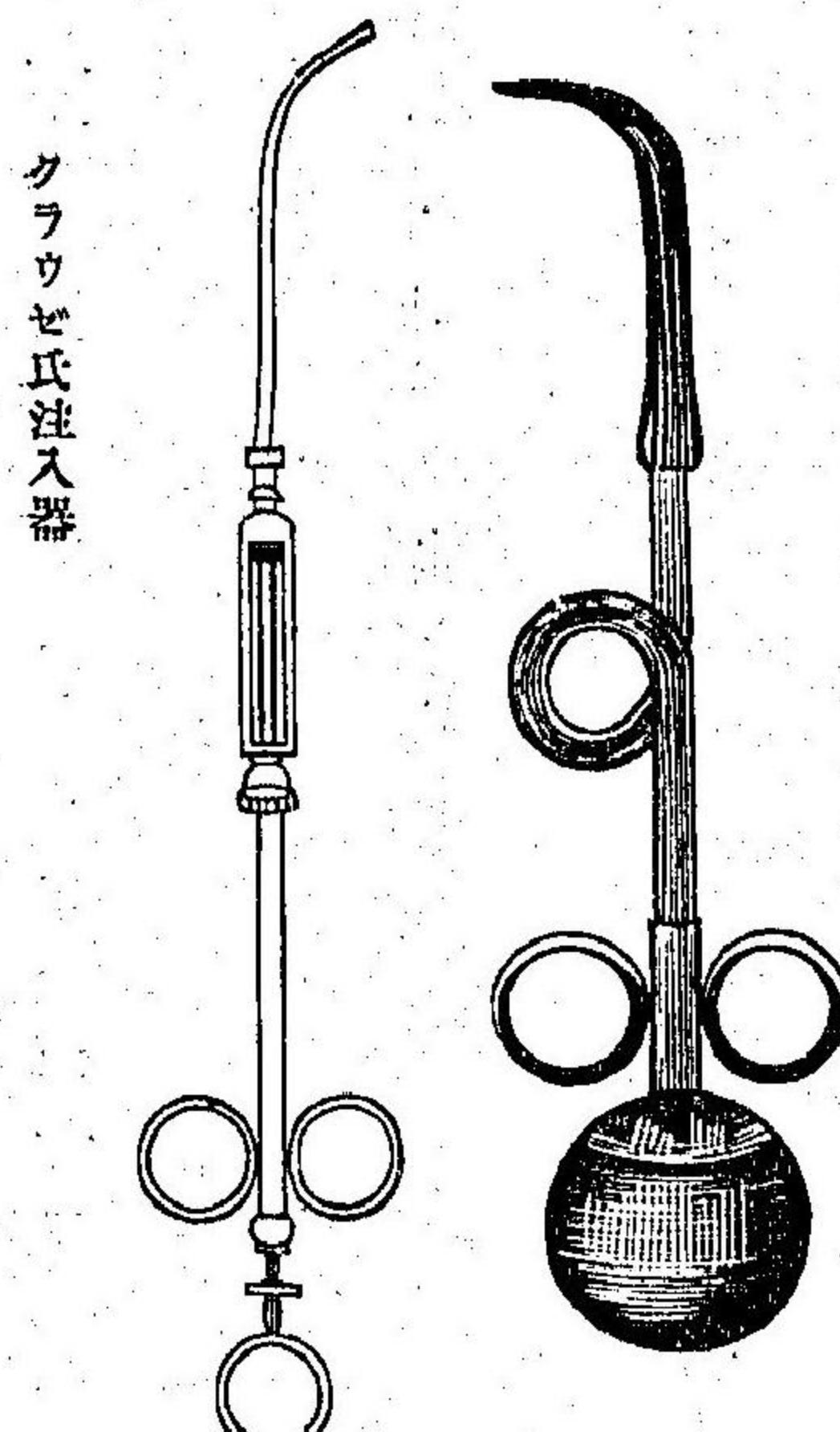


尖端

シキモノ

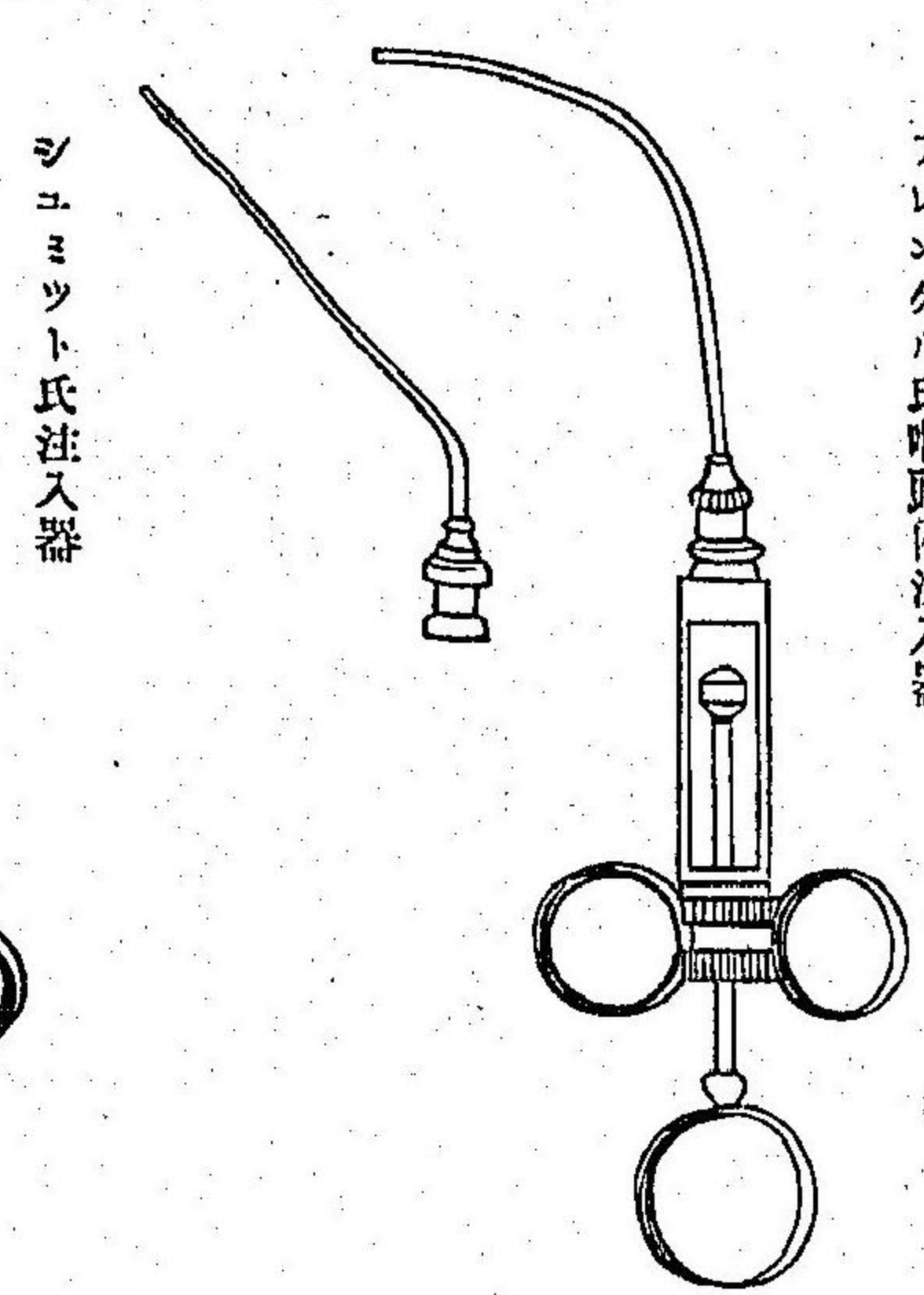
初メ先ヅ「ヨドール」吹入、乳酸弱液「バラクロールフエノール」(五—二〇% 偏里設林液)ノ塗布或ハ「メントール」注入等ヲ行ヒ輕快セシムルコトヲ得レドモ全治スルコト能ハザルヲ常トス若シ奏効疑ハシク毫モ輕快ノ傾向ナキカ或ハ増悪スルトキハ外科的療法ヲ施スベシ即チクラウゼ氏又ハランドグラーフ氏ノ重複「キュレット」ヲ以テ浸潤部ヲ根本的ニ除去シ其創面ニ三〇—八〇% 乳酸ヲ塗

圖二十百第 圖九十百第



二 限局性浸潤ノ稍ヤ著

圖八十百第



照即チ緩和ナル消毒性吸入藥ヲ主トシ無刺戟藥品例之「硼酸」「ヨドール」「オルトフォオルム」等ノ吹入又ハ石炭酸古加乙涅溶液ノ噴霧或ハ塗布ヲ施ス但シ塗布法ヲ施スニ當リテハ綿棒ヲ以テ強ク刺戟セザル様注意ト熟練ヲ要ス此時期ニアリテハ收斂性藥物又ハ腐蝕性藥物ヲ用ヒザルヲ可トス何トナレバ刺戟ノ爲メ却テ病勢ヲ逞フスルコトアレバナリ



軟骨ニ應用スルニ適シ聲帶又ハ前連合部ニハ電氣燒灼ヲ安全ナリトス  
其他ビール氏嚥血療法ヲデウム光線療法等試用スベシ

三 喉頭入口部又ハ全喉頭ノ汎發性腫脹アルモノ

藥物手術共ニ奏効シ難シ且ツ通常此時期ニ於ケル全身狀態ハ強劇ナル局所療法ニ耐ヘザルモノナリ故ニ第一ノ場合ニ於ケルガ如ク緩和ノ藥物ヲ應用シ且ツ一般療法則ヲ遵守スベシ

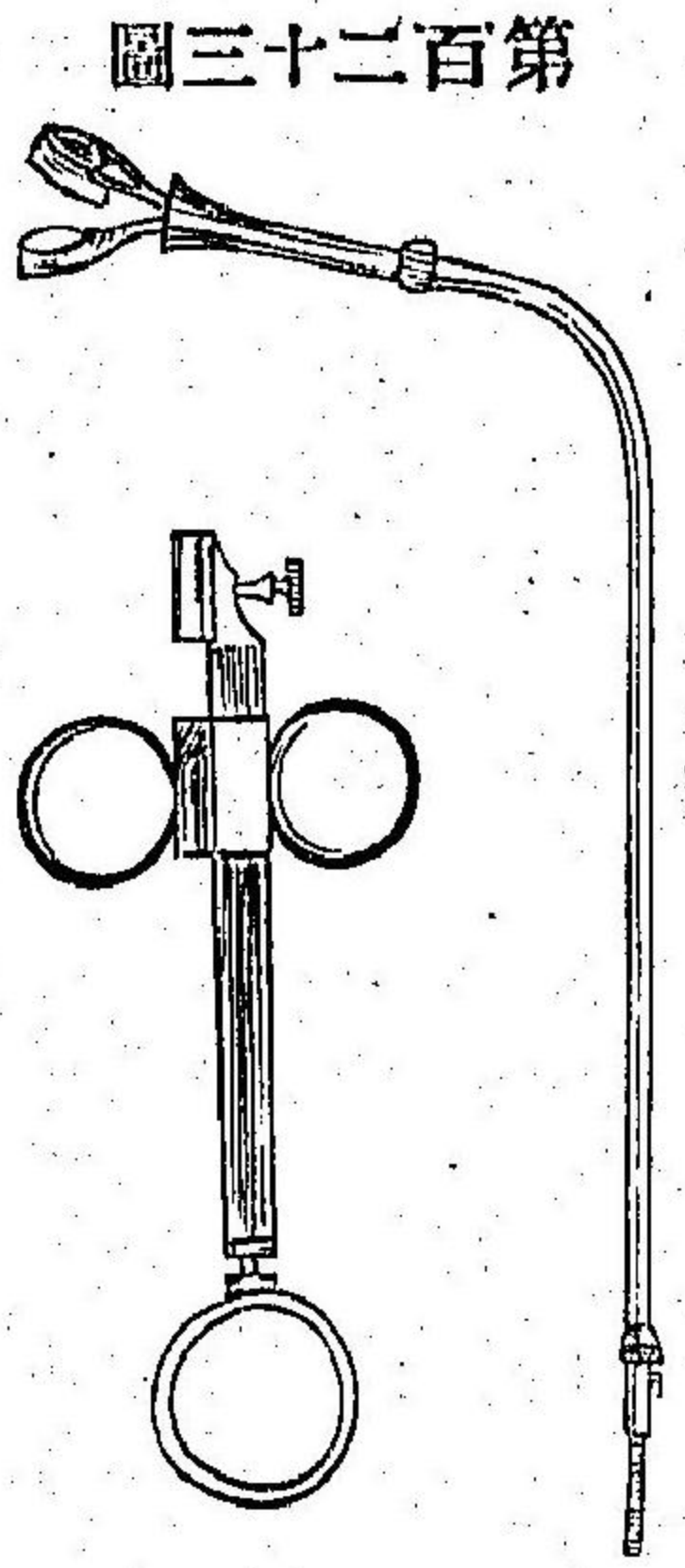
四 潰瘍又ハ缺損ヲ生ジタルモノ

此場合ニ於ケル治療ノ目的ハ潰瘍又ハ缺損部ノ腐敗性損傷面ヲ無毒性トナスニアリ即チ前述ノ消毒性藥劑ノ吹入モ極メテ必要ナリト雖モ未ダ其レノミヲ以テ満足スルコト能ハズ必ズ先ヅ其潰瘍ヲ清淨ナラシメザル可ラズ即チ息肉及ビ周縁ノ浸潤又ハ壞死片ハ銳匙ヲ以テ搔爬シ強キ腐蝕劑乳酸クレオソトト格魯兒亞鉛ヲ用ヒ或ハ電氣燒灼ヲ行ヒ以テ健全ナル肉芽ヲ新生セシメ癒痕ヲ形成シテ治癒セシムベシ

五 軟骨膜炎ヲ起シタルモノ

初期ニ深キ切開ヲ加フレバ炎症ノ頓挫輕快スルコトアレドモ末期ニ至リ膿瘍及ビ壞死ヲ來ストキハ施スニ術ナシ只炎症ノ去ルヲ俟テ膿瘍ヨリ來ル空胴ヲ治療シ周縁ノ頰敗組織ヲ常態ニ復セシムルヲ主トス之ニ反シ會厭軟骨膜炎ニアリテハ浸潤部ト同ジク手術的ニ除去スレバ例令一時的ナリトモ疼痛其他ノ

クラウゼ氏喉頭鉗子



第百三十二圖

症狀ヲ輕快セシムルヲ得ベシ

六 結核腫ハ状態ヲ呈スルモノ

結核腫ハ稀レナリ處置ハ他ノ腫瘍ト同一ニシテ銳匙鉗子寒熱蹄係等ヲ用ヒテ除去ス

C 對症療法

局所療法ハ對症療法

ヲ並用シテ一層効ヲ全カラシムベシ

一 喉頭内ノ疼痛

ニ對シテハ其原因會厭軟骨浸潤又ハ軟骨膜炎ニアラバ患部ヲ切除シ又披裂軟骨膜炎ニアラバ深く切開スルニヨリテ輕快スルコトヲ得レドモ浸潤廣汎性ナルカ或ハ潰瘍存在スルカ若クハ末期ノ狀態



ニアル時ハ常用シ難シ此場合ニ於ケル鎮痛法ハ局所麻醉劑ノ吹入吸入  
 塗布或ハ注射等ナリ古加乙涅<sup>〇</sup>イカイン<sup>ノ</sup>ボカイン<sup>五</sup>—<sup>〇</sup>—<sup>二〇</sup>%  
 等皆用ウベシ然レドモ奏効一時的ナリ<sup>ノ</sup>オルト<sup>ト</sup>フォルム<sup>ム</sup>及ビ<sup>ア</sup>ネステジ  
 ン<sup>ノ</sup>吹入ハ稍ヤ久シク効力ヲ持續ス其他次ノ處方<sup>デ</sup>ョード<sup>オ</sup>ルム<sup>八</sup>、<sup>〇</sup>  
 古加乙涅<sup>〇</sup>、<sup>〇</sup>八鹽酸莫爾比涅<sup>〇</sup>、<sup>〇</sup>四<sup>ヲ</sup>用ウ

二  
 咳嗽頻發ハ管ニ患者ニ苦惱ヲ與フルノミナラズ喉頭内ノ安靜ヲ保ツ  
 コト能ハズ病勢ノ増悪ヲ援クルモノナルガ故ニ適當ノ鎮咳劑ヲ内服セ  
 シメ或ハ吸入藥トシテ與フベシ

三  
 呼吸困難稍ヤ高度ナルモ尙ホ喉頭内手術ニヨリテ之ヲ緩解スルノ餘  
 地ヲ存スルモノハ切開<sup>キ</sup>ュレット<sup>ト</sup>手術<sup>電</sup>氣燒灼<sup>等</sup>ヲ行フベク若シ窒息  
 状態ニ迫ラバ氣管切開術或ハ挿管術ヲ行フベシ氣管切開術ハ喉頭ノ安  
 靜ヲ得セシムル爲メニ呼吸困難ノ存否ニ拘ハラズ之ヲ行ヒ有効ナリト  
 雖モ挿管法ハ刺戟ノ爲メニ却ツテ病竈ヲ損スルコトアルヲ以テ注意ス  
 ベシ

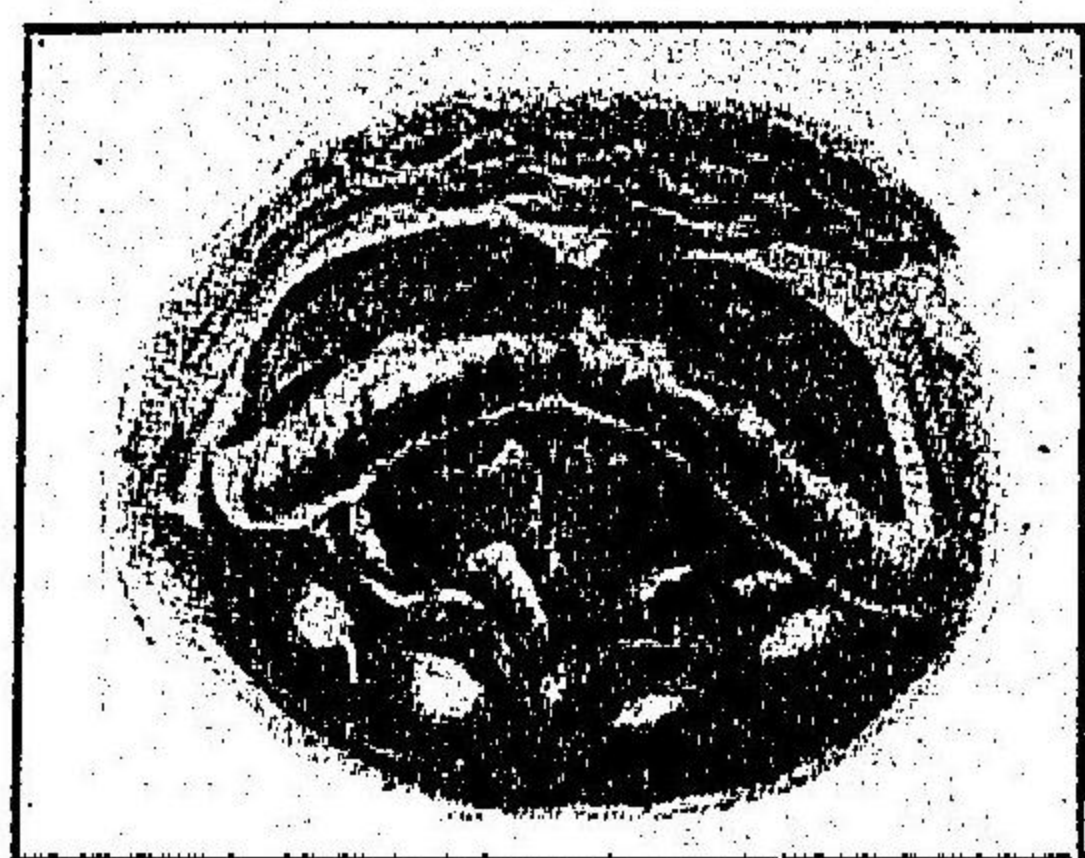
### 喉頭梅毒

Syphilis laryngis.

喉頭梅毒ハ先天性ハ稀レニシテ多クハ後天性ナリ而シテ年齢ハ二十歳乃至四  
 十歳ノ間ニ多ク老人及哺乳兒ニハ少ナシ哺乳兒梅毒ハ通常先天性ニシテ稀レ

第百二十四圖

假聲帶、軟骨、結核、腫脹、及  
 喉頭、喉、聲、帶、軟、骨、結、核、腫、脹、及



ニ成長セル小兒ニ在リテ子守ヨリ得タル後天梅毒アリト云フ兩性ノ關係ニ就テハ所說一定セズ

#### 症候

各期ニ從テ一様ナラズ

第一期梅毒ハ稀有ニシテムール氏ハ會厭軟骨ニ  
 生ジタル硬性下疳ヲ報告シタルコトアリ

第二期梅毒ハ感染後約六週ニシテ梅毒性咽喉炎  
 ト共ニ現ハル、コト多ク紅斑性ニシテ恰モ急性

會厭襞ニ見ルコトアリテ淺表性潰瘍ヲ生ズ其他頸部ノ淋巴腺ハ特異ノ腫脹ヲ  
 呈シ聲音變化アリ